

**令和4年度**  
**人権に関する町民意識調査**  
**報告書**

**愛 荘 町**  
**愛 荘 町 教 育 委 員 会**  
**愛 荘 町 人 権 教 育 推 進 協 議 会**



# 目 次

第Ⅰ章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法	1
4 調査期間	1
5 回収結果	1
6 報告書を読む際の留意点	2
第Ⅱ章 調査結果	3
Ⅱ－1 町民意識調査	3
1 単純集計及び基本属性別クロス集計結果	3
〔1〕回答者の属性について	3
〔2〕人権についての考え方	4
〔3〕人権尊重のまちづくりについて	13
〔4〕人権侵害を受けた経験について	20
〔5〕さまざまな人権問題についての考え方	30
〔6〕人権に関する学びについて	62
〔7〕「人推協だより ほっと・あい」を読む頻度	79
〔8〕愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題	81
2 質問間クロス集計結果	85
〔1〕人権に関する学校教育を受けた経験別（問19）	85
〔2〕人権に関する講演会や研修会等に参加した経験別（問20）	86
〔3〕人権侵害を受けた場面別（問6－1）	87
3 自由意見	88
Ⅱ－2 小学6年生・中学3年生調査	89
1 単純集計結果	89
〔1〕自分自身のことや周りの人との関係	89
〔2〕いじめや差別について	95
〔3〕インターネットの使用	98
〔4〕さまざまな人権に関する考え方	106
2 質問間クロス集計結果	116
〔1〕自己肯定・有用感別	116
3 自由意見	130
Ⅱ－3 小学生・中学生の児童・生徒の保護者調査	131
1 単純集計結果	131
〔1〕人権についての考え方	131
〔2〕家庭における学校への関わり	133
〔3〕学校の人権教育の取組	136

〔4〕 インターネット接続機器の使用状況やルール	139
〔5〕 社会教育での人権教育・啓発	143
2 質問間クロス集計結果	148
〔1〕 子どもへの寄り添い度別	148
〔2〕 学校との関わり度別	150
3 自由意見	155
II-4 外国籍住民調査	156
1 回答者について	156
2 日本（愛荘町）に来て良かったと思うこと	160
3 あなたが困っていることについて	161
4 生活や教育にかかる情報や相談のことについて	162
5 住んでいる地域について	163
6 子どもの学校での生活・勉強・進路について	165
7 日本社会（愛荘町）での差別・偏見の有無について	170
8 自由意見	179
<b>第三章 調査結果を踏まえた町の今後の方向性について</b>	<b>181</b>
III-1 町民意識調査	181
【今回の調査で見えてきたことや課題】	181
【今後の方向性】	183
III-2 小学6年生・中学3年生調査	184
【今回の調査で見えてきたことや課題】	184
【今後の方向性】	186
III-3 小学生・中学生の児童・生徒の保護者調査	187
【今回の調査で見えてきたことや課題】	187
【今後の方向性】	188
III-4 外国籍住民調査	189
【今回の調査で見えてきたことや課題】	189
【今後の方向性】	189

# 第 I 章 調査の概要



## 第 I 章 調査の概要

### 1 調査目的

本町における人権施策推進のための人権教育・人権啓発活動を行うにあたり、町民の人権意識の状況を把握し、今後の施策および啓発を推進するための基礎資料を得るために調査を実施しました。

### 2 調査対象

愛荘町に在住の18歳以上の男女	3, 000人
愛荘町の小学6年生の児童	258人
愛荘町の中学3年生の生徒	227人
上記児童・生徒の保護者	485人
外国籍住民	98人

### 3 調査方法

町民	郵送配布、郵送・WEB回収 ※ポルトガル語訳版、英語訳版を用意し、要請のあった対象者に配布しました。
小学6年生の児童	学校配布のタブレット端末による回答
中学3年生の生徒	
上記児童・生徒の保護者	学校経由での配布、回収
外国籍住民	学校経由での配布、回収 ※町内の小学校・中学校に通う外国籍児童・生徒の保護者に配布し、父親・母親の両方またはいずれかが回答 ※日本語版とポルトガル語版の両方を配布

### 4 調査期間

令和4年11月25日(金)～12月16日(金)

### 5 回収結果

	配布数	有効回答数	有効回答率
町民	3, 000人	956人 (内)郵送回答 793人 WEB回答 163人	31.9%
小学6年生の児童	258人	219人	84.9%
中学3年生の生徒	227人	213人	93.8%
上記児童・生徒の保護者	485人	354人	73.0%
外国籍住民	98人	37人	37.8%

## 6 報告書を読む際の留意点

- (1) 図表中の n (Number of case) は、設問に対する回答者数のことを示しています。
- (2) 回答比率 (%) は回答者数 (n) を100%として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しています。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがあります。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は100.0%を超えます。
- (3) 選択する回答数に「3つまで」と制限を設けている設問で、制限数を超えた回答があった場合、制限内に回答数を調整することは恣意的になるため、すべて有効回答としています。
- (4) 本文中の質問文および選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化している場合があります。
- (5) 本調査結果において比較もしくは参考として結果を引用した調査は下記の通りです。  
 「平成29年度 (前回調査)」…平成29年度人権に関する町民意識調査  
 (平成30年 3 月 愛荘町教育委員会発行)  
 「県調査」…令和 3 年度人権に関する県民意識調査  
 (平成 4 年 3 月 滋賀県総合企画部発行)

(6) 信頼区分：

今回の調査は、標本調査であるので、標本による測定値 (調査の結果) に基づいて、母集団値を推定できます。信頼度95%における測定値 (%) の信頼区間1/2幅 (標準誤差) は、次の式で算出されます。

$$\text{標準誤差} = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N : 母集団 (本調査では17,302人)、n : 標本数 (同956人)、P : 測定値 (%)

【信頼度95%における主要な%の信頼区間の1/2幅】

	n	p (%)	5% 95%	10% 90%	15% 85%	20% 80%	25% 75%	30% 70%	35% 65%	40% 60%	45% 55%	50% 50%
全体	956		±1.3%	±1.8%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.8%	±2.9%	±3.0%	±3.1%	±3.1%
男性	398		±2.1%	±2.9%	±3.5%	±3.9%	±4.2%	±4.5%	±4.6%	±4.8%	±4.8%	±4.9%
女性	547		±1.8%	±2.5%	±2.9%	±3.3%	±3.6%	±3.8%	±3.9%	±4.0%	±4.1%	±4.1%
18~29歳	68		±5.2%	±7.1%	±8.5%	±9.5%	±10.3%	±10.9%	±11.3%	±11.6%	±11.8%	±11.9%
30歳代	120		±3.9%	±5.3%	±6.4%	±7.1%	±7.7%	±8.2%	±8.5%	±8.7%	±8.9%	±8.9%
40歳代	166		±3.3%	±4.5%	±5.4%	±6.1%	±6.6%	±6.9%	±7.2%	±7.4%	±7.5%	±7.6%
50歳代	188		±3.1%	±4.3%	±5.1%	±5.7%	±6.2%	±6.5%	±6.8%	±7.0%	±7.1%	±7.1%
60歳代	241		±2.7%	±3.8%	±4.5%	±5.0%	±5.4%	±5.7%	±6.0%	±6.1%	±6.2%	±6.3%
70歳以上	169		±3.3%	±4.5%	±5.4%	±6.0%	±6.5%	±6.9%	±7.2%	±7.4%	±7.5%	±7.5%

【信頼度95%における主要な%の信頼区間の1/2幅】

この表では、例えば、「問3 愛荘町は人権が尊重される社会になっていると思いますか。」の結果を見ると、「1. そう思う」は10.4%であり、「全体」の場合の最も近い値 (10%) は「±1.8%」となっています。母集団を対象にこの調査を行えば、「1. そう思う」と回答する方が10.4%の前後1.8%の区間内、すなわち8.6%~12.2%の区間内にあることが95%の確率で期待されることを意味しています。



## 第Ⅱ章 調査結果



## 第Ⅱ章 調査結果

### Ⅱ-1 町民意識調査

#### 1 単純集計及び基本属性別クロス集計結果

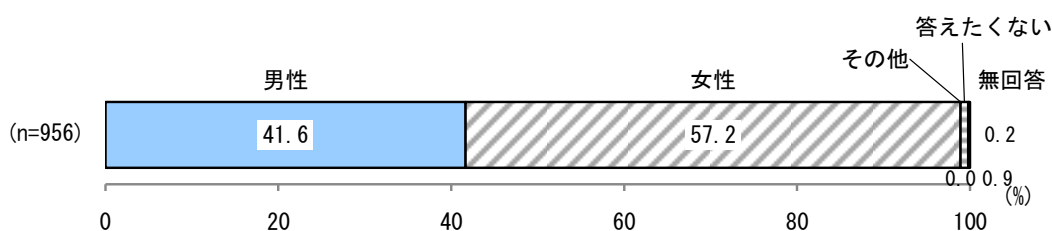
##### 〔1〕回答者の属性について

##### (1) 性別

あなたの性別に○をつけてください。(○は1つ)

回答者の性別は、「男性」が41.6%、「女性」が57.2%となっています。(図 I-1-1)

【図 I-1-1 性別】



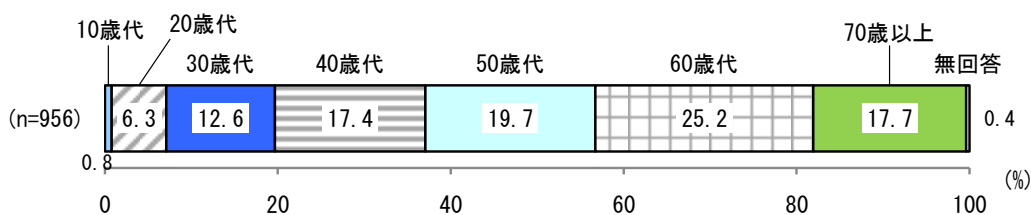
##### (2) 年代

あなたの年齢に○をつけてください。(○は1つ)

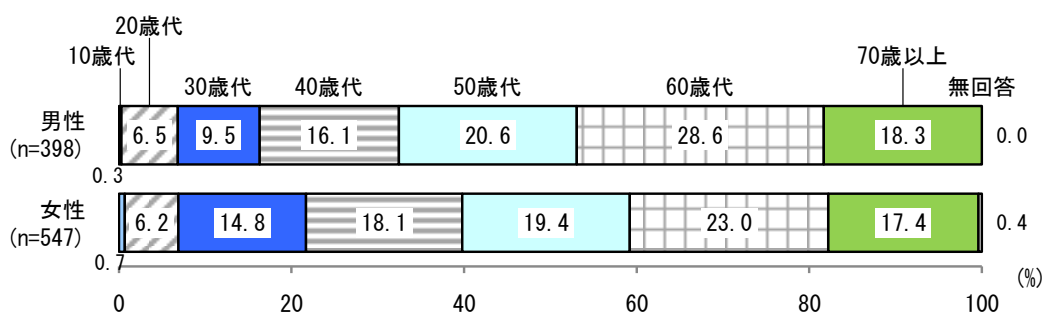
年代は、「60歳代」が25.2%と最も高く、次いで「50歳代」が19.7%、「70歳以上」が17.7%となっています。(図 I-1-2)

性別で見ると、「60歳代」が男性28.6%、女性23.0%でともに最も高くなっています。(図 I-1-2-1)

【図 I-1-2 年代】



【図 I-1-2-1 性別 年代】

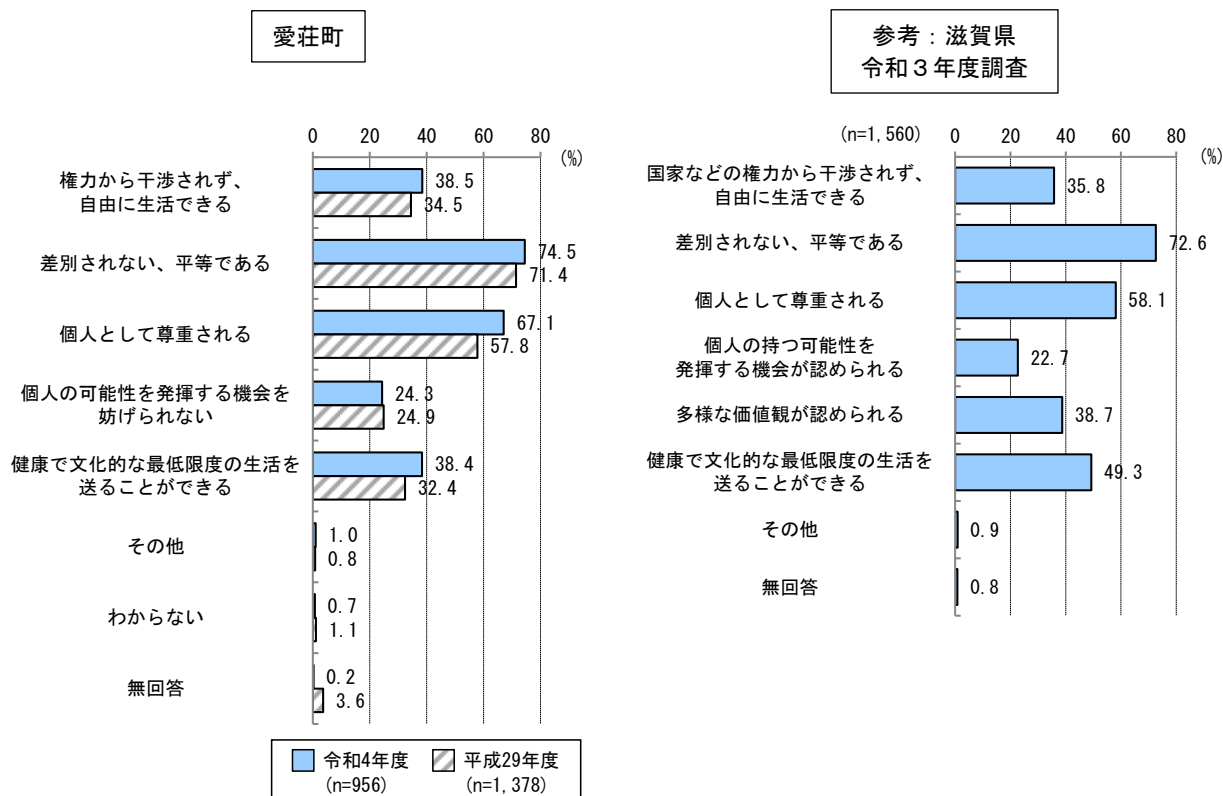


〔2〕人権についての考え方

(1) 人権が尊重されることの考え

問1 「人権が尊重される」ということはどういうことだと思いますか。最もお考えに近いものを選んでください。(〇は3つまで)

【図 I-2-1 人権が尊重されることの考え】



人権が尊重されることの考えについては、「差別されない、平等である」が74.5%と最も高く、次いで「個人として尊重される」が67.1%、「権力から干渉されず、自由に生活できる」が38.5%と続いています。

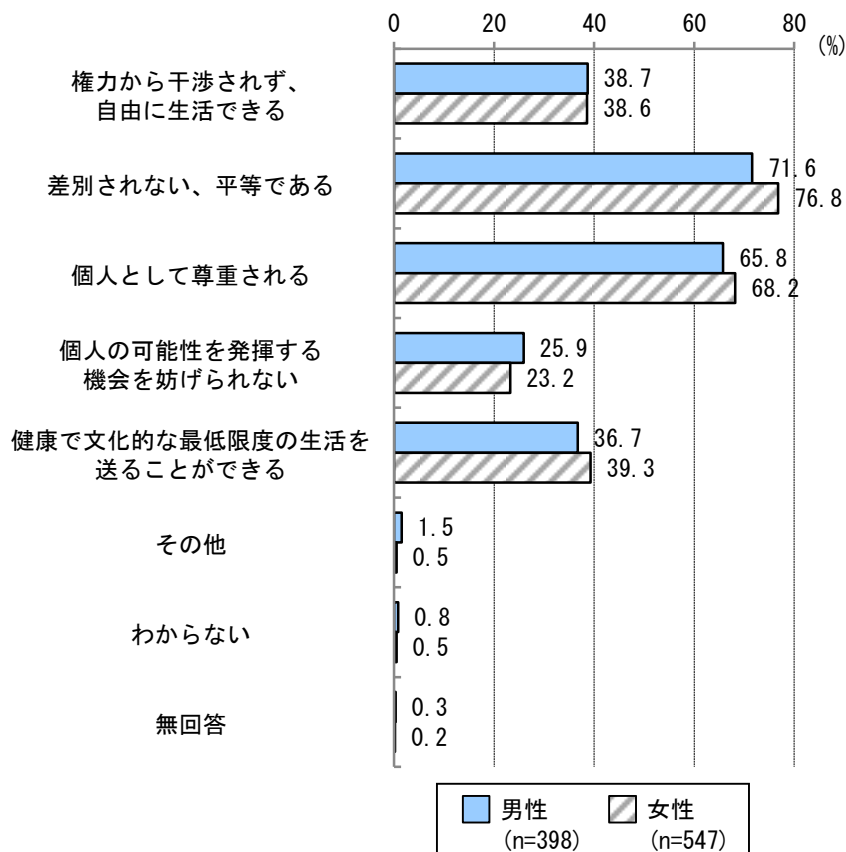
前回調査と比較すると、「個人として尊重される」が9.3ポイント高くなっています。

参考に県調査と比較すると、本町のほうが「個人として尊重される」で9.0ポイント高くなっていますが、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」は10.9ポイント低くなっています。(図 I-2-1)

その他：「同調圧力がないこと」、「基本的人権」等

性別で見ると、男女とも「差別されない、平等である」が7割台で最も高く、女性のほうが5.2ポイント高くなっています。次いで「個人として尊重される」が男女とも6割を超えています。これに続いて、男性は「権力から干渉されず、自由に生活できる」が38.7%となっており、女性は「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」が39.3%となっています。(図 I-2-1-1)

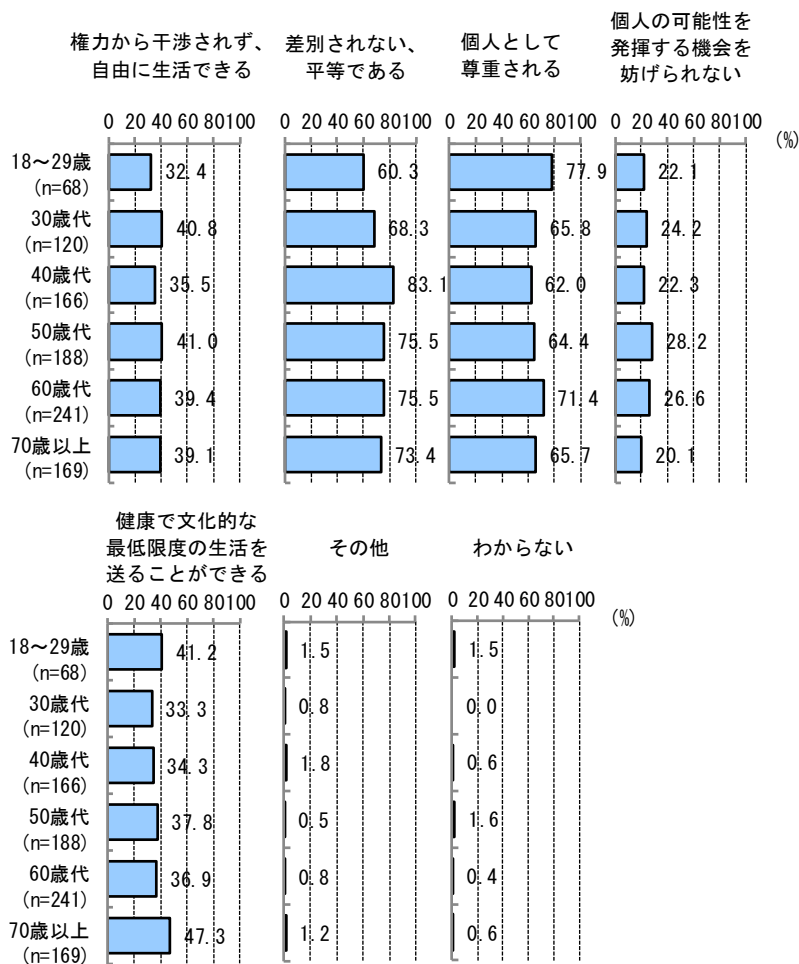
【図 I-2-1-1 性別 人権が尊重されることの考え】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、「個人として尊重される」は、18～29歳が77.9%で最も高くなっています。「差別されない、平等である」は、40歳以上の各年代では7割を超え、それらに比べると18～30歳代までの若い世代の割合は低くなっています。「個人の可能性を發揮する機会を妨げられない」は、年代にかかわらず2割台となっています。(図Ⅰ-2-1-2)

【図Ⅰ-2-1-2 年代別 人権が尊重されることの考え】

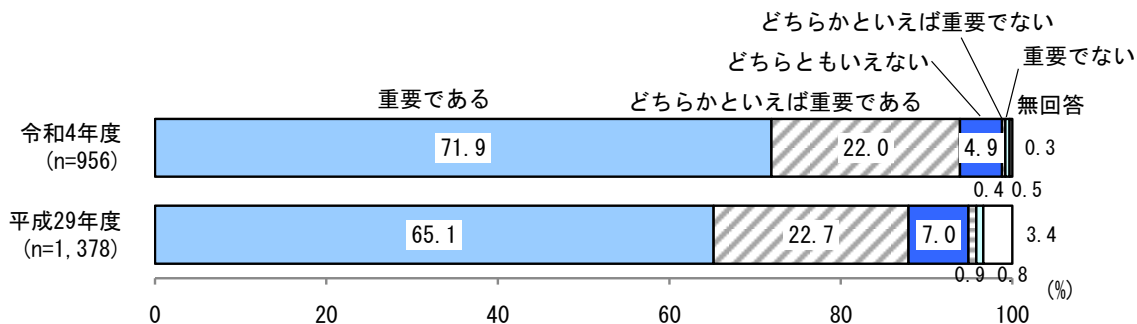


(2) 人権という言葉の考え方や印象

問2 あなたは「人権」という言葉にどのような考え方や印象をもっていますか。  
 (①・②それぞれに○は1つ)

①重要であるか重要でないか

【図 I-2-2① 人権の重要度合】

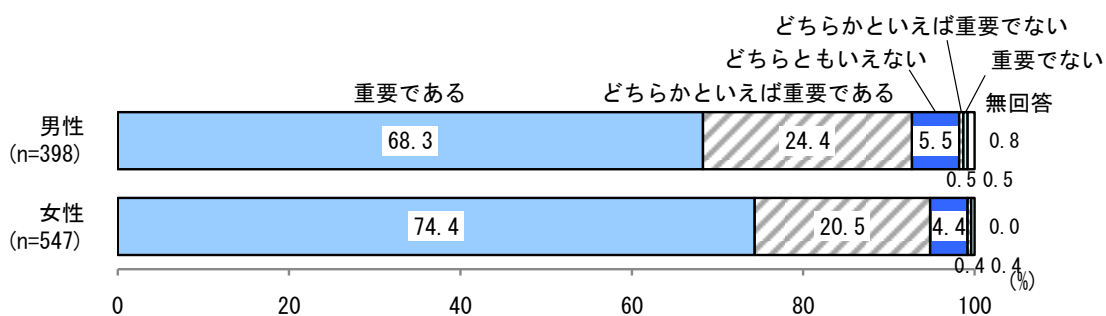


人権の重要度合について、「重要である」が71.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば重要である」が22.0%となっており、両者を合わせた『重要である』は93.9%を占めています。(図 I-2-2①)

前回調査と比較すると、『重要である』割合は6.1ポイント高くなっています。(図 I-2-2①)

性別でみると、「重要である」は、男性で68.3%、女性で74.4%となっており、女性のほうが6.1ポイント高くなっています。(図 I-2-2①-1)

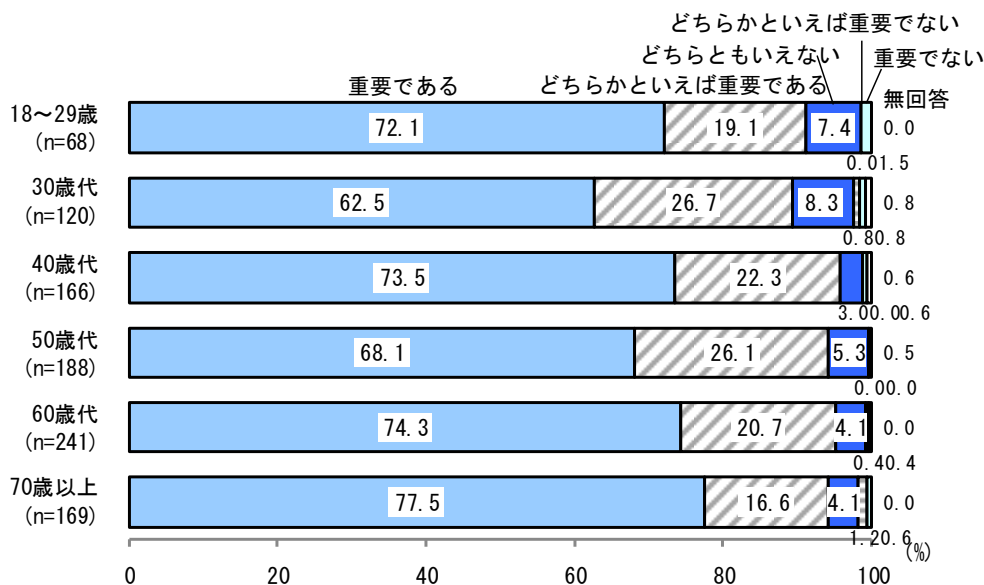
【図 I-2-2①-1 性別 人権の重要度合】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

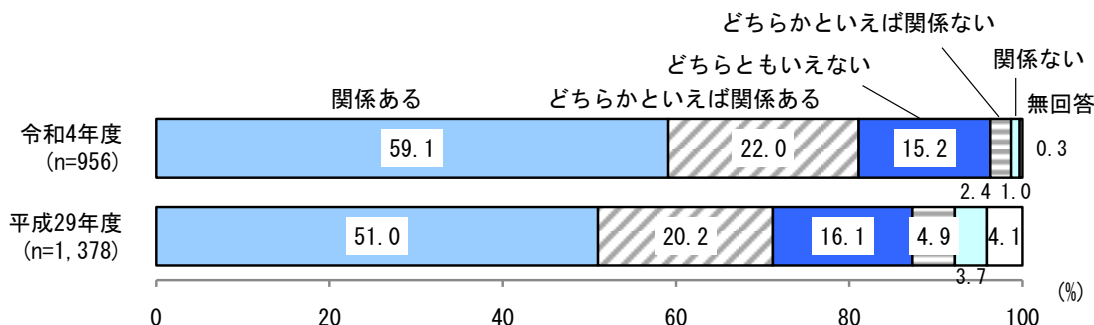
年代別でみると、『重要である』割合が、年代にかかわらず9割前後を占めており、特に40歳代は95.8%と最も高くなっています。(図 I-2-2①-2)

【図 I-2-2①-2 年代別 人権の重要度合】



②自分に関係があるかないか

【図 I-2-2② 人権と自分との関係】

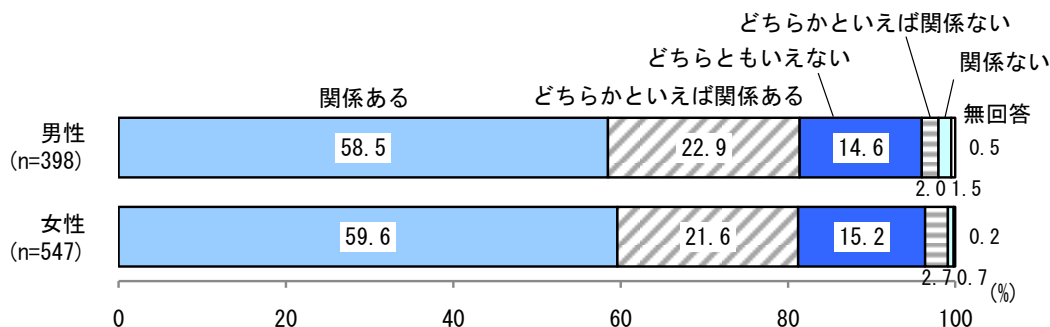


人権と自分の関係について、「関係ある」が59.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば関係ある」が22.0%で、両者を合わせた『関係ある』割合は81.1%を占めています。

前回調査と比較すると、『関係ある』割合は9.9ポイント高くなっています。(図 I-2-2②)

性別では大きな差はみられません。(図 I-2-2②-1)

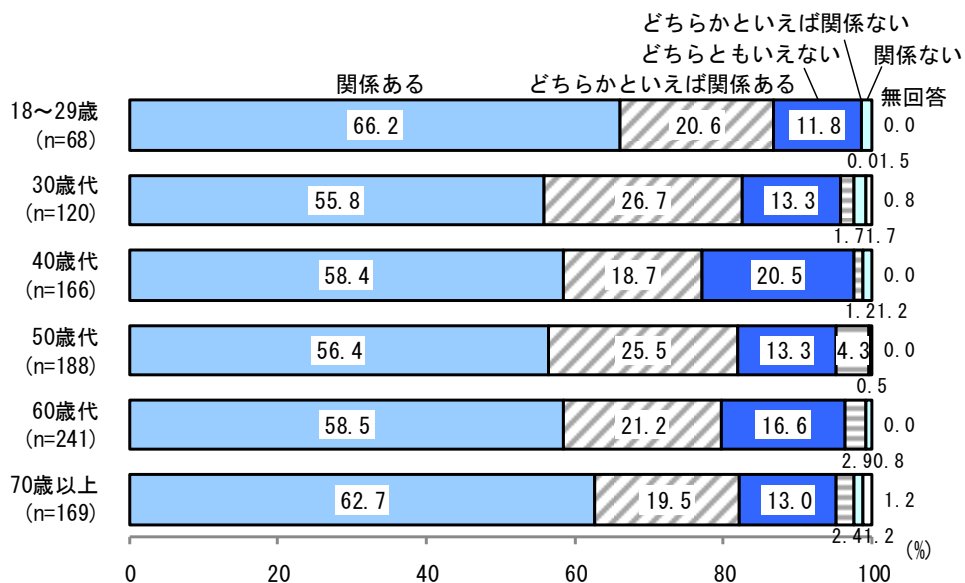
【図 I-2-2②-1 性別 人権と自分との関係】





年代別で見ると、『関係ある』割合は、年代にかかわらず過半数を占めており、18～29歳が86.8%と最も高くなっています。(図Ⅰ-2-2②-2)

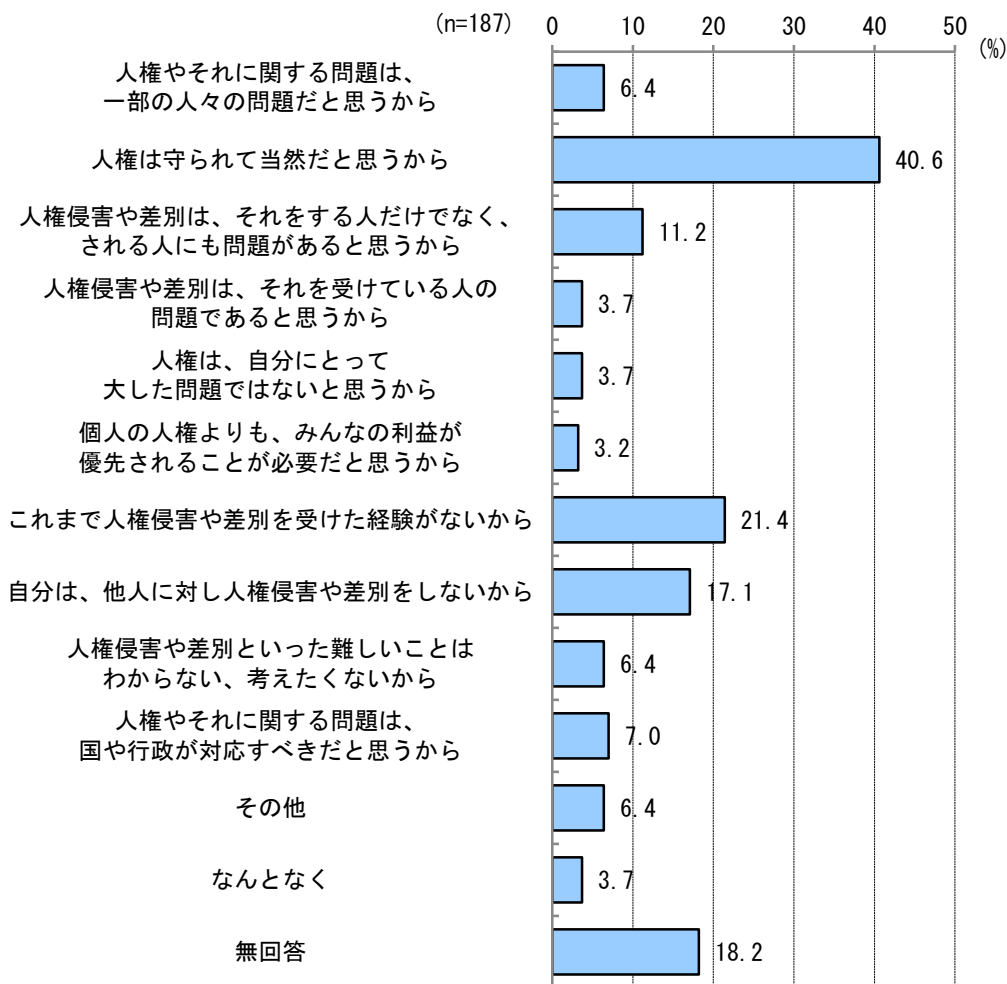
【図Ⅰ-2-2②-2 年代別 人権と自分との関係】



(3) 人権という言葉は「重要でない」「関係ない」と答えた理由

問2-1 問2の①または②で「どちらともいえない」または「重要でない」「関係ない」をお答えになった方におたずねします。そう思われる理由は何ですか。  
(〇は3つまで)

【図Ⅰ-2-3 人権という言葉は「重要でない」「関係ない」と答えた理由】

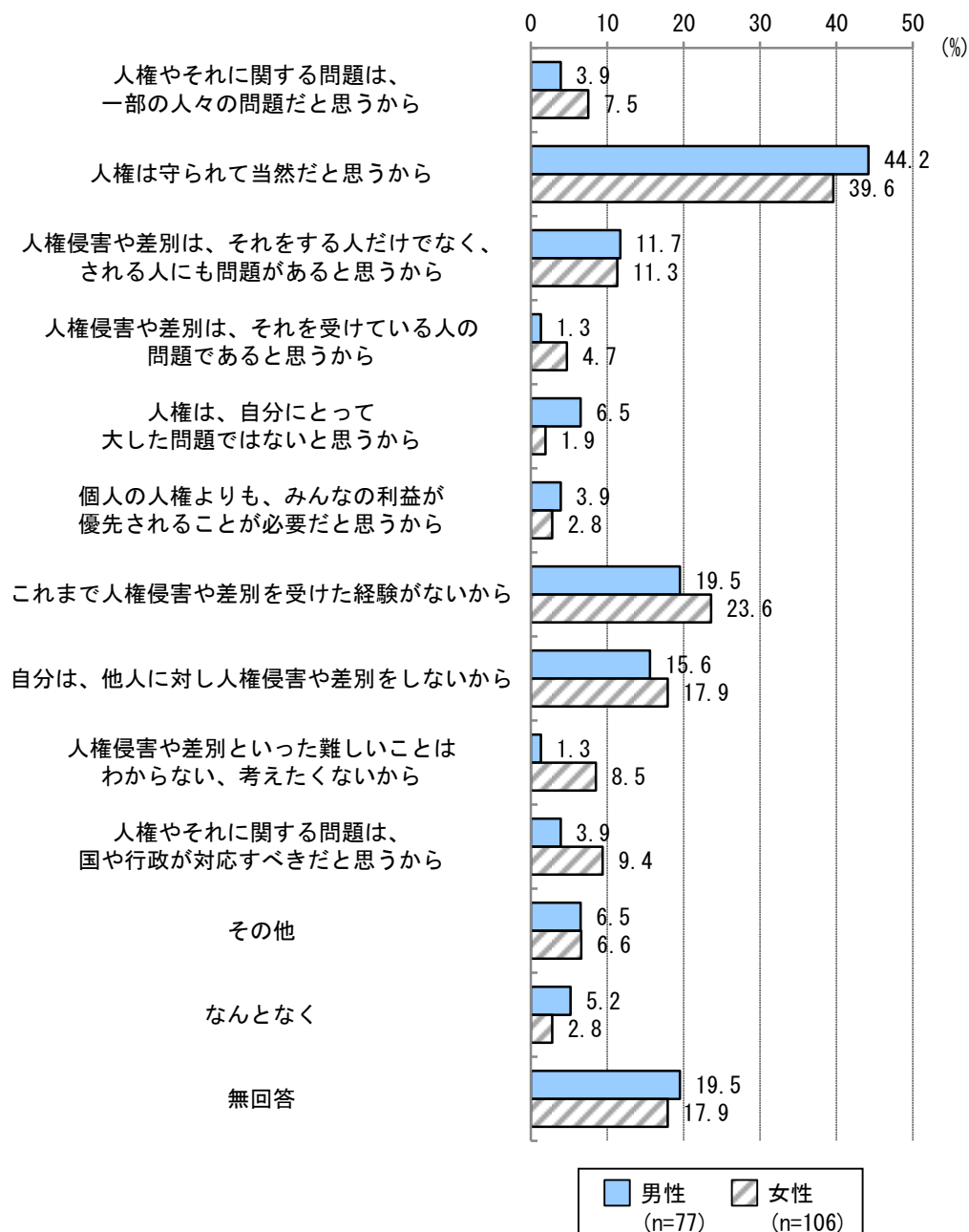


人権という言葉は「重要でない」「関係ない」と答えた理由について、「人権は守られて当然だと思うから」が40.6%と最も高く、次いで「これまで人権侵害や差別を受けた経験がないから」が21.4%、「自分は他人に対し、人権侵害や差別をしないから」が17.1%となっています。(図Ⅰ-2-3)

その他：「意識して生活していないから」、「実感がない話題だから」等

性別で見ると、男女とも「人権は守られて当然だと思うから」が4割前後と最も高く、男性のほうが4.6ポイント高くなっています。また、「人権侵害や差別といった難しいことはわからない、考えたくないから」は、男性が1.3%、女性が8.5%で、女性のほうが7.2ポイント高くなっています。(図Ⅰ-2-3-1)

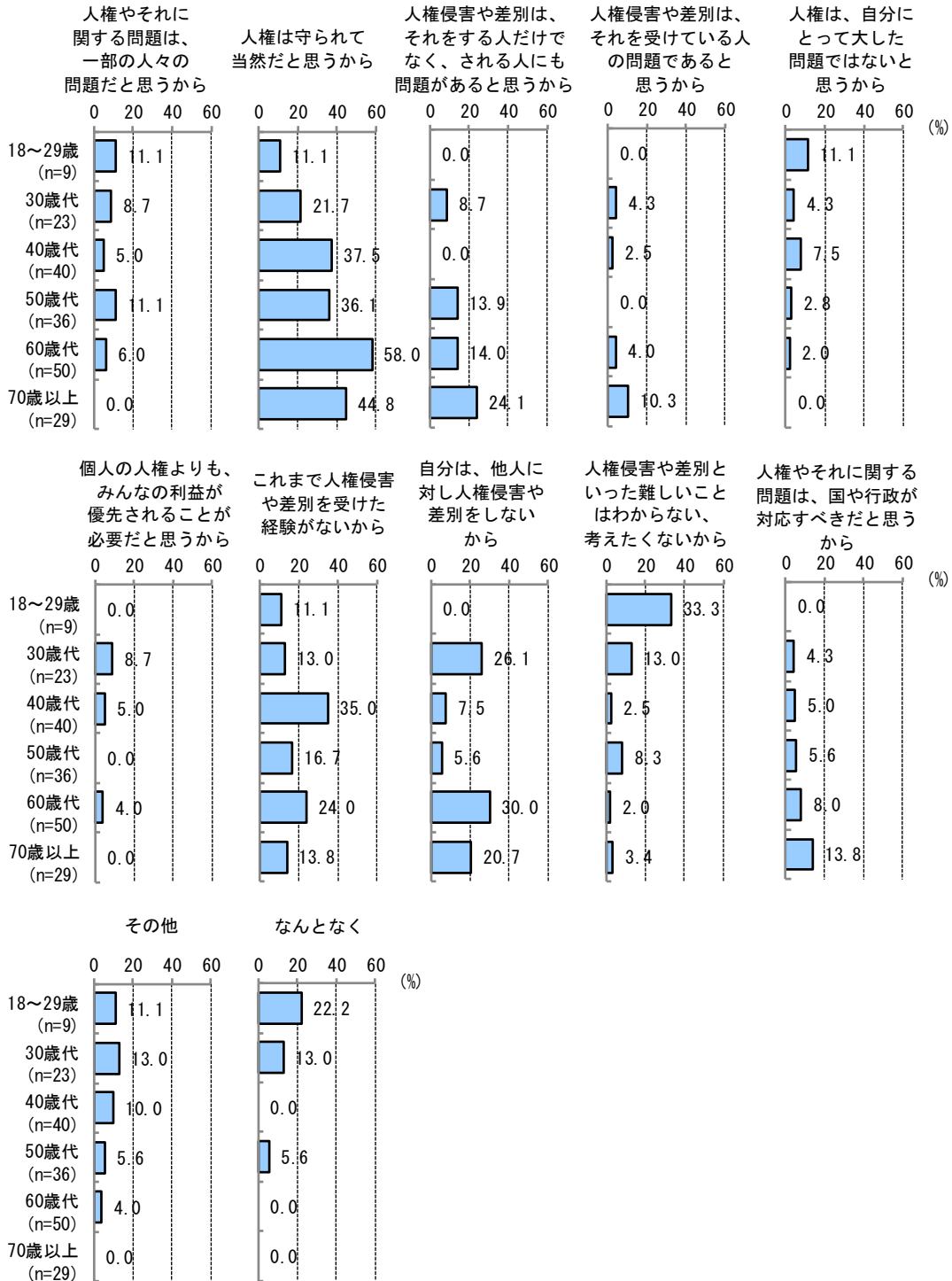
【図Ⅰ-2-3-1 性別 人権という言葉は「重要でない」「関係ない」と答えた理由】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別で見ると、「人権は守られて当然だと思うから」や「人権やそれに関する問題は、国や行政が対応すべきだと思うから」は年代が上がるほど割合が上昇傾向にあります。(図Ⅰ-2-3-2)

【図Ⅰ-2-3-2 年代別 人権という言葉は「重要でない」「関係ない」と答えた理由】

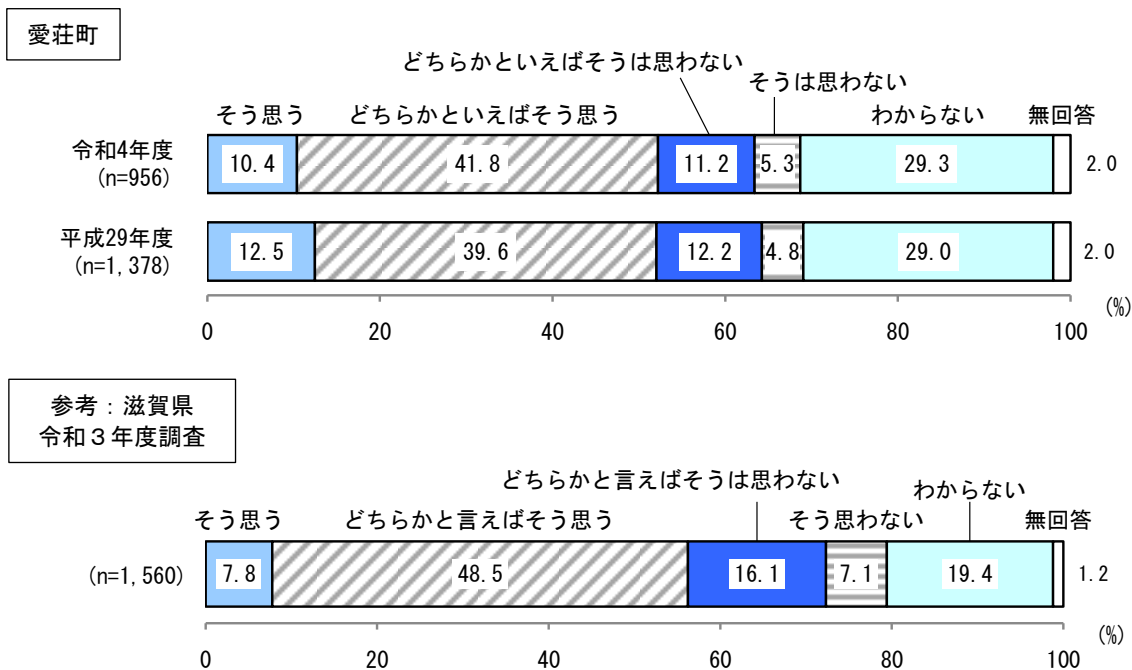


〔3〕人権尊重のまちづくりについて

(1) 愛荘町における人権尊重の状況

問3 愛荘町は人権が尊重される社会になっていると思いますか。あなたのお考えに最も近い番号を選んでください。(○は1つ)

【図 I-3-1 愛荘町における人権尊重の状況】



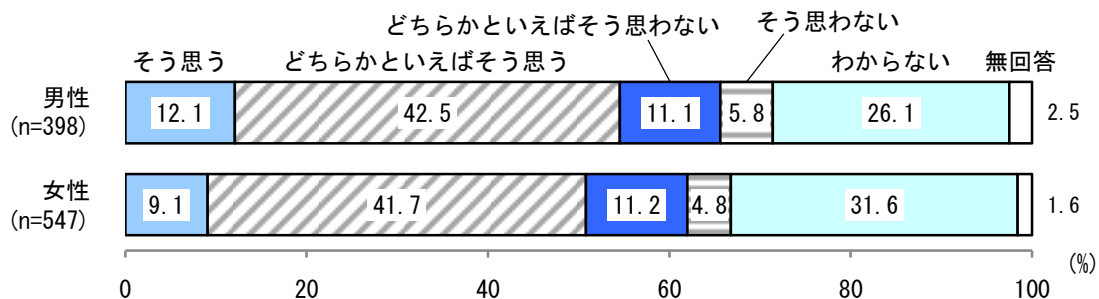
愛荘町は人権が尊重される社会になっているかについて、「どちらかといえばそう思う」が41.8%と最も高く、次いで「わからない」が29.3%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』割合は52.2%を占めており、一方の「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた『そうは思わない』割合は16.5%となっています。(図 I-3-1)

参考に、県調査では滋賀県における人権尊重についてたずねており、双方を比較すると、本町のほうが『そう思う』割合は4.1ポイント低く、『そうは思わない』割合も6.7ポイント低くなっています。一方で「わからない」が9.9ポイント高くなっています。(図 I-3-1)

第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

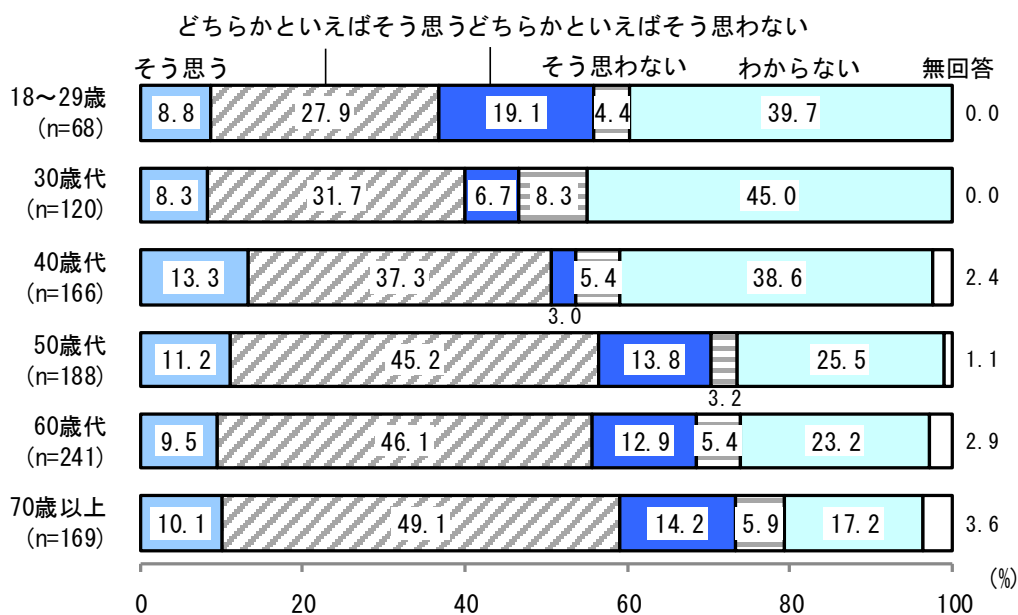
性別で見ると、『そう思う』割合は、男性が54.6%、女性が50.8%とどちらも5割を占めています。一方で、「わからない」は女性が31.6%で男性（26.1%）に比べ、5.5ポイント高くなっています。（図Ⅰ-3-1-1）

【図Ⅰ-3-1-1 性別 愛荘町における人権尊重の状況】



年代別で見ると、『そう思う』割合は、年代が上がるほど上昇する傾向があり、40歳以降の年代では過半数を占めています。一方、若い年代ほど「わからない」が高い傾向にあり、18～40歳代の各年代で4割程度を占めています。（図Ⅰ-3-1-2）

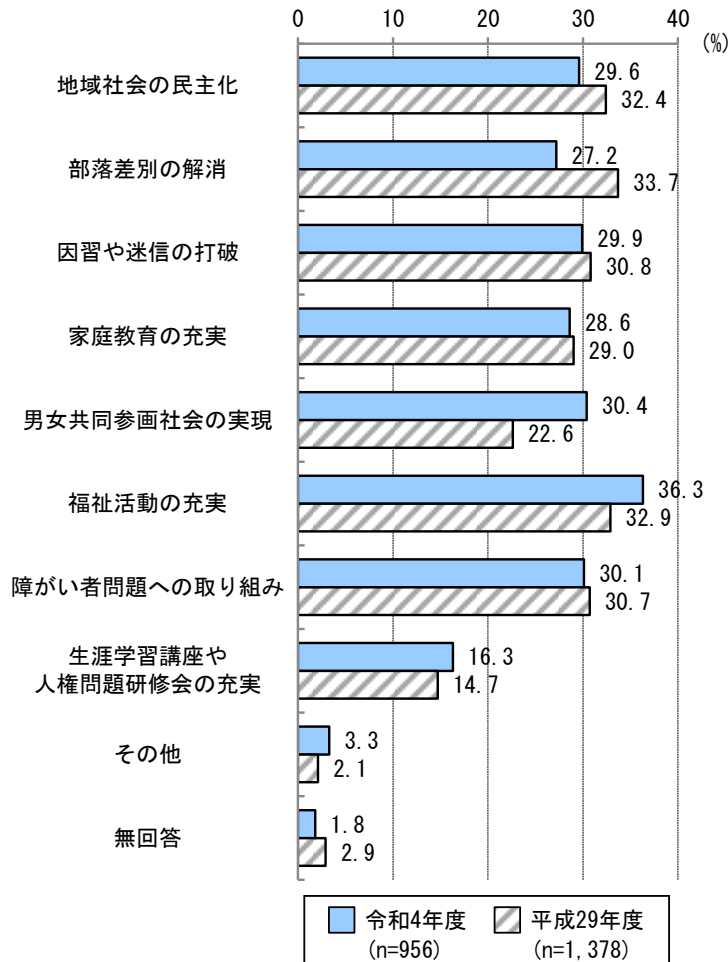
【図Ⅰ-3-1-2 年代別 愛荘町における人権尊重の状況】



(2) 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと

問4 人権が尊重されるまちづくりをすすめていくために、特に大切なことは何ですか。  
(〇は3つまで)

【図Ⅰ-3-2 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと】



人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なことでは、「福祉活動の充実」が36.3%と最も高く、次いで「男女共同参画社会の実現」が30.4%、「障がい者問題への取り組み」が30.1%と続いています。(図Ⅰ-3-2)

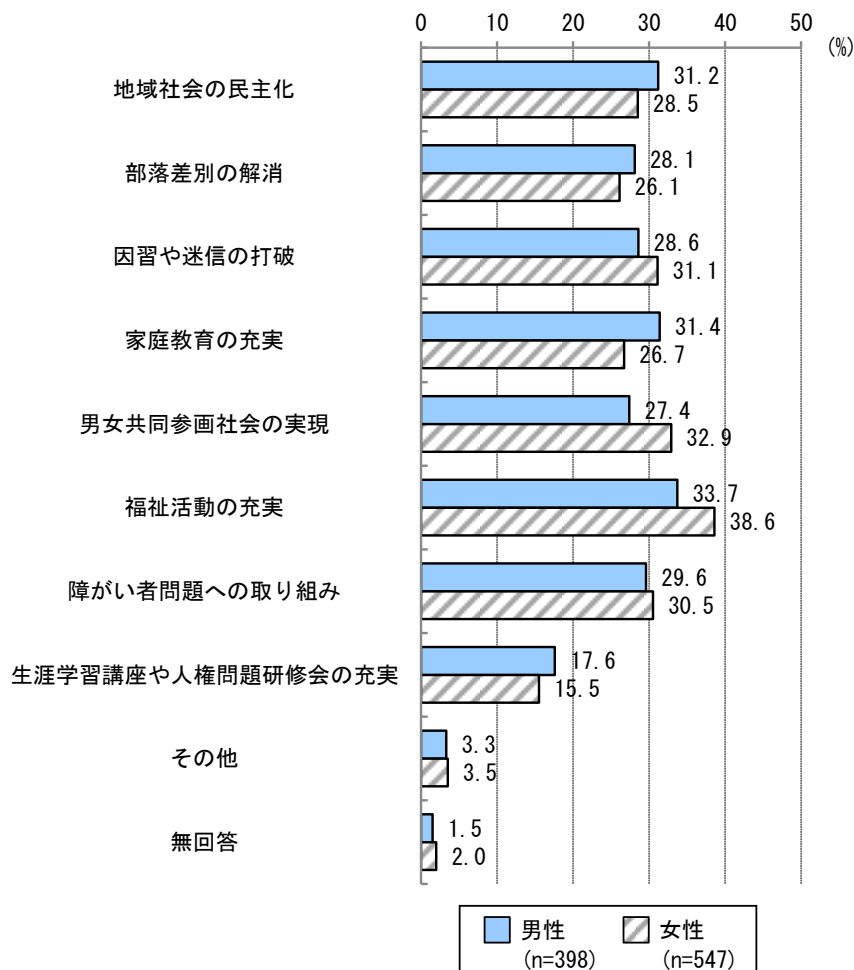
前回調査と比較すると、「男女共同参画社会の実現」が7.8ポイント高くなっています。逆に「部落差別の解消」は6.5ポイント低下しています。(図Ⅰ-3-2)

その他：「学校での教育の推進」、「一般の人が集まる学習の場の設置」等

第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

性別で見ると、「福祉活動の充実」は男性が33.7%、女性が38.6%でともに最も多く、女性のほうが4.9ポイント高くなっています。次いで、男性では「家庭教育の充実」が31.4%と3割を占め、女性に比べて4.7ポイント高くなっています。一方で、女性は「男女共同参画社会の実現」が32.9%と男性に比べて5.5ポイント高くなっています。(図Ⅰ-3-2-1)

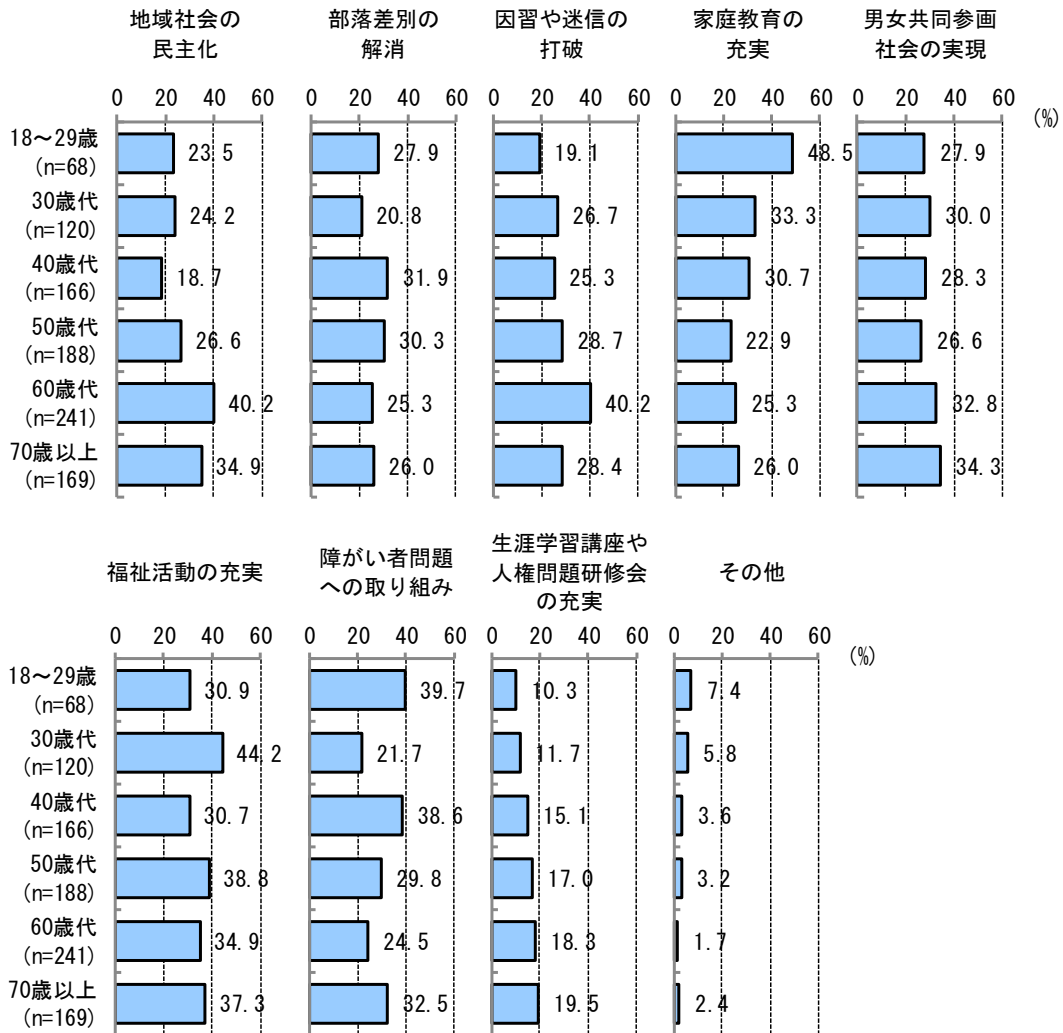
【図Ⅰ-3-2-1 性別 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと】





年代別でみると、「家庭教育の充実」は若い年代ほど高い傾向にあり、特に18～29歳が48.5%で最も高くなっています。また、「福祉活動の充実」は、30歳代が44.2%で他の年代に比べ高くなっています。「生涯学習講座や人権問題研修会の充実」の割合は、年代が上がるほど上昇傾向にあり、70歳以上では19.5%と最も高くなっています。(図I-3-2-2)

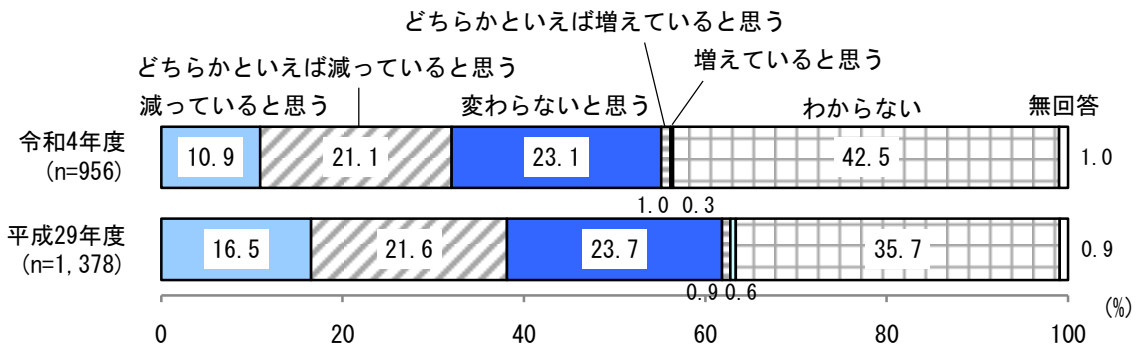
【図I-3-2-2 年代別 人権が尊重されるまちづくりをすすめるために大切なこと】



(3) 5年前と比べた差別や人権侵害の増減

問5 愛荘町における差別や人権侵害は、おおむね5年前に比べてどのようになっていると思いますか。(〇は1つ)

【図Ⅰ-3-3 5年前と比べた差別や人権侵害の増減】

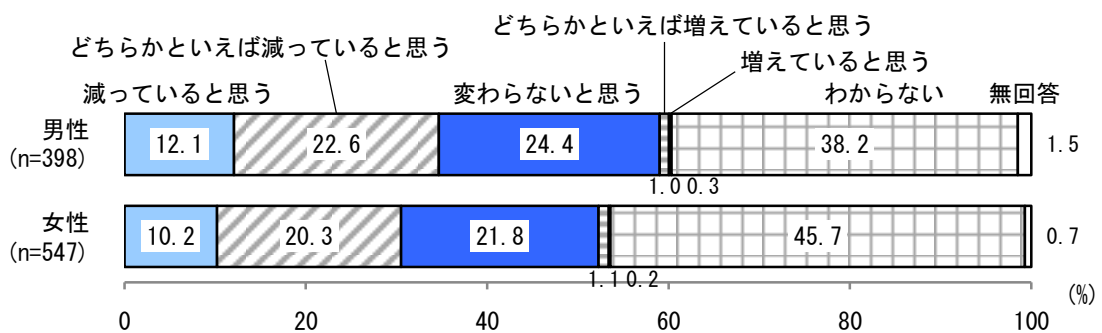


5年前と比べた差別や人権侵害の状況について、「わからない」が42.5%と最も高く、次いで「変わらないと思う」が23.1%、「どちらかといえば減っていると思う」が21.1%となっています。「減っていると思う」と「どちらかといえば減っていると思う」を合わせた『減っていると思う』割合は32.0%を占めています。(図Ⅰ-3-3)

前回調査と比較すると、『減っていると思う』割合は6.1ポイント低下しており、「わからない」が6.8ポイント高くなっています。(図Ⅰ-3-3)

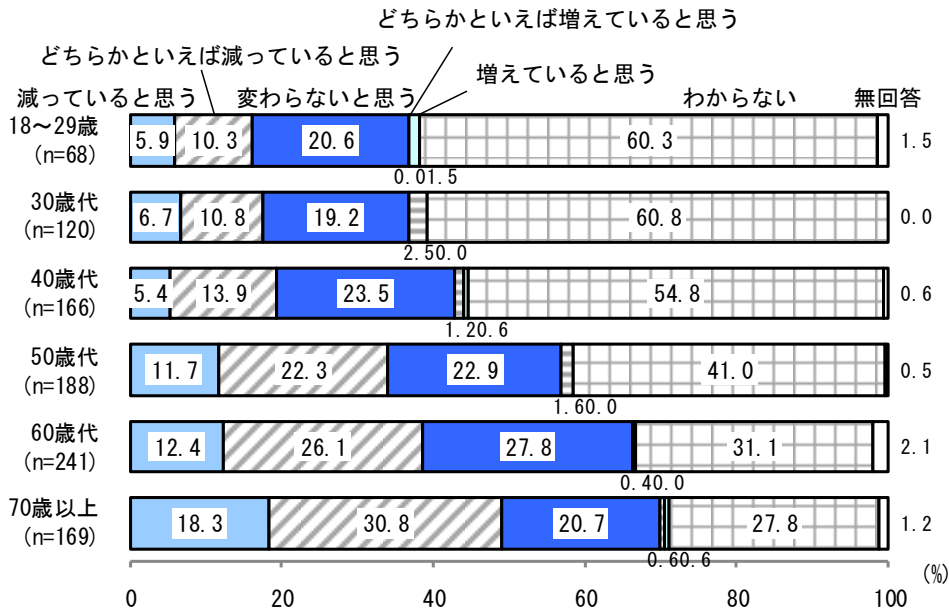
性別で見ると、『減っていると思う』割合は、男性が34.7%、女性が30.5%でともに3割を占めています。一方で、女性は「わからない」が45.7%で男性(38.2%)に比べ7.5ポイント高くなっています。(図Ⅰ-3-3-1)

【図Ⅰ-3-3-1 性別 5年前に比べた差別や人権侵害の増減】



年代別でみると、18～40歳代の各年代は「わからない」が過半数を占めており、次いで「変わらないと思う」が高くなっています。50歳以降では、「わからない」の割合は低下、『減っていると思う』の割合が上昇し、70歳以上が49.1%で最も高くなっています。(図 I-3-3-2)

【図 I-3-3-2 年代別 5年前に比べた差別や人権侵害の増減】

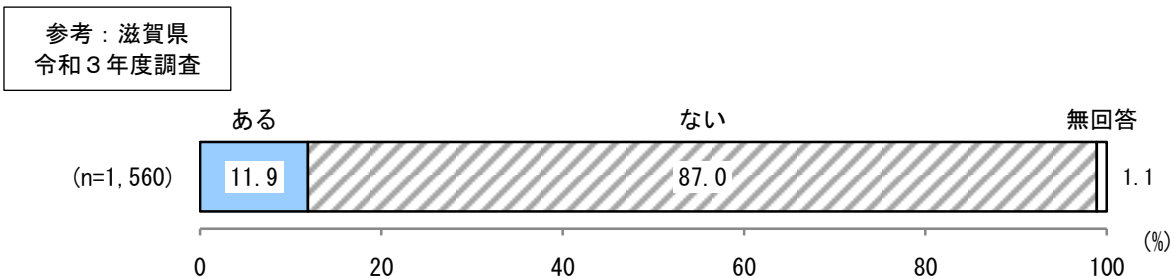
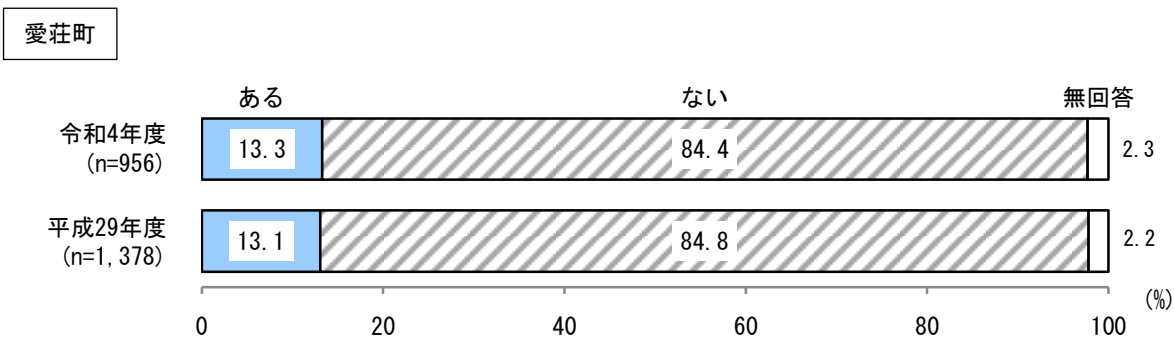


〔4〕人権侵害を受けた経験について

(1) 人権侵害を受けた経験

問6 あなたは、ここ5年以内で差別や人権侵害を受けたことがありますか。(○は1つ)

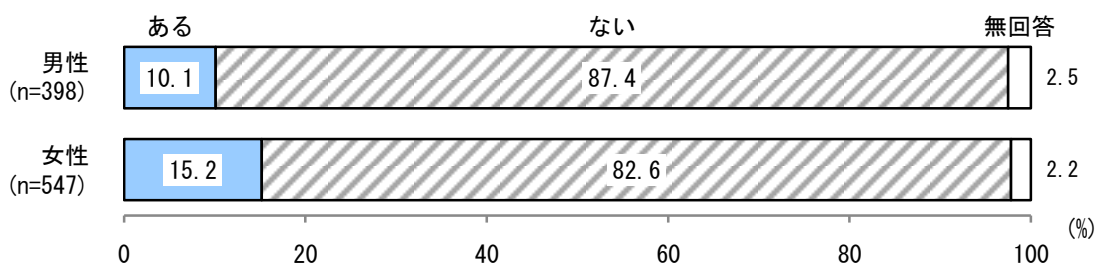
【図 I-4-1 人権侵害を受けた経験】



人権侵害を受けた経験は、「ある」が13.3%に対し、「ない」は84.4%となっています。参考に関調査と比較すると、本町のほうが「(人権侵害を受けたことが) ある」は1.4ポイント高くなっています。(図 I-4-1)

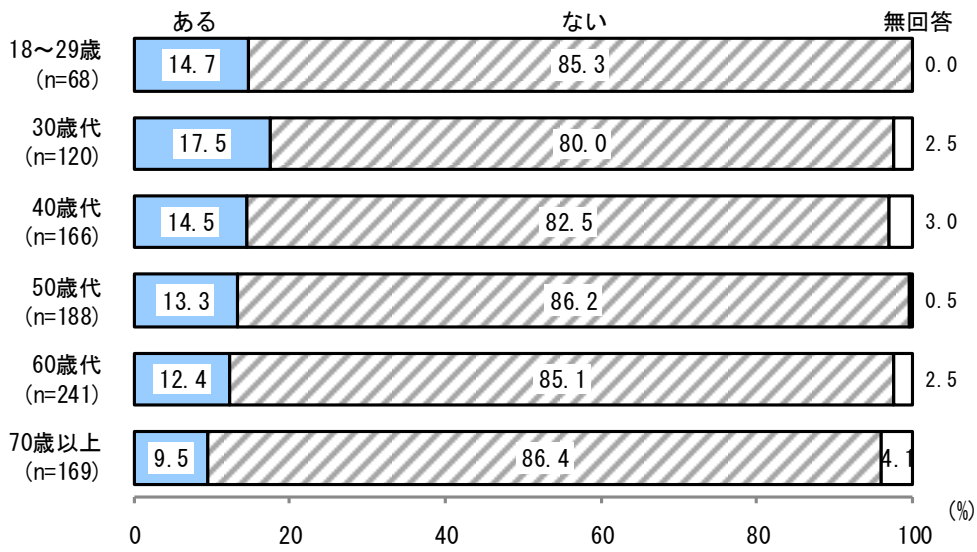
性別で見ると、「(人権侵害を受けたことが) ある」は、男性が10.1%、女性が15.2%で、女性のほうが5.1ポイント高くなっています。(図 I-4-1-1)

【図 I-4-1-1 性別 人権侵害を受けた経験】



年代別で見ると、「(人権侵害を受けたことが) ある」は、30歳代が17.5%と最も高く、次いで18～29歳が14.7%、40歳代が14.5%となっています。(図 I-4-1-2)

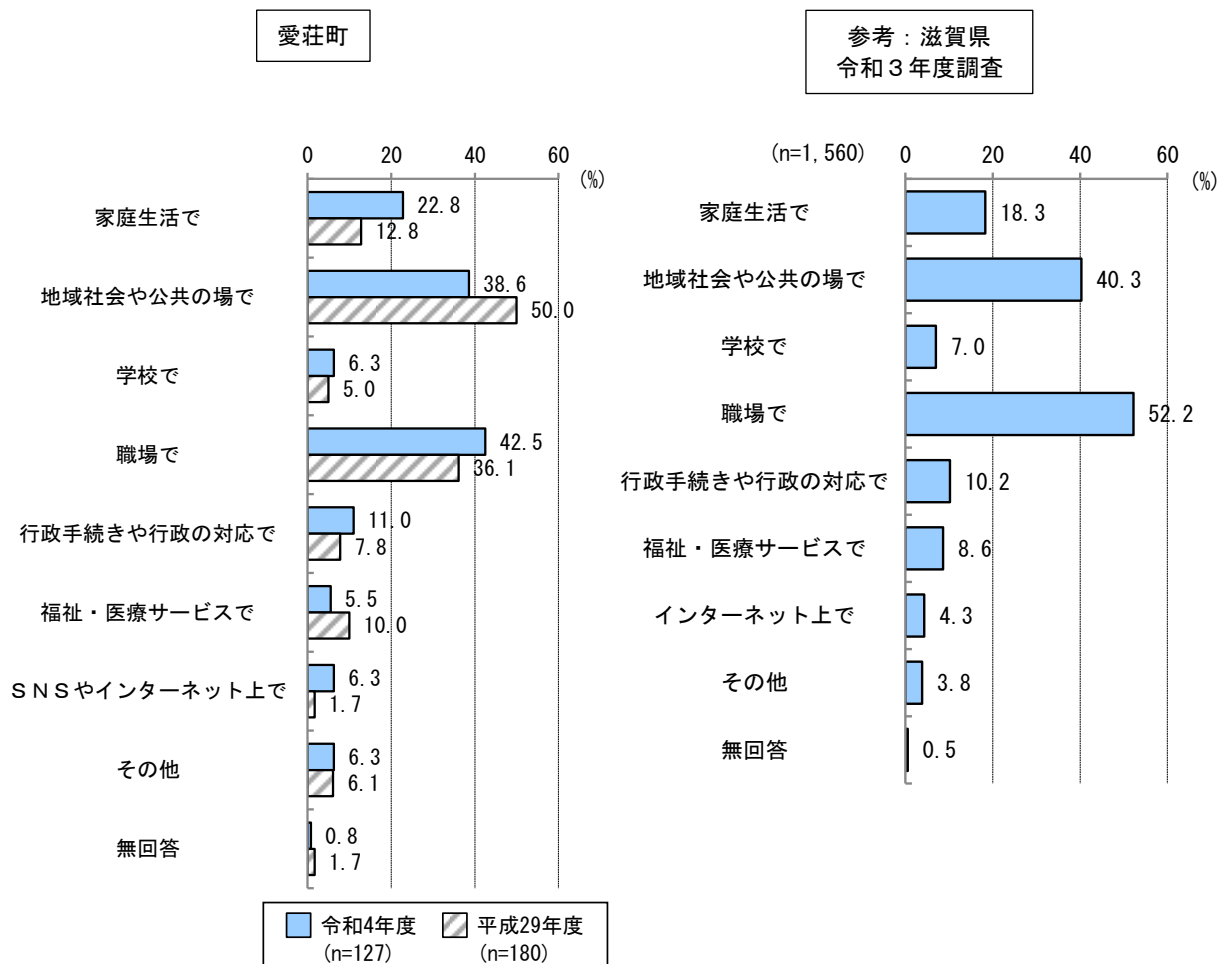
【図 I-4-1-2 年代別 人権侵害を受けた経験】



(2) 人権侵害を受けた場面

問6-1 問6で「ある」とお答えになった方におたずねします。  
それは、どのような生活場面でしたか。(〇はいくつでも)

【図Ⅰ-4-2 人権侵害を受けた場面】



人権侵害を受けたことがあると回答した人に、それを受けた場面をたずねると、「職場で」が42.5%と最も高く、次いで「地域社会や公共の場で」が38.6%、「家庭生活で」が22.8%となっています。(図Ⅰ-4-2)

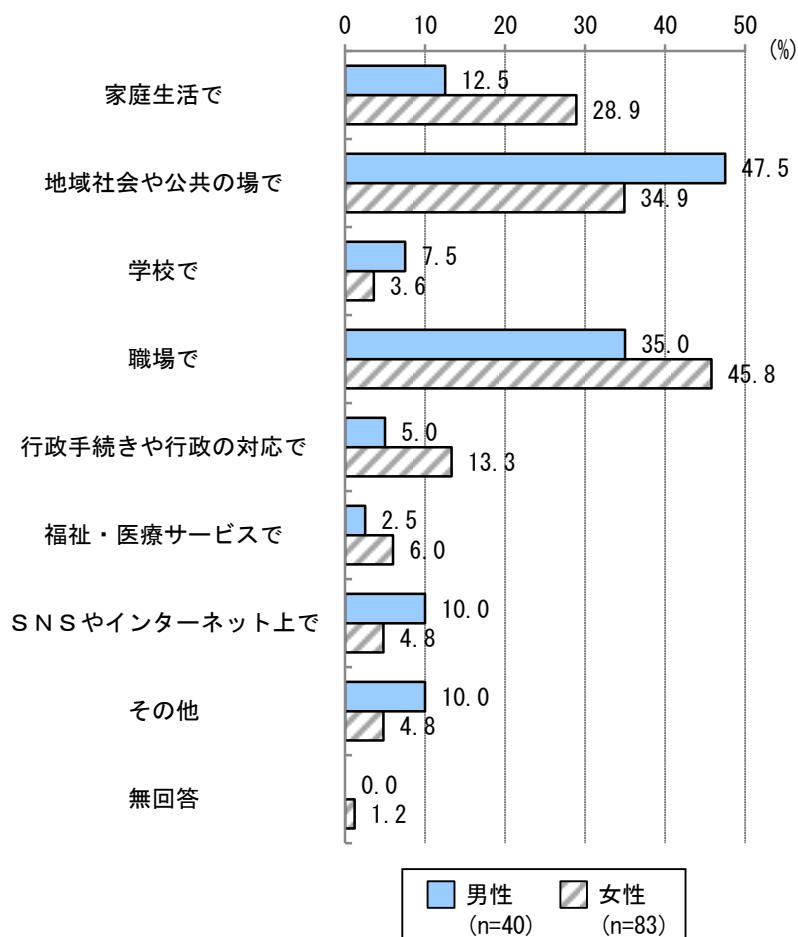
前回調査と比較すると、「地域社会や公共の場で」が11.4ポイント低くなっている一方で、「家庭生活で」が10.0ポイント高くなっています。(図Ⅰ-4-2)

参考に県調査と比較すると、「職場で」が最も高いのは本町と同じですが、本町のほうが9.7ポイント低くなっています。一方、「家庭生活で」「行政手続きや行政の対応で」と「(SNSや)インターネット上で」は、本町の割合のほうが高くなっています。(図Ⅰ-4-2)

その他：「友人関係」、「自治会」等

性別で見ると、男性は「地域社会や公共の場で」が47.5%と最も高く、女性（34.9%）に比べて12.6ポイント高くなっています。一方で、女性は「職場で」が45.8%と最も高く、男性（35.0%）に比べて10.8ポイント高くなっています。また、「家庭生活で」は男性が12.5%、女性が28.9%と女性のほうが16.4ポイント高くなっています。（図Ⅰ-4-2-1）

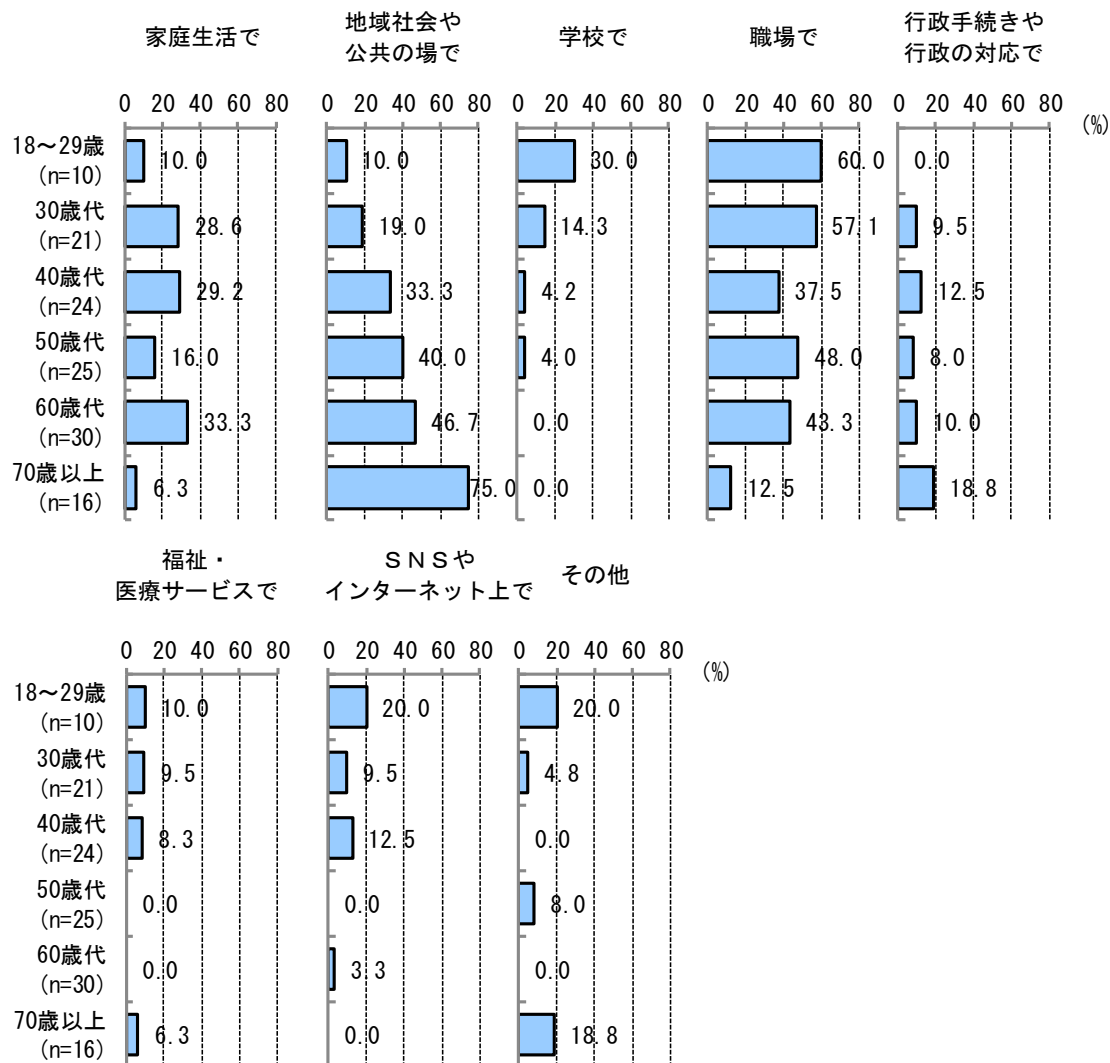
【図Ⅰ-4-2-1 性別 人権侵害を受けた場面】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別では、各年代の回答者数が少ないため解釈に留意が必要ですが、傾向として、18～29歳は「学校で」が他の年代に比べ高く、「地域社会や公共の場で」は年代が上がるほど上昇傾向にあります。また、「職場で」は18～30歳代で6割前後を占めています。(図Ⅰ-4-2-2)

【図Ⅰ-4-2-2 年代別 人権侵害を受けた場面】

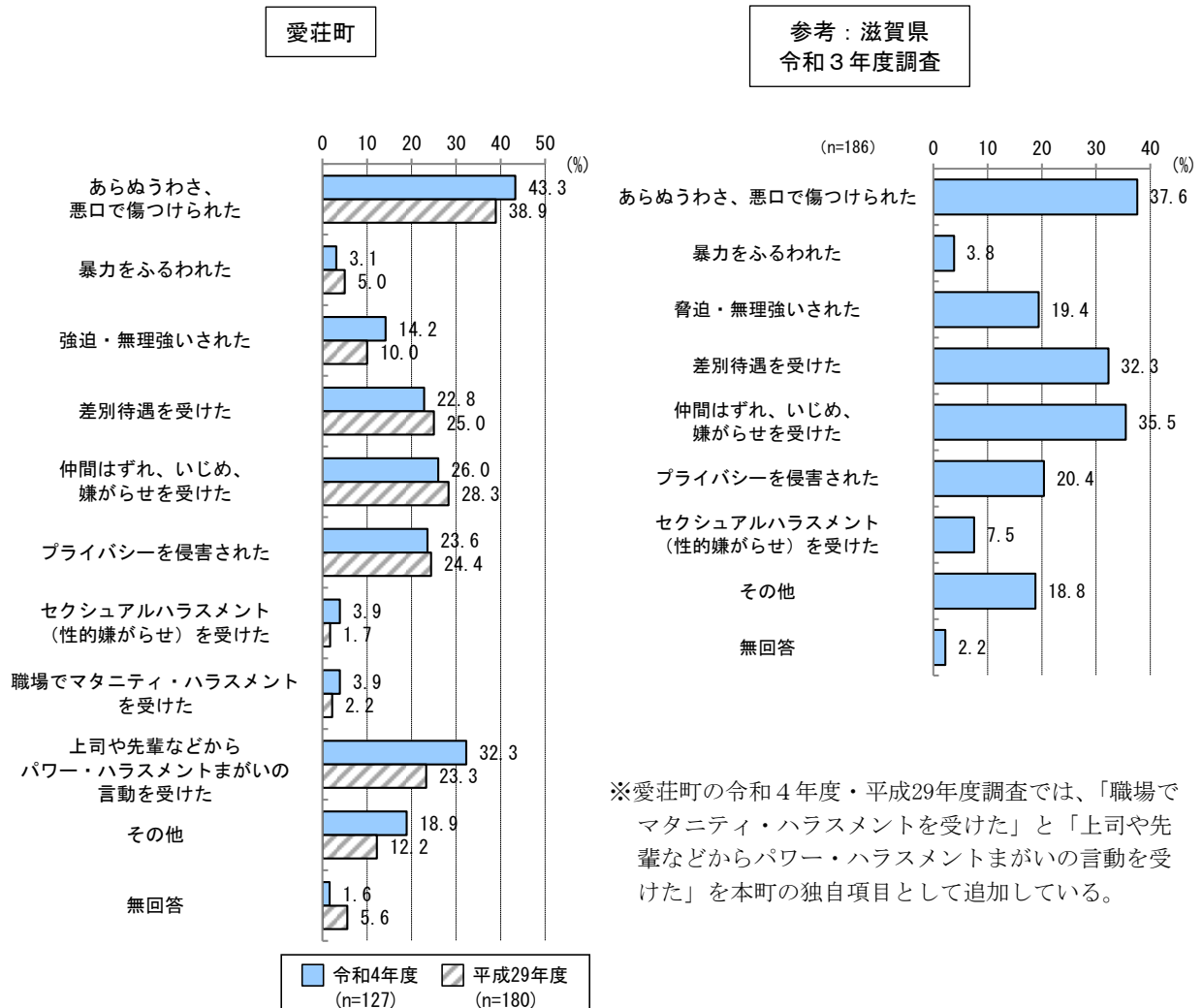




(3) 人権侵害を受けた内容

問6-2 問6で「ある」とお答えになった方におたずねします。  
それは、どのような内容でしたか。(〇はいくつでも)

【図Ⅰ-4-3 人権侵害を受けた内容】



人権侵害を受けたことがあると回答した人に、その内容をたずねると、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」が43.3%と最も高く、次いで「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」が32.3%、「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」が26.0%となっています。(図Ⅰ-4-3)

前回調査と比較すると「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」が9.0ポイント高くなっています。(図Ⅰ-4-3)

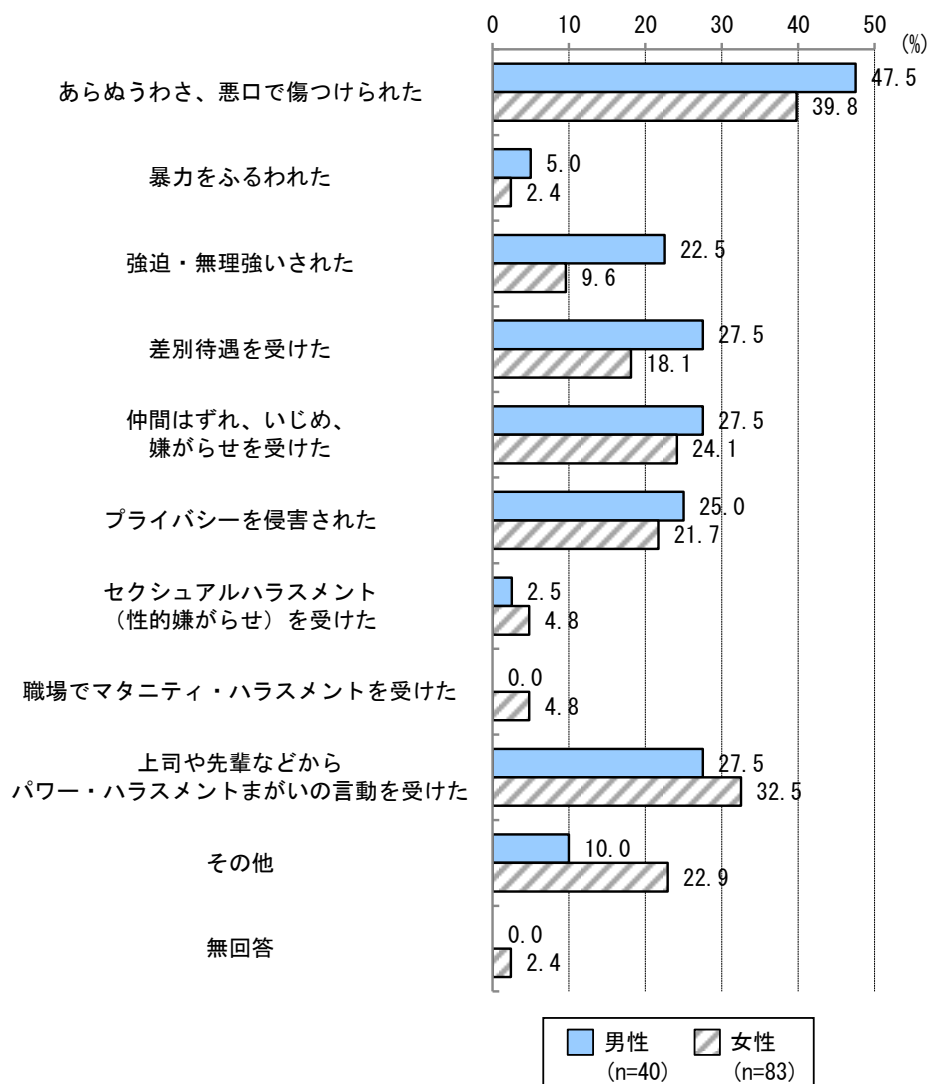
参考に県調査と比較すると、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」は本町のほうが5.7ポイント高くなっている一方で、「差別待遇を受けた」「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」は10ポイント近く低くなっています。(図Ⅰ-4-3)

その他：「男尊女卑」、「コロナに関すること」等

第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

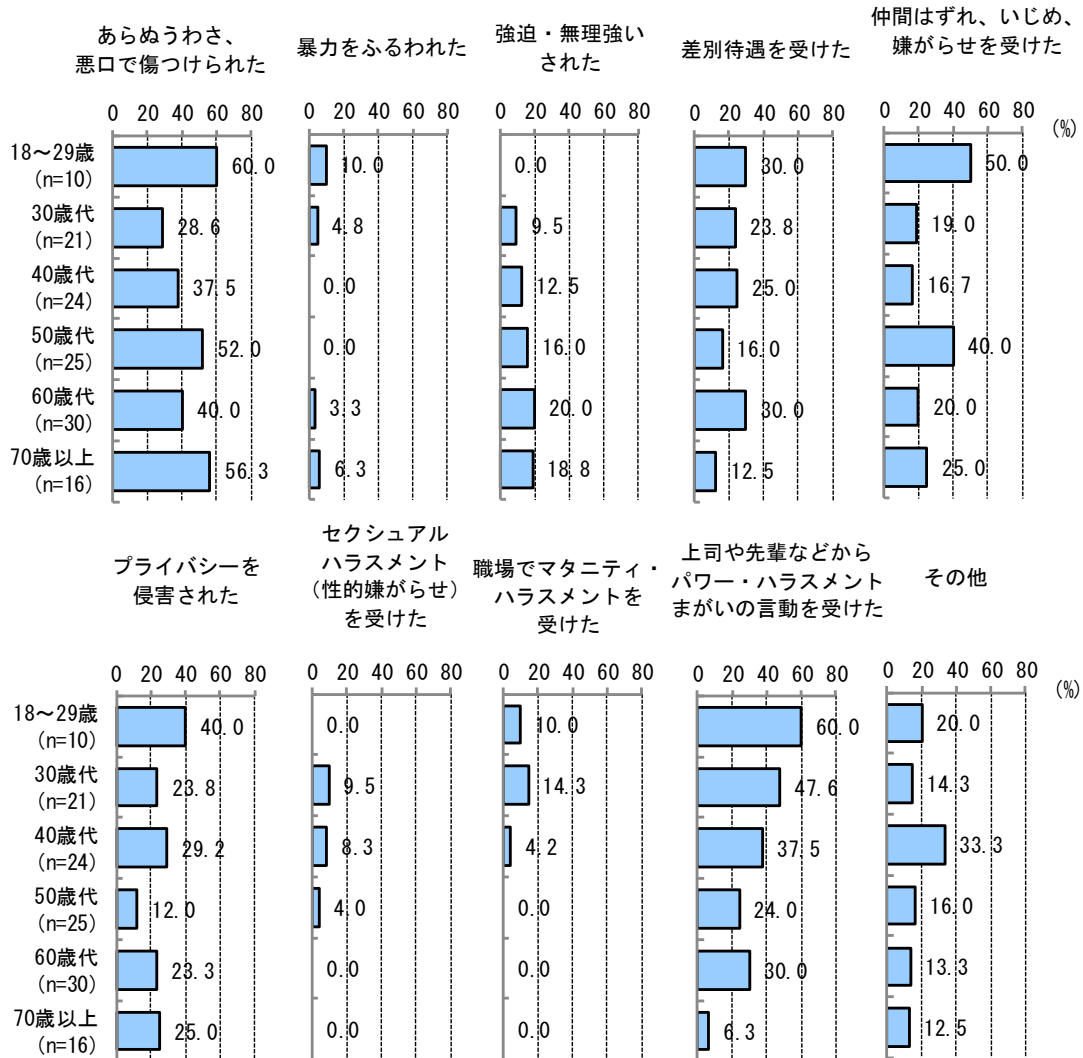
性別で見ると、男女とも「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」が最も高く、男性は47.5%、女性は39.8%で、男性のほうが7.7ポイント高くなっています。これに次いで、男性では「差別待遇を受けた」「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」がいずれも27.5%となっています。また、「脅迫・無理強いされた」が男性で22.5%となっており、女性より12.9ポイント高くなっています。女性で「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」が32.5%と男性に比べて5.0ポイント高くなっています。(図 I-4-3-1)

【図 I-4-3-1 性別 人権侵害を受けた内容】



年代別でみると、各年代の回答者数が少ないため解釈に留意が必要ですが、「上司や先輩などからパワー・ハラスメントまがいの言動を受けた」の割合は18～30歳代までの若い世代で高い傾向がみられます。（図I-4-3-2）

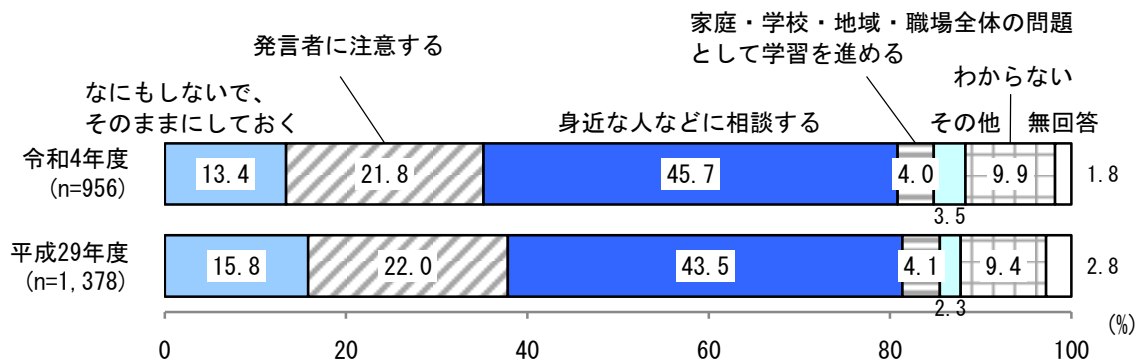
【図I-4-3-2 年代別 人権侵害を受けた内容】



(4) 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応

問7 もし、あなたに対し人権が傷つけられるような発言があったとき、あなたはどのようにされますか。(〇は1つ)

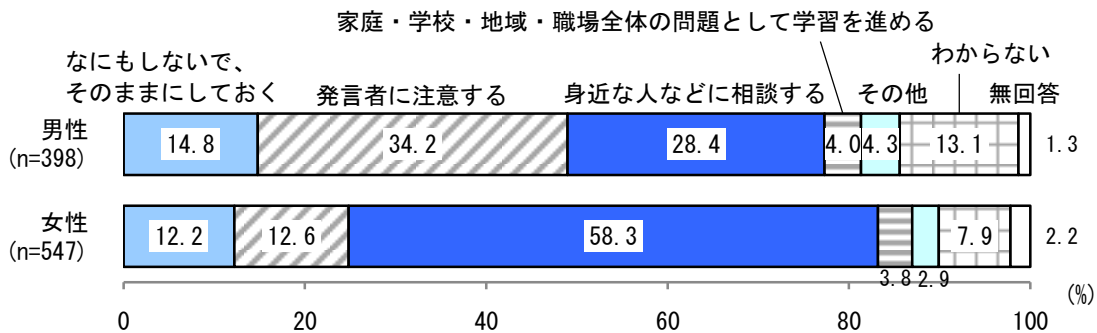
【図Ⅰ-4-4 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応】



人権が傷つけられるような発言をされた時の対応について、「身近な人などに相談する」が45.7%と最も高く、次いで「発言者に注意する」が21.8%、「なにもしないで、そのままにしておく」が13.4%となっています。(図Ⅰ-4-4)

性別でみると、男性は「発言者に注意する」が34.2%と最も高く、女性(12.6%)に比べ21.6ポイント高くなっています。一方、女性は「身近な人などに相談する」が58.3%と最も高く、男性(28.4%)に比べ29.9ポイント高くなっています。(図Ⅰ-4-4-1)

【図Ⅰ-4-4-1 性別 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応】

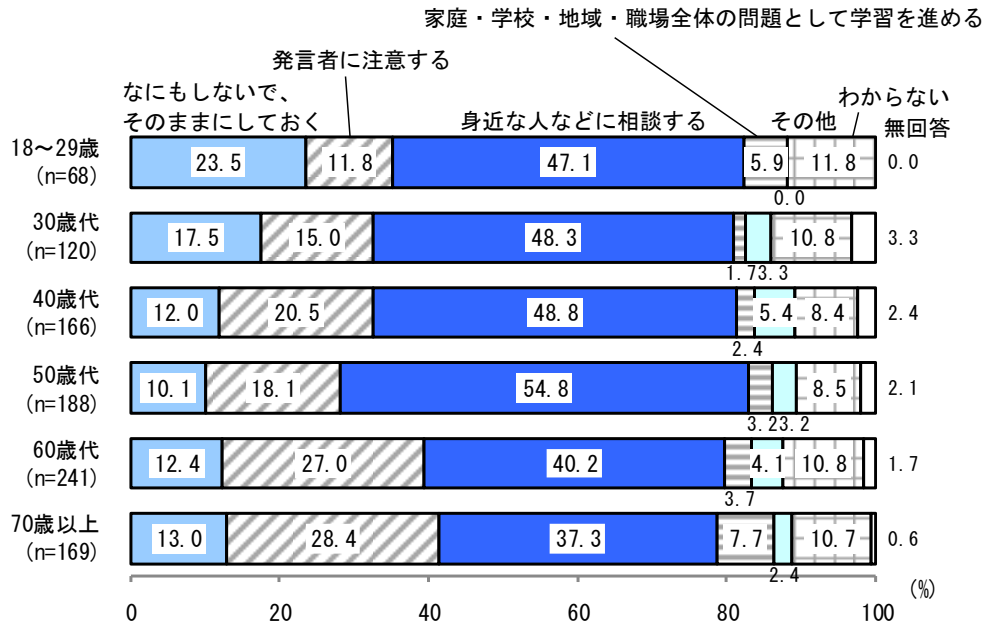


その他：「状況による」、「我慢する」、「SNSでつぶやく」等

年代別で見ると、「身近な人などに相談する」が、年代にかかわらず最も高くなっています。

「なにもしないで、そのままにしておく」は、18～29歳と30歳代が2割前後で他の年代に比べ高くなっています。一方、「発言者に注意する」は、60歳代が27.0%、70歳以上が28.4%で他の年代に比べ高くなっています。(図Ⅰ-4-4-2)

【図Ⅰ-4-4-2 年代別 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応】



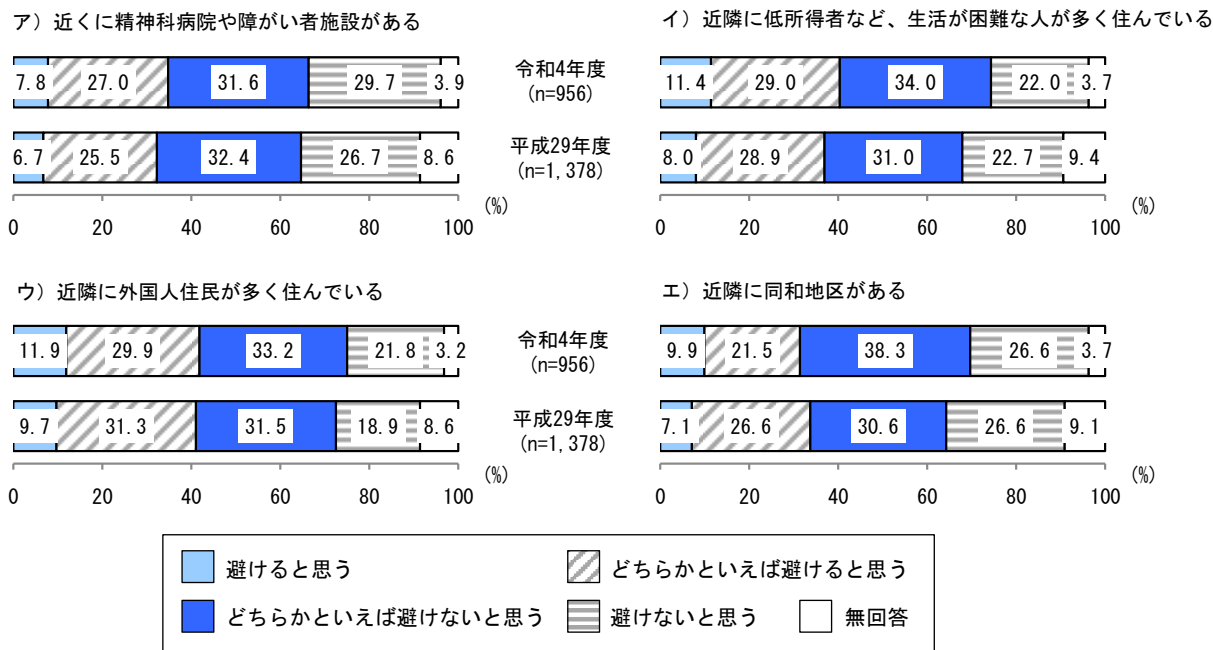
〔5〕さまざまな人権問題についての考え方

(1) 住宅を選ぶ際の忌避意識

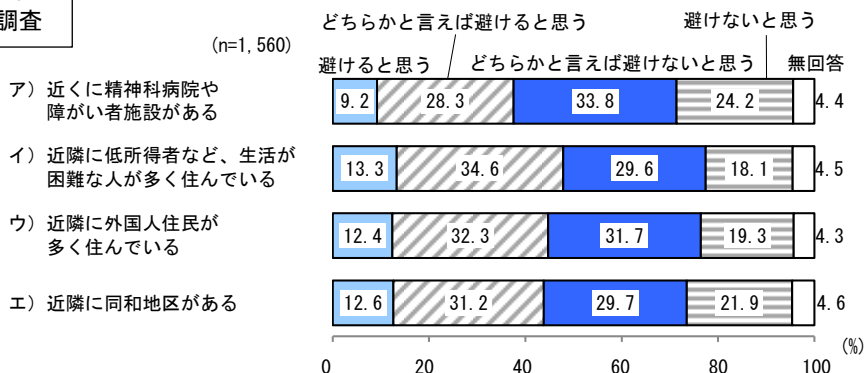
問8 あなたは、家を購入したりマンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けると思いますか。ア～エのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図 I-5-1 住宅を選ぶ際の忌避意識】

愛荘町



参考：滋賀県  
令和3年度調査

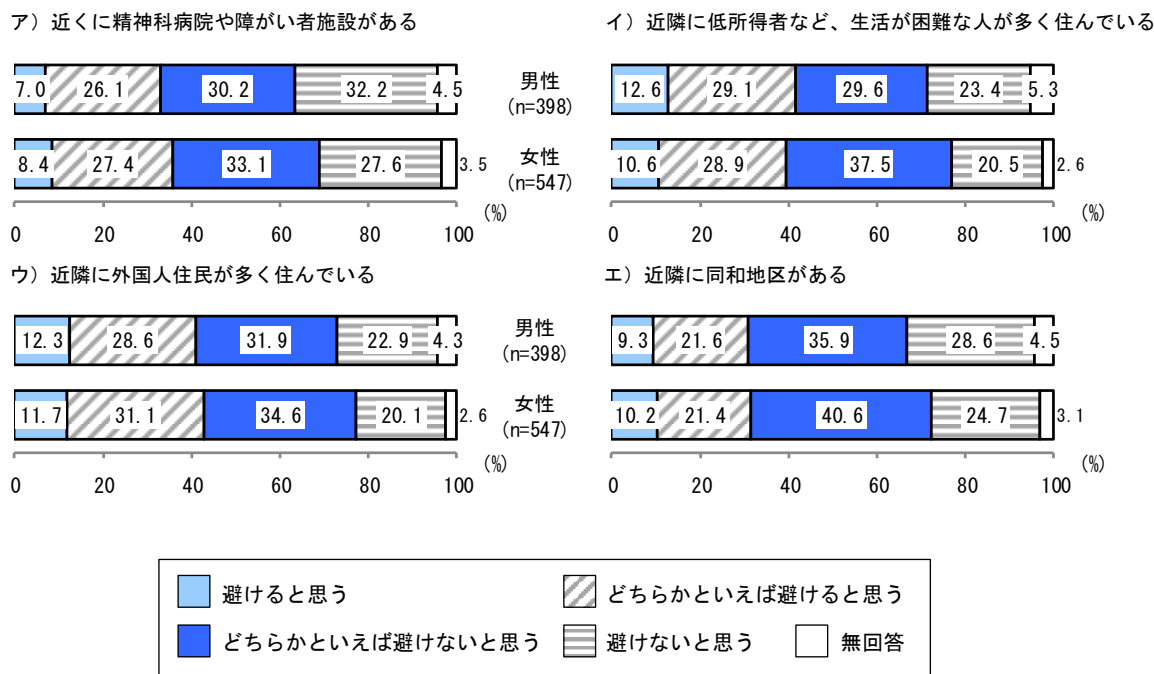


ア) からエ) までのいずれの場合も、「どちらかといえば避けないと思う」が3割台で最も高く、「避けないと思う」を合わせた『避けないと思う』割合が5割を超えています。一方、「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」を合わせた『避けると思う』割合は、「イ) 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」(40.4%)、「ウ) 近隣に外国人住民が多く住んでいる」(41.8%)において他の項目に比べ高くなっています。(図 I-5-1) 前回調査の結果でも、いずれの項目も『避けないと思う』割合が高くなっています

参考に県調査と比較すると、いずれの項目も『避けないと思う』割合は本町のほうが高くなっており、「エ) 近隣に同和地区がある」は13.3ポイント高くなっています。(図 I-5-1)

性別で見ると、いずれの項目も『避けないと思う』割合が、男女とも過半数を占めています。“ア) 近くに精神科病院や障がい者施設がある”について『避けると思う』割合は、女性が35.8%と、男性(33.1%)より2.7ポイント高くなっています。

【図Ⅰ-5-1-1 性別 住宅を選ぶ際に忌避する条件】



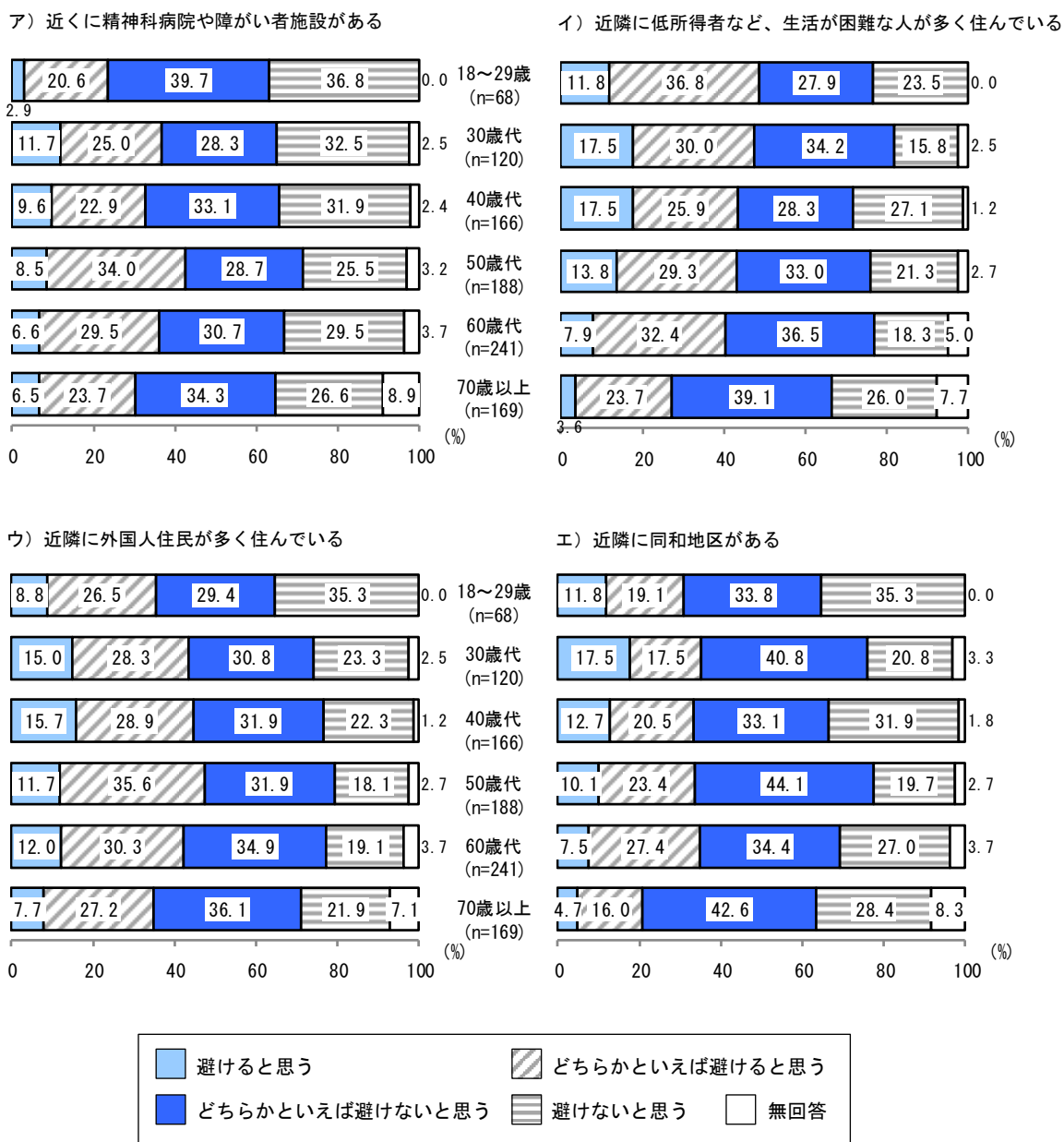
第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、“ア) 近くに精神科病院や障がい者施設がある”、“ウ) 近隣に外国人住民が多く住んでいる”では、各年代で『避けないと思う』割合のほうが高くなっていますが、「どちらかといえば避けると思う」の割合は50歳代がいずれも最も高くなっています。(図 I-5-1-2)

“イ) 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる”では、各年代で『避けないと思う』割合が5割前後を占めていますが、18~29歳で「どちらかといえば避けると思う」の割合が最も高くなっています。(図 I-5-1-2)

“エ) 近隣に同和地区がある”では、各年代で『避けないと思う』割合が6割を超えており、特に70歳以上では71.0%と最も高くなっています。(図 I-5-1-2)

【図 I-5-1-2 年代別 住宅を選ぶ際に忌避する条件】

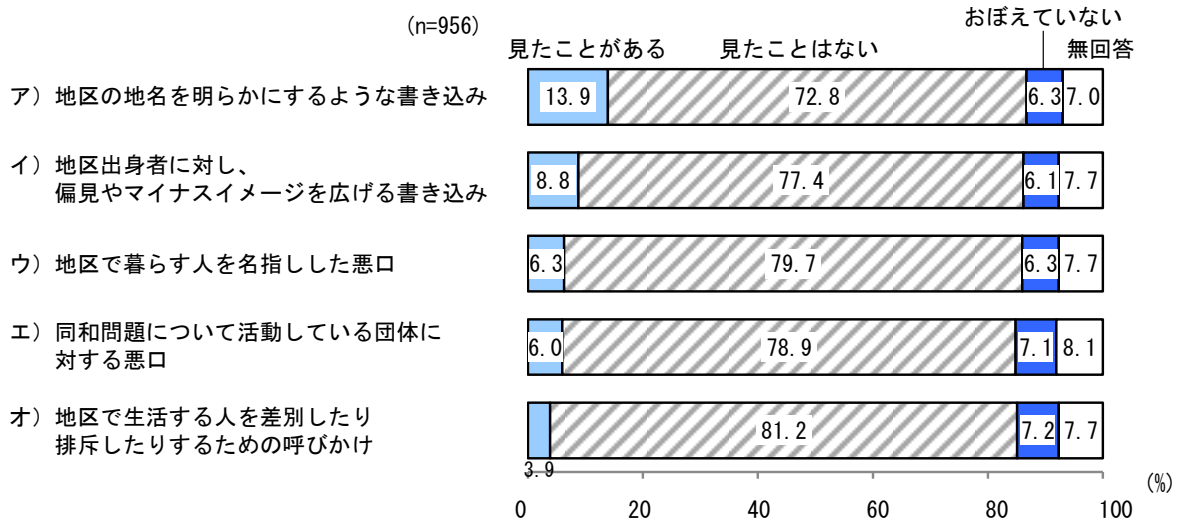




(2) 同和地区に関する書き込みを見たことがあるか

問9 インターネット上で、同和地区に関する次のような書き込みを見たことはありますか。ア～オのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図 I-5-2 同和地区に関する書き込みを見たことがあるか】

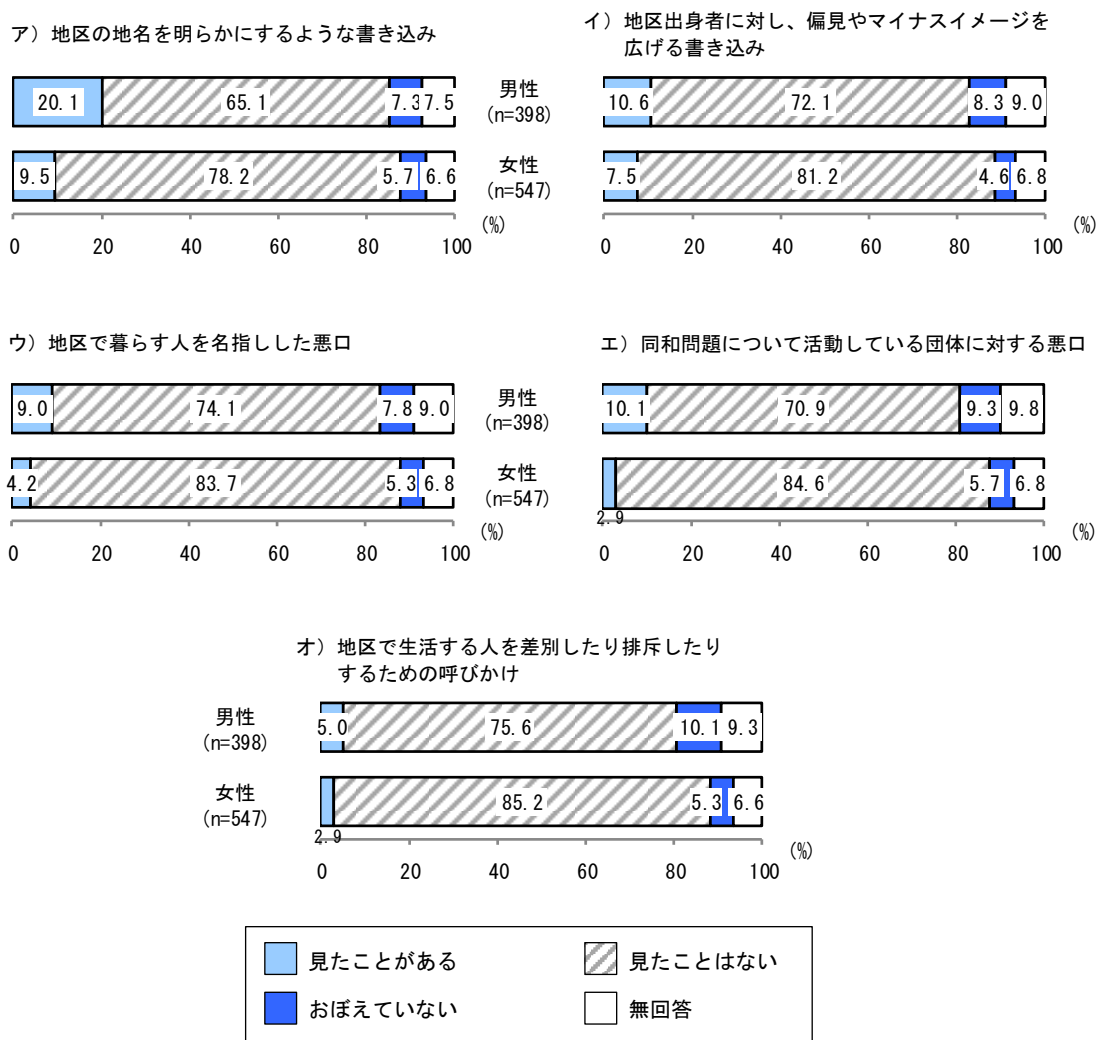


同和地区に関する書き込みについて、いずれも「見たことはない」が7割を超え最も高くなっています。一方、「見たことがある」は、“ア) 地区の地名を明らかにするような書き込み” (13.9%) で、他に比べ高くなっています。(図 I-5-2)

第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

性別で見ると、いずれの書き込みも「見たことはない」の割合が男性より女性のほうが高くなっています。一方で“ア) 地区の地名を明らかにするような書き込み”を「見たことがある」の割合は、男性が20.1%と女性（9.5%）より10.6ポイント高くなっています。（図Ⅰ-5-2-1）

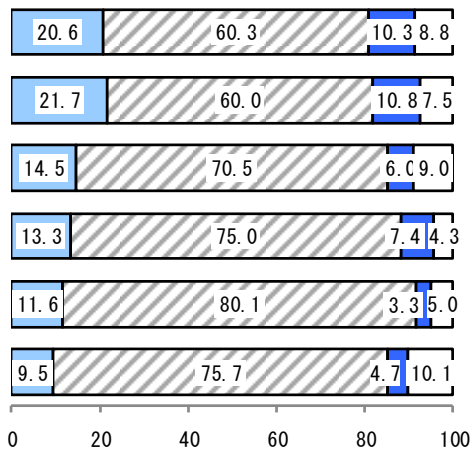
【図Ⅰ-5-2-1 性別 同和地区に関する書き込みを見たことがあるか】



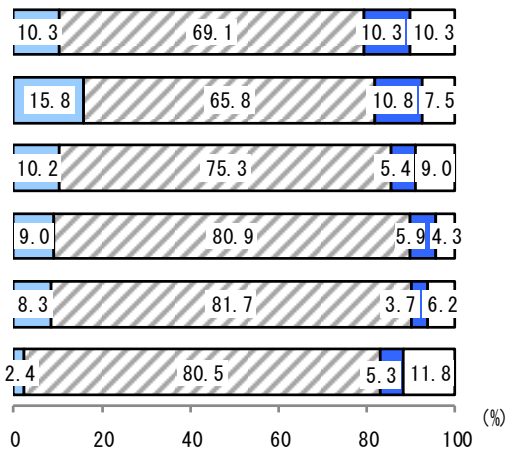
年代別で見ると、“ア) 地区の地名を明らかにする書き込み”は、「見たことがある」が18～29歳（20.6%）、30歳代（21.7%）で高くなっています。また、70歳以上では、いずれの書き込みも「見たことがある」が1割を下回っています。（図Ⅰ-5-2-2）

【図Ⅰ-5-2-2 年代別 同和地区に関する書き込みを見たことがあるか】

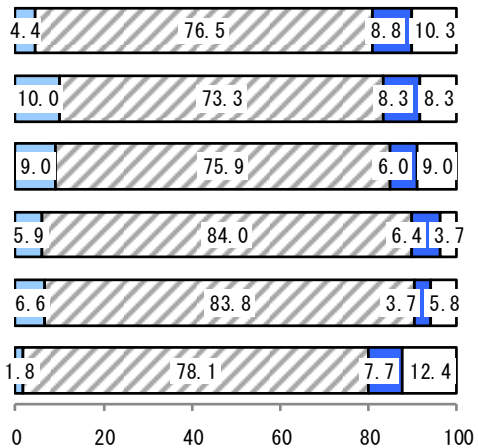
ア) 地区の地名を明らかにするような書き込み



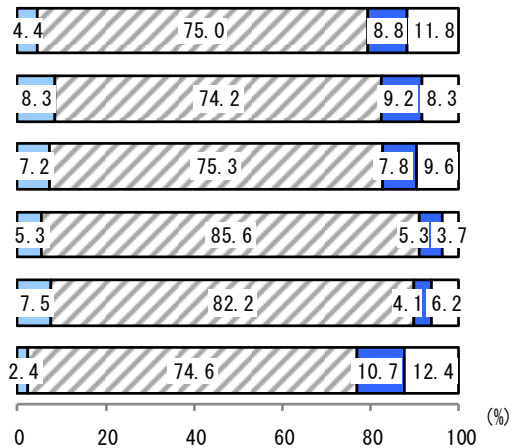
イ) 地区出身者に対し、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み



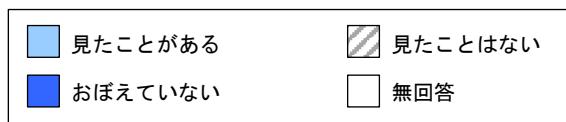
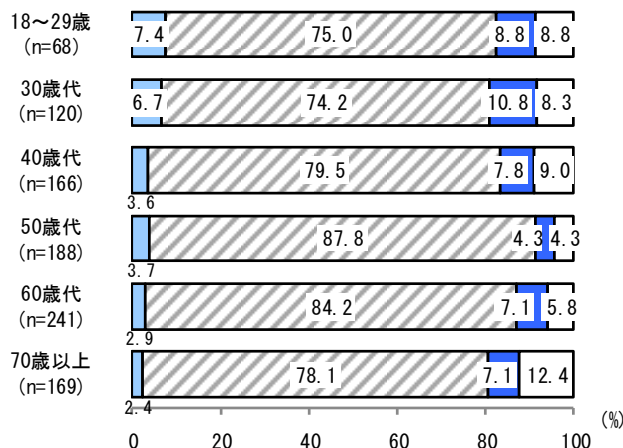
ウ) 地区で暮らす人を名指した悪口



エ) 同和问题について活動している団体に対する悪口



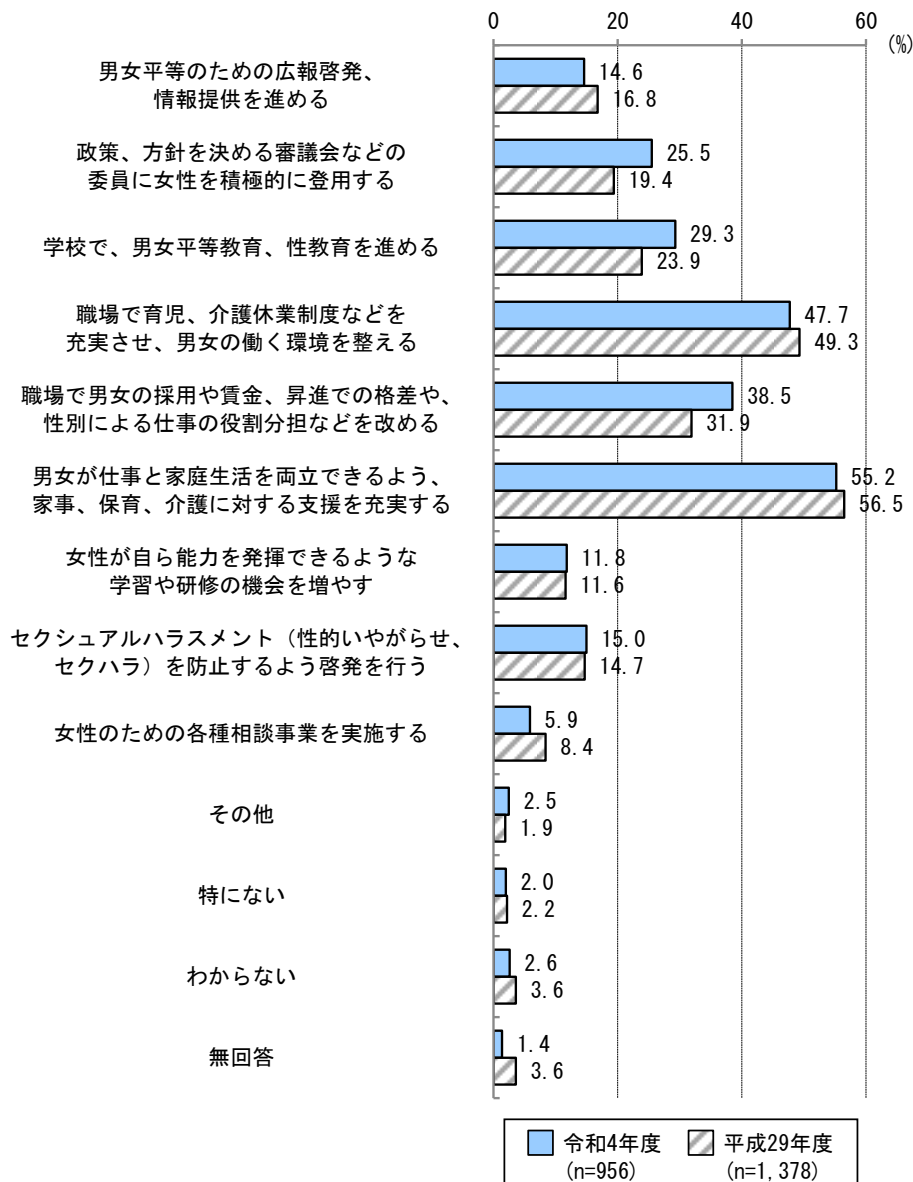
オ) 地区で生活する人を差別したり排斥したりするための呼びかけ



(3) 女性の人権が尊重されるために必要なこと

問10 女性の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図Ⅰ-5-3 女性の人権が尊重されるために必要なこと】



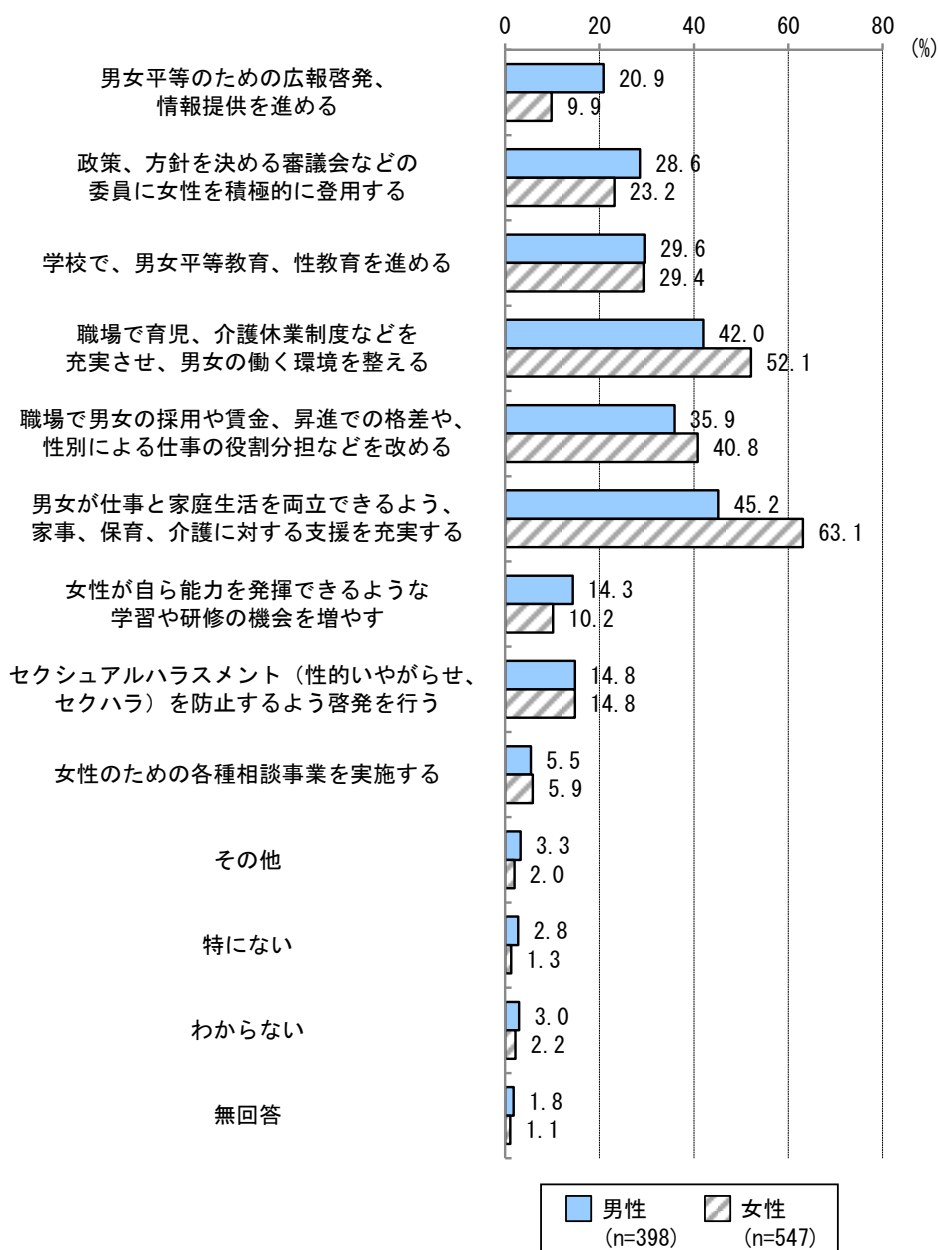
女性の人権が尊重されるために必要なことは、「男女が仕事と家庭生活を両立できるよう、家事、保育、介護に対する支援を充実する」が55.2%と最も高く、次いで「職場で育児、介護休業制度などを充実させ、男女の働く環境を整える」が47.7%、「職場で男女の採用や賃金、昇進での格差や、性別による仕事の役割分担などを改める」が38.5%と続いています。

前回調査と比較すると、「政策、方針を決める審議会などの委員に女性を積極的に登用する」「学校で、男女平等教育、性教育を進める」「職場で男女の採用や賃金、昇進での格差や、性別による仕事の役割分担などを改める」の各割合が今回上昇しています。(図Ⅰ-5-3)

その他：「男女関係ない育児休業等の義務化」、「パワハラ等への指導」等

性別で見ると、「男女が仕事と家庭生活を両立できるよう、家事、保育、介護に対する支援を充実する」は男性が45.2%、女性が63.1%で最も多く、女性のほうが17.9ポイント高くなっています。これに次いで、女性では「職場で育児、介護休業制度などを充実させ、男女の働く環境を整える」が52.1%と、男性（42.0%）に比べて10.1ポイント高くなっています。一方で、男性は「男女平等のための広報啓発、情報提供を進める」が20.9%と女性より11.0ポイント高くなっています。（図Ⅰ-5-3-1）

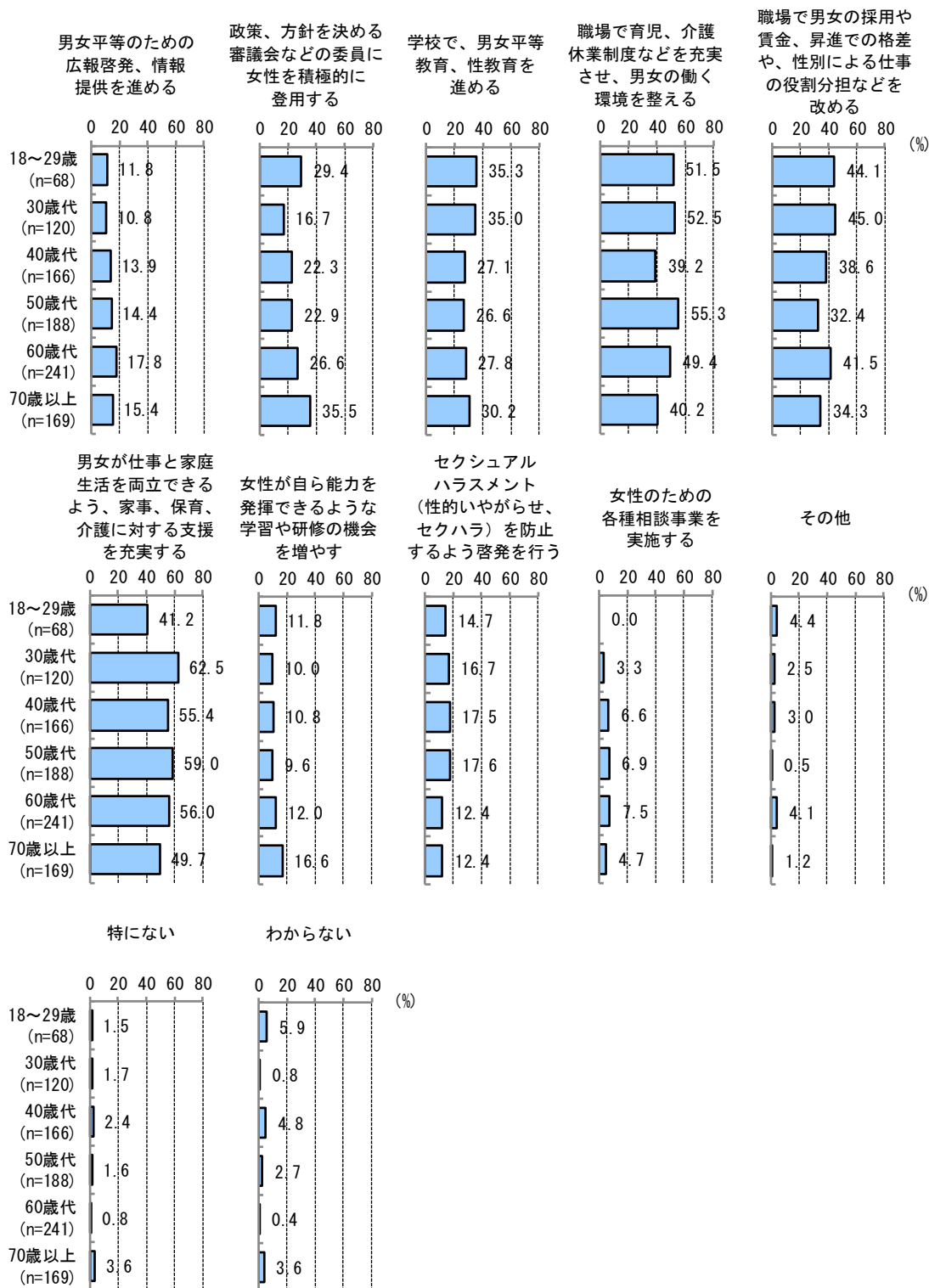
【図Ⅰ-5-3-1 性別 女性の人権が尊重されるために必要なこと】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、「男女が仕事と家庭生活を両立できるよう、家事、保育、介護に対する支援を充実する」が30歳代で62.5%と最も高い一方、18～29歳は41.2%と低くなっています。  
(図Ⅰ-5-3-2)

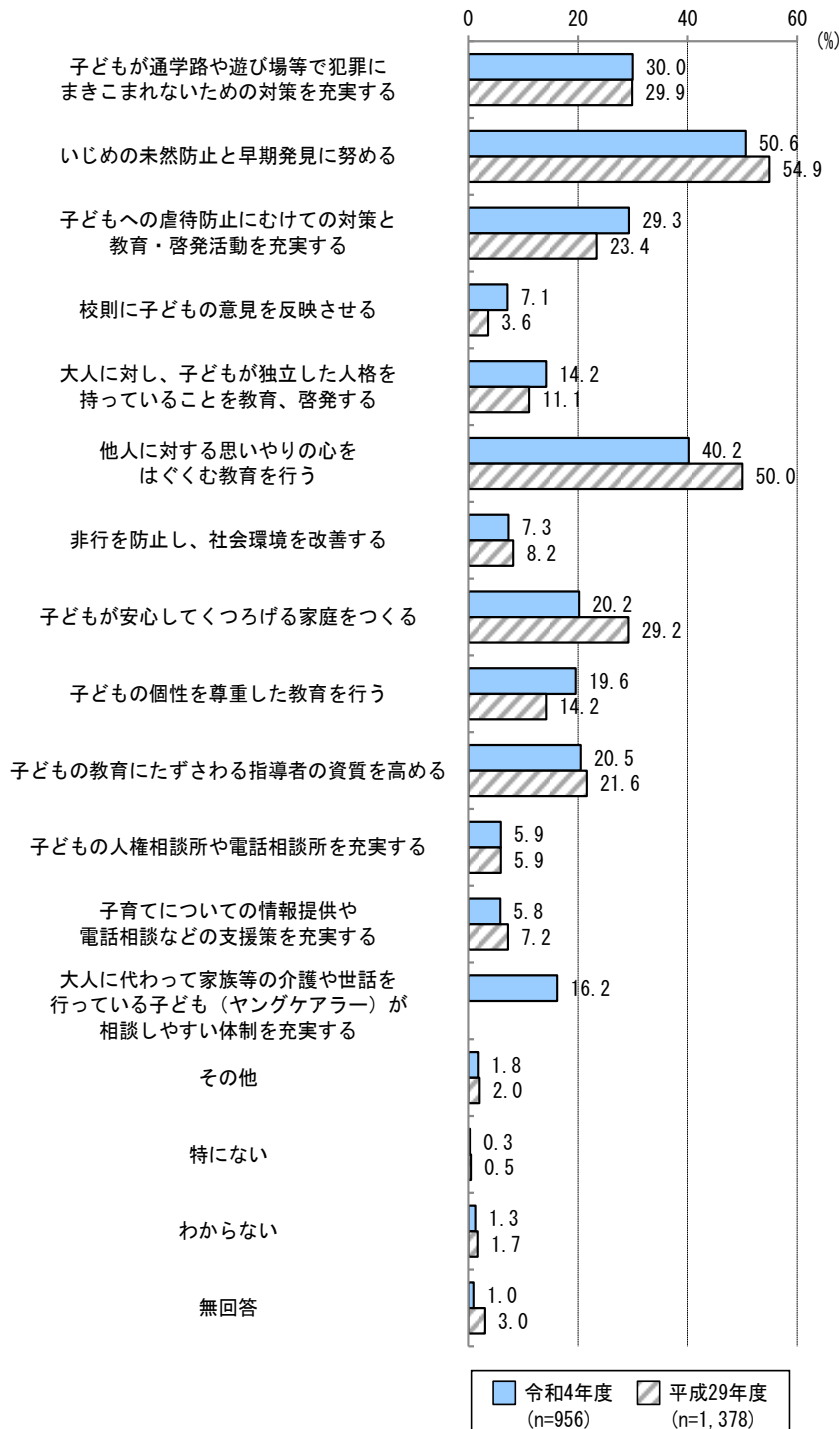
【図Ⅰ-5-3-2 年代別 女性の人権が尊重されるために必要なこと】



(4) 子どもの人権が尊重されるために必要なこと

問11 子どもの人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図Ⅰ-5-4 子どもの人権が尊重されるために必要なこと】



※「大人に代わって家族等の介護や世話をしている子ども(ヤングケアラー)が相談しやすい体制を充実する」は、今回調査の新規項目である。

その他：「親の教育力の向上」、「専門職との連携の強化」等

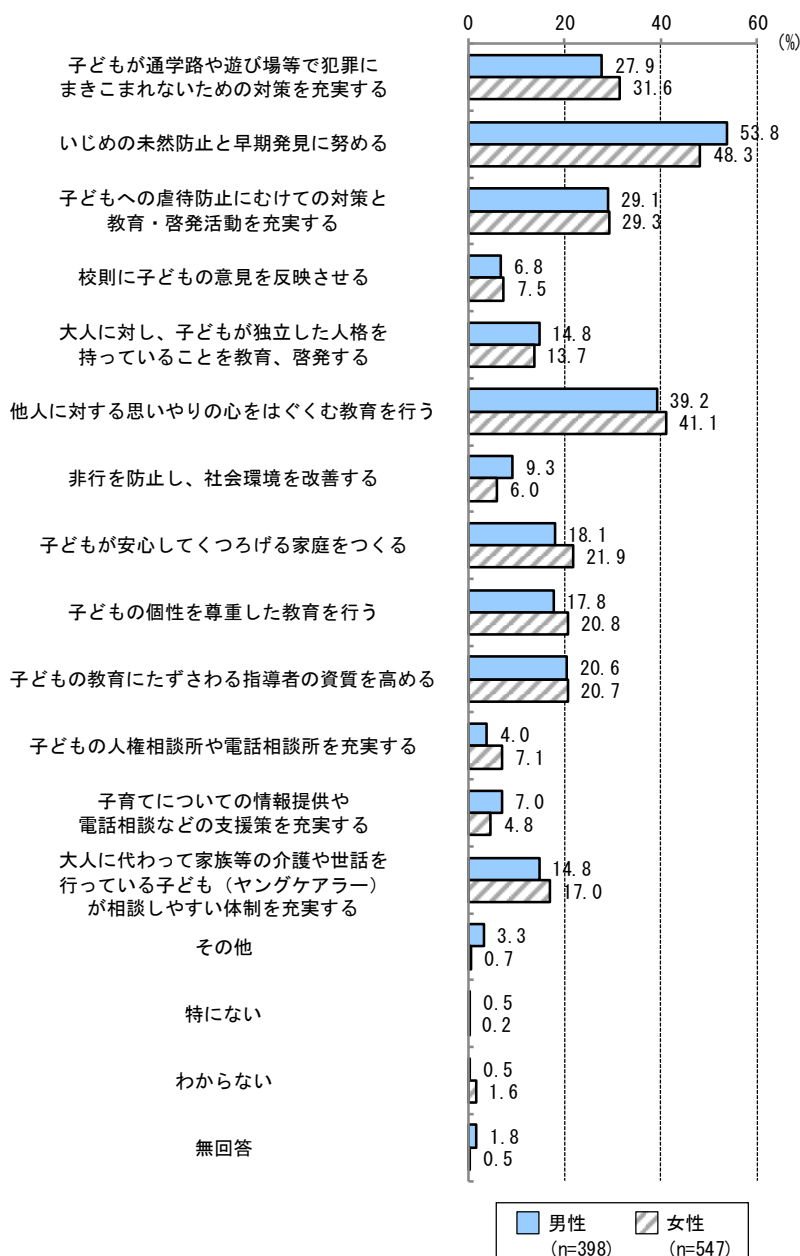
第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

子どもの人権が尊重されるために必要なことは、「いじめの未然防止と早期発見に努める」が50.6%と最も多く、次いで「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」が40.2%、「子どもが通学路や遊び場等で犯罪にまきこまれないための対策を充実する」が30.0%と続いています。また、今回調査の新規項目である「大人に代わって家族等の介護や世話をしている子ども（ヤングケアラー）が相談しやすい体制を充実する」は16.2%となっています。

前回調査と比較すると、「子どもへの虐待防止にむけての対策と教育・啓発活動を充実する」が5.9ポイント、「子どもの個性を尊重した教育を行う」が5.4ポイント高くなっており、「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」は9.8ポイント低下しています。（図Ⅰ-5-4）

性別で見ると、男女とも「いじめの未然防止と早期発見に努める」が最も高く、次いで「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」となっています。これに続いて、男性は「子どもへの虐待防止にむけての対策と教育・啓発活動を充実する」が29.1%となっており、女性は「子どもが通学路や遊び場等で犯罪にまきこまれないための対策を充実する」が31.6%で男性より3.7ポイント高くなっています。（図Ⅰ-5-4-1）

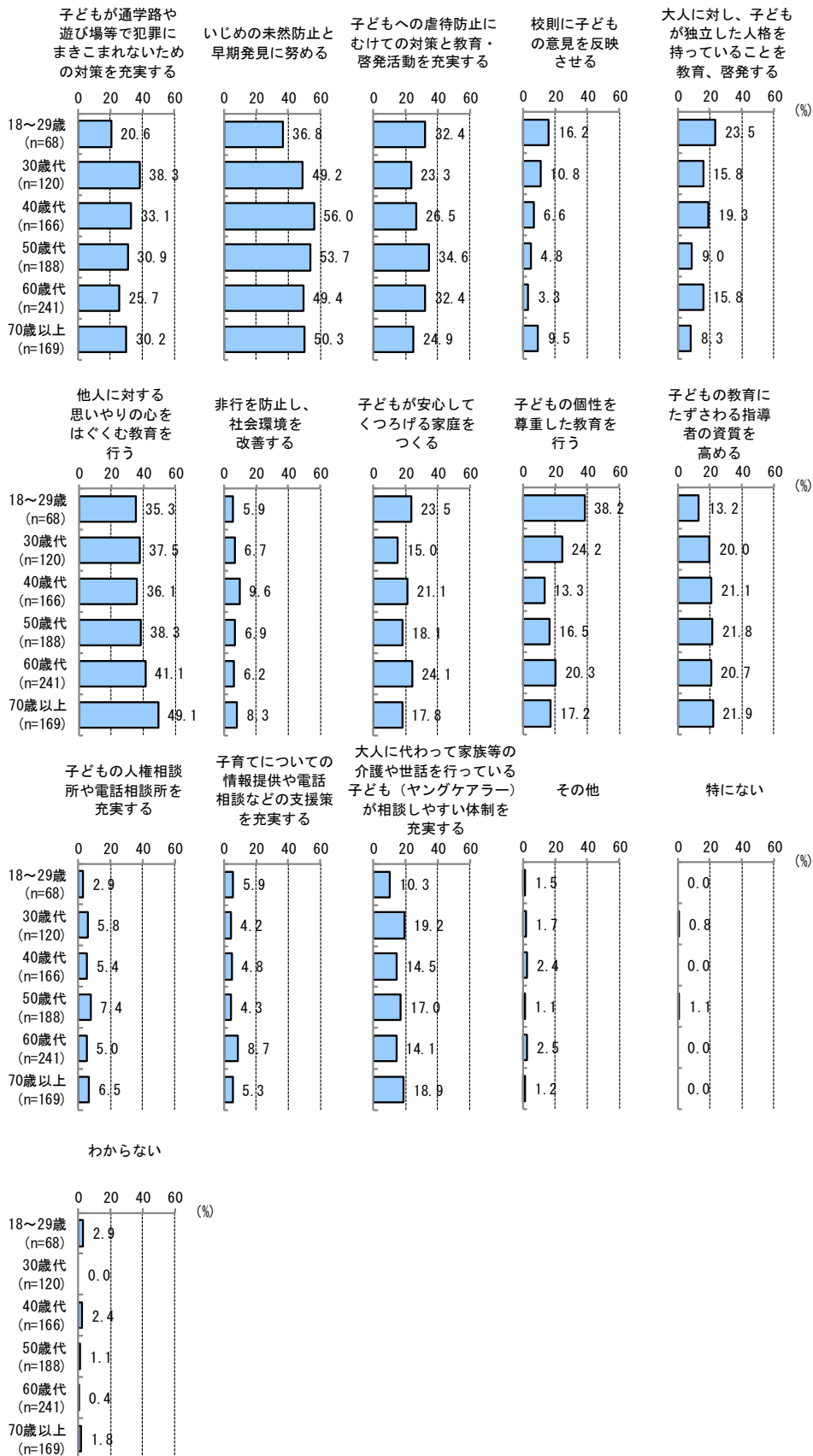
【図Ⅰ-5-4-1 性別 子どもの人権が尊重されるために必要なこと】





年代別でみると、「子どもの個性を尊重した教育を行う」は18～29歳が最も高く、38.2%となっています。また、年代が上がるほど「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」が高くなる傾向がみられ、70歳以上では49.1%で最も高くなっています。(図I-5-4-2)

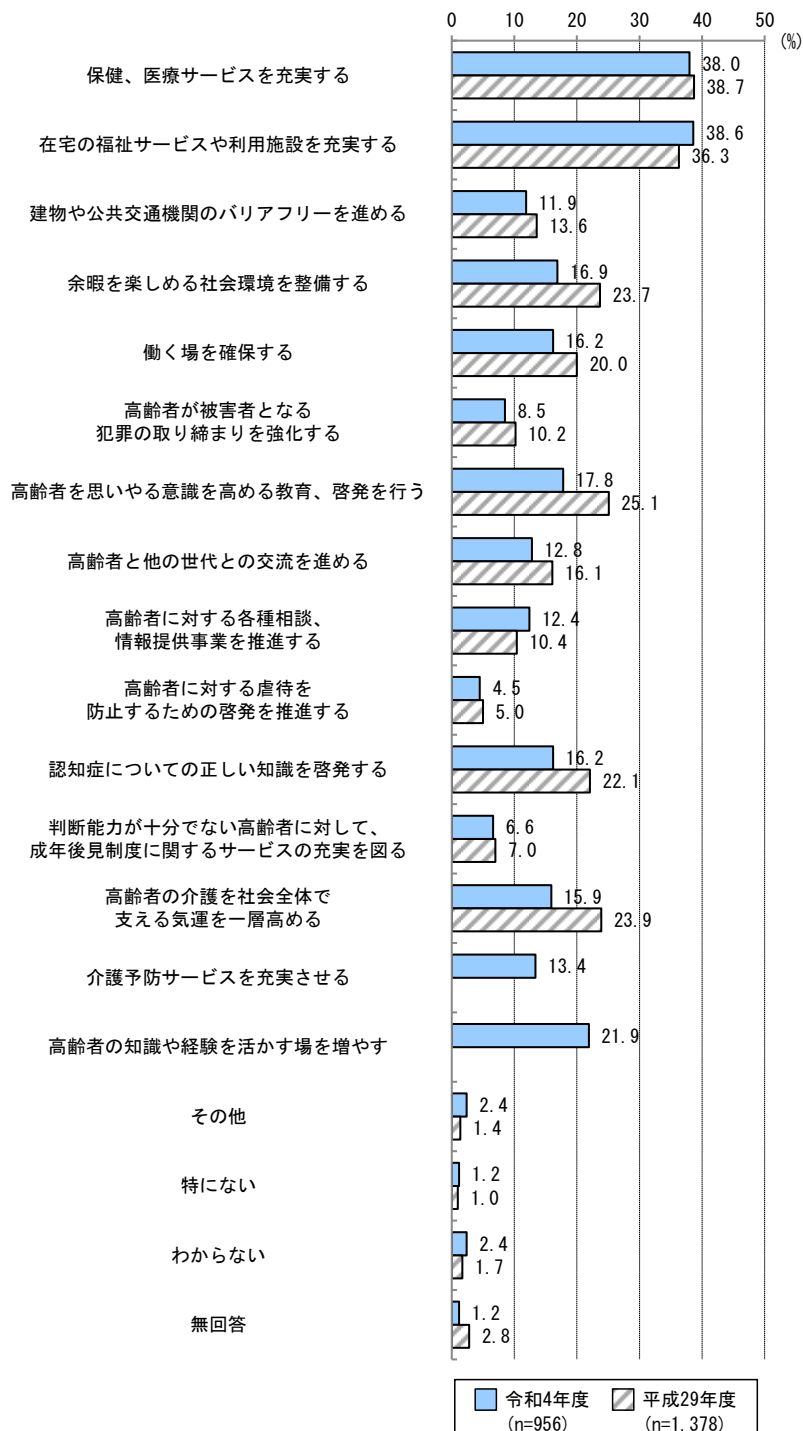
【図I-5-4-2 年代別 子どもの人権が尊重されるために必要なこと】



(5) 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと

問12 高齢者の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図Ⅱ-5-5 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと】



※「介護予防サービスを充実させる」「高齢者の知識や経験を活かす場を増やす」は、今回調査の新規項目である。

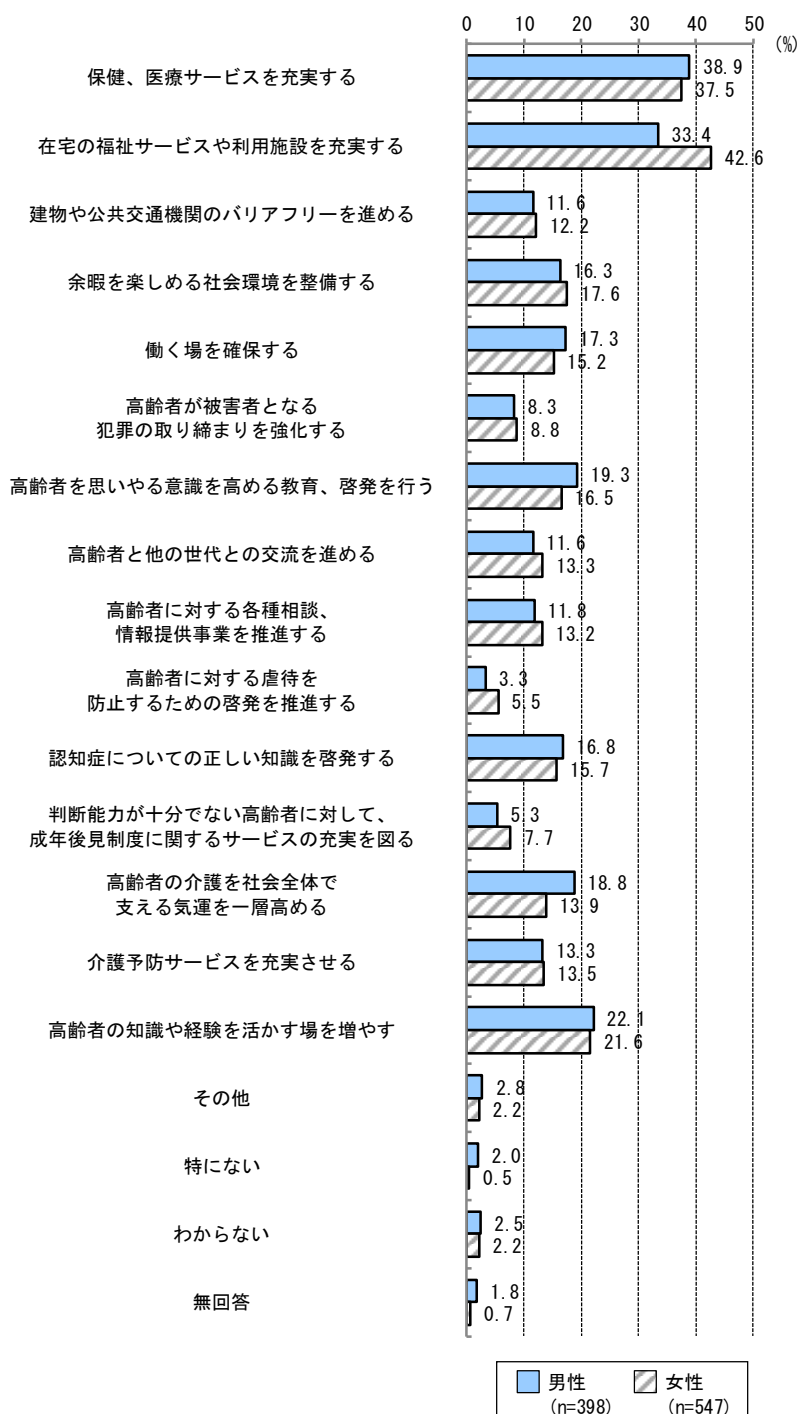
その他：「移動手段の充実と改善」、「経済的負担の軽減」等

高齢者の人権が尊重されるために必要なことは、「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」が38.6%と最も高く、次いで「保健、医療サービスを充実する」が38.0%、「高齢者の知識や経験を活かす場を増やす」が21.9%と続いています。

前回調査と比較すると、「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」「高齢者に対する各種相談、情報提供事業を推進する」以外のすべての項目で低下しています。(図Ⅰ-5-5)

性別でみると、「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」は、女性が42.6%と男性(33.4%)より9.2ポイント高くなっています。一方で「高齢者の介護を社会全体で支える気運を一層高める」は男性のほうが4.9ポイント高くなっています。(図Ⅰ-5-5-1)

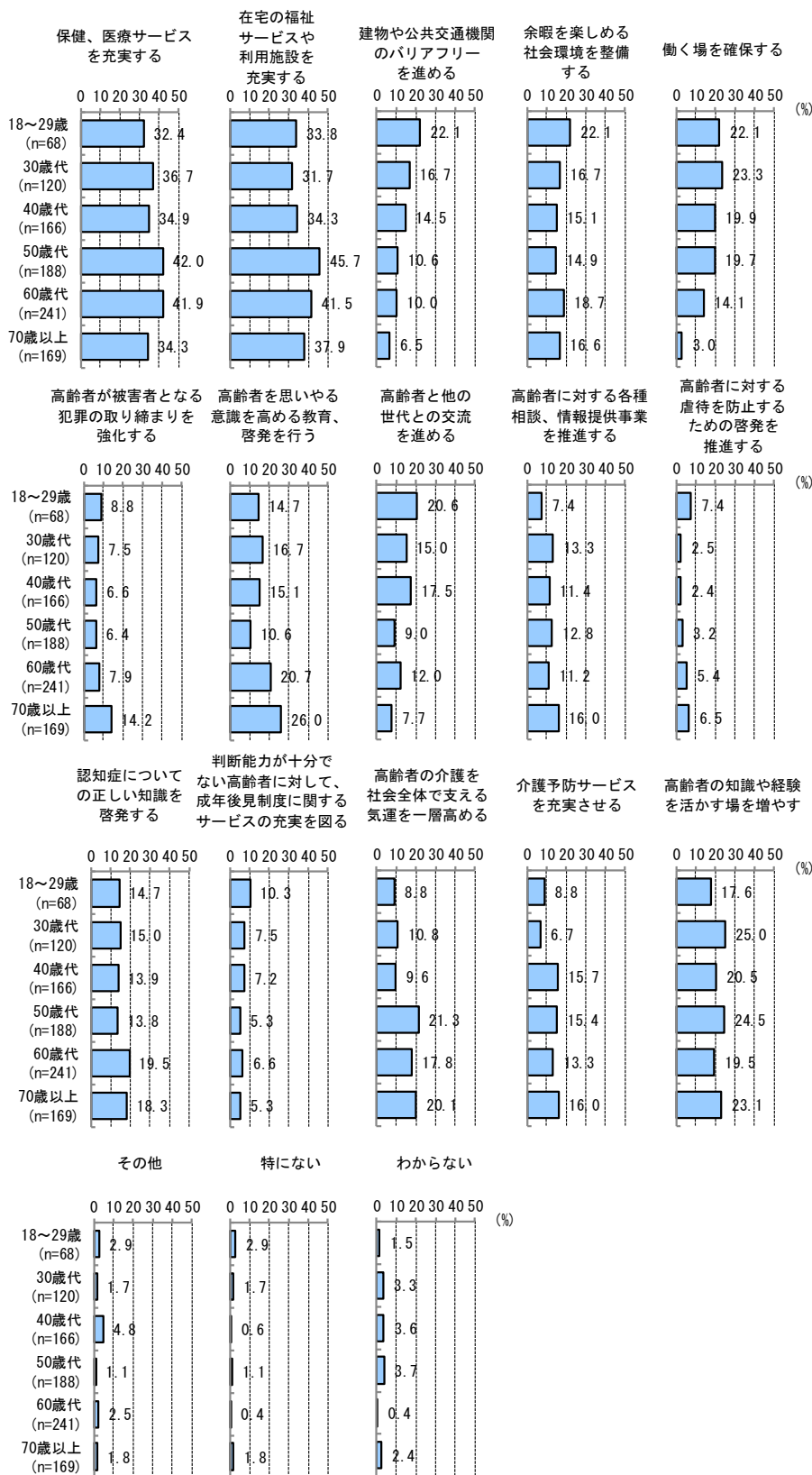
【図Ⅰ-5-5-1 性別 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと】



第II章 調査結果【II-1 町民意識調査】

年代別でみると、「建物や公共交通機関のバリアフリーを進める」や「働く場を確保する」「高齢者との世代との交流を進める」は若い年代で高く、70歳以上になると低下しています。一方、50歳以降では、「高齢者の介護を社会全体で支える気運を一層高める」、60歳以降では、「高齢者を思いやる意識を高める教育、啓発を行う」が上昇しています。(図I-5-5-2)

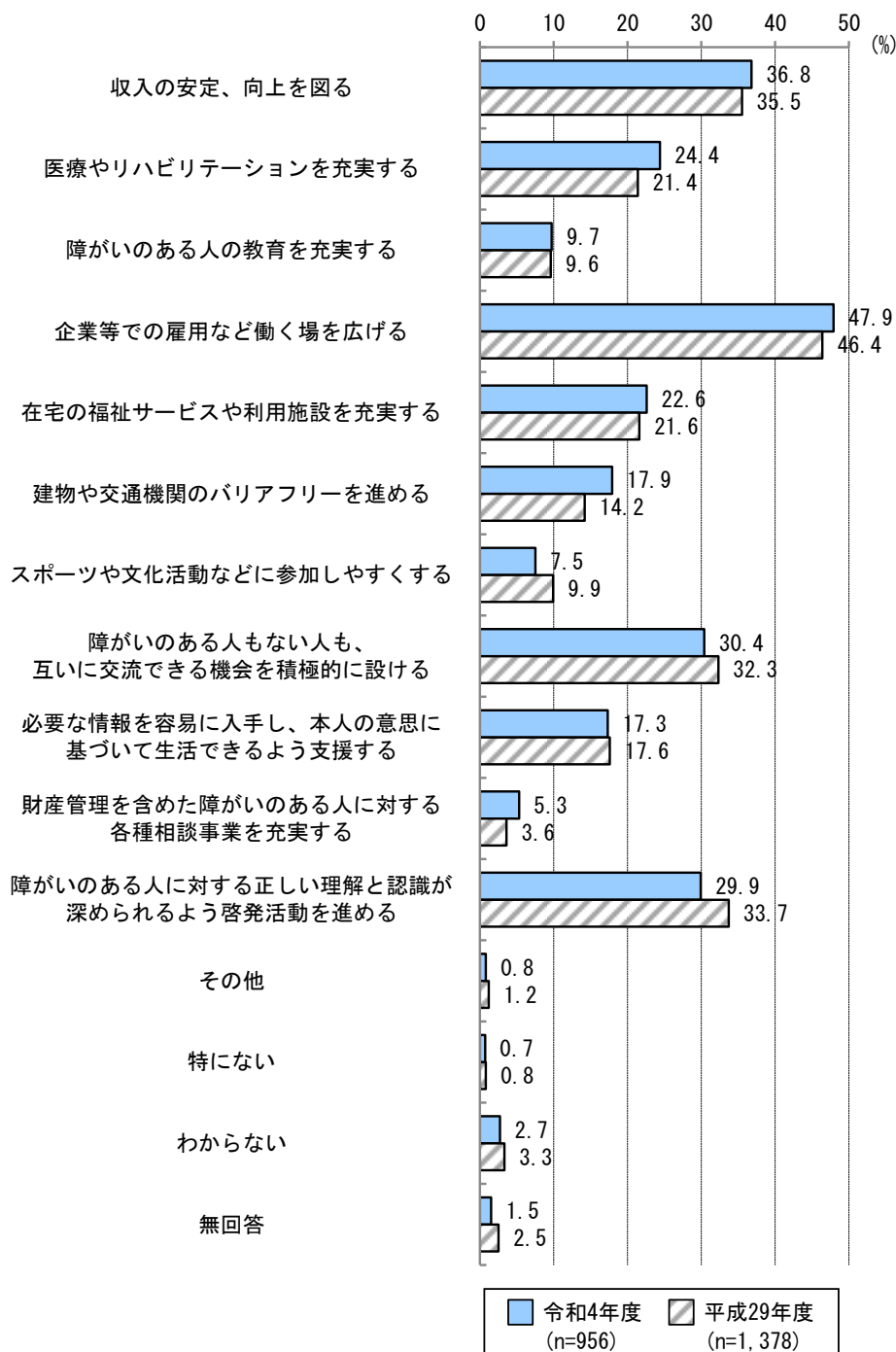
【図I-5-5-2 年代別 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと】



(6) 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと

問13 障がいのある人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図Ⅰ-5-6 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと】



その他：「障がい者と交流できる場の設置」、「家族への精神的支援」等

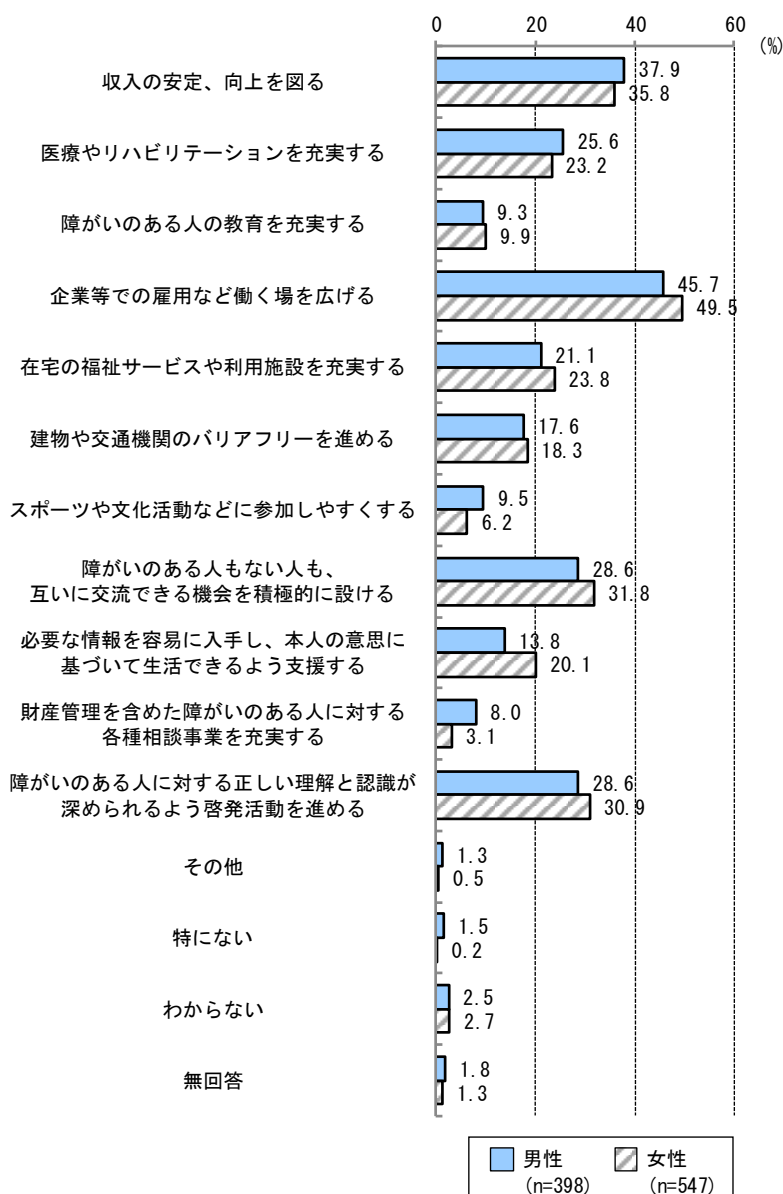
第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

障がいのある人の人権が尊重されるために必要なことは、「企業等での雇用など働く場を広げる」が47.9%と最も高く、次いで「収入の安定、向上を図る」が36.8%、「障がいのある人もない人も、互いに交流できる機会を積極的に設ける」が30.4%と続いています。(図Ⅰ-5-6)

前回調査と比較すると、「建物や交通機関のバリアフリーを進める」が3.7ポイント高くなっている一方で、「障がいのある人に対する正しい理解と認識が深められるよう啓発活動を進める」が3.8ポイント低くなっています。(図Ⅰ-5-6)

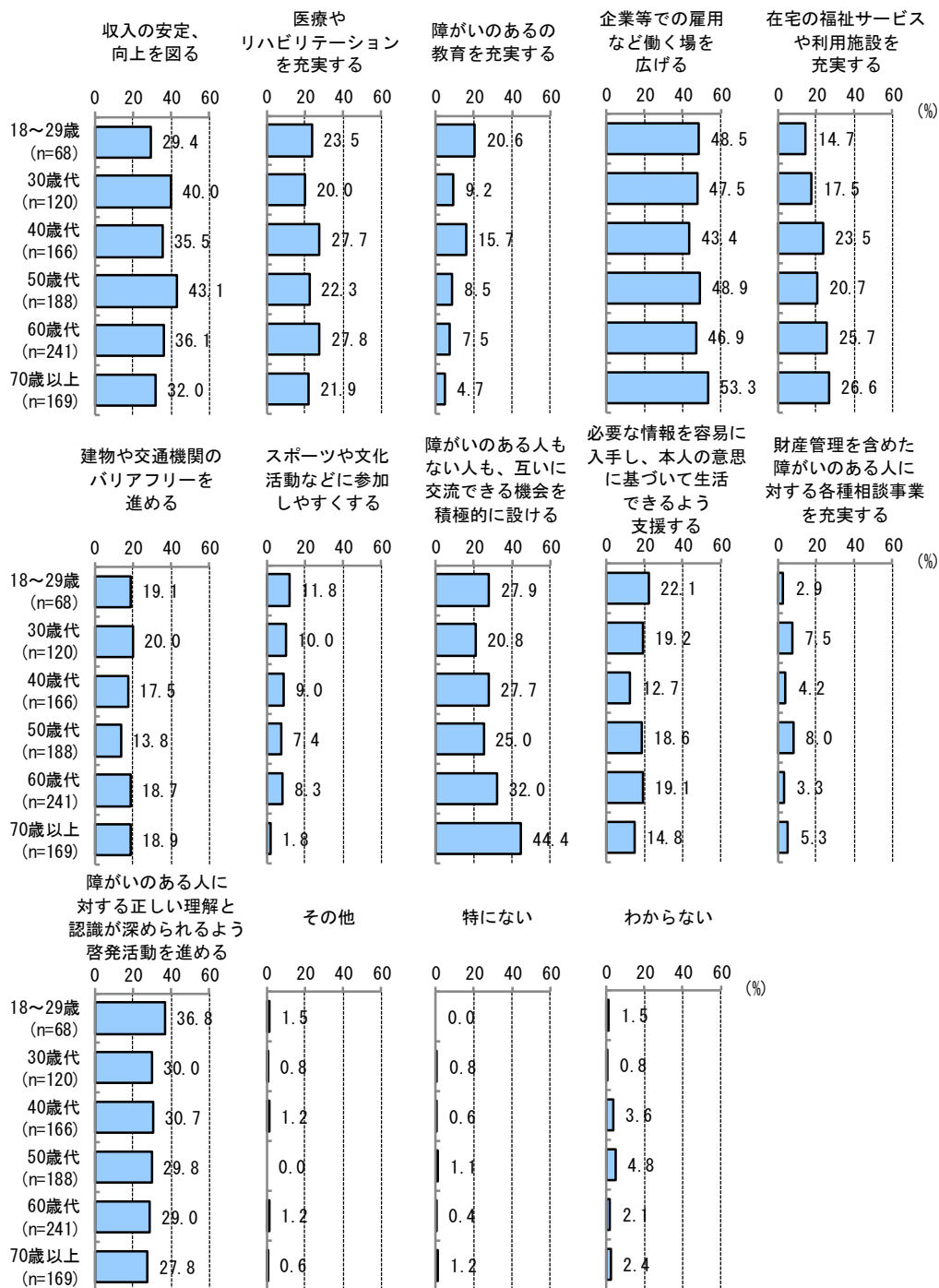
性別で見ると、男性は「財産管理を含めた障がいのある人に対する各種相談事業を充実する」で、4.9ポイント女性に比べ高くなっています。一方、女性は「必要な情報を容易に入手し、本人の意思に基づいて生活できるよう支援する」で、6.3ポイント男性に比べ高くなっています。(図Ⅰ-5-6-1)

【図Ⅰ-5-6-1 性別 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、若い年代ほど「スポーツや文化活動などに参加しやすくする」と「障がいのある人に対する正しい理解と認識が深められるよう啓発活動を充実する」が高くなる傾向にあります。一方、年代が上がるほど「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」と「障がいのある人もない人も、互いに交流できる機会を積極的に設ける」が高くなる傾向にあります。(図 I-5-6-2)

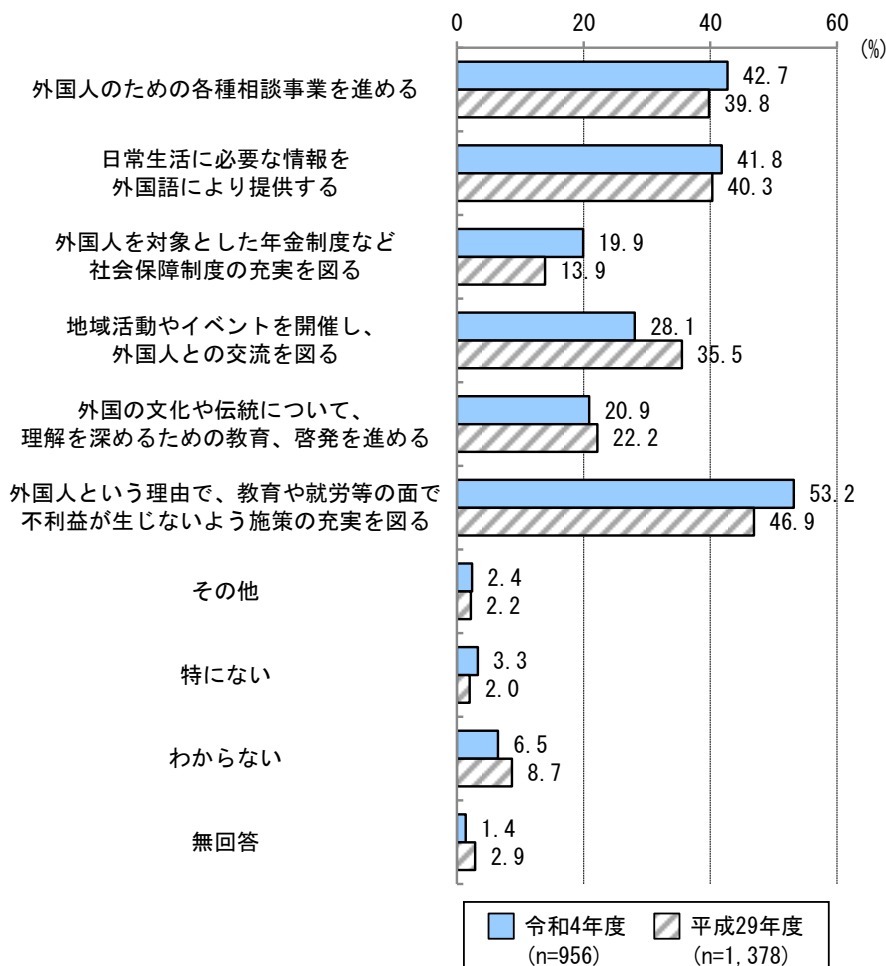
【図 I-5-6-2 年代別 障がいのある人の人権が尊重されるために必要なこと】



(7) 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと

問14 日本に居住している外国人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。  
(○は3つまで)

【図Ⅰ-5-7 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと】



日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なことは、「外国人という理由で、教育や就労等の面で不利益が生じないよう施策の充実を図る」が53.2%と最も高く、次いで「外国人のための各種相談事業を進める」が42.7%、「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が41.8%と続いています。(図Ⅰ-5-7)

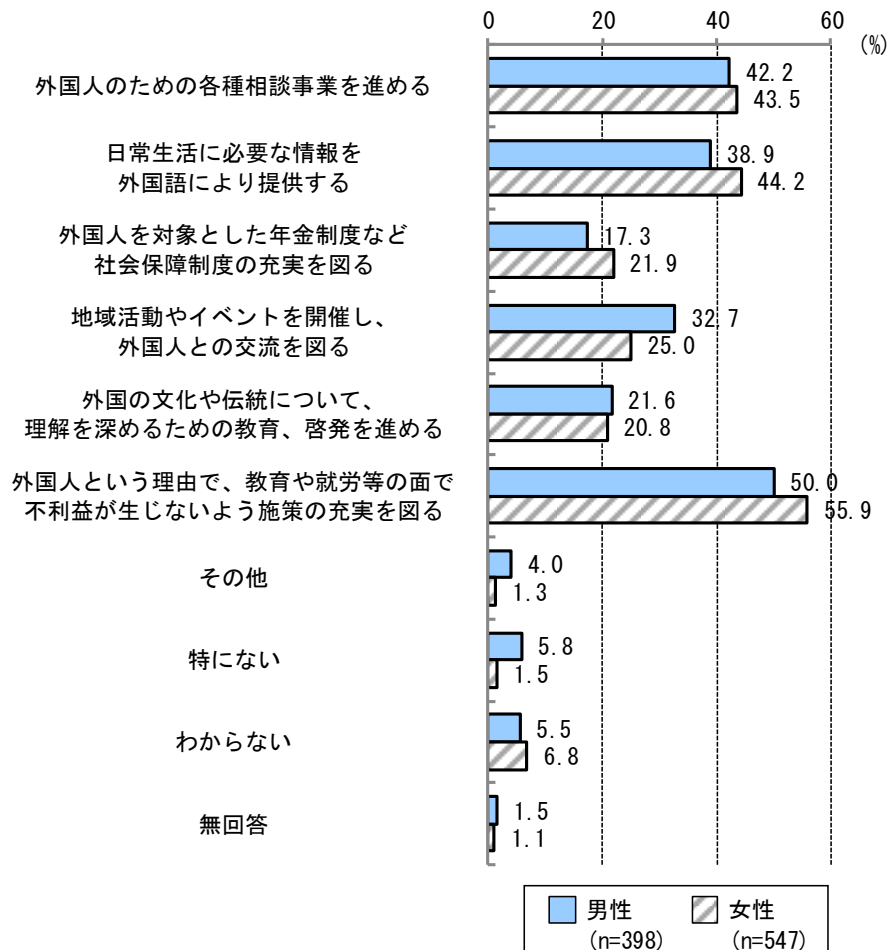
前回調査と比較すると、「地域活動やイベントを開催し、外国人との交流を図る」が7.4ポイント低くなっている一方で、「外国人という理由で教育や就労等の面で不利益が生じないよう施策の充実を図る」が6.3ポイント、「外国人を対象とした年金制度など社会保障制度の充実を図る」が6.0ポイント高くなっています。(図Ⅰ-5-7)

その他：「日本語教育の場の設置」、「子ども・高齢者のケア」等



性別で見ると、男性は「地域活動やイベントを開催し、外国人との交流を図る」で7.7ポイント、女性に比べ高くなっています。一方、女性は「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」で5.3ポイント、「外国人を対象とした年金制度など社会保障制度の充実を図る」で4.6ポイント、「外国人という理由で、教育や就労等の面で不利益が生じないよう施策の充実を図る」が5.9ポイント、それぞれ男性に比べ高くなっています。(図I-5-7-1)

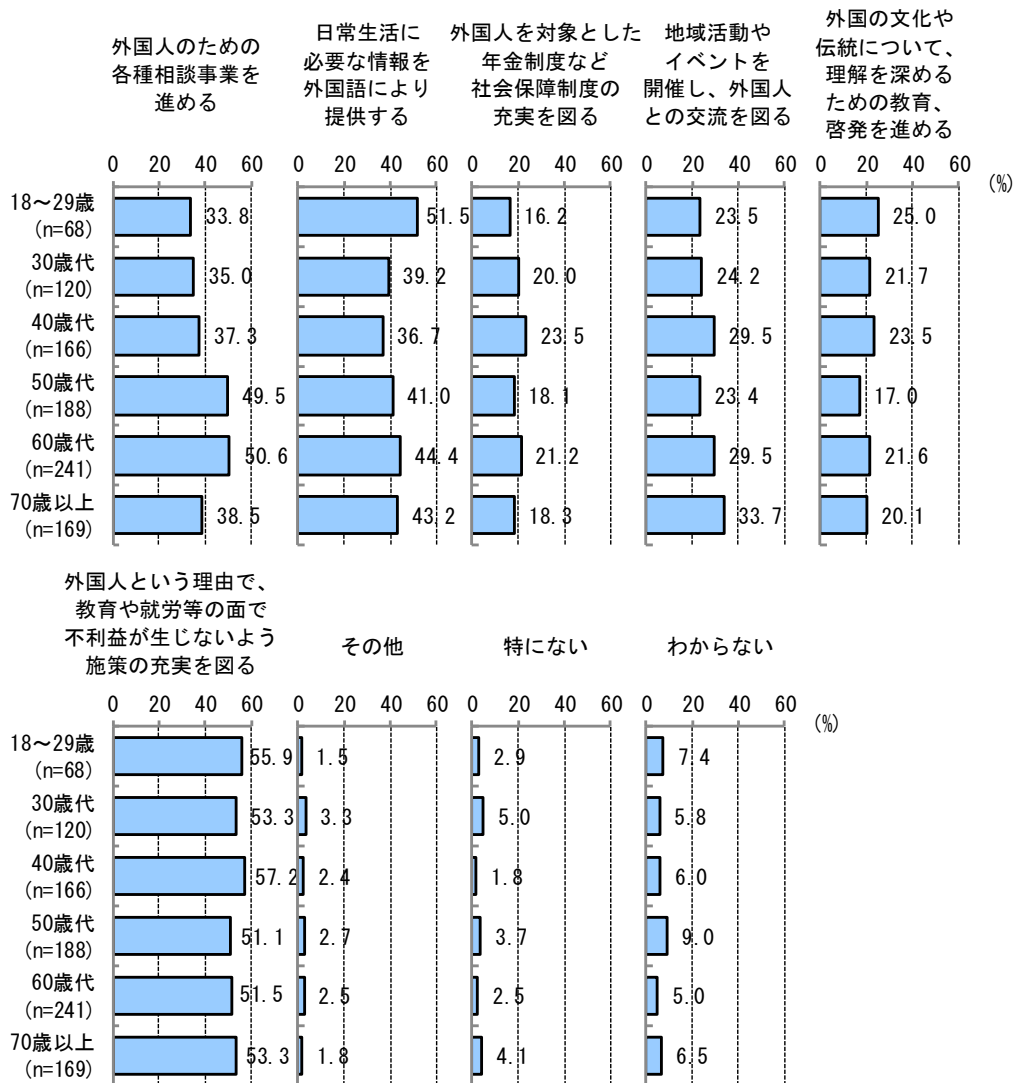
【図I-5-7-1 性別 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別で見ると、「外国人という理由で、教育や就労等の面で不利益が生じないよう施策の充実を図る」は各年代で5割を超えて最も高くなっています。また、18～29歳は他の年代に比べて「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が高くなっています。(図Ⅰ-5-7-2)

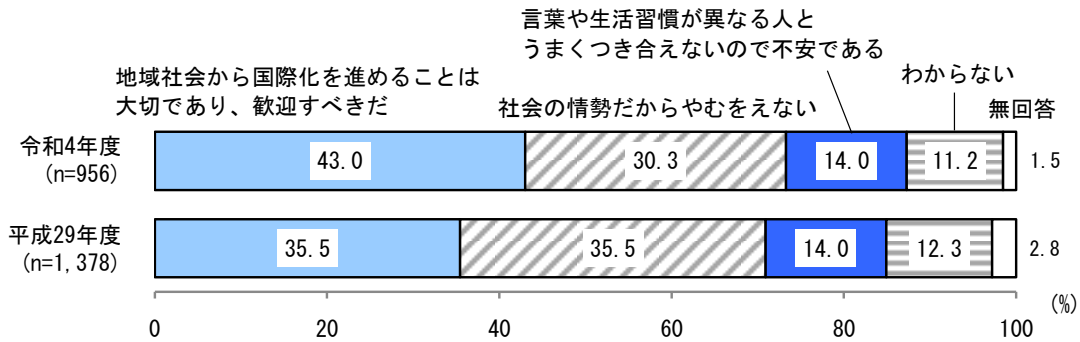
【図Ⅰ-5-7-2 年代別 日本に居住している外国人の人権が尊重されるために必要なこと】



(8) 日本に居住している外国人の増加に対する考え

問15 日本に居住している外国人が増加していることについて、あなたの思いに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

【図Ⅰ-5-8 日本に居住している外国人の増加に対する考え】

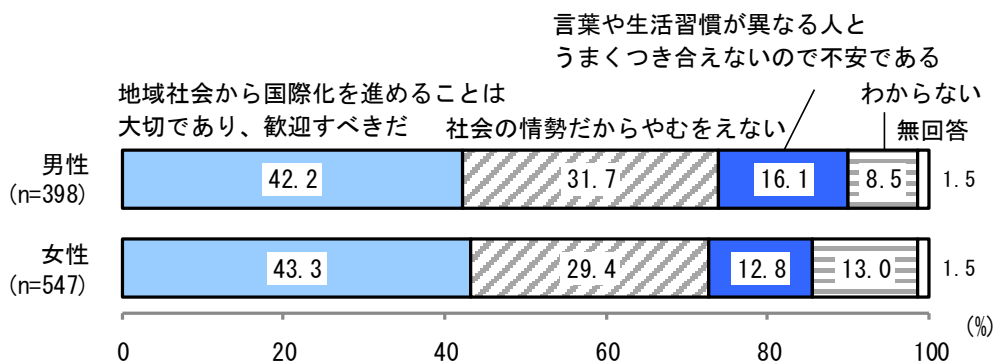


日本に居住している外国人の増加に対する考えについて、「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」が43.0%と最も高く、次いで「社会の情勢だからやむをえない」が30.3%、「言葉や生活習慣が異なる人とうまくつき合えないので不安である」が14.0%、「わからない」が11.2%となっています。

前回調査と比較すると、「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」が7.5ポイント高くなっている一方で、「社会の情勢だからやむをえない」は5.2ポイント低くなっています。(図Ⅰ-5-8)

性別で見ると、男女とも「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」が4割台となっており最も高くなっています。また、「言葉や生活習慣が異なる人とうまくつき合えないので不安である」は男性が16.1%と、女性(12.8%)に比べ3.3ポイント高くなっています。(図Ⅰ-5-8-1)

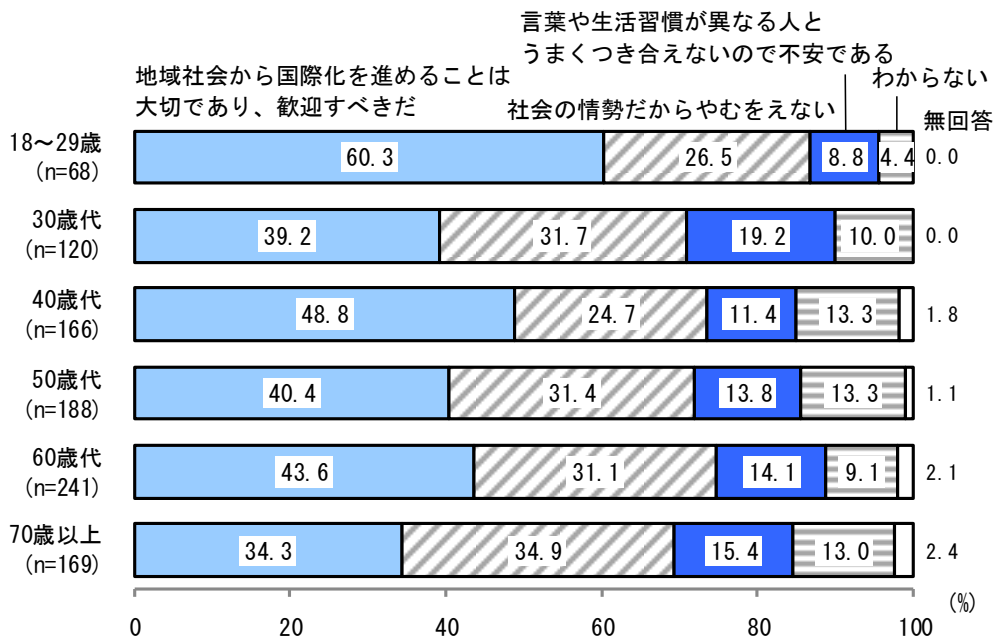
【図Ⅰ-5-8-1 性別 日本に居住している外国人の増加に対する考え】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、「地域社会から国際化を進めることは大切であり、歓迎すべきだ」が18～29歳で60.3%と、他の年代に比べ高くなっています。一方、70歳以上で「社会の情勢だからやむをえない」が最も高くなっています。(図Ⅰ-5-8-2)

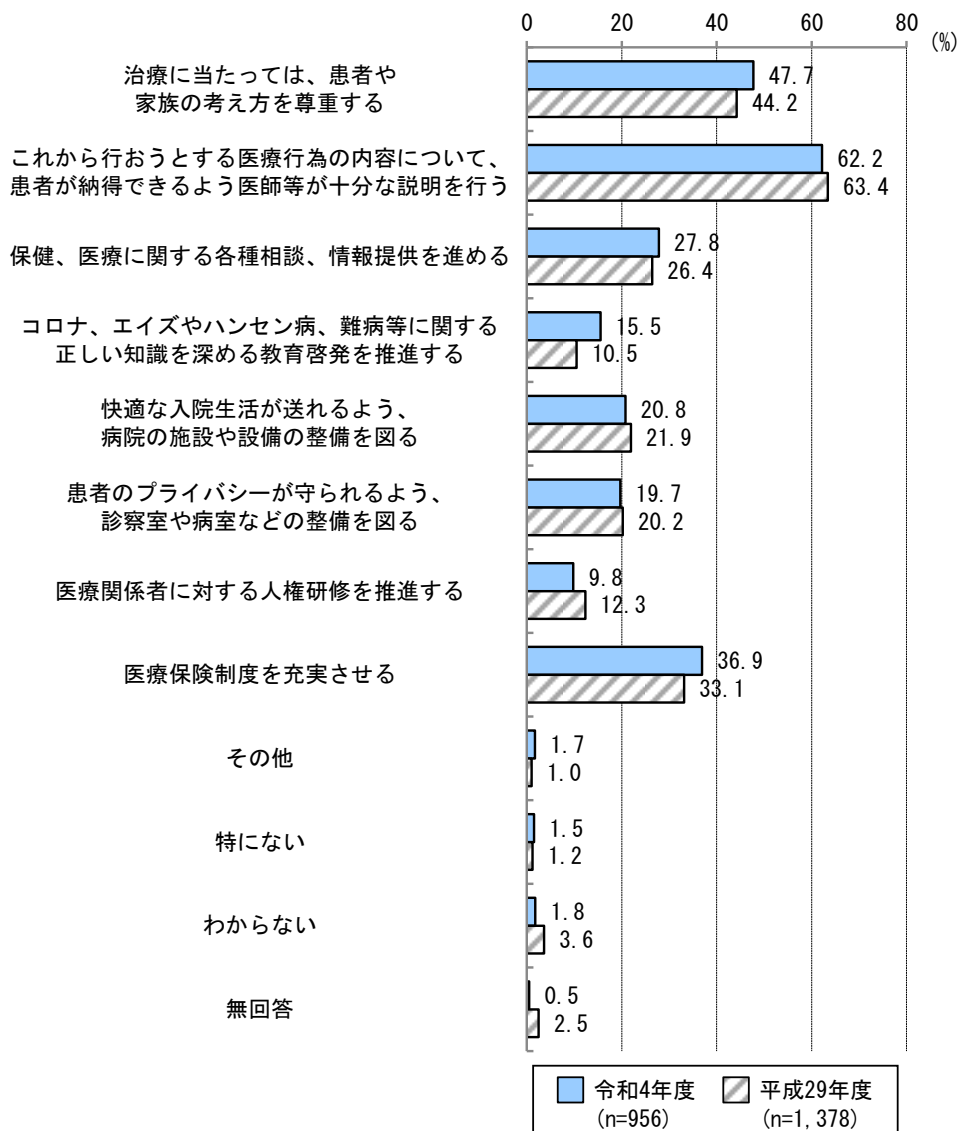
【図Ⅰ-5-8-2 年代別 日本に居住している外国人の増加に対する考え】



(9) 患者の人権が尊重されるために必要なこと

問16 患者の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図 I-5-9 患者の人権が尊重されるために必要なこと】



患者の人権が尊重されるために必要なことは、「これから行おうとする医療行為の内容について、患者が納得できるよう医師等が十分な説明を行う」が62.2%と最も高く、次いで「治療に当たっては、患者や家族の考え方を尊重する」が47.7%、「医療保険制度を充実させる」が36.9%と続いています。

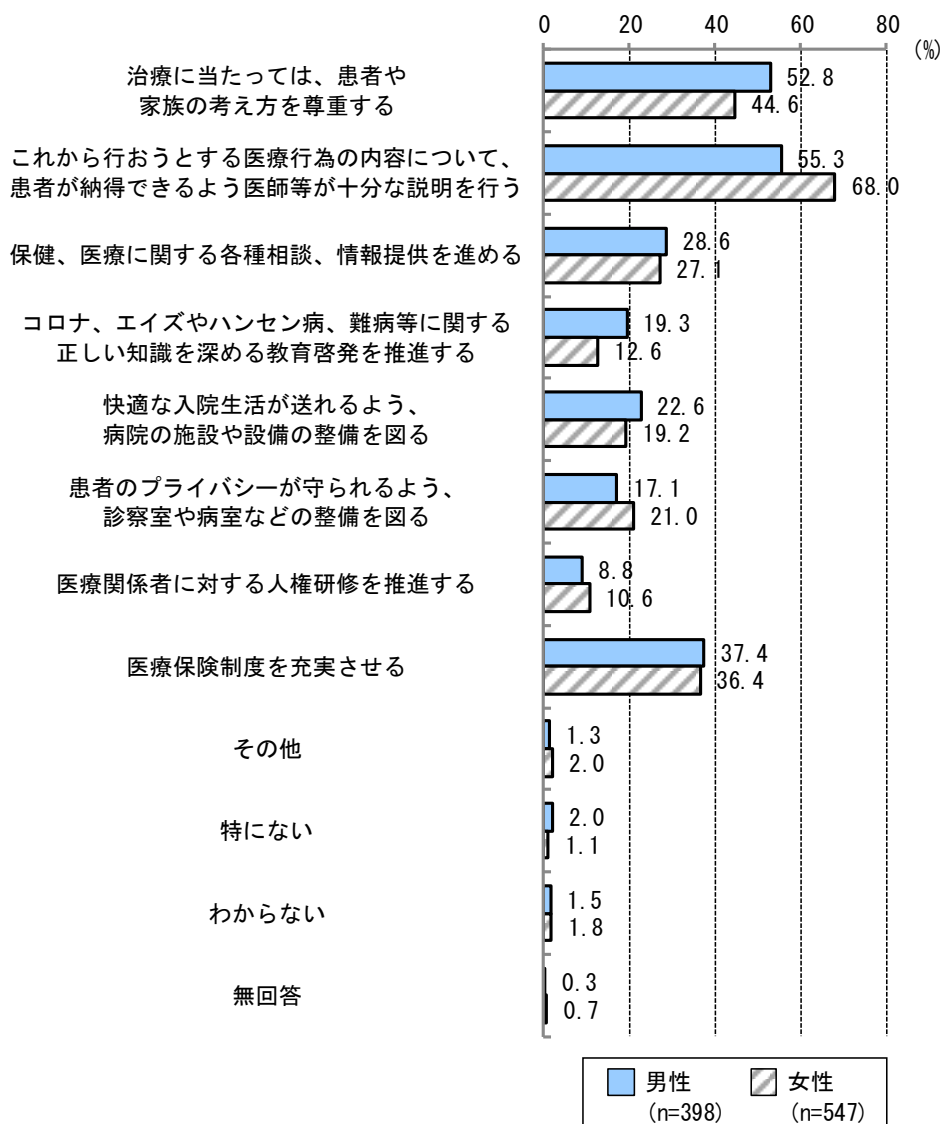
前回調査と比較すると、「治療に当たっては、患者や家族の考え方を尊重する」は3.5ポイント、「医療保険制度を充実させる」は3.8ポイント高くなっています。また、「コロナ、エイズやハンセン病、難病等に関する正しい知識を深める教育啓発を推進する」は5.0ポイント高くなっています。(令和4年度調査のみ選択肢に“コロナ”と追記あり)(図 I-5-9)

その他：「医療関係者が患者に向き合う」、「医療従事者の待遇改善」等

第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

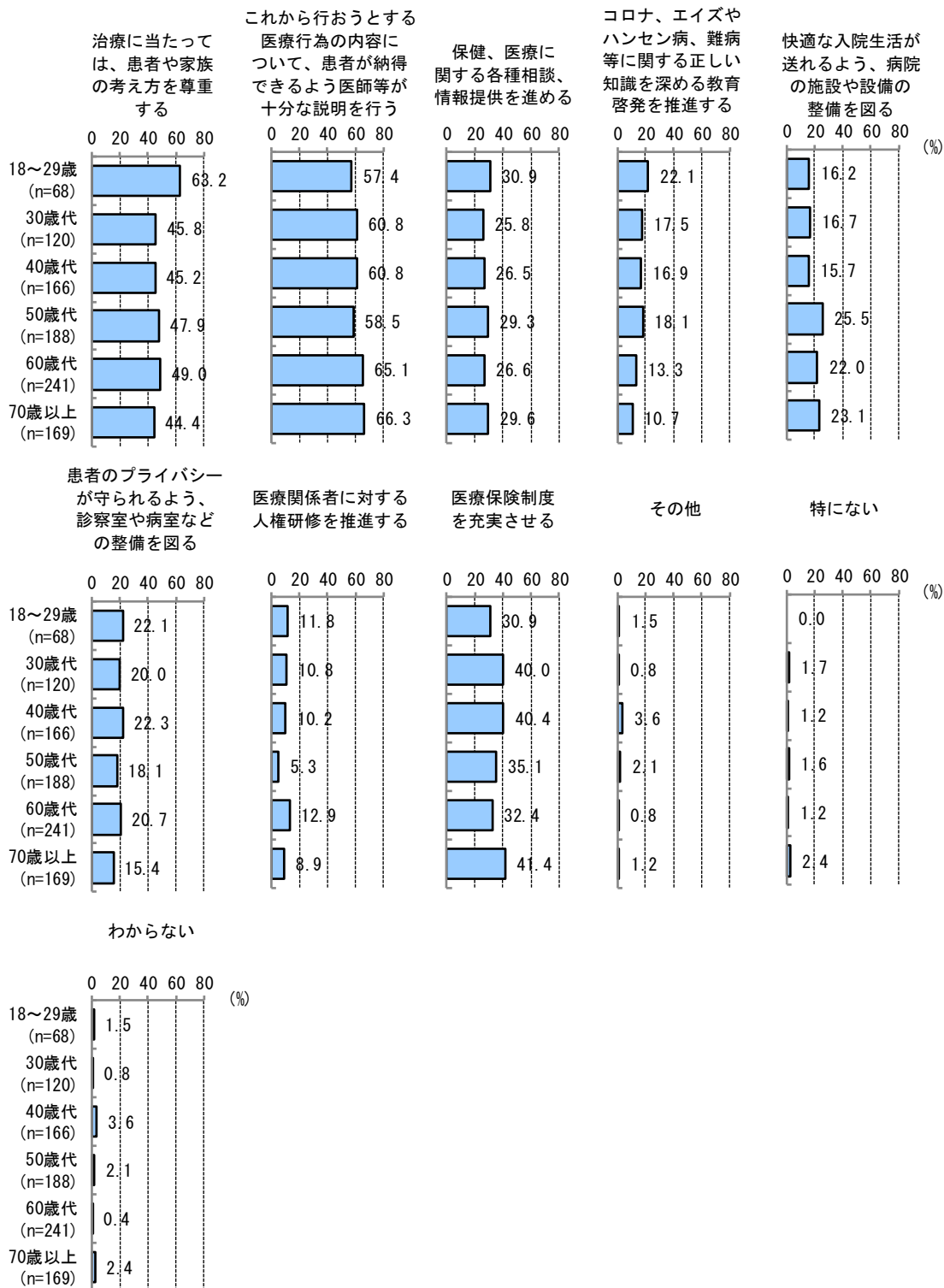
性別で見ると、男性は「治療に当たっては、患者や家族の考え方を尊重する」で8.2ポイント、「コロナ、エイズやハンセン病、難病等に関する正しい知識を深める教育啓発を推進する」で6.7ポイント、「快適な入院生活が送れるよう、病院の施設や設備の整備を図る」で3.4ポイント、女性に比べ高くなっています。一方、女性は「これから行おうとする医療行為の内容について、患者が納得できるよう医師等が十分な説明を行う」で12.7ポイント、「患者のプライバシーが守られるよう、診察室や病室などの整備を図る」で3.9ポイント、男性より高くなっています。(図Ⅰ-5-9-1)

【図Ⅰ-5-9-1 性別 患者の人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、「治療に当たっては、患者や家族の考え方を尊重する」が18～29歳で63.2%と他の年代に比べ高くなっています。また、「コロナ、エイズやハンセン病、難病等に関する正しい知識を深める教育啓発を推進する」は若い年代ほど高い傾向があります。(図I-5-9-2)

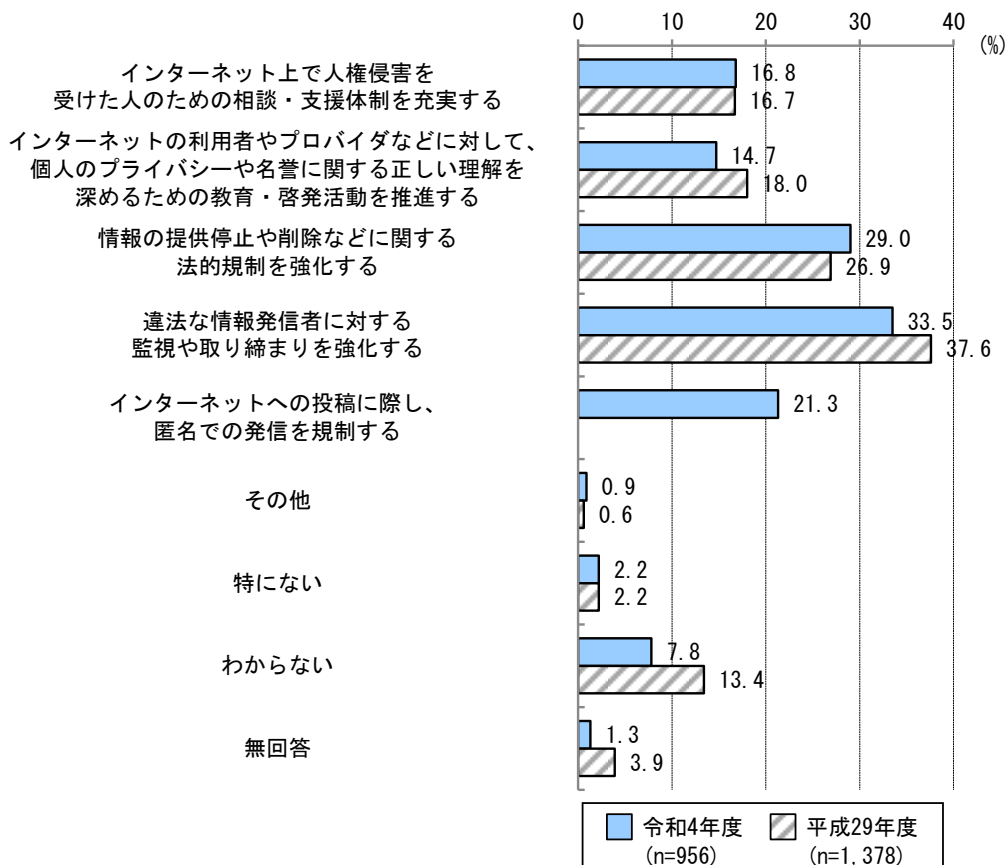
【図I-5-9-2 年代別 患者の人権が尊重されるために必要なこと】



(10) インターネット上の人権侵害を防ぐために必要なこと

問17 インターネット上の人権侵害を防ぐために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は1つ)

【図 I-5-10 インターネット上の人権侵害を防ぐために必要なこと】



※「インターネットへの投稿に際し、匿名での発信を規制する」は、今回調査の新規項目である。

インターネット上の人権侵害防止のために必要なことは、「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」が33.5%と最も高く、次いで「情報の提供停止や削除などに関する法的規制を強化する」が29.0%、「インターネットへの投稿に際し、匿名での発信を規制する」が21.3%と続いています。

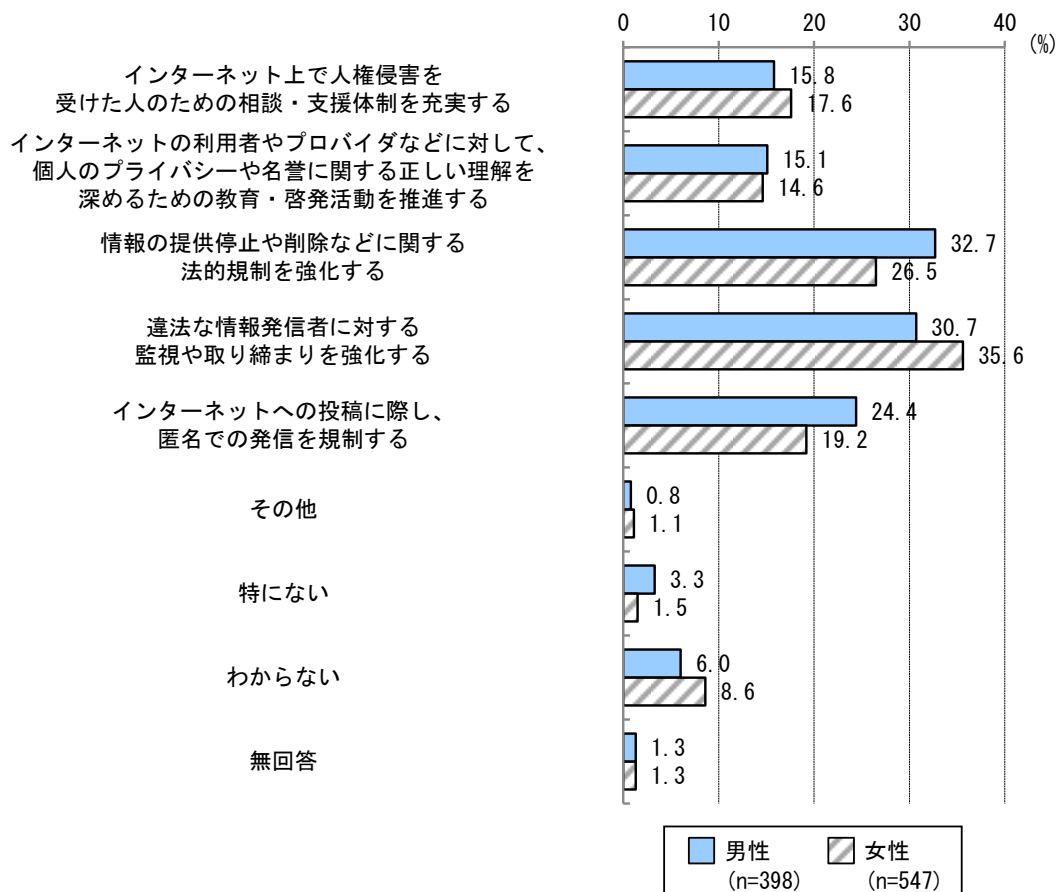
前回調査と比較すると、「わからない」が5.6ポイント低下しています。(図 I-5-10)

その他：「法整備」、「人権を侵害した人のアカウント停止・削除」等



性別で見ると、男性は「情報の提供停止や削除などに関する法規制を強化する」で6.2ポイント、「インターネットへの投稿に際し、匿名での発信を規制する」で5.2ポイント、女性に比べ高くなっています。一方、女性は「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」が35.6%で男性（30.7%）に比べ4.9ポイント高くなっています。（図 I-5-10-1）

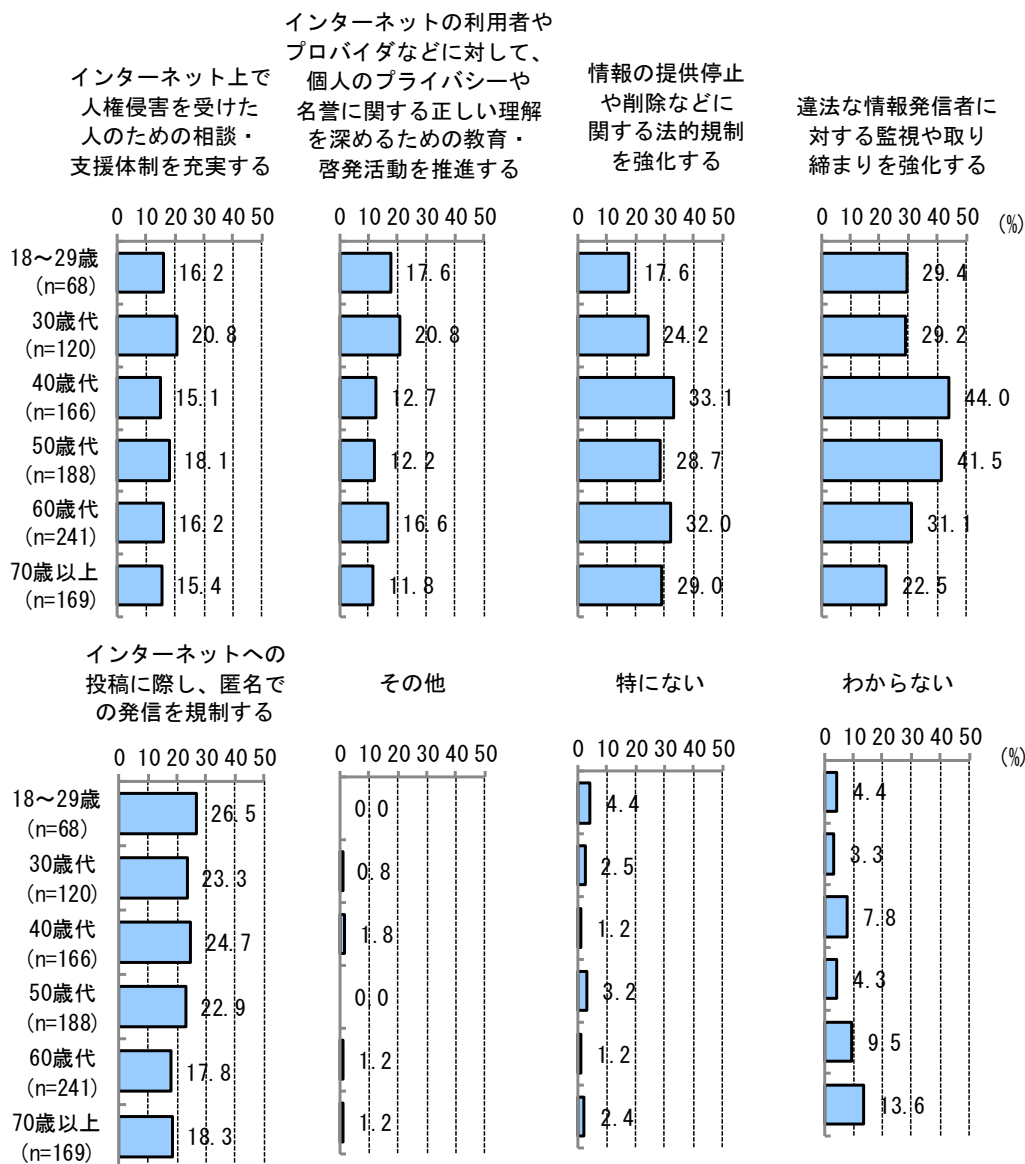
【図 I-5-10-1 性別 インターネット上の人権侵害を防ぐために必要なこと】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、18～29歳、30歳代は「インターネットの利用者やプロバイダなどに対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が他の年代に比べ高く、40歳代と50歳代は「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」が4割台と高くなっています。一方、70歳以上では「わからない」が13.6%と他の年代に比べ高くなっています。(図Ⅱ-5-10-2)

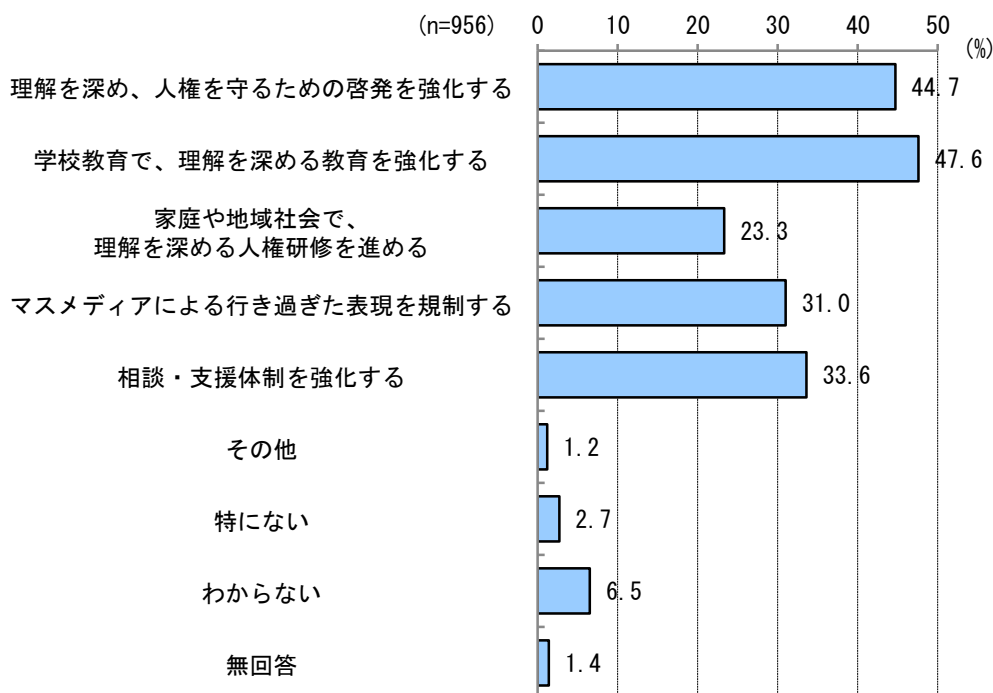
【図Ⅱ-5-10-2 年代別 インターネット上の人権侵害を防ぐために必要なこと】



(11) 性に関する人権が尊重されるために必要なこと

問18 性についてさまざまな考え方や受け止め方をもつ人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要であると思いますか。特に重要であると思われるものを選んでください。(〇は3つまで)

【図 I -5-11 性に関する人権が尊重されるために必要なこと】



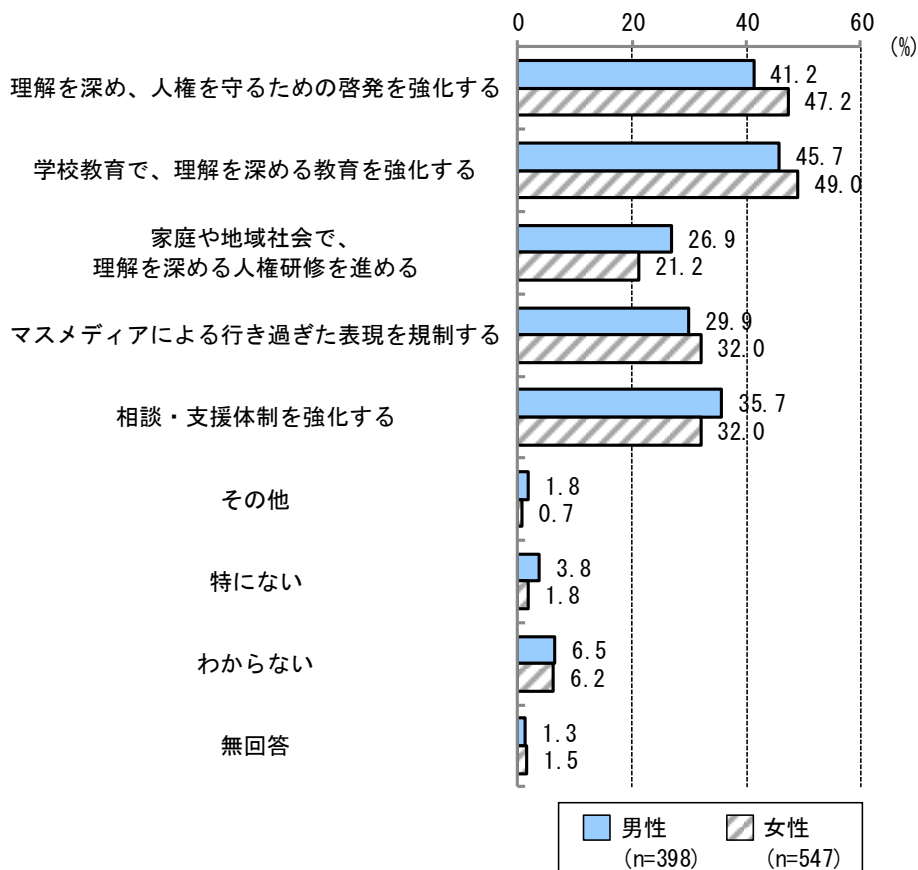
性に関する人権が尊重されるために必要なことは、「学校教育で、理解を深める教育を強化する」が47.6%と最も高く、次いで「理解を深め、人権を守るための啓発を強化する」が44.7%、「相談・支援体制を強化する」が33.6%と続いています。(図 I -5-11)

その他：「同性婚を認める制度」、「性教育の充実」等

第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

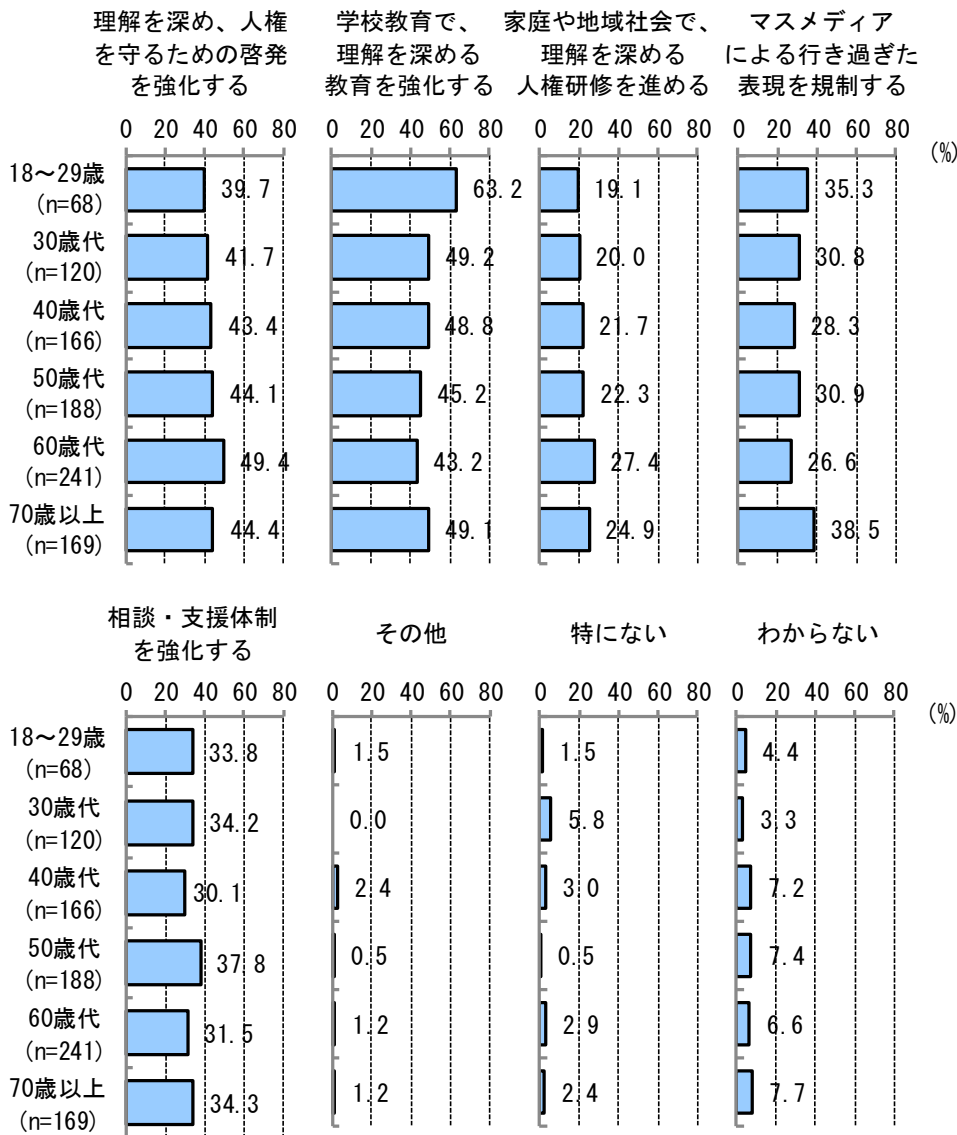
性別で見ると、男性は「家庭や地域社会で、理解を深める人権研修を進める」で5.7ポイント、「相談・支援体制を強化する」で3.7ポイント、女性に比べ高くなっています。一方、女性は「理解を深め、人権を守るための啓発を強化する」で6.0ポイント、「学校教育で、理解を深める教育を強化する」で3.3ポイント、男性に比べ高くなっています。(図Ⅰ-5-11-1)

【図Ⅰ-5-11-1 性別 性に関する人権が尊重されるために必要なこと】



年代別でみると、若い年代ほど「学校教育で、理解を深める教育を強化する」は高い傾向にあり、18～29歳は63.2%と6割を超えています。また、60歳代で「理解を深め、人権を守るための啓発を強化する」が49.4%と他の年代に比べ高くなっています。(図I-5-11-2)

【図I-5-11-2 年代別 性に関する人権が尊重されるために必要なこと】

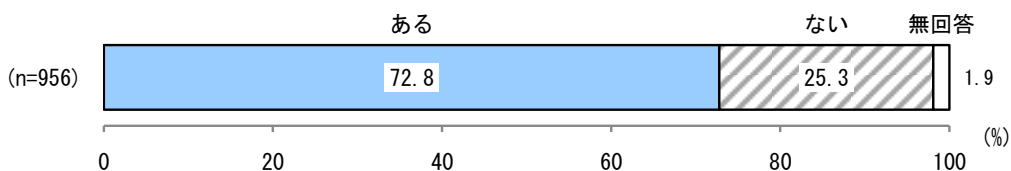


〔6〕人権に関する学びについて

(1) 学校で差別や人権に関する教育を受けた経験

問19 あなたは、これまで学校で差別や人権に関する教育（研修や学習会など）を受けたことがありますか。（○は1つ）

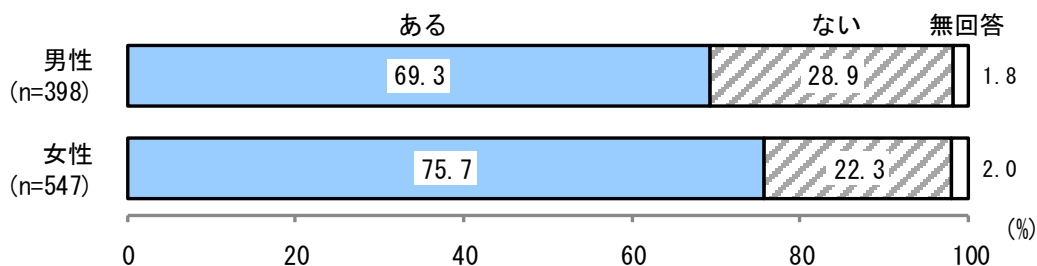
【図Ⅰ-6-1 学校で差別や人権に関する教育を受けた経験】



学校で差別や人権に関する教育を受けた経験が「ある」は72.8%、「ない」が25.3%となっています。（図Ⅰ-6-1）

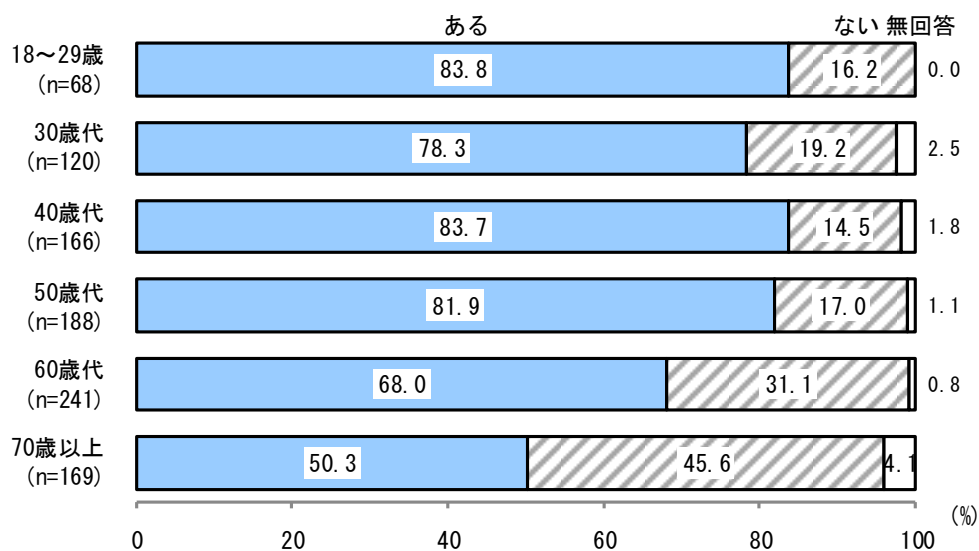
性別でみると、「ある」は男性で69.3%、女性で75.7%となっており、女性のほうが6.4ポイント高くなっています。（図Ⅰ-6-1-1）

【図Ⅰ-6-1-1 性別 学校で差別や人権に関する教育を受けた経験】



年代別で見ると、「ある」は18～29歳が83.8%と最も高くなっています。一方、70歳以上では「ない」が45.6%と他の年代に比べ高くなっています。(図Ⅰ-6-1-2)

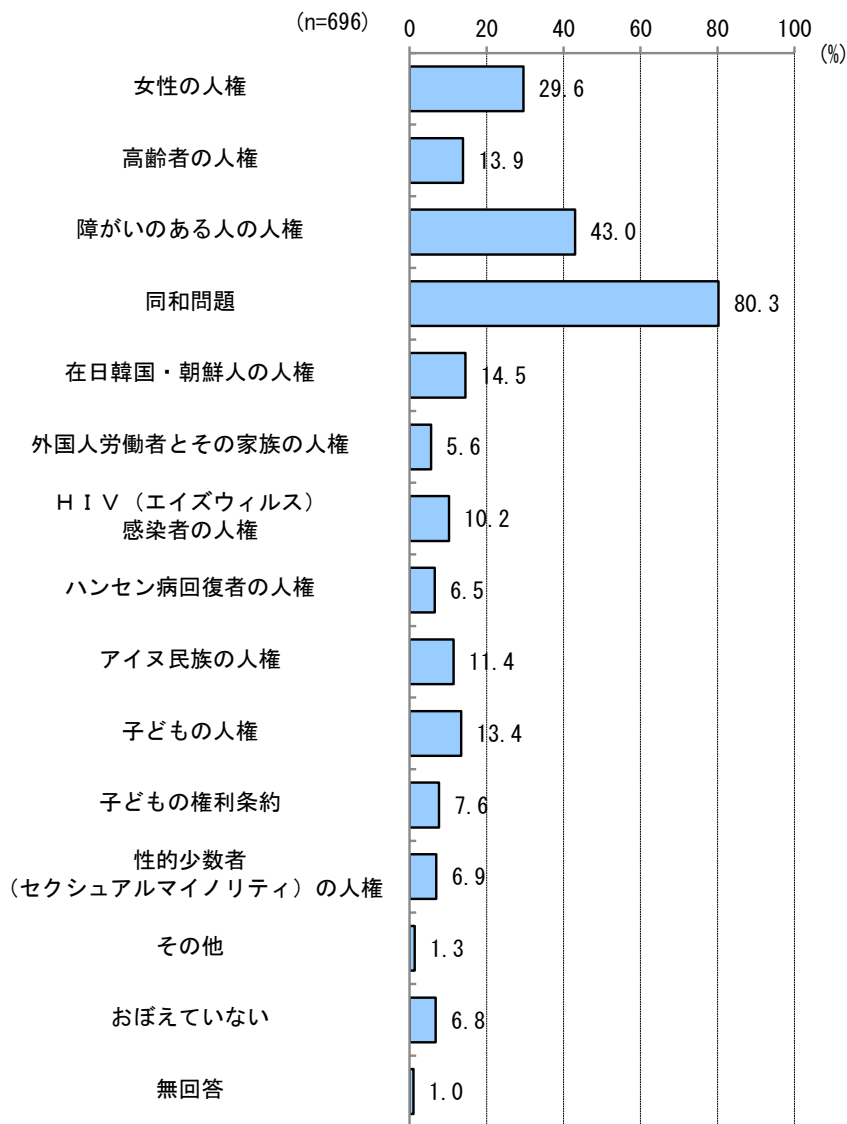
【図Ⅰ-6-1-2 年代別 学校で差別や人権に関する教育を受けた経験】



(2) 学校で教わった差別や人権に関する教育の内容

問19-1 問19で「ある」とお答えになった方にお聞きします。どのような内容を教わりましたか。(〇はいくつでも)

【図 I-6-2 学校で教わった差別や人権に関する教育の内容】



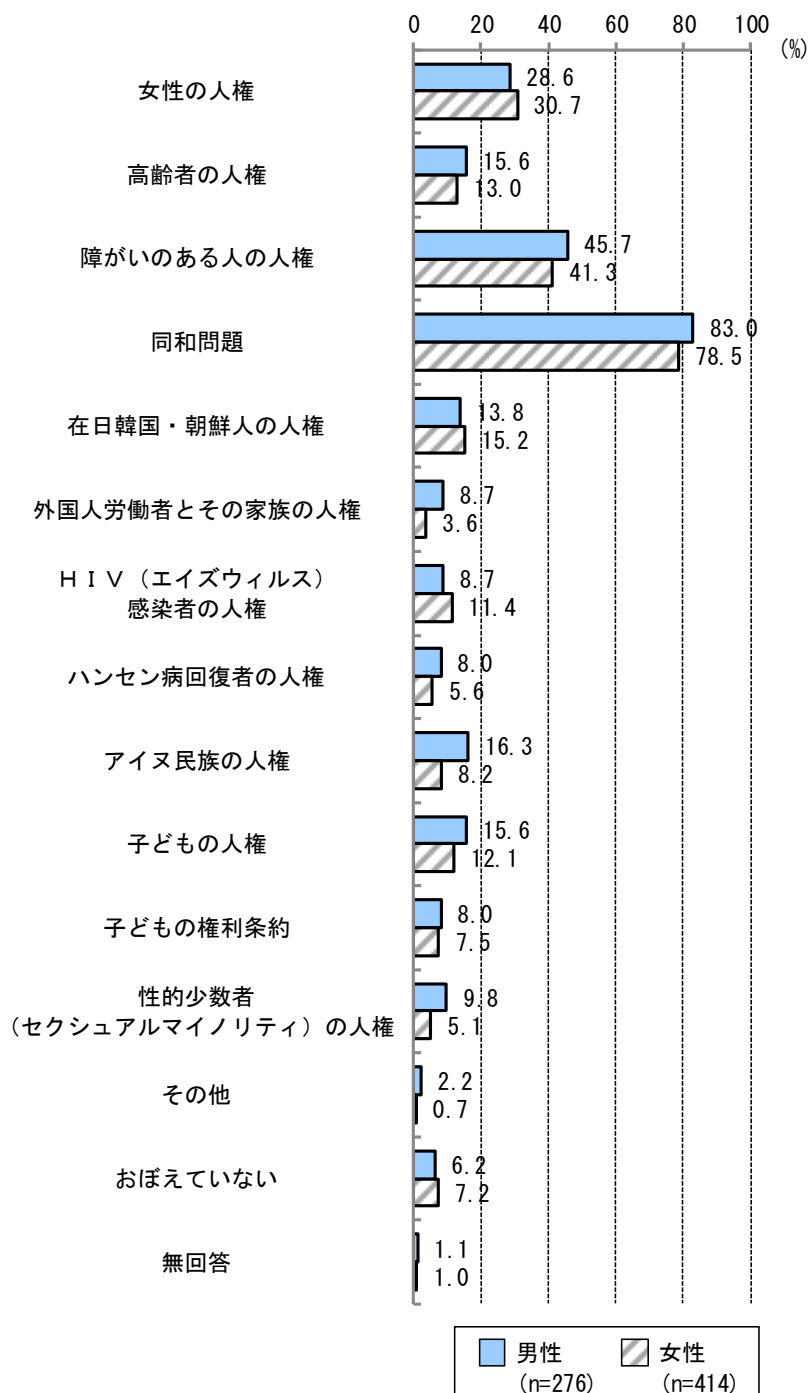
学校で教わった差別や人権に関する教育の内容は、「同和問題」が80.3%と最も高く、次いで「障がいのある人の人権」が43.0%、「女性の人権」が29.6%となっています。(図 I-6-2)

その他：「被爆二世の方の人権」、「コロナによる人権侵害」等



性別で見ると、男性は「障がいのある人の人権」で4.4ポイント、「同和問題」で4.5ポイント、「外国人労働者とその家族の人権」で5.1ポイント、「アイヌ民族の人権」で8.1ポイント、「性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の人権」で4.7ポイント、女性に比べ高くなっています。（図I-6-2-1）

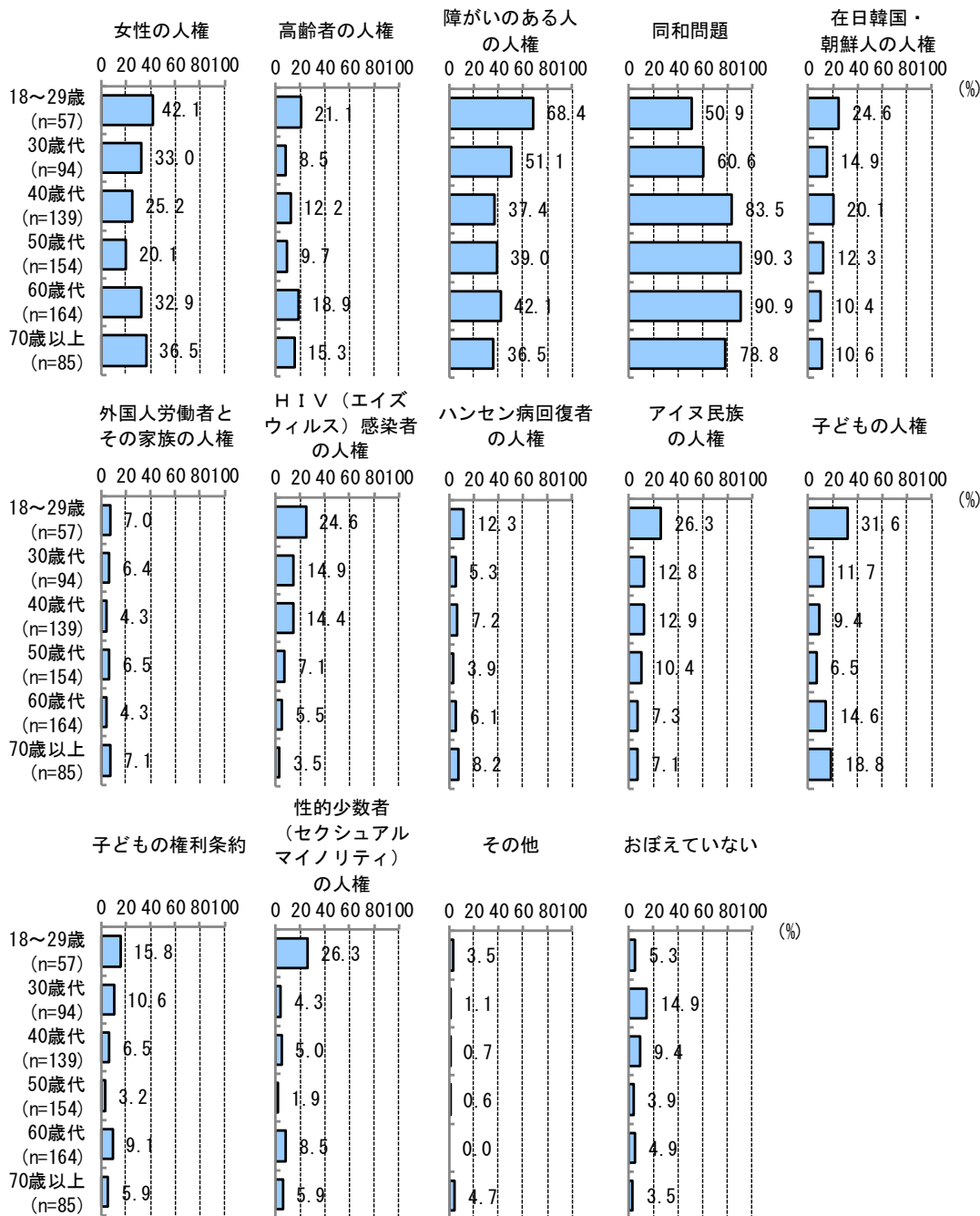
【図I-6-2-1 性別 学校で教わった差別や人権に関する教育の内容】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、「同和問題」は50歳代、60歳代が9割を占めています。また、18～29歳で「子どもの人権」「性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の人権」が他の年代に比べ高くなっています。（図Ⅱ-6-2-2）

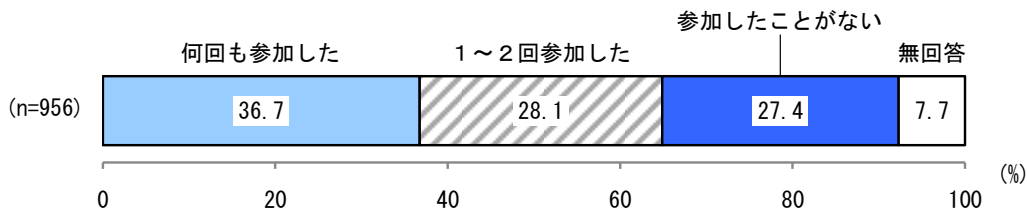
【Ⅱ-6-2-2 年代別 学校で教わった差別や人権に関する教育の内容】



(3) 学校以外での人権に関する講演会・研修会等への参加状況

問20 あなたは、これまでに学校を除く職場、地域、町で行われた差別や人権に関する講演会や研修会等にどの程度参加しましたか。(〇は1つ)

【図 I-6-3 学校以外での人権に関する講演会・研修会等への参加状況】

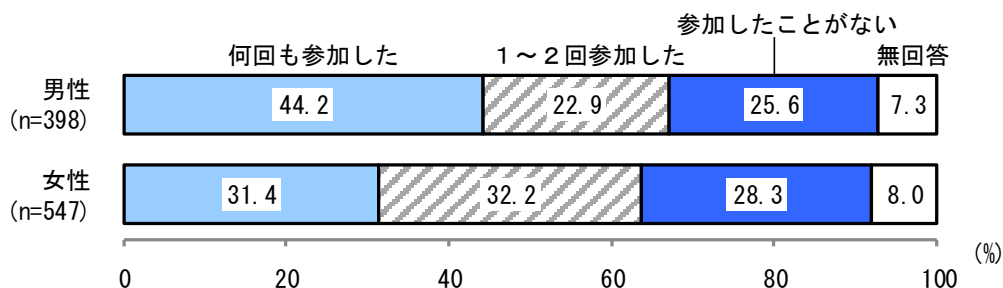


学校以外での人権に関する講演会・研修会等に「何回も参加した」が36.7%、「1~2回参加した」が28.1%となっており、両者を合わせた参加経験者の割合は64.8%を占めています。

(図 I-6-3)

性別で見ると、男性は「何回も参加した」が44.2%と最も高く、参加経験者の割合は67.1%で、女性(63.6%)より3.5ポイント高くなっています。一方、女性は「1~2回参加した」が32.2%で最も高くなっています。(図 I-6-3-1)

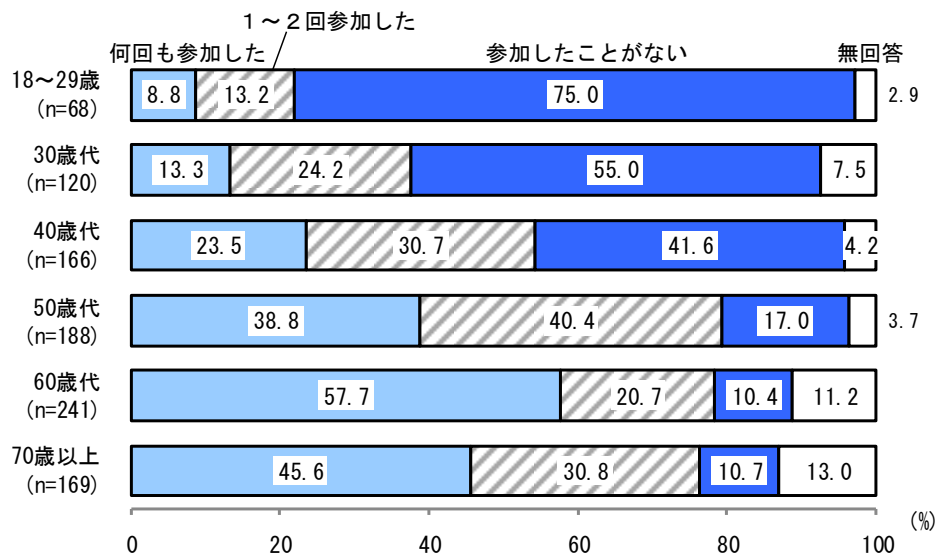
【図 I-6-3-1 性別 学校以外での人権に関する講演会・研修会等への参加状況】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、参加経験者の割合は、年代が上がるほど高い傾向にあり、40歳以降では過半数を占めています。(図 I-6-3-2)

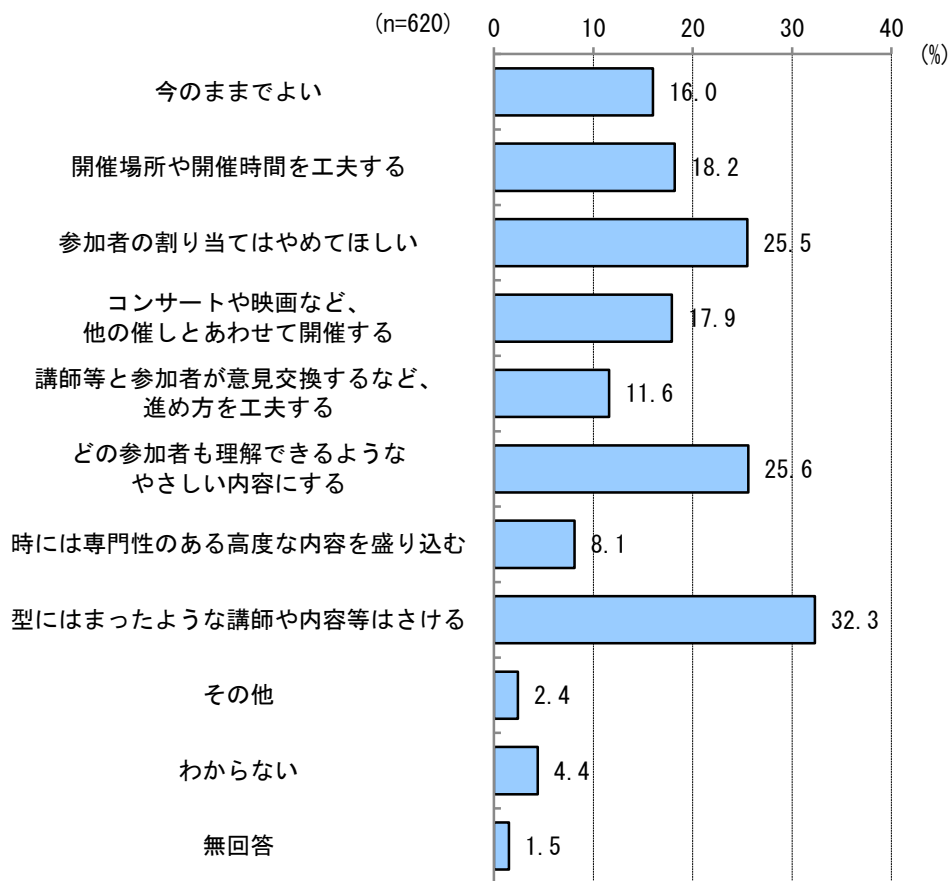
【図 I-6-3-2 年代別 学校以外での人権に関する講演会・研修会等への参加状況】



(4) 講演・研修内容について工夫してほしいこと

問20-1 問20で「何回も参加した」「1～2回参加した」とお答えになった方におたずねします。その方法や内容について、今後どのようにすればよいと思いますか。  
(○は2つまで)

【図Ⅰ-6-4 講演・研修内容について工夫してほしいこと】



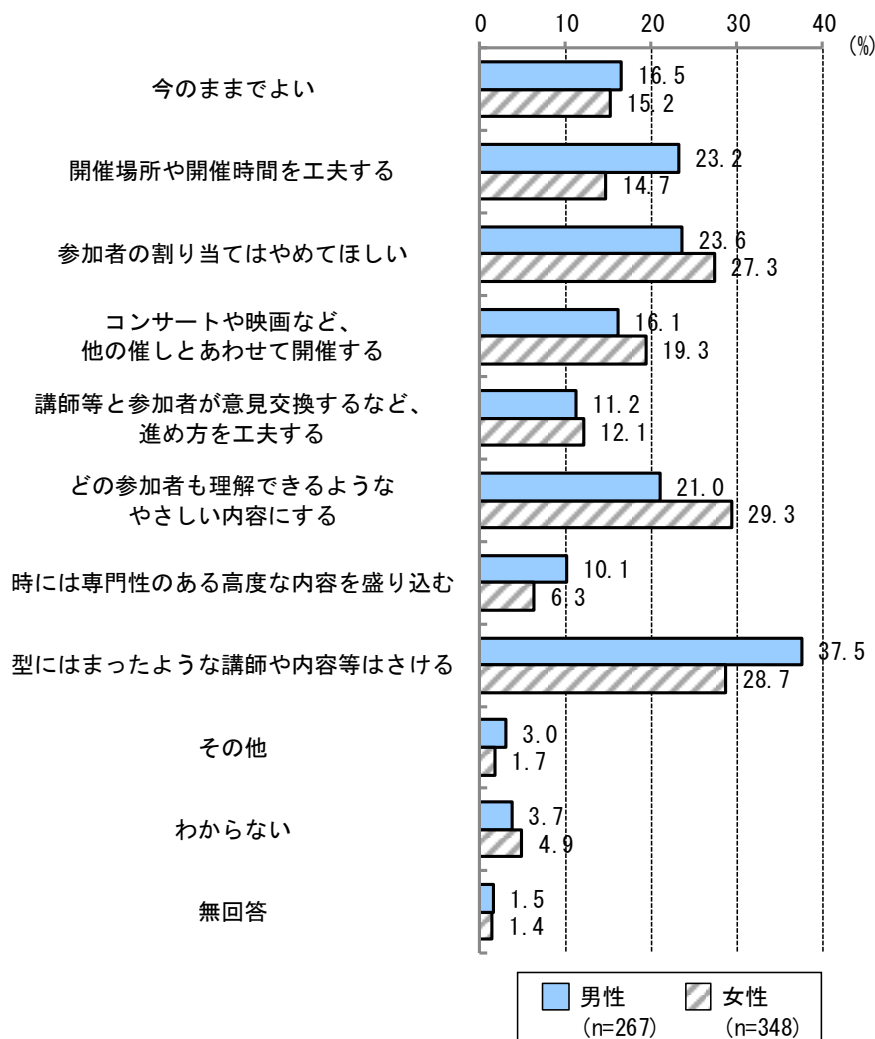
講演会・研修会に参加したことがあると回答した人に、講演・研修内容について工夫してほしいことをたずねると、「型にはまったような講師や内容等はさける」が32.3%と最も高く、次いで「どの参加者も理解できるようなやさしい内容にする」が25.6%、「参加者の割り当てはやめてほしい」が25.5%と続いています。(図Ⅰ-6-4)

その他：「オンラインでの開催」、「出前講座の開催」等

第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

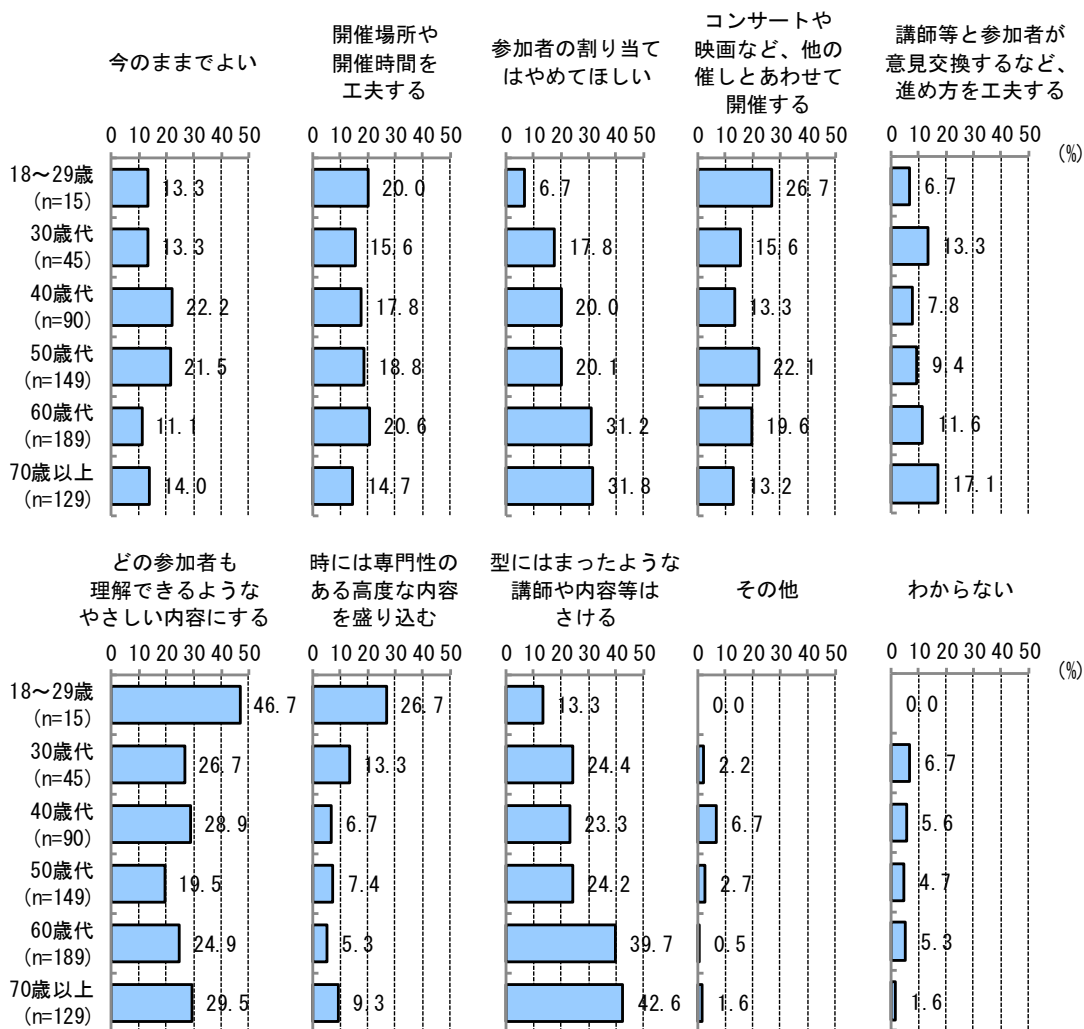
性別で見ると、男性は「型にはまったような講師や内容等はさける」が37.5%と最も高く、女性(28.7%)より8.8ポイント高くなっています。また、「開催場所や開催時間を工夫する」は、男性が23.2%、女性が14.7%で男性のほうが8.5ポイント高くなっています。一方、女性は「どの参加者も理解できるようなやさしい内容にする」が29.3%と最も高く、男性(21.0%)より8.3ポイント高くなっています。(図Ⅰ-6-4-1)

【図Ⅰ-6-4-1 性別 講演・研修内容について工夫してほしいこと】



年代別で見ると、「時には専門性のある高度な内容を盛り込む」は年代が上がるほど低下傾向にあります。また、60歳以降では、「参加者の割り当てはやめてほしい」と「型にはまったような講師や内容等はさける」の各割合が高くなっています。(図I-6-4-2)

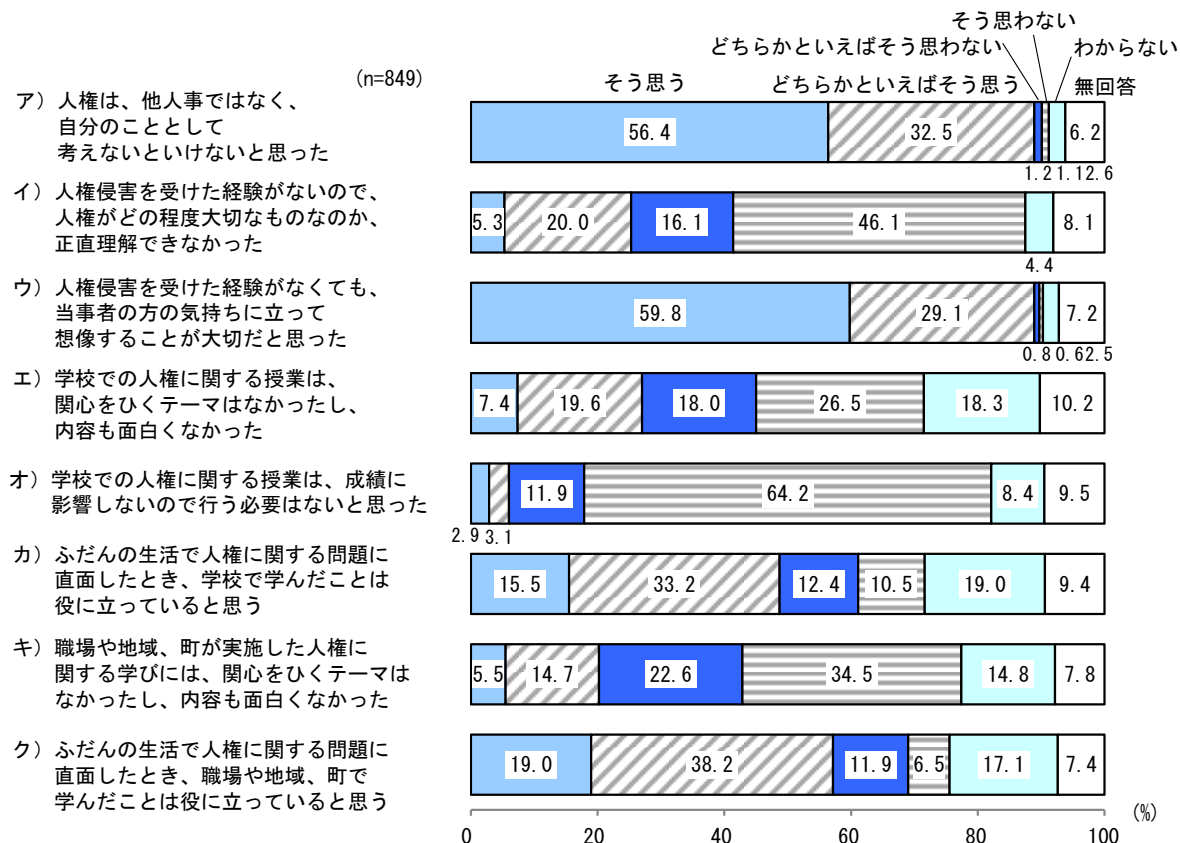
【図I-6-4-2 年代別 講演・研修内容について工夫してほしいこと】



(5) 差別や人権に関する学びについての考え

問21 問19または問20で、差別や人権に関する学びを受けたことがある、または参加したとお答えになった方におたずねします。これまで受けた差別や人権に関する学びについて、どのように感じていますか。ア～クのそれぞれについて選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

【図Ⅰ-6-5 差別や人権に関する学びについての考え】



差別や人権に関する学びを受けたことがある、または参加したと回答した人に、どのように感じているかをたずねました。

“ア) 人権は他人事ではなく、自分のこととして考えないといけないと思った”は、「そう思う」が56.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が32.5%となっており両者を合わせた『そう思う』は88.9%となっています。(図Ⅰ-6-5-1)

“イ) 人権侵害を受けた経験がないので、人権がどの程度大切なものか、正直理解できなかった”は「そう思わない」が46.1%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が20.0%、「どちらかといえばそう思わない」が16.1%となっています。「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の両者を合わせた『そう思わない』が62.2%となっています。(図Ⅰ-6-5-1)

“ウ) 人権侵害を受けた経験がなくても、当事者の方の気持ちに立って想像することが大切だと思った”は「そう思う」が59.8%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が29.1%となっており両者を合わせた『そう思う』は88.9%となっています。(図Ⅰ-6-5-1)

“エ) 学校での人権に関する授業は、関心をひくテーマはなかったし、内容も面白くなかつ



た”は「そう思わない」が26.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が19.6%、「わからない」が18.3%となっています。「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の両者を合わせた『そう思わない』が44.5%となっています。(図 I-6-5-1)

“オ) 学校での人権に関する授業は、成績に影響しないので行う必要はないと思った”は、「そう思わない」が64.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が11.9%となっており両者を合わせた『そう思わない』は76.1%と他に比べて高くなっています。(図 I-6-5-1)

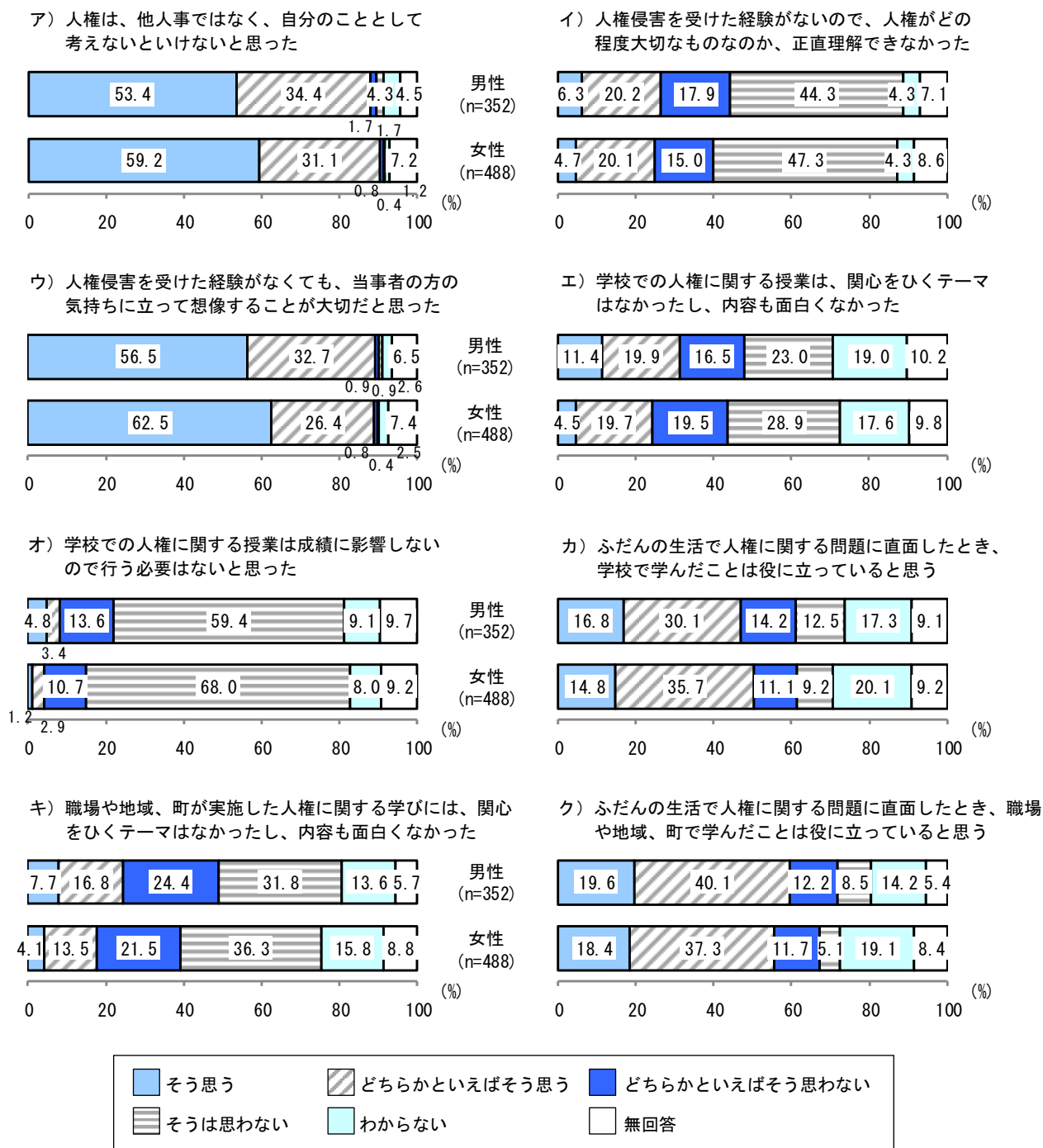
“カ) ふだんの生活で人権に関する問題に直面したとき、学校で学んだことは役に立っていると思う”は、「そう思う」(15.5%)と「どちらかといえばそう思う」(33.2%)を合わせた『そう思う』は48.7%となっています。また、「わからない」は19.0%で他に比べて高くなっています。(図 I-6-5-1)

“キ) 職場や地域、町が実施した人権に関する学びには、関心をひくテーマはなかったし、内容も面白くなかった”は「そう思わない」が34.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が22.6%となっており両者を合わせた『そう思わない』は57.1%となっています。(図 I-6-5-1)

“ク) ふだんの生活で人権に関する問題に直面したとき、職場や地域、町で学んだことは役に立っていると思う”は「どちらかといえばそう思う」が38.2%と最も高く、次いで「そう思う」が19.0%となっており両者を合わせた『そう思う』は57.2%となっています。(図 I-6-5)

性別で見ると、女性は、“ア) 人権は、他人事ではなく、自分のこととして考えないといけないと思った”について「そう思う」が5.8ポイント、“ウ) 人権侵害を受けた経験がなくても、当事者の方の気持ちに立って想像することが大切だと思った”について「そう思う」が6.0ポイント、男性に比べ高くなっています。また、“オ) 学校での人権に関する授業は成績に影響しないので行う必要はないと思った”について「そう思わない」が8.6ポイント、男性に比べ高くなっています。一方で男性は、“エ) 学校での人権に関する授業は、関心をひくテーマはなかったし、内容も面白くなかった”について「そう思う」が6.9ポイント、女性に比べ高くなっています。(図 I-6-5-1)

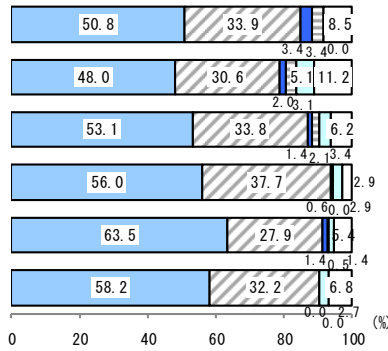
【図Ⅰ-6-5-1 性別 差別や人権に関する学びについての考え】



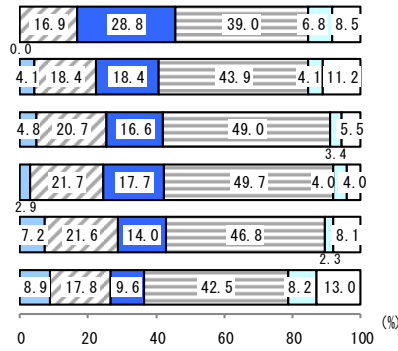
年代別でみると、年代が上がるほど“ク）ふだんの生活で人権に関する問題に直面したとき、職場や地域、町で学んだことは役に立っていると思う”について「そう思う」が上昇し、70歳以上で27.4%となっています。また、“ウ）人権侵害を受けた経験がなくても、当事者の方の気持ちに立って想像することが大切だと思った”について「そう思う」が、各年代とも過半数を占めています。（図Ⅰ-6-5-2）

【図Ⅰ-6-5-2 年代別 差別や人権に関する学びについての考え】

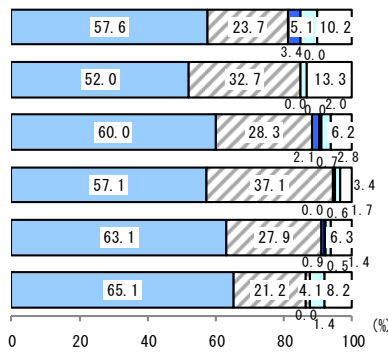
ア) 人権は、他人事ではなく、自分のこととして考えないといけないと思った



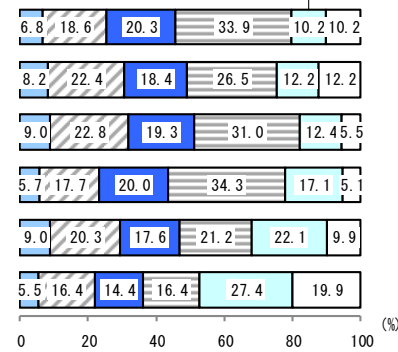
イ) 人権侵害を受けた経験がないので、人権がどの程度大切なものなのか、正直理解できなかった



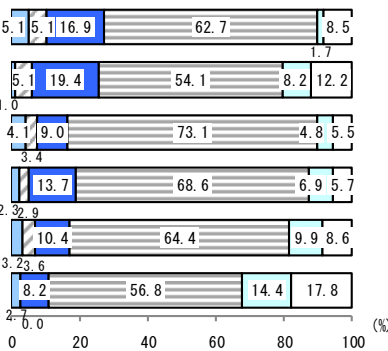
ウ) 人権侵害を受けた経験がなくても、当事者の方の気持ちに立って想像することが大切だと思った



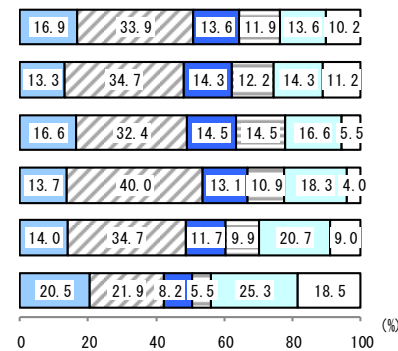
エ) 学校での人権に関する授業は、関心をひくテーマはなかったし、内容も面白くなかった



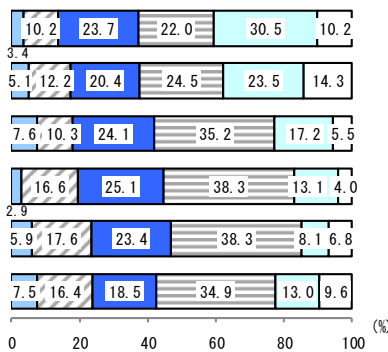
オ) 学校での人権に関する授業は成績に影響しないので行う必要はないと思った



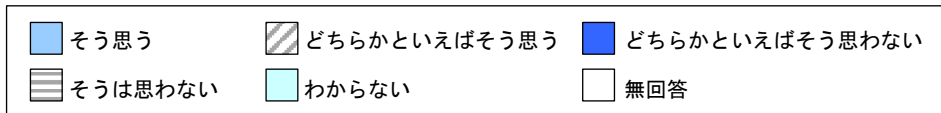
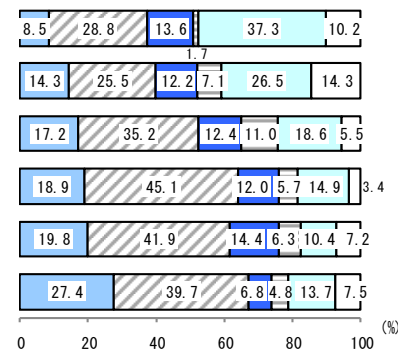
カ) ふだんの生活で人権に関する問題に直面したとき、学校で学んだことは役に立っていると思う



キ) 職場や地域、町が実施した人権に関する学びには、関心をひくテーマはなかったし、内容も面白くなかった



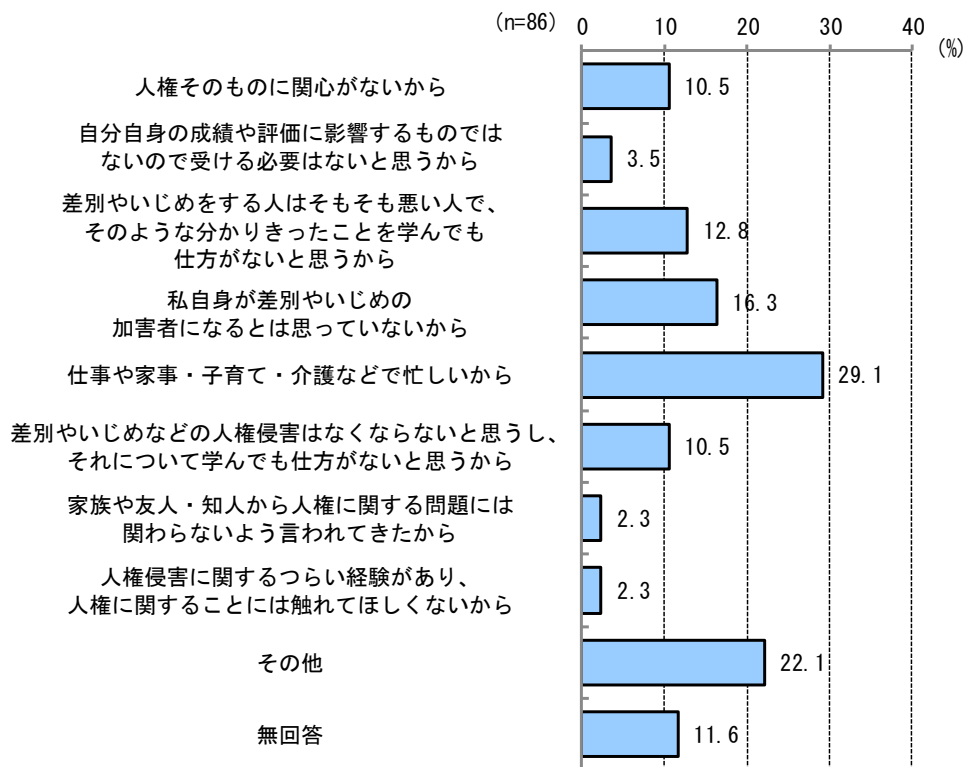
ク) ふだんの生活で人権に関する問題に直面したとき、職場や地域、町で学んだことは役に立っていると思う



(6) 差別や人権に関する学びを受けたことがない理由

問22 問19及び問20とも、差別や人権に関する学びを受けたことがない、または参加したことがないとお答えになった方におたずねします。その主な理由を教えてください。  
(○は2つまで)

【図 I-6-6 差別や人権に関する学びを受けたことがない理由】

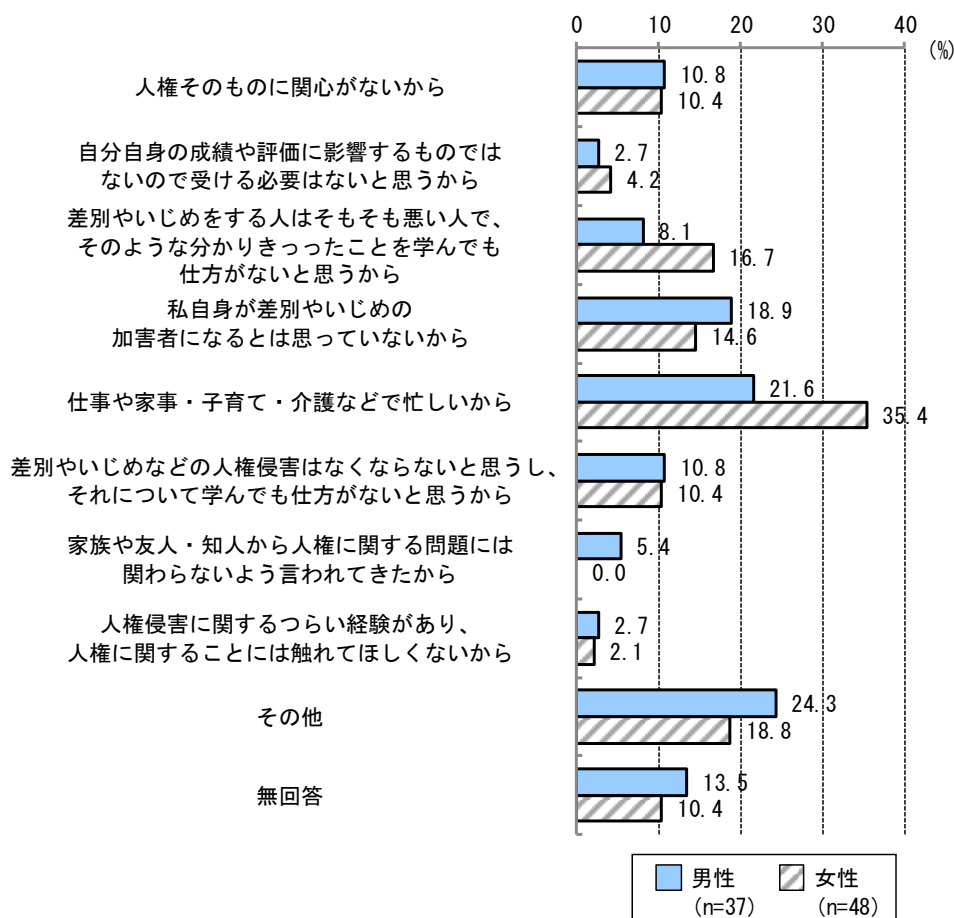


差別や人権に関する学びを受けたことがない、または参加したことがないと回答した人に、その理由をたずねると、「仕事や家事・子育て・介護などで忙しいから」が29.1%と最も高く、次いで「私自身が差別やいじめの加害者になるとは思っていないから」が16.3%、「差別やいじめをする人はそもそも悪い人で、そのような分かりきったことを学んでも仕方がないと思うから」が12.8%と続いています。(図 I-6-6)

その他：「機会がないから」、「そのような情報が入ってこないから」等

性別で見ると、女性は「仕事や家事・子育て・介護などで忙しいから」が35.4%で、男性(21.6%)より13.8ポイント高くなっています。(図Ⅰ-6-6-1)

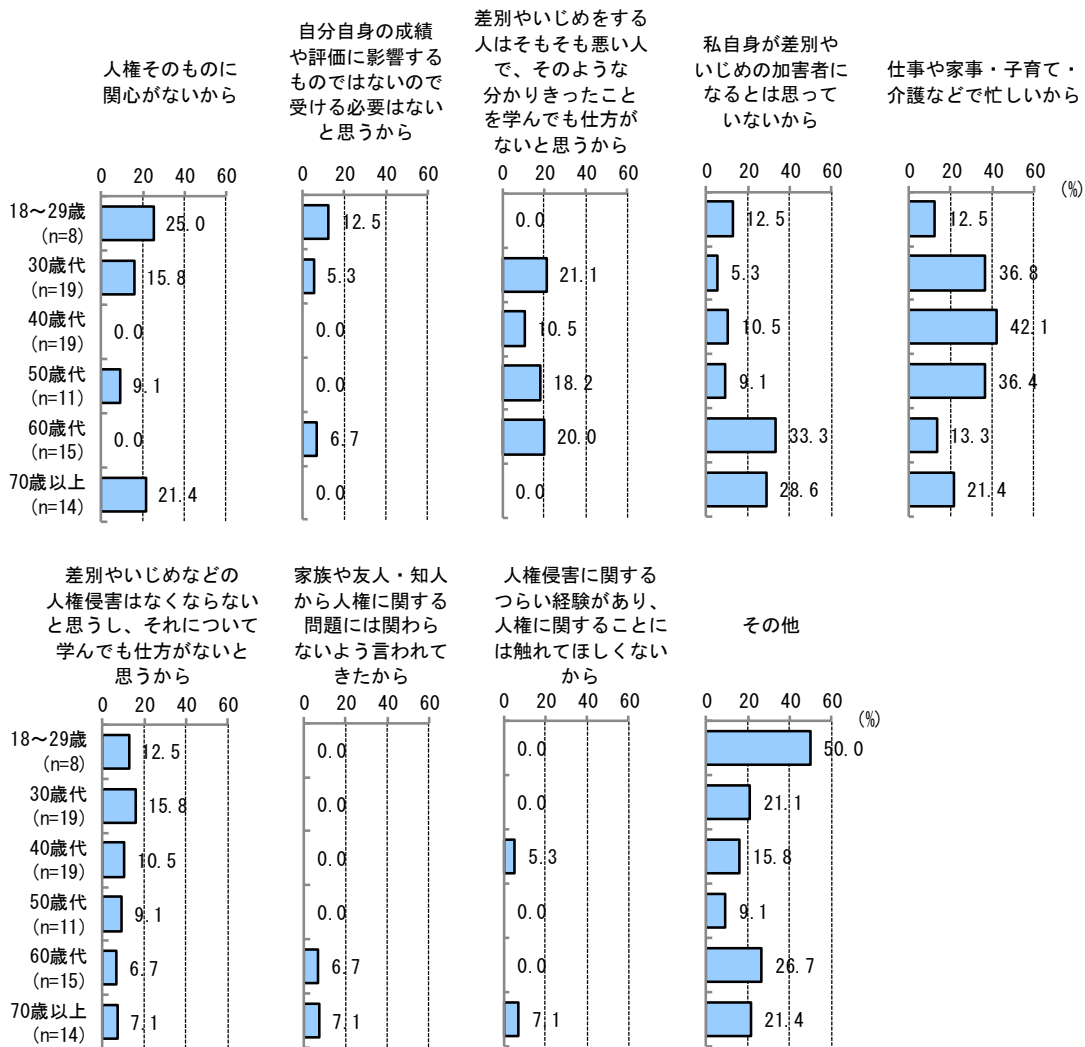
【図Ⅰ-6-6-1 性別 差別や人権に関する学びを受けたことがない理由】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、各年代の回答者数が少ないため解釈に留意が必要ですが、「人権そのものに関心がないから」は18～29歳で25.0%と高くなっています。また、30～50歳代は「仕事や家事・子育て・介護などで忙しいから」が3～4割台を占めています。(図Ⅱ-6-6-2)

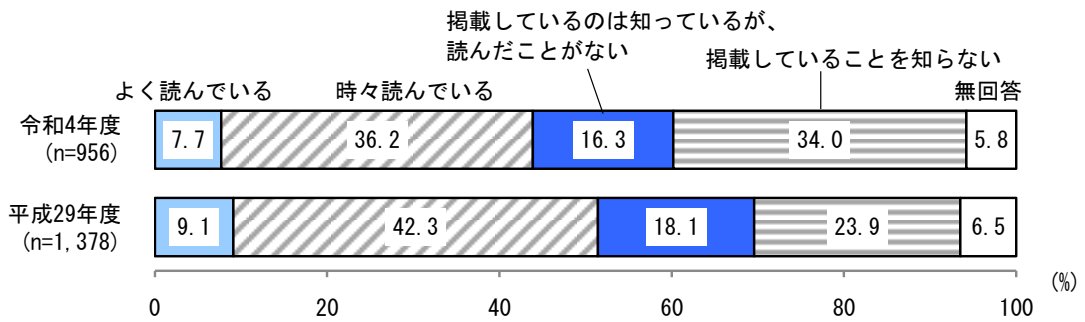
【図Ⅱ-6-6-2 年代別 差別や人権に関する学びを受けたことがない理由】



〔7〕「人推協だより ほっと・あい」を読む頻度

問23 愛荘町では、人権問題の解決のための啓発活動として、毎月広報紙に「人推協だよりほっと・あい」を掲載していますが、最近1年ぐらゐの間に、どの程度読みましたか。(○は1つ)

【図Ⅰ-6-7 「人推協だより ほっと・あい」を読む頻度】

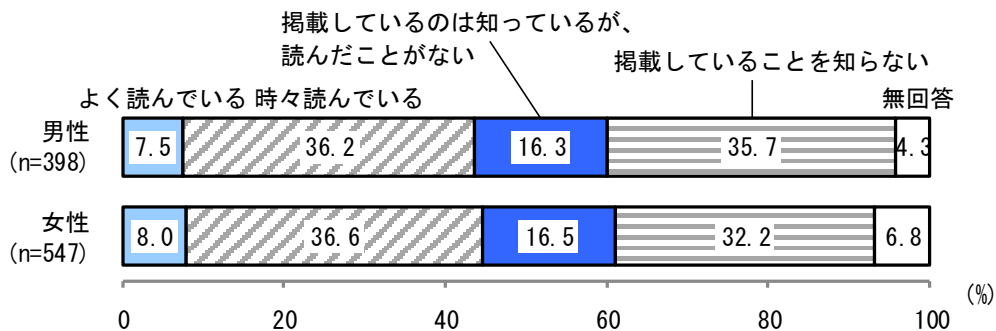


「人推協だより ほっと・あい」について、「時々読んでいる」が36.2%と最も高く、次いで「掲載していることを知らない」が34.0%、「掲載しているのは知っているが、読んだことがない」が16.3%、「よく読んでいる」は7.7%となっています。なお、「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた『読んでいる』割合は43.9%を占めています。(図Ⅰ-6-7)

前回調査と比較すると、「掲載していることを知らない」は10.1ポイント上昇しています。(図Ⅰ-6-7)

性別で見ると、「掲載していることを知らない」割合は、男性が35.7%、女性が32.2%で、男性のほうが3.5ポイント高くなっています。(図Ⅰ-6-7-1)

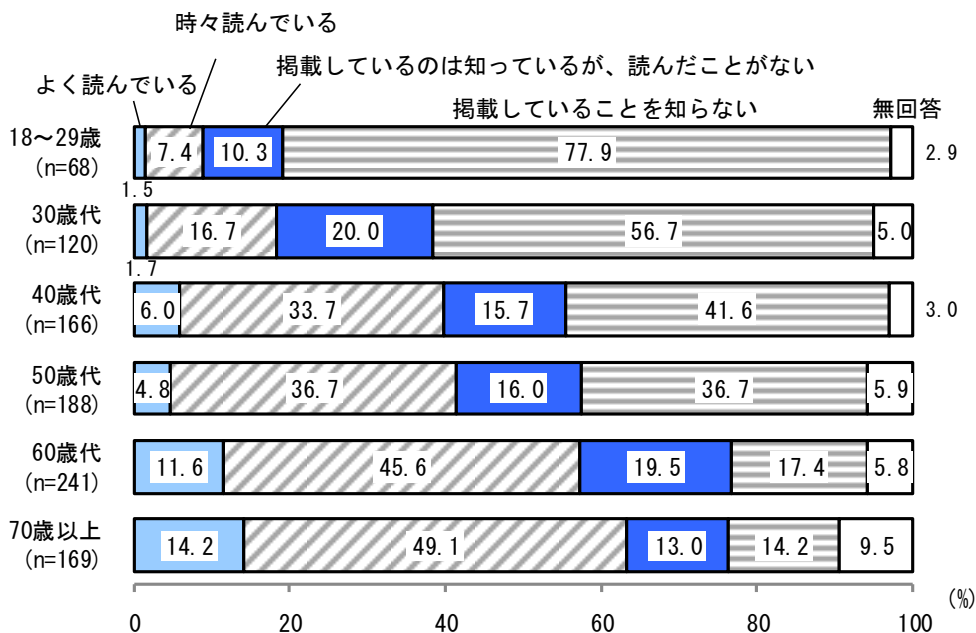
【図Ⅰ-6-7-1 性別 「人推協だより ほっと・あい」を読む頻度】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別でみると、『読んでいる』割合は、年代が上がるほど高くなっており、60歳以降では半数以上を占めています。「掲載していることを知らない」は18～29歳が77.9%で最も高くなっています。(図Ⅰ-6-7-2)

【図Ⅰ-6-7-2 年代別 「人推協だより ほっと・あい」を読む頻度】

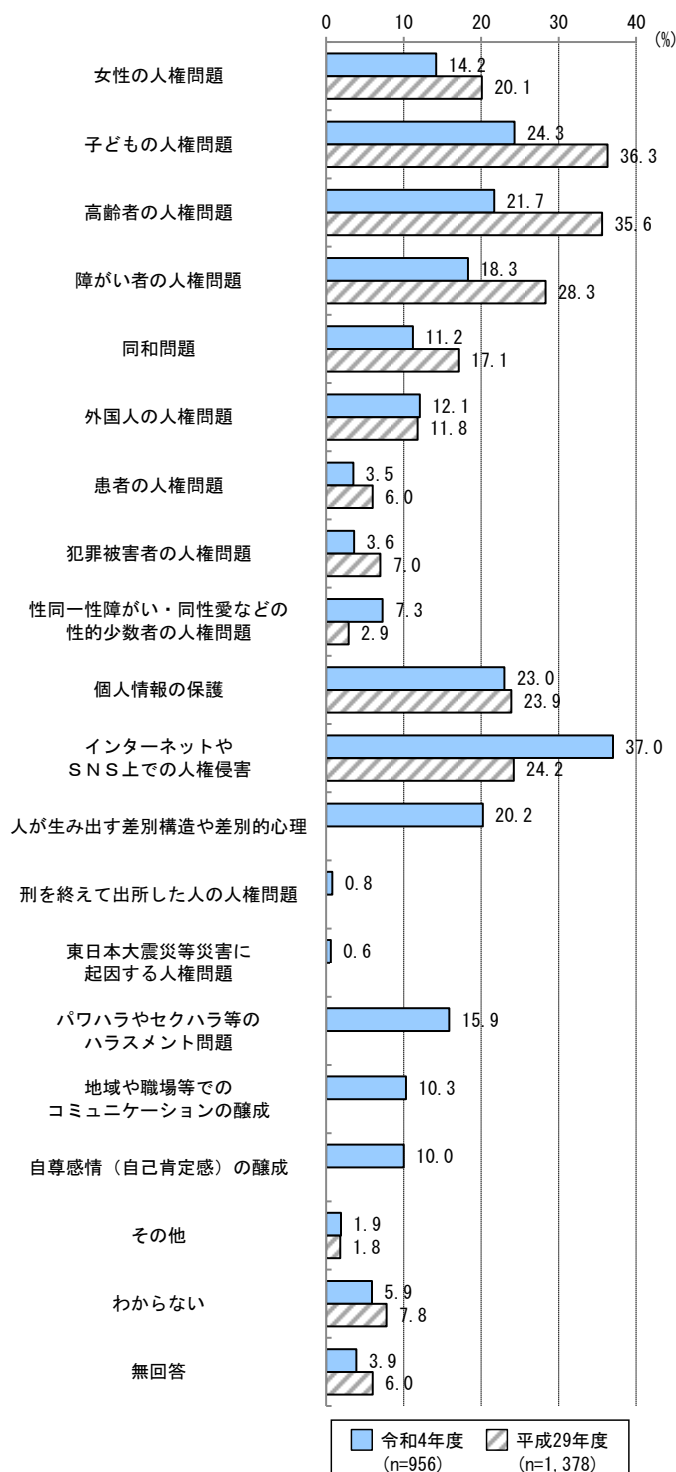




〔8〕愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題

問24 愛荘町では、さまざまな人権問題について、その解決のための啓発に取り組んでいきますが、今後、さらに重点的に取り組まなければならないことからは何であるとお考えですか（○は3つまで）

【図Ⅰ-6-8 愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題】



※「人が生み出す差別構造や差別的心理」「刑を終えて出所した人の人権問題」「東日本大震災等災害に起因する人権問題」「パワハラやセクハラ等のハラスメント問題」「地域や職場等でのコミュニケーションの醸成」「自尊感情（自己肯定感）の醸成」は、今回調査の新規項目である。

## 第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

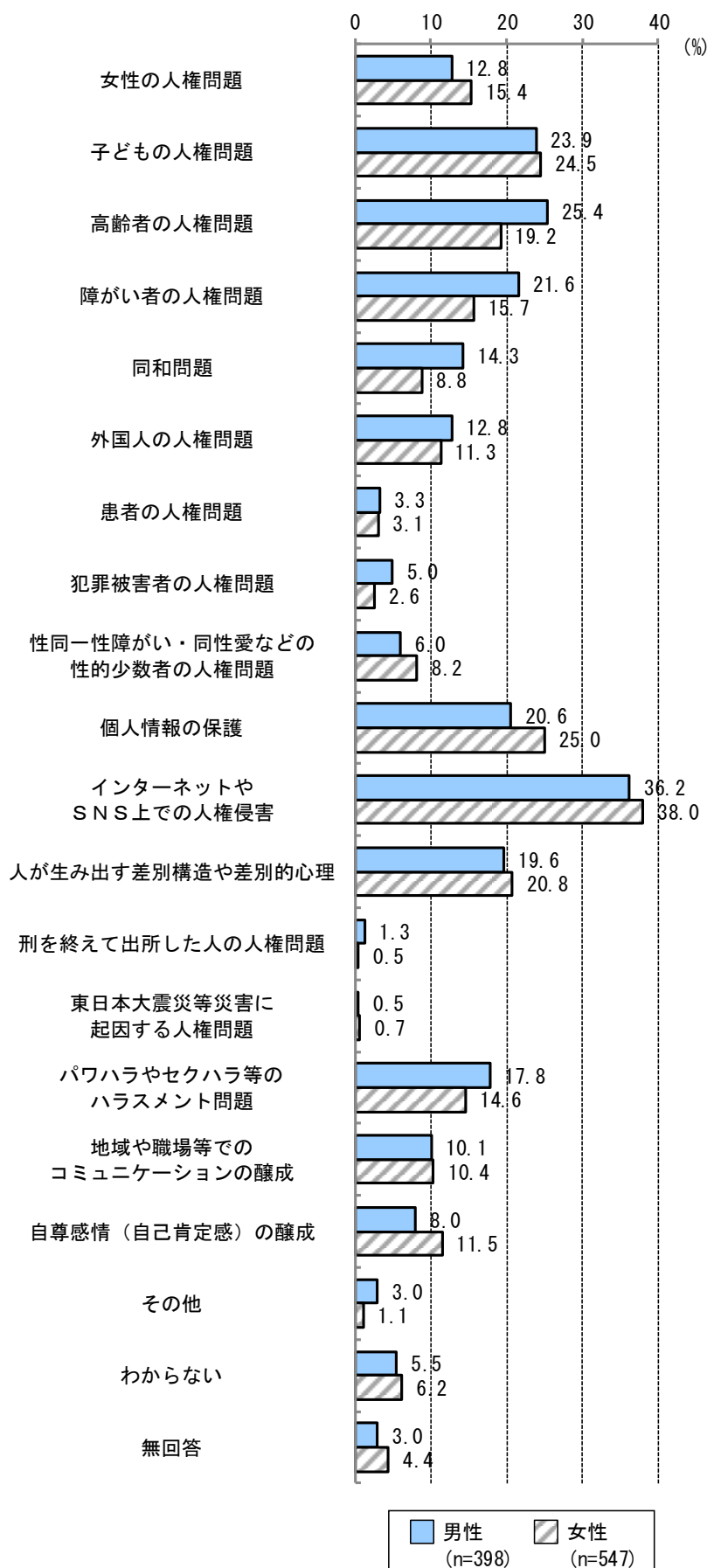
愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題は、「インターネットやSNS上での人権侵害」が37.0%と最も高く、次いで「子どもの人権問題」が24.3%、「個人情報の保護」が23.0%、「高齢者の人権問題」が21.7%と続いています。また、今回の新規項目の中で「人が生み出す差別構造や差別的な心理状況」が20.2%と5番目に高くなっています。

前回調査と比較すると、「高齢者の人権」が13.9ポイント低下している一方で、「インターネットやSNS上での人権侵害」が12.8ポイント高くなっています。（令和4年度調査のみ選択肢に“SNS”と追記あり）（図Ⅰ-6-8）

その他：「外国人との交流を推進してほしい」、「平和を守ることに関する啓発」等

性別で見ると、男性は「高齢者の人権問題」で6.2ポイント、「障がい者の人権問題」で5.9ポイント、「同和問題」で5.5ポイント、女性に比べ高くなっています。一方、女性は「個人情報の保護」で4.4ポイント、「自尊心（自己肯定感）の醸成」で3.5ポイント、男性に比べ高くなっています。（図Ⅰ-6-8-1）

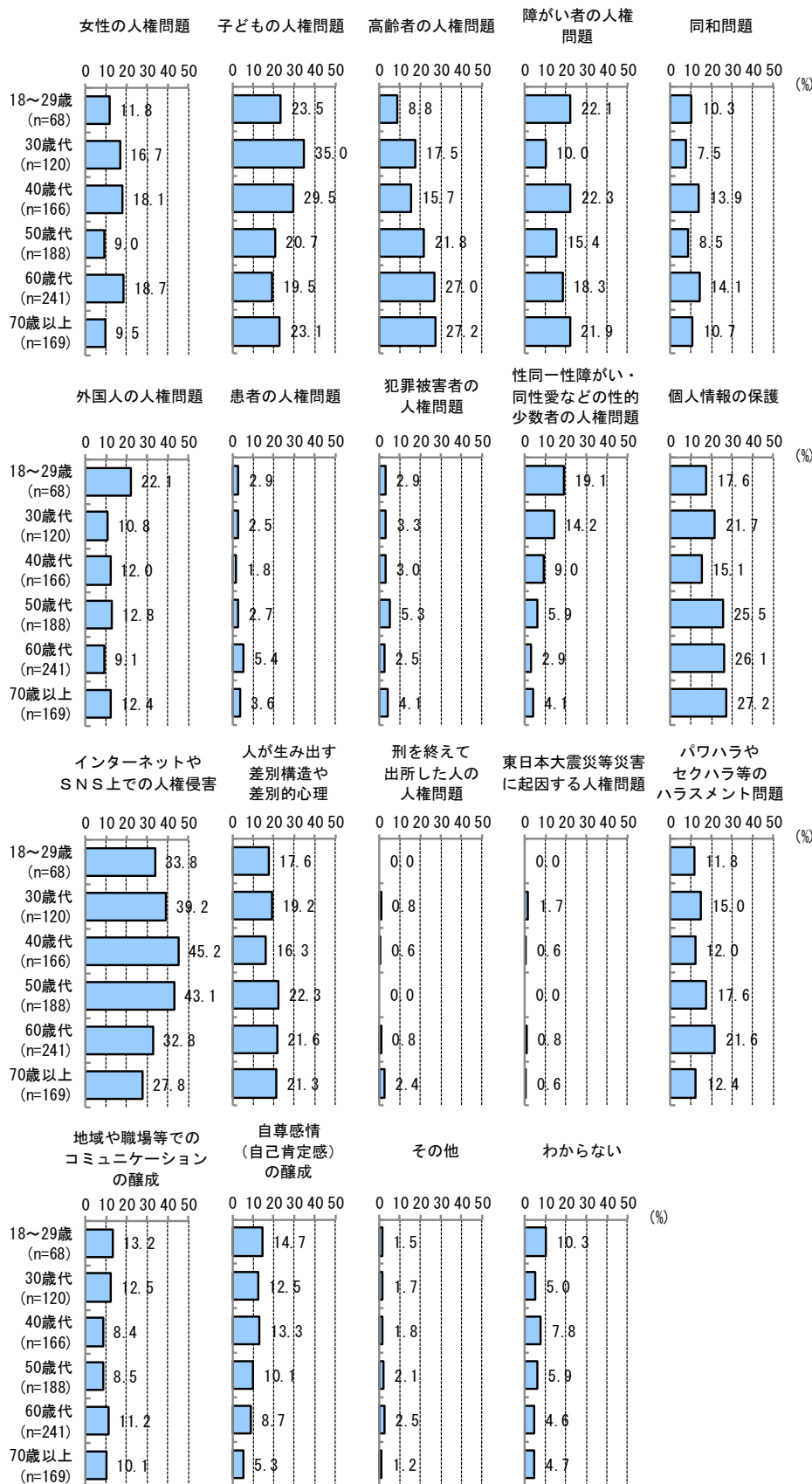
【図Ⅰ-6-8-1 性別 愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題】



第Ⅱ章 調査結果【Ⅱ-1 町民意識調査】

年代別で見ると、18～29歳は「外国人の人権問題」(22.1%)が他の年代に比べ高くなっています。30歳代は「子どもの人権問題」(35.0%)が他の年代に比べ高くなっています。また、年代が上がるほど「高齢者の人権問題」が上昇傾向にあります。(図Ⅰ-6-8-2)

【図Ⅰ-6-8-2 年代別 愛荘町で重点的に取り組まなければならない人権問題】



## 2 質問間クロス集計結果

### 〔1〕人権に関する学校教育を受けた経験別（問19）

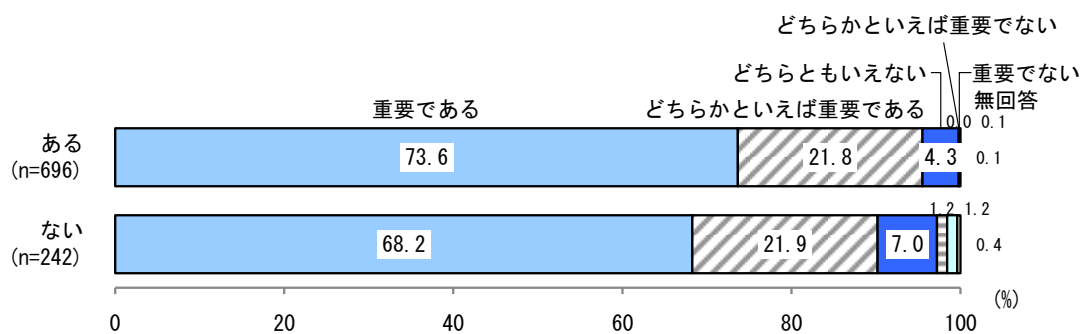
#### （1）人権という言葉の考え方や印象

問2 あなたは「人権」という言葉にどのような考え方や印象をもっていますか。  
 (①・②それぞれに○は1つ)

#### ①重要であるか重要でないか

『重要である』割合は、学校教育を受けたことがあると回答した人が95.4%で、受けたことがない人（90.1%）に比べ5.3ポイント高くなっています。（図Ⅰ-7-1-1①）

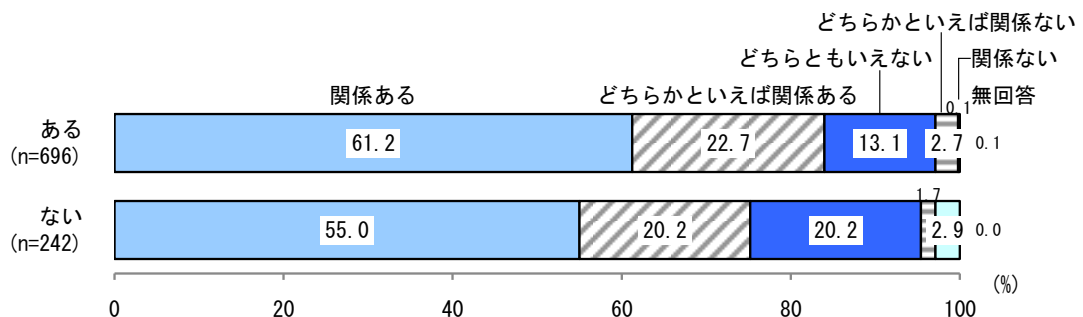
【図Ⅰ-7-1-1① 人権に関する学校教育を受けた経験の有無別 人権の重要度合】



#### ②自分に関係があるかないか

『関係がある』割合は、学校教育を受けたことがあると回答した人が83.9%で、受けたことがない人（75.2%）に比べ8.7ポイント高くなっています。（図Ⅰ-7-1-1②）

【図Ⅰ-7-1-1② 人権に関する学校教育を受けた経験の有無別 人権と自分の関係】



〔2〕人権に関する講演会や研修会等に参加した経験別（問20）

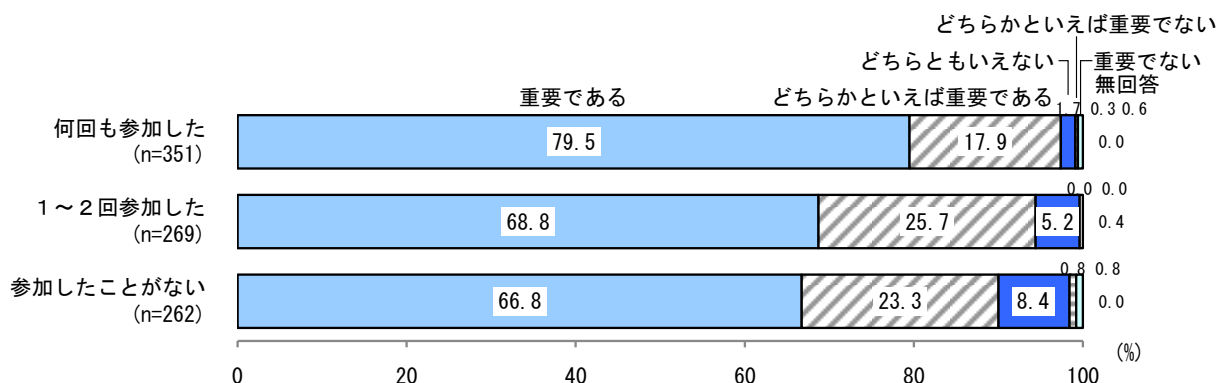
（1）人権という言葉の考え方や印象

問2 あなたは「人権」という言葉にどのような考え方や印象をもっていますか。  
 (①・②それぞれに○は1つ)

①重要であるか重要でないか

『重要である』割合は、参加回数が多い人ほど高く、そのうち何回も参加したと回答した人が97.4%で最も高くなっています。(図Ⅰ-7-2-1①)

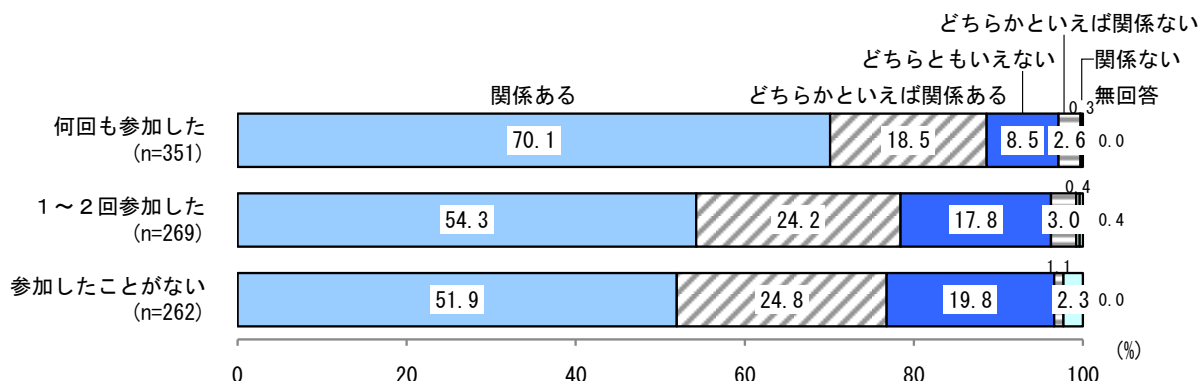
【図Ⅰ-7-2-1① 人権に関する講演会や研修会等に参加した経験の有無別 人権の重要度合】



②自分に関係があるかないか

『関係ある』割合は、参加回数が多い人ほど高く、そのうち何回も参加したと回答した人が88.6%で最も高くなっています。(図Ⅰ-7-2-1②)

【図Ⅰ-7-2-1② 人権に関する講演会や研修会等に参加した経験の有無別 人権と自分の関係】



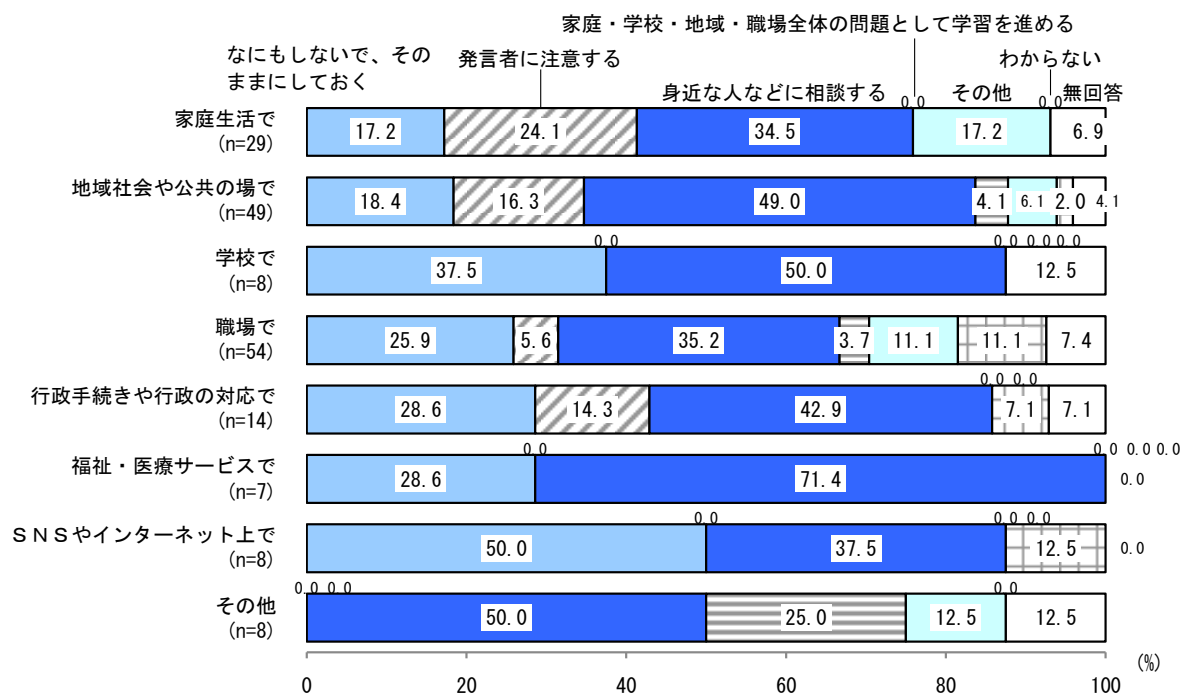
〔3〕人権侵害を受けた場面別（問6-1）

（1）人権が傷つけられるような発言をされた時の対応

問7 もし、あなたに対し人権が傷つけられるような発言があったとき、あなたはどのようにされますか。（〇は1つ）

人権侵害を受けた場面別でみると、SNSやインターネット上と回答した人を除くと、「身近な人などに相談する」の割合が最も高くなっています。回答件数が少ないため解釈に留意が必要ですが、SNSやインターネット上と回答した人では、「なにもしないで、そのままにしておく」の割合が高くなっています。（図I-7-3-1）

【図I-7-3-1 人権侵害を受けた場面別 人権が傷つけられるような発言をされた時の対応】



### 3 自由意見

問25 人権問題の解決について日頃から考えておられることや感じておられることがあれば自由にお書きください。

「人権」に関する意見については、178人から258件の自由記述が寄せられました。

分類		件数
人権問題について	部落差別（同和問題）	20
	子どもの人権	10
	外国人の人権	9
	高齢者の人権	7
	障がい者の人権	5
	性的マイノリティの人権	1
	人権問題について 計	52
人権問題への意識	教育・啓発・広報	53
	人権問題に対する意識	40
	他者への配慮による働きかけ	21
	差別がなくなるのは難しい	19
	差別がない社会になってほしい	10
	人権問題への意識 計	143
その他	行政に対する要望	16
	就労に関すること	7
	格差	6
	相談窓口	4
	男女別に役割があることについて	4
	インターネットやメディア等情報社会のあり方	2
	アンケートについて	12
	その他	12
	その他意見 計	63
総計	258	



## Ⅱ-2 小学6年生・中学3年生調査

### 1 単純集計結果

#### 〔1〕自分自身のことや周りの人との関係

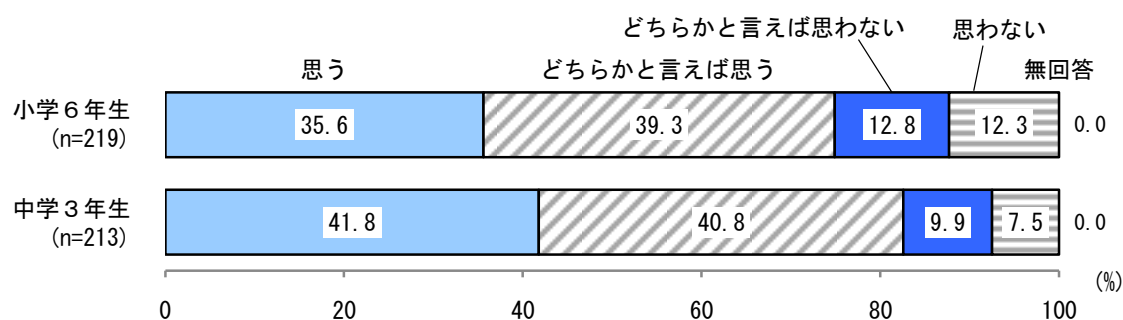
##### (1) 自分によいところがあると思うか

問1 自分にはよいところがあると思いますか。(○は1つ)

小学6年生では、「どちらかと言えば思う」が39.3%と最も高く、次いで「思う」が35.6%、「どちらかと言えば思わない」が12.8%となっています。(図Ⅱ-1-1)

中学3年生では、「思う」が41.8%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が40.8%、「どちらかと言えば思わない」が9.9%となっています。(図Ⅱ-1-1)

【図Ⅱ-1-1 自分によいところがあると思うか】



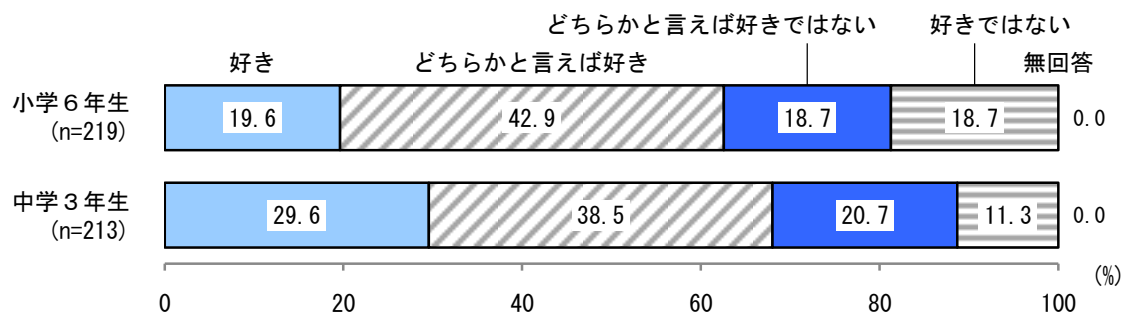
##### (2) 自分のことが好きか

問2 自分のことが好きですか。(○は1つ)

小学6年生では、「どちらかと言えば好き」が42.9%と最も高く、次いで「好き」が19.6%、「どちらかと言えば好きではない」「好きではない」が18.7%となっています。(図Ⅱ-1-2)

中学3年生では、「どちらかと言えば好き」が38.5%と最も高く、次いで「好き」が29.6%、「どちらかと言えば好きではない」が20.7%となっています。(図Ⅱ-1-2)

【図Ⅱ-1-2 自分のことが好きか】



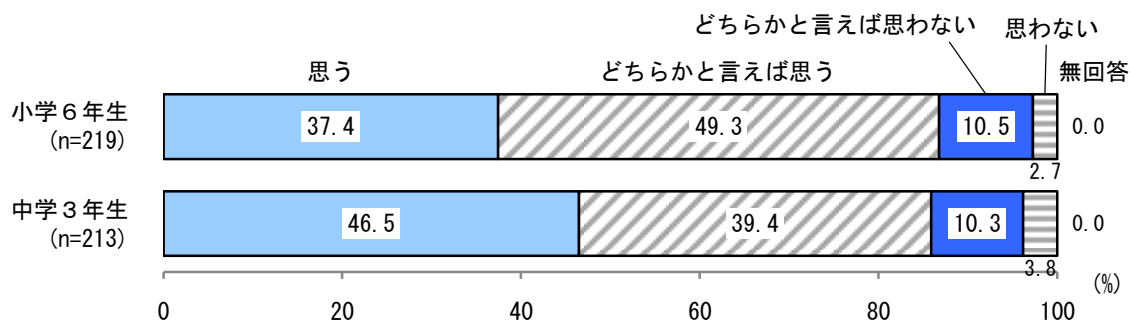
(3) 困難な問題にぶつかっても自分で解決しようと思うか

問3 困難な問題にぶつかっても自分なりに解決しよう（小6：むずかしいことでも自分で解決しよう）と思いますか。（○は1つ）

小学6年生では、「どちらかと言えば思う」が49.3%と最も高く、次いで「思う」が37.4%、「どちらかと言えば思わない」が10.5%となっています。（図Ⅱ-1-3）

中学3年生では、「思う」が46.5%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が39.4%、「どちらかと言えば思わない」が10.3%となっています。（図Ⅱ-1-3）

【図Ⅱ-1-3 困難な問題にぶつかっても自分で解決しようと思うか】



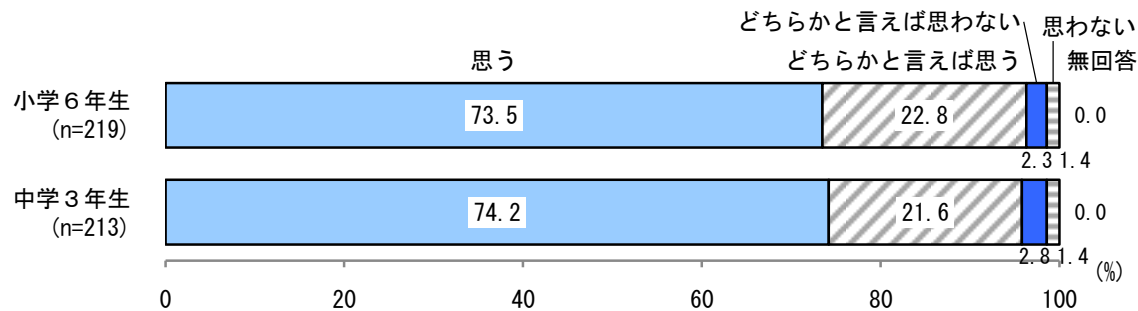
(4) 人の役に立つ人間になりたいと思うか

問4 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。（○は1つ）

小学6年生では、「思う」が73.5%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が22.8%、「どちらかと言えば思わない」が2.3%となっています。（図Ⅱ-1-4）

中学3年生では、「思う」が74.2%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が21.6%、「どちらかと言えば思わない」が2.8%となっています。（図Ⅱ-1-4）

【図Ⅱ-1-4 人の役に立つ人間になりたいと思うか】



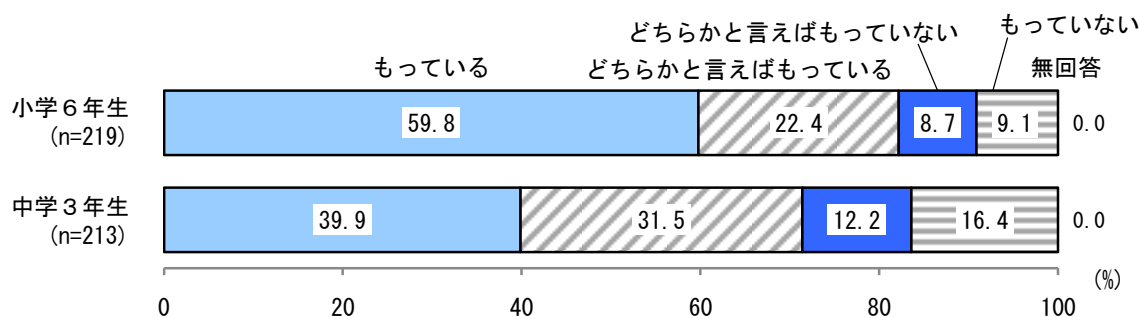
(5) 将来の夢や目標

問5 将来の夢や目標をもっていますか。(○は1つ)

小学6年生では、「もっている」が59.8%と最も高く、次いで「どちらかと言えどもっている」が22.4%、「もっていない」が9.1%となっています。(図Ⅱ-1-5)

中学3年生では、「もっている」が39.9%と最も高く、次いで「どちらかと言えどもっている」が31.5%、「もっていない」が16.4%となっています。(図Ⅱ-1-5)

【図Ⅱ-1-5 将来の夢や目標】



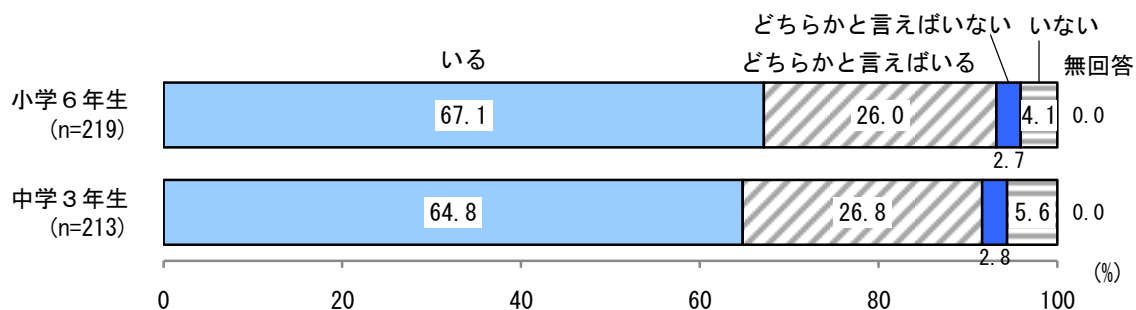
(6) 悩みの相談相手の有無

問6 悩みを相談できる人がいますか。(○は1つ)

小学6年生では、「いる」が67.1%と最も高く、次いで「どちらかと言えばいる」が26.0%、「いない」が4.1%となっています。(図Ⅱ-1-6)

中学3年生では、「いる」が64.8%と最も高く、次いで「どちらかと言えばいる」が26.8%、「いない」が5.6%となっています。(図Ⅱ-1-6)

【図Ⅱ-1-6 悩みの相談相手の有無】

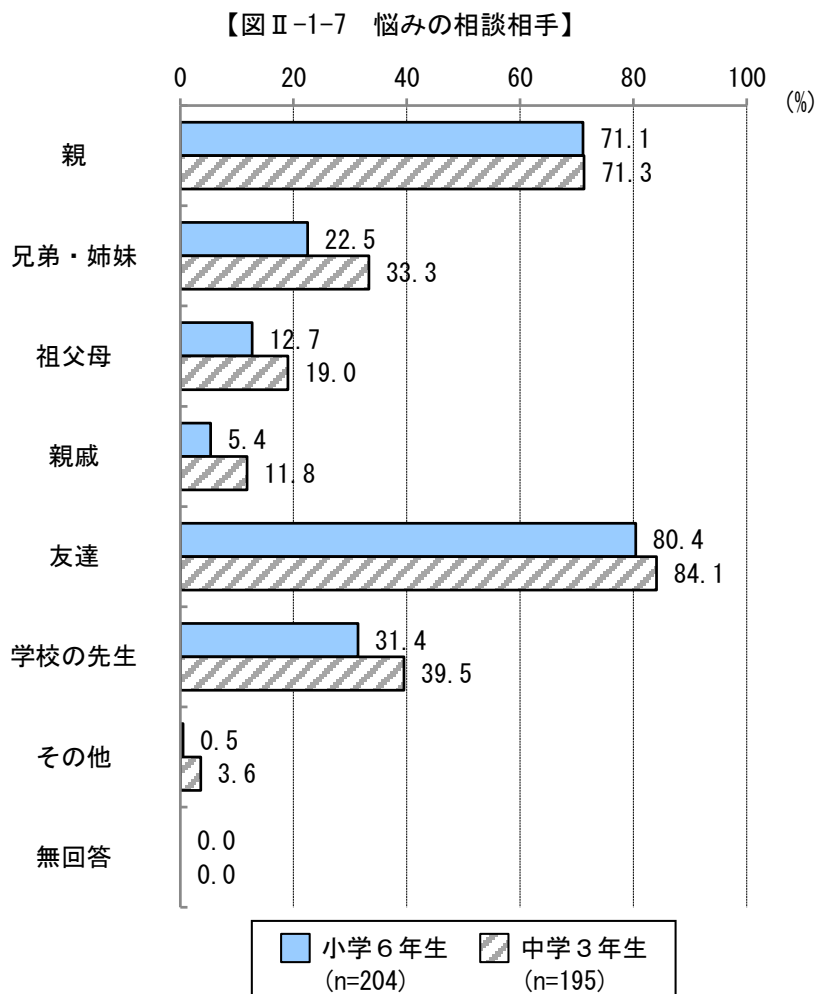


(7) 悩みの相談相手

問7 問6で、相談できる人が「いる」「どちらかと言えばいる」を選んだ人にお聞きします。相談できる人はどんな人ですか。(〇はいくつでも)

小学6年生では、「友だち」が80.4%と最も高く、次いで「親」が71.1%、「学校の先生」が31.4%となっています。(図Ⅱ-1-7)

中学3年生では、「友達」が84.1%と最も高く、次いで「親」が71.3%、「学校の先生」が39.5%となっています。(図Ⅱ-1-7)



その他 (小学6年生): 「ネット友」、「いとこ」等

その他 (中学3年生): 「習い事の先生方」、「ネット友」、「自分の心」等

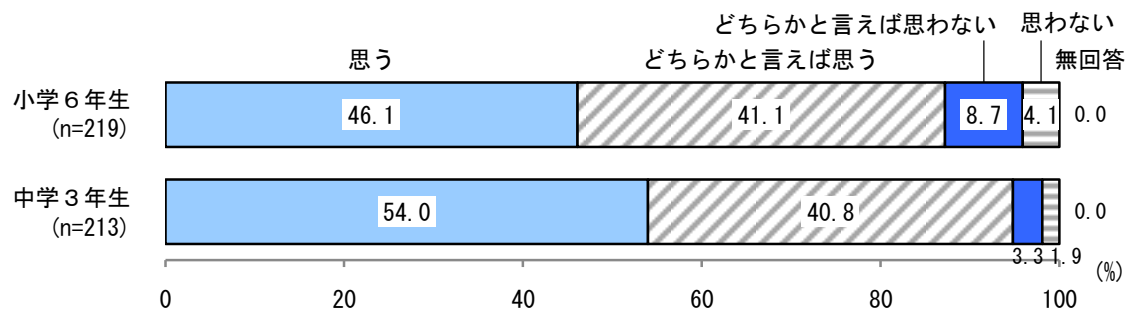
(8) 周りの人から大切にされていると思うか

問8 周りの人から自分が大切にされていると思いますか。(○は1つ)

小学6年生では、「思う」が46.1%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が41.1%、「どちらかと言えば思わない」が8.7%となっています。(図Ⅱ-1-8)

中学3年生では、「思う」が54.0%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が40.8%、「どちらかと言えば思わない」が3.3%となっています。(図Ⅱ-1-8)

【図Ⅱ-1-8 周りの人から大切にされていると思うか】



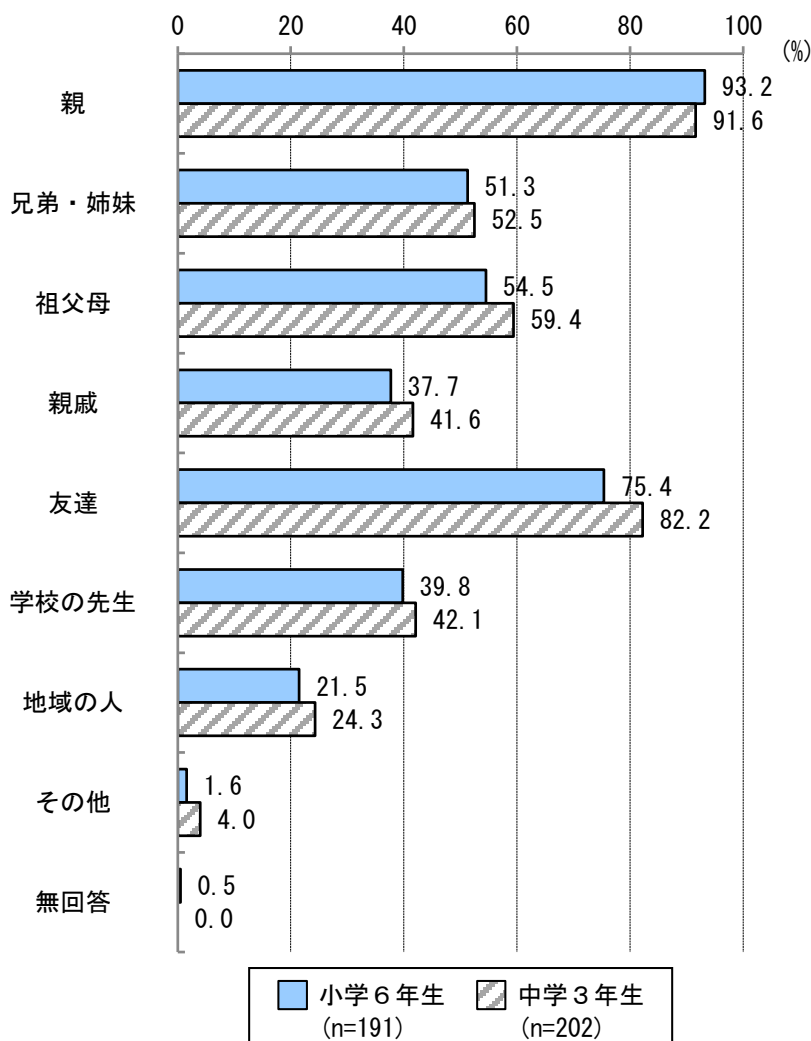
(9) 自身を大切にしてくれている人

問9 問8で、周りの人から大切にされていると「思う」「どちらかと言えば思う」を選んだ人にお聞きします。あなたを大切にしてくれていると思う人はどんな人ですか。(〇はいくつでも)

小学6年生では、「親」が93.2%と最も高く、次いで「友だち」が75.4%、「祖父母」が54.5%となっています。(図Ⅱ-1-9)

中学3年生では、「親」が91.6%と最も高く、次いで「友達」が82.2%、「祖父母」が59.4%となっています。(図Ⅱ-1-9)

【図Ⅱ-1-9 自身を大切にしてくれている人】



その他 (小学6年生) : 「ネット友」、「いとこ」等

その他 (中学3年生) : 「学校以外の先生」、「ネット友」等

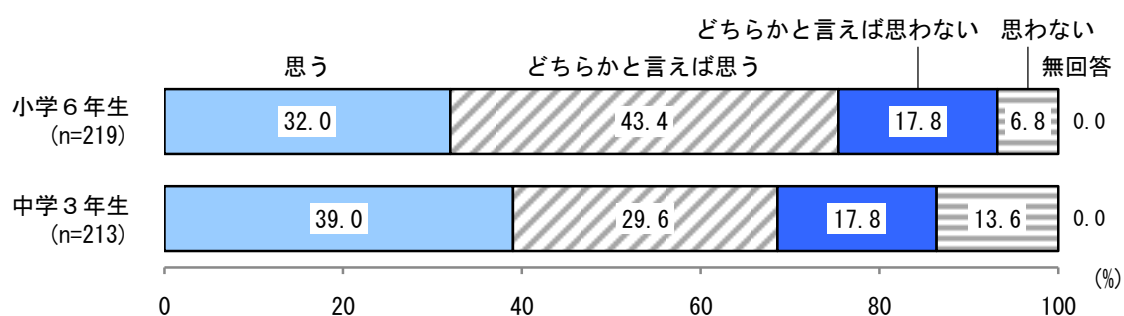
(10) だれとでも話ができるか

問10 だれとでも話ができるほうだと思いますか。(○は1つ)

小学6年生では、「どちらかと言えば思う」が43.4%と最も高く、次いで「思う」が32.0%、「どちらかと言えば思わない」が17.8%となっています。(図Ⅱ-1-10)

中学3年生では、「思う」が39.0%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が29.6%、「どちらかと言えば思わない」が17.8%となっています。(図Ⅱ-1-10)

【図Ⅱ-1-10 だれとでも話ができるか】



〔2〕 いじめや差別について

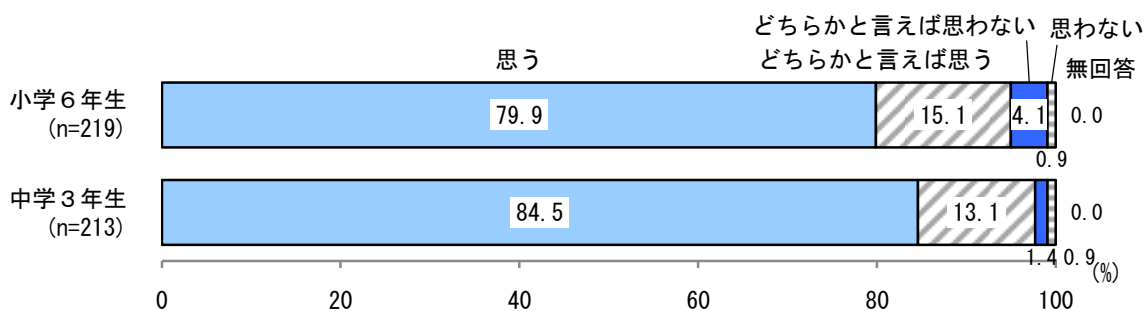
(1) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか

問11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(○は1つ)

小学6年生では、「思う」が79.9%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が15.1%、「どちらかと言えば思わない」が4.1%となっています。(図Ⅱ-2-1)

中学3年生では、「思う」が84.5%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が13.1%、「どちらかと言えば思わない」が1.4%となっています。(図Ⅱ-2-1)

【図Ⅱ-2-1 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか】



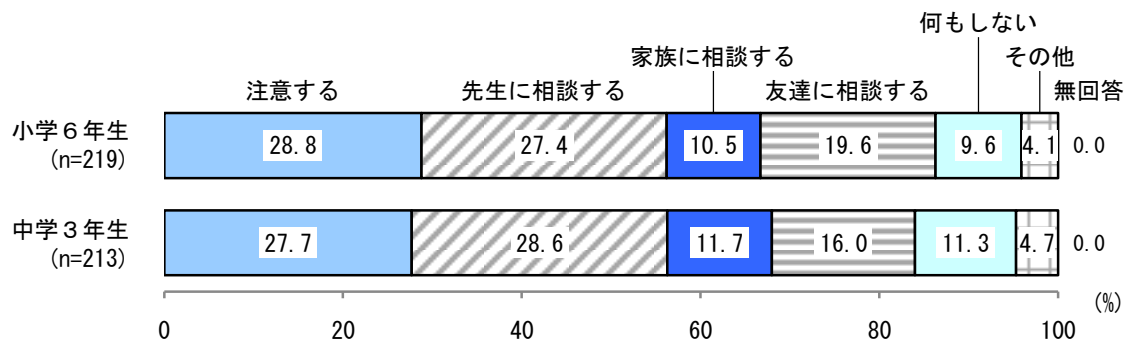
(2) いじめや差別を目撃したときにとる行動

問12 いじめや差別をしている場面を見た時、どんな行動をしたいと思いますか。(○は1つ)

小学6年生では、「注意する」が28.8%と最も高く、次いで「先生に相談する」が27.4%、「友だちに相談する」が19.6%となっています。(図Ⅱ-2-2)

中学3年生では、「先生に相談する」が28.6%と最も高く、次いで「注意する」が27.7%、「友だちに相談する」が16.0%となっています。(図Ⅱ-2-2)

【図Ⅱ-2-2 いじめや差別を目撃したときにとる行動】



その他 (小学6年生) : 「止めに入る」、「いじめをされた相手に、優しく声をかけてあげる」等  
 その他 (中学3年生) : 「相手に話をする」、「割り込む」、「いじめや差別を受ける人のケアも必要だと思うが、いじめや差別をしてしまう人のケアも必要だと思う」、「その時にならないとわからない」等



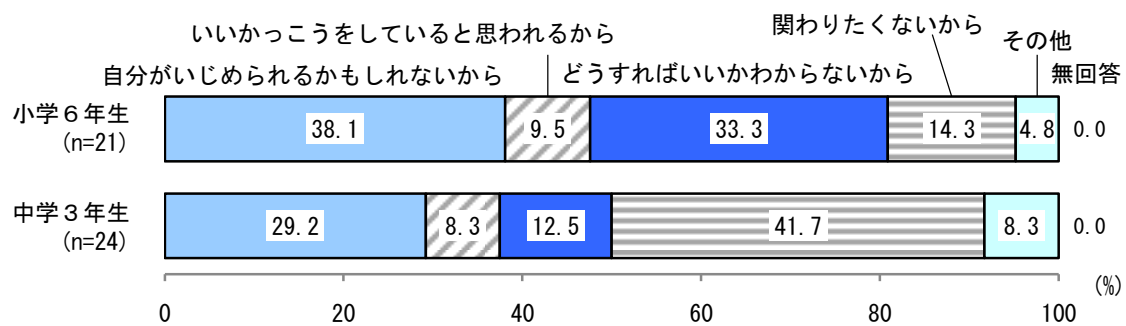
(3) いじめや差別を目撃したときに何もしない理由

問13 問12で、「何もしない」を選んだ人にお聞きします。どうしてそう思いますか。(〇は1つ)

小学6年生では、「自分がいじめられるかもしれないから」が38.1%と最も高く、次いで「どうすればいいかわからないから」が33.3%、「自分とは関係ないから」が14.3%となっています。(図Ⅱ-2-3)

中学3年生では、「関わりたくないから」が41.7%と最も高く、次いで「自分がいじめられるかもしれないから」が29.2%、「どうすればいいかわからないから」が12.5%となっています。(図Ⅱ-2-3)

【図Ⅱ-2-3 いじめや差別を目撃したときに何もしない理由】



その他 (小学6年生): 「自分がいじめられたら怖い」、「何をやっても意味がないから」

その他 (中学3年生): 「咄嗟に自分に自信は持たせられないからその場ではきっと何もできないと思う。先生を呼ぶくらいはできると思う。」、「人による」

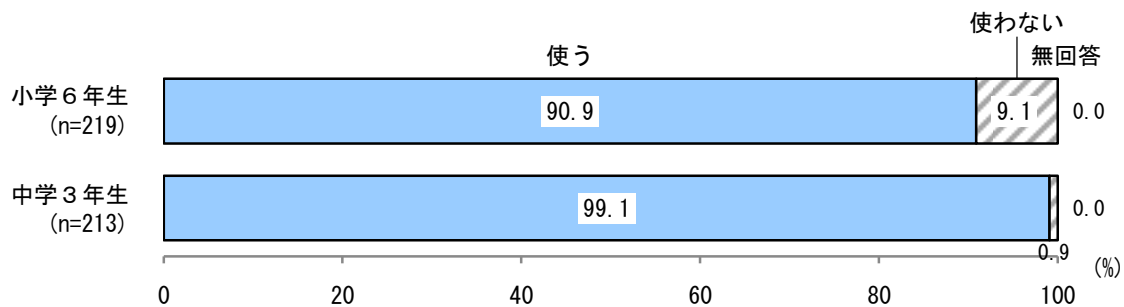
〔3〕インターネットの使用

(1) 学校以外でのインターネットの使用状況

問14 学校以外でインターネット（携帯電話のメール・LINE等を含む）を使いますか。（○は1つ）

小学6年生では、「使う」が90.9%、「使わない」が9.1%となっています。（図Ⅱ-3-1）  
中学3年生では、「使う」が99.1%、「使わない」が0.9%となっています。（図Ⅱ-3-1）

【図Ⅱ-3-1 学校以外でのインターネットの使用状況】



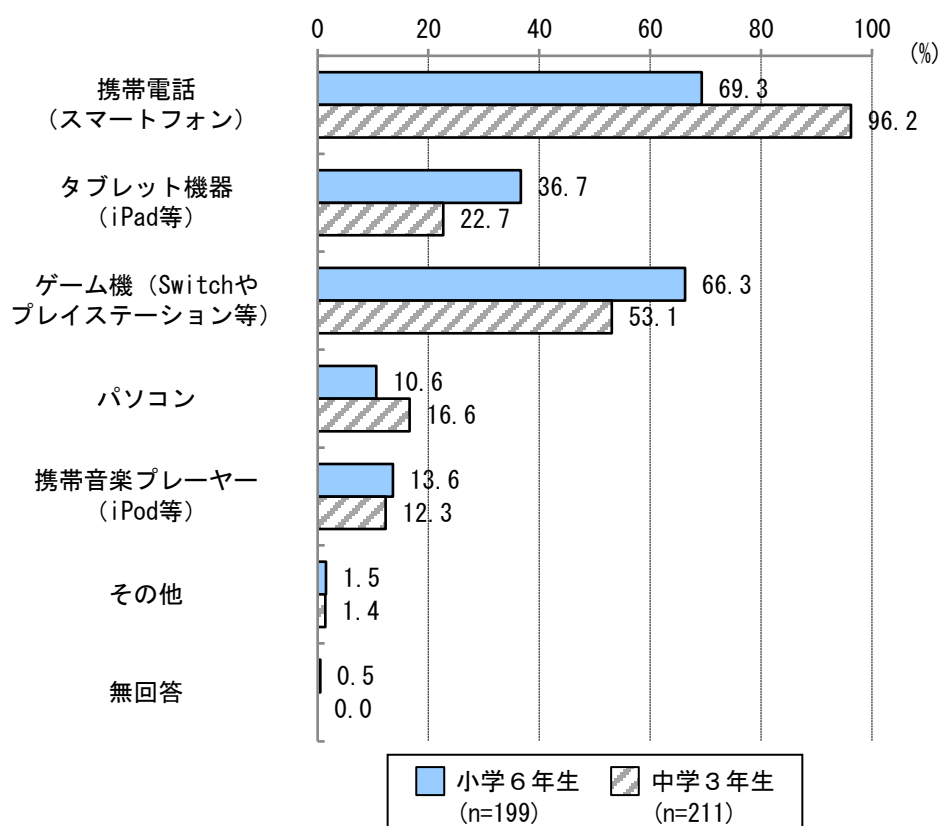
(2) インターネット利用時に使う機器

問15 問14で、「使う」を選んだ人にお聞きします。何を使ってインターネットを利用しますか。(〇はいくつでも)

小学6年生では、「携帯電話(スマートフォン)」が69.3%と最も高く、次いで「ゲーム機(Switchやプレイステーションなど)」が66.3%、「タブレット機器(iPadなど)」が36.7%となっています。(図Ⅱ-3-2)

中学3年生では、「携帯電話(スマートフォン)」が96.2%と最も高く、次いで「ゲーム機(Switchやプレイステーション等)」が53.1%、「タブレット機器(iPad等)」が22.7%となっています。(図Ⅱ-3-2)

【図Ⅱ-3-2 インターネット利用時に使う機器】



その他(小学6年生):「テレビ(有料チャンネル)」等

その他(中学3年生):「時計」等

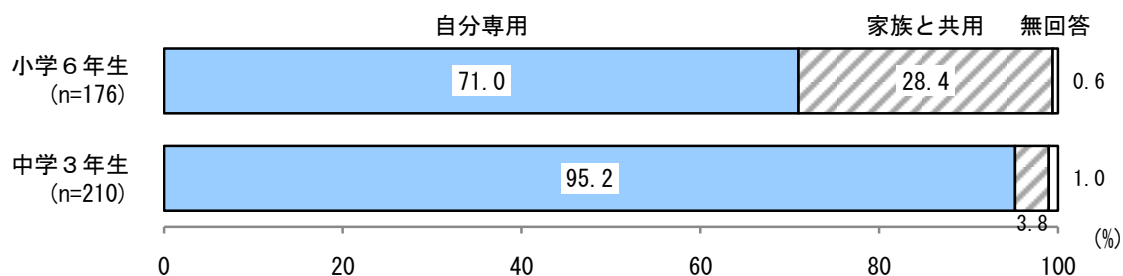
(3) インターネット接続機器の使用者

問16 問15で「携帯電話（スマートフォン）」、「タブレット機器（iPadなど）」を選んだ人にお聞きします。それは次のうちどれですか。（○は1つ）

小学6年生では、「自分専用」が71.0%、「家族といっしょに使用」が28.4%となっています。（図Ⅱ-3-3）

中学3年生では、「自分専用」が95.2%、「家族と共用」が3.8%となっています。（図Ⅱ-3-3）

【図Ⅱ-3-3 インターネット接続機器の使用者】



※小学生用調査票では、「家族と共用」は「家族と一緒に使用」としている。

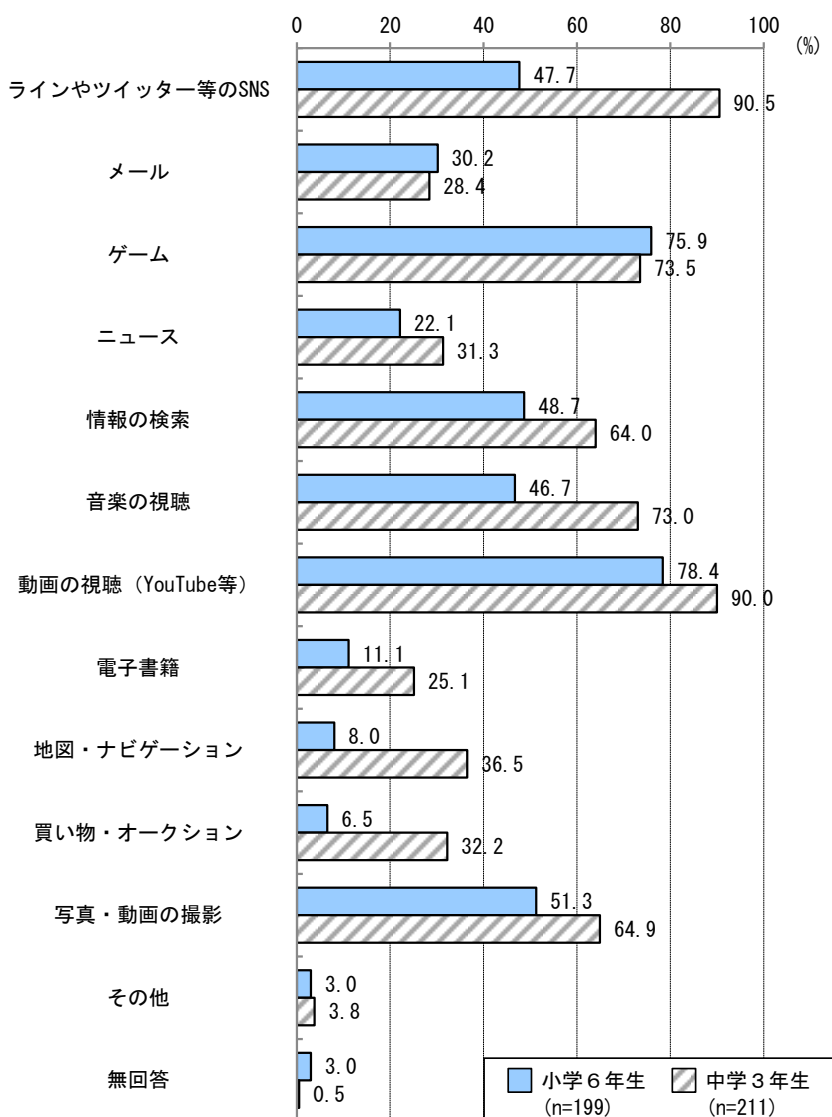
(4) インターネットの利用目的

問17 問14で、「使う」を選んだ人にお聞きします。インターネットを何に使っていますか。  
(○はいくつでも)

小学6年生では、「動画を見る (YouTubeなど)」が78.4%と最も高く、次いで「ゲームをする」が75.9%、「写真・動画をとる」が51.3%となっています。(図Ⅱ-3-4)

中学3年生では、「ラインやツイッター等のSNS」が90.5%と最も高く、次いで「動画の視聴 (YouTube等)」が90.0%、「ゲーム」が73.5%となっています。(図Ⅱ-3-4)

【図Ⅱ-3-4 インターネットの利用目的】



※小学生用調査票では、「情報の検索」は「情報を調べる」、「音楽の視聴」は「音楽を聞く」、「動画の視聴」は「動画を見る」、「電子書籍」は「本 (小説など) やマンガを読む」、「買い物・オークション」は「買い物をする」、「写真・動画の撮影」は「写真・動画をとる」としている。

その他 (小学6年生): 「イラストを描く」、「通信教育に使っている (勉強)」等  
 その他 (中学3年生): 「イラストの検索」、「英単語などのアプリによる学習」、「小説や漫画を読んだり、絵を描く」等

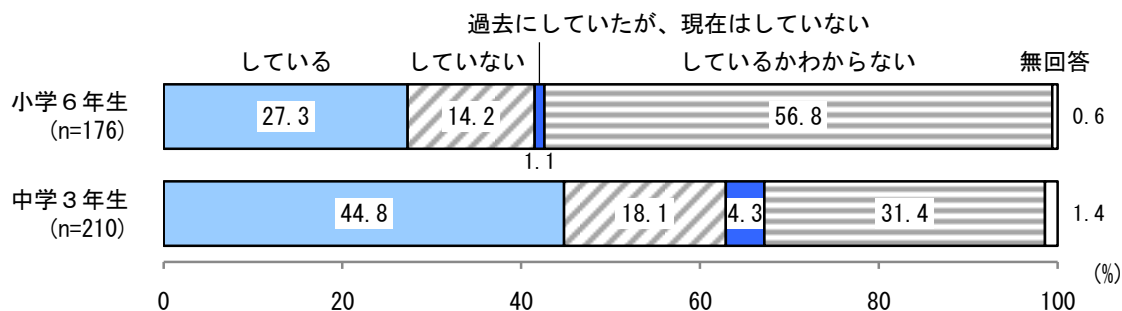
(5) フィルタリングの設定

問18 問15で、「携帯電話（スマートフォン）」「タブレット機器」を選んだ人にお聞きします。その機器にフィルタリングをしていますか。（○は1つ）

小学6年生では、「しているかわからない」が56.8%と最も高く、次いで「している」が27.3%、「していない」が14.2%となっています。（図Ⅱ-3-5）

中学3年生では、「している」が44.8%と最も高く、次いで「しているかわからない」が31.4%、「していない」が18.1%となっています。（図Ⅱ-3-5）

【図Ⅱ-3-5 フィルタリングの設定】



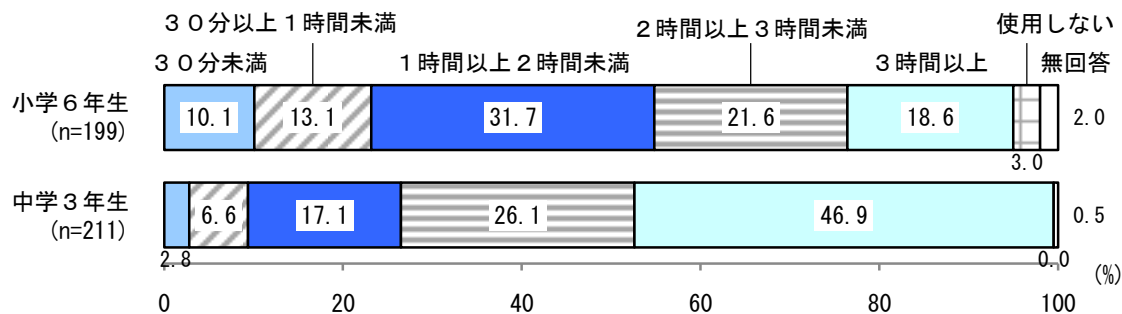
(6) 平日のインターネットの使用時間

問19 問14で、「使う」を選んだ人にお聞きします。平日に平均してどれくらいの時間、インターネットを使いますか。[勉強の利用以外で]  
 （小6：平日の放課後に、勉強以外で、1日どれくらいの時間、インターネットを使いますか。）（○は1つ）

小学6年生では、「1時間以上2時間未満」が31.7%と最も高く、次いで「2時間以上3時間未満」が21.6%、「3時間以上」が18.6%となっています。（図Ⅱ-3-6）

中学3年生では、「3時間以上」が46.9%と最も高く、次いで「2時間以上3時間未満」が26.1%、「1時間以上2時間未満」が17.1%となっています。（図Ⅱ-3-6）

【図Ⅱ-3-6 平日のインターネットの使用時間】

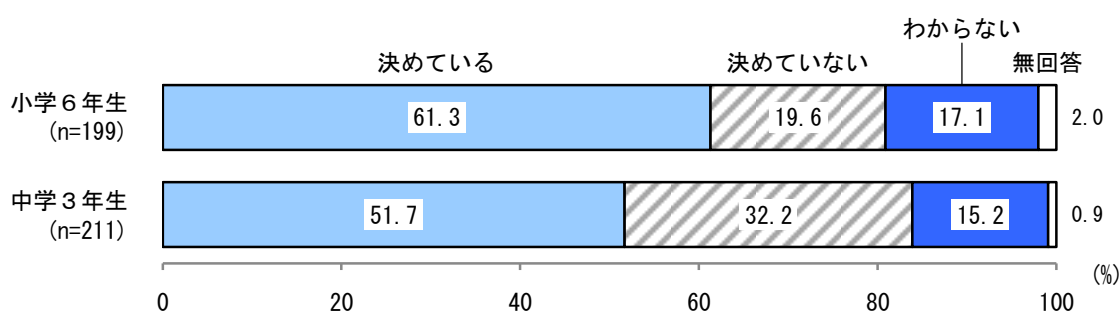


(7) インターネット使用時のルール

問20 問14で、「使う」を選んだ人にお聞きします。携帯電話・スマートフォン・インターネット接続機器を使用する上で、家族と約束事やルールを決めていますか。  
 (小6：インターネットを利用するときの約束やルールをお家の人と決めていますか。)(○は1つ)

小学6年生では、「決めている」が61.3%と最も高く、次いで「決めていない」が19.6%、「わからない」が17.1%となっています。(図Ⅱ-3-7)  
 中学3年生では、「決めている」が51.7%と最も高く、次いで「決めていない」が32.2%、「わからない」が15.2%となっています。(図Ⅱ-3-7)

【図Ⅱ-3-7 インターネット使用時のルール】

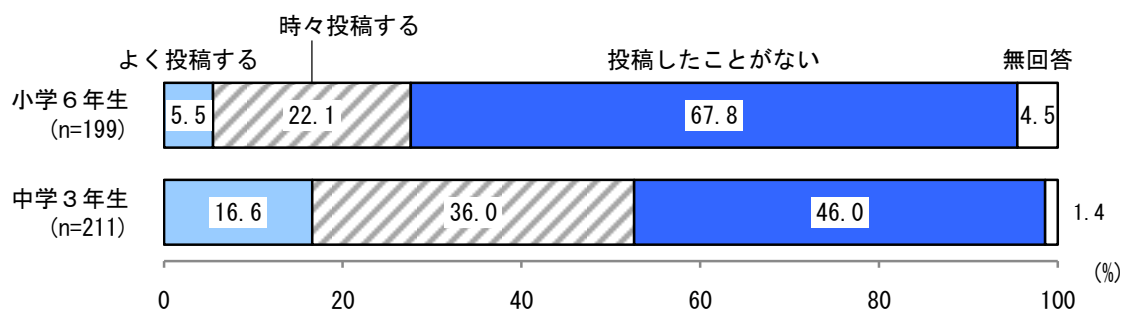


(8) 投稿した経験

問21 問14で、「使う」を選んだ人にお聞きします。携帯電話・スマートフォンを使って投稿をしたことはありますか。また、投稿する媒体は何ですか。(○は1つ)

小学6年生では、「投稿したことがない」が67.8%と最も高く、次いで「時々投稿する」が22.1%、「よく投稿する」が5.5%となっています。(図Ⅱ-3-8)  
 中学3年生では、「投稿したことがない」が46.0%と最も高く、次いで「時々投稿する」が36.0%、「よく投稿する」が16.6%となっています。(図Ⅱ-3-8)

【図Ⅱ-3-8 投稿した経験】



具体的な媒体名 (小学6年生) : 「LINE」、「Instagram」、「TikTok」、「ゲームの投稿機能」等  
 具体的な媒体名 (中学3年生) : 「LINE」、「Instagram」、「Twitter」、「TikTok」等

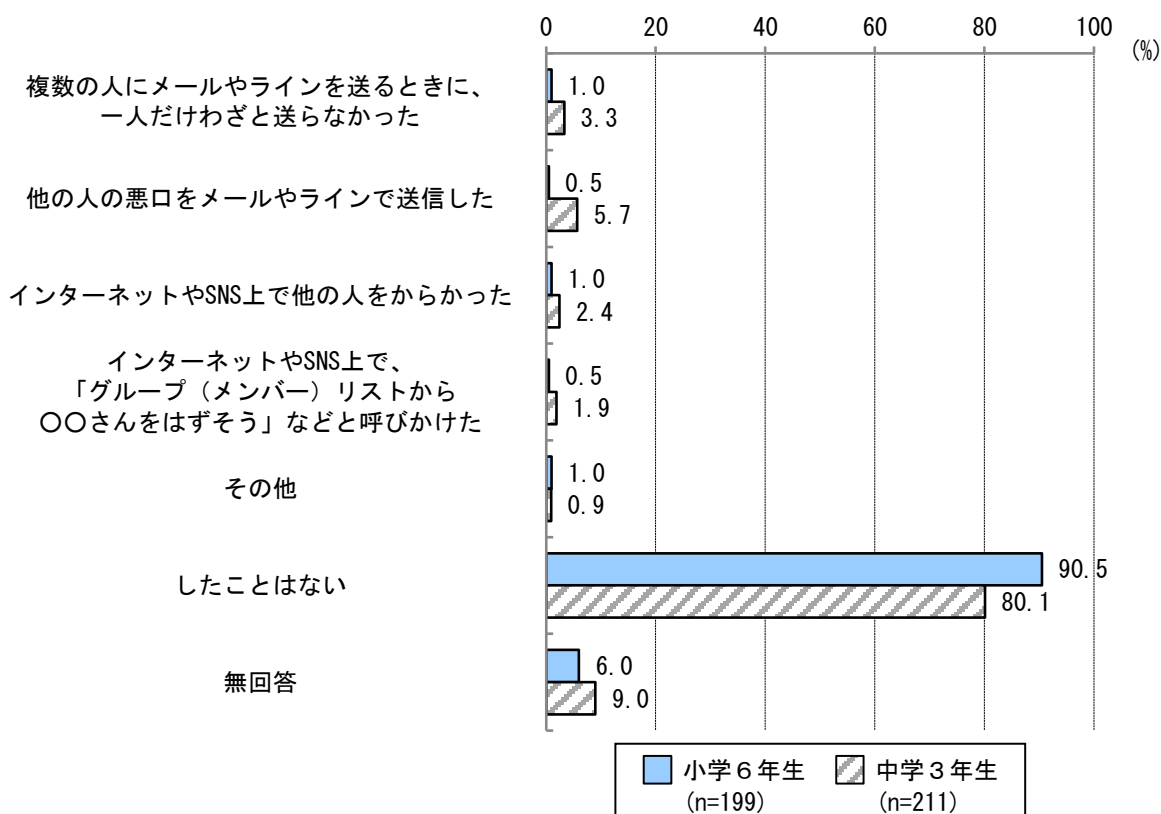
(9) インターネットを使ってしたことがあること

問22 問14で、「使う」を選んだ人にお聞きします。インターネットを使って、次のようなことをしたことがありますか。(○はいくつでも)

小学6年生では、「したことはない」が90.5%と最も高く、次いで「たくさんの人にメールやラインを送るときに、一人だけわざと送らなかった」、「インターネットやSNS上で他の人をからかった」が1.0%、「他の人の悪口をメールやラインで送った」「インターネットやSNS上で、「グループ(メンバー)リストから〇〇さんはずそう」と呼びかけた」が0.5%となっています。(図Ⅱ-3-9)

中学3年生では、「したことはない」が80.1%と最も高く、次いで「他の人の悪口をメールやラインで送信した」が5.7%、「複数の人にメールやラインを送るときに、一人だけわざと送らなかった」が3.3%となっています。(図Ⅱ-3-9)

【図Ⅱ-3-9 インターネットを使ってしたことがあること】



※小学生用調査票では、「複数の人にメールやラインを送るときに、一人だけわざと送らなかった」は「たくさんの人にメールやラインを送るときに、一人だけわざと送らなかった」、「他の人の悪口をメールやラインで送信した」は「他の人の悪口をメールやラインで送った」としている。

その他 (小学6年生) : 「ゲーム」、「勉強に関する調べ」  
 その他 (中学3年生) : 「プレゼントを送った」等



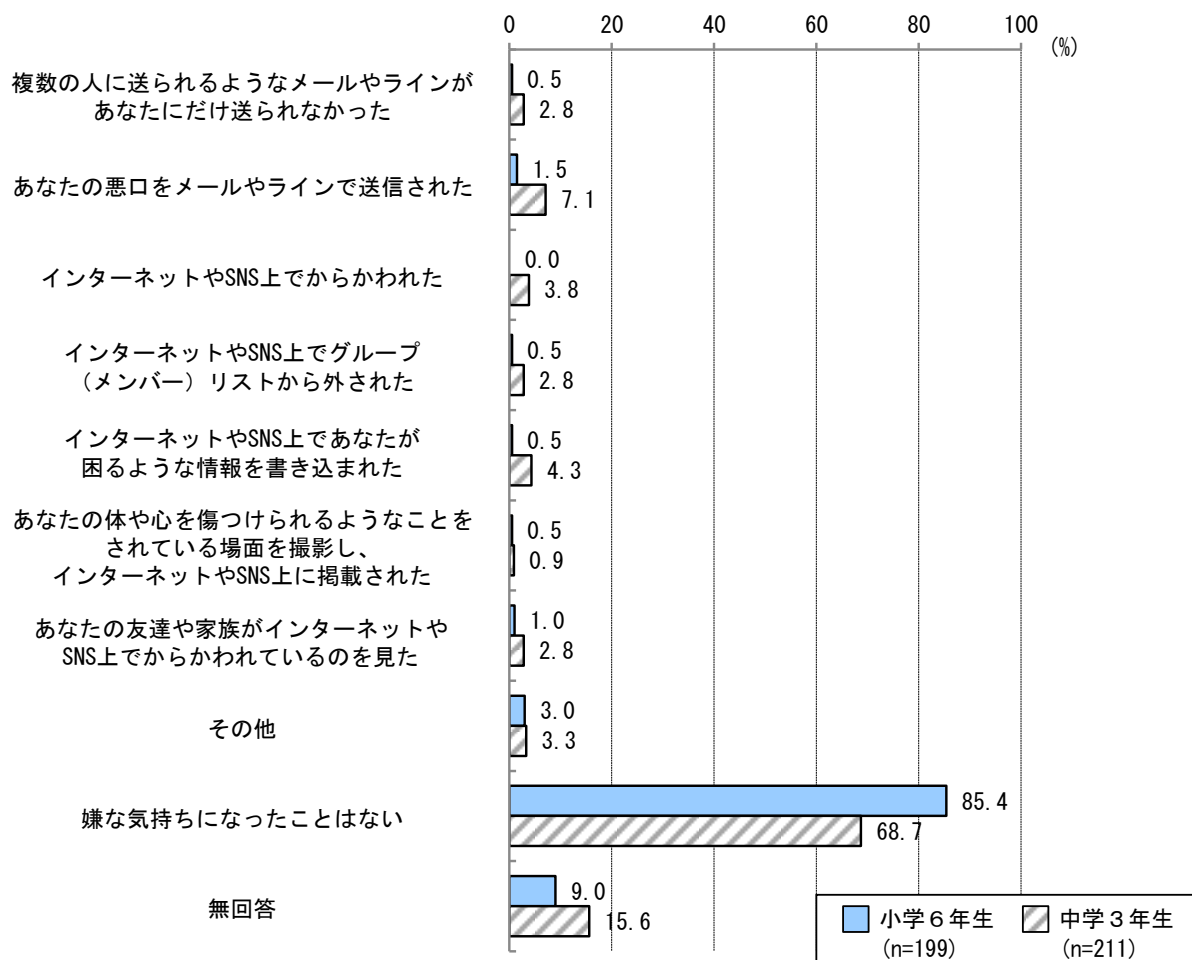
(10) インターネットを使ってされたことがあること

問23 問14で、「使う」を選んだ人にお聞きします。インターネットを使って、次のようなことをされたことがありますか。  
 (小6：インターネットを使っていて、いやな気持ちになったことはありますか。)  
 (○はいくつでも)

小学6年生では、「いやな気持ちになったことはない」が85.4%と最も高く、次いで「あなたの悪口をメールやラインで送信された」が1.5%となっています。(図Ⅱ-3-10)

中学3年生では、「嫌な気持ちになったことはない」が68.7%と最も高く、次いで「あなたの悪口をメールやラインで送信された」が7.1%、「インターネットやSNS上であなたが困るような情報を書き込まれた」が4.3%となっています。(図Ⅱ-3-10)

【図Ⅱ-3-10 インターネットを使ってされたことがあること】



※小学生用調査票では、「インターネットやSNS上であなたが困るような情報を書き込まれた」は「インターネットやSNS上であなたがこまるようなことを書き込まれた」、「あなたの体や心を傷つけられるようなことをされている場面を撮影し、インターネットやSNS上に掲載された」は「あなたの体や心を傷つけられるようなことをされている場面をさつえいしインターネットやSNS上にのせられた」としている。

その他 (小学6年生) : 「LINEで何も言わずにグループから抜けられていつの間にか1人になっていた」等

その他 (中学3年生) : 「顔がはっきり写ってる写真を載せられていたのを見たことがある」等

〔4〕さまざまな人権に関する考え方

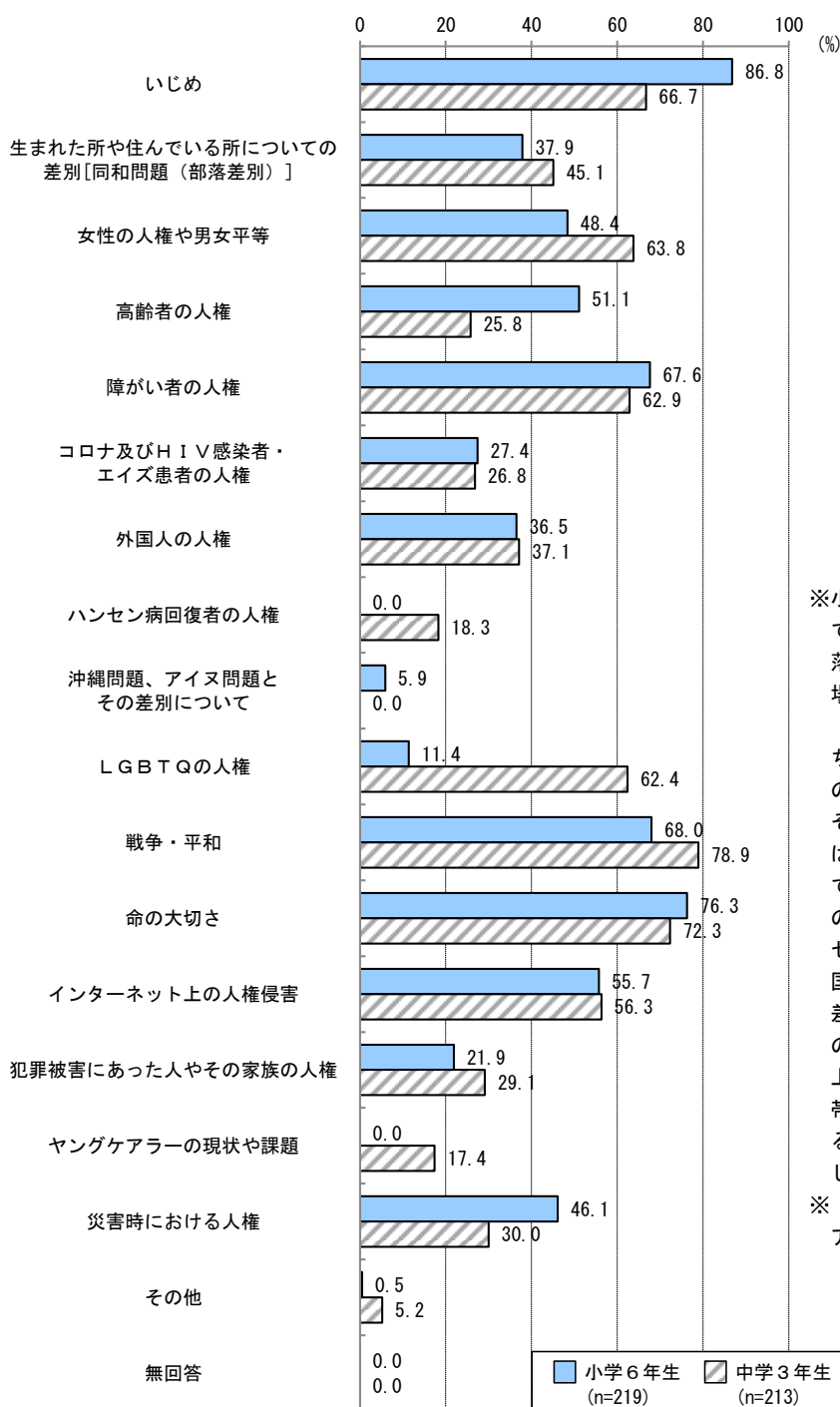
(1) 学習したことのある内容

問24 今通っている学校での授業で学習した内容を選んでください。  
 (小6：今まで学校の授業で学習したものを選んでください。)(○はいくつでも)

小学6年生では、「いじめについて」が86.8%と最も高く、次いで「命の大切さについて」が76.3%、「戦争・平和について」が68.0%となっています。(図Ⅱ-4-1)

中学3年生では、「戦争・平和」が78.9%と最も高く、次いで「命の大切さ」が72.3%、「いじめ」が66.7%となっています。(図Ⅱ-4-1)

【図Ⅱ-4-1 学習したことのある内容】



※小学生用調査票では、「生まれた所や住んでいる所についての差別[同和問題(部落差別)]」は「生まれた場所や住んでいる場所のちがいで差別することについて」、「女性の人権や男女平等」は「男と女のちがいや、その差別について」、「高齢者の人権」は「高齢者と共に生きることや、その人権について」、「障がい者の人権」は「障がいのある人や、その差別について」、「コロナ及びHIV感染者・エイズ患者の人権」は「コロナやHIV・エイズ、ハンセン病のことや、その差別について」、「外国人の人権」は「外国人のことや、その差別について」、「LGBTQの人権」は「LGBTQのことや、その差別」、「インターネット上の人権侵害」は「インターネットや携帯電話の差別について」、「災害時における人権」は「災害時の人権について」としている。  
 ※「ハンセン病回復者の人権」・「ヤングケアラーの現状や課題」は中学生調査のみ。

(2) 家事は女の人ができるものと言われたときの対応

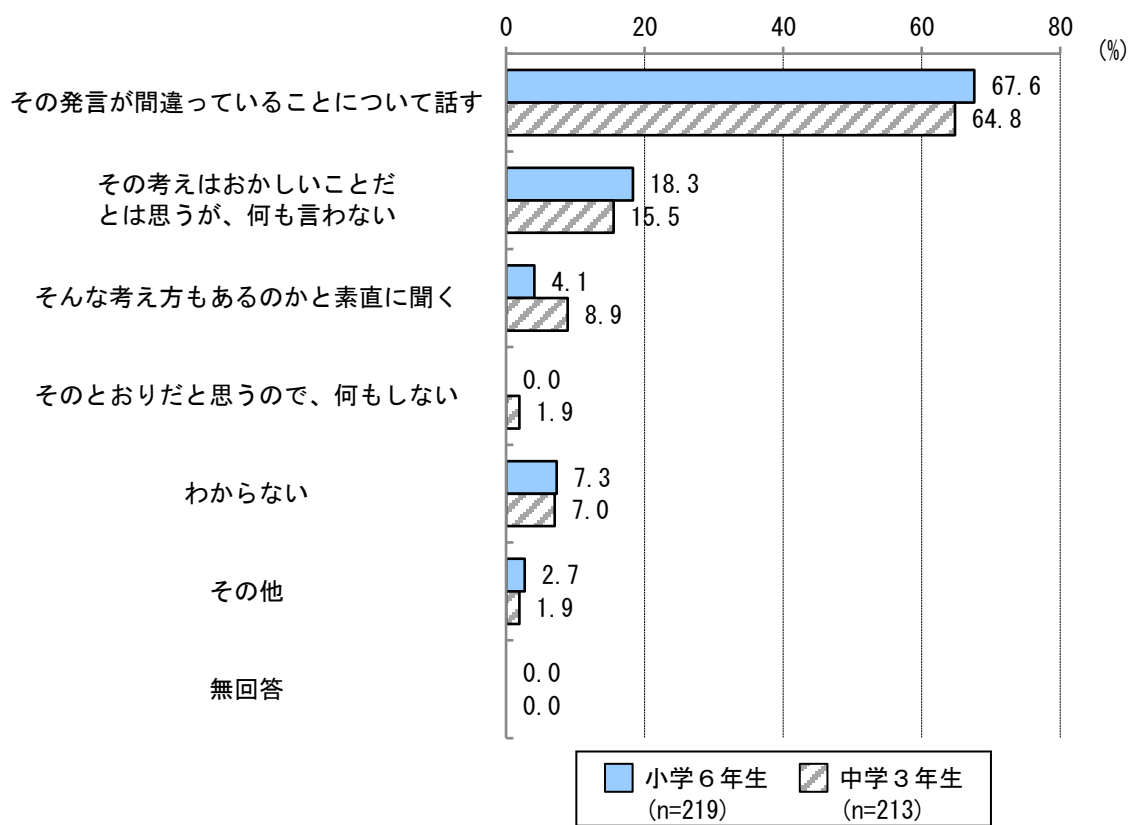
問25 「家事（炊事・洗濯・掃除）は女性がするもの」と言われました。その時どうしますか。

（小6：「食事の用意やせんたく、そうじは女の人ができるもの」と言われました。その時あなたはどうしますか。）（○は1つ）

小学6年生では、「その発言がまちがっていることについて話す」が67.6%と最も高く、次いで「その考えはおかしいことだとは思いますが、何も言わない」が18.3%、「わからない」が7.3%となっています。（図Ⅱ-4-2）

中学3年生では、「その発言が間違っていることについて話す」が64.8%と最も高く、次いで「その考えはおかしいことだとは思いますが、何も言わない」が15.5%、「そんな考え方もあるのかと素直に聞く」が8.9%となっています。（図Ⅱ-4-2）

【図Ⅱ-4-2 家事は女の人ができるものと言われたときの対応】



その他（小学6年生）：「素直に聞いた上で自分の意見もいう」、「その人とは離れる」、「人次第」等

その他（中学3年生）：「相手の考え方を否定はしないけど自分の意見を言う」、「自由で良いと思う」等

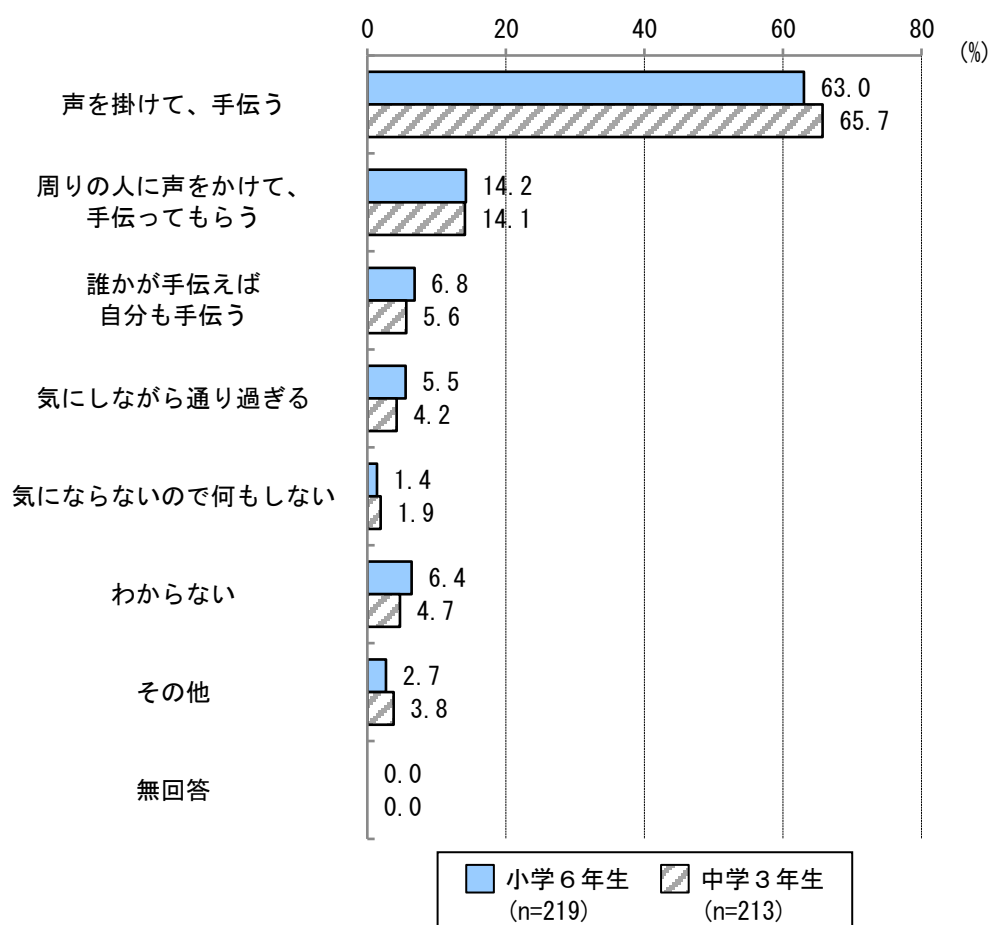
(3) 車イスにのった人が困っているときにとる行動

問26 車イスにのった人が、道に段差があって進めなくてこまっています。その時あなたは  
 どうしますか。(〇は1つ)

小学6年生では、「声をかけて、手伝う」が63.0%と最も高く、次いで「周りの人に声をかけて、手伝ってもらう」が14.2%、「だれかが手伝えば、自分も手伝う」が6.8%となっています。(図Ⅱ-4-3)

中学3年生では、「声を掛けて、手伝う」が65.7%と最も高く、次いで「周りの人に声をかけて、手伝ってもらう」が14.1%、「誰かが手伝えば自分も手伝う」が5.6%となっています。(図Ⅱ-4-3)

【図Ⅱ-4-3 車いすにのった人が困っているときにとる行動】



その他 (小学6年生) : 「周りの人と一緒に手伝う」、「自分の力だけではできないと思うから、周りの人にも声をかけて、その人と一緒に手伝う」等  
 その他 (中学3年生) : 「誰も手伝おうとしないなら手伝う」、「自分だけだと難しいので周りの人にも手伝ってもらう」等

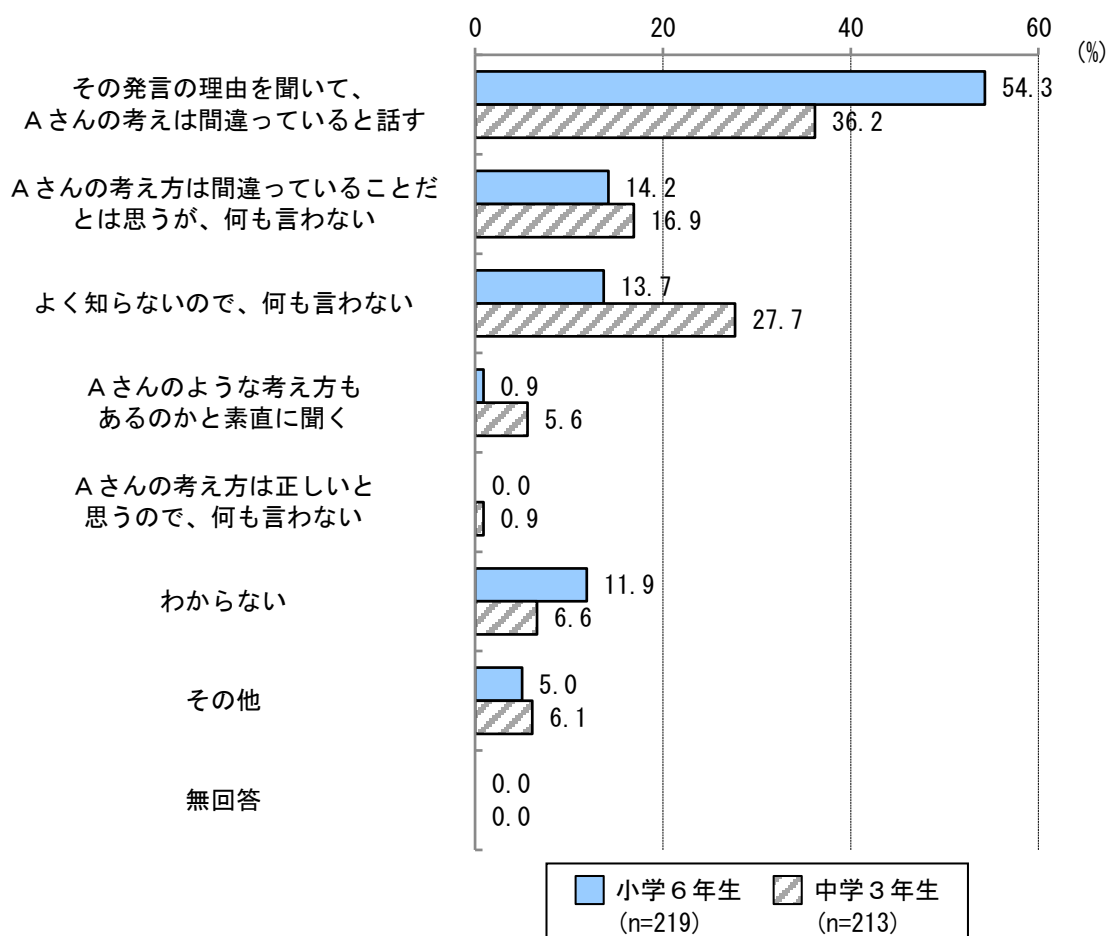
(4) 町の名前で差別する発言を聞いたときにとる行動

問27 Aさんから、「〇〇町に住んでいる人とは関わらない方がいいよ。」と言われました。その時あなたはどうしますか。(〇は1つ)

小学6年生では、「その発言の理由を聞いて、Aさんの考えはまちがっていると話す」が54.3%と最も高く、次いで「Aさんの考え方はおかしいことだとは思いますが、何も言わない」が14.2%、「よく知らないので、何も言わない」が13.7%となっています。(図Ⅱ-4-4)

中学3年生では、「その発言の理由を聞いて、Aさんの考えは間違っていると話す」が36.2%と最も高く、次いで「よく知らないので、何も言わない」が27.7%、「Aさんの考え方は間違っていることだとは思いますが、何も言わない」が16.9%となっています。(図Ⅱ-4-4)

【図Ⅱ-4-4 町の名前で差別する発言を聞いたときにとる行動】



その他 (小学6年生) : 「理由を聞く」、「その発言を聞いて自分で決める」、「理由を聞いてAさんのいないところで関わる」等

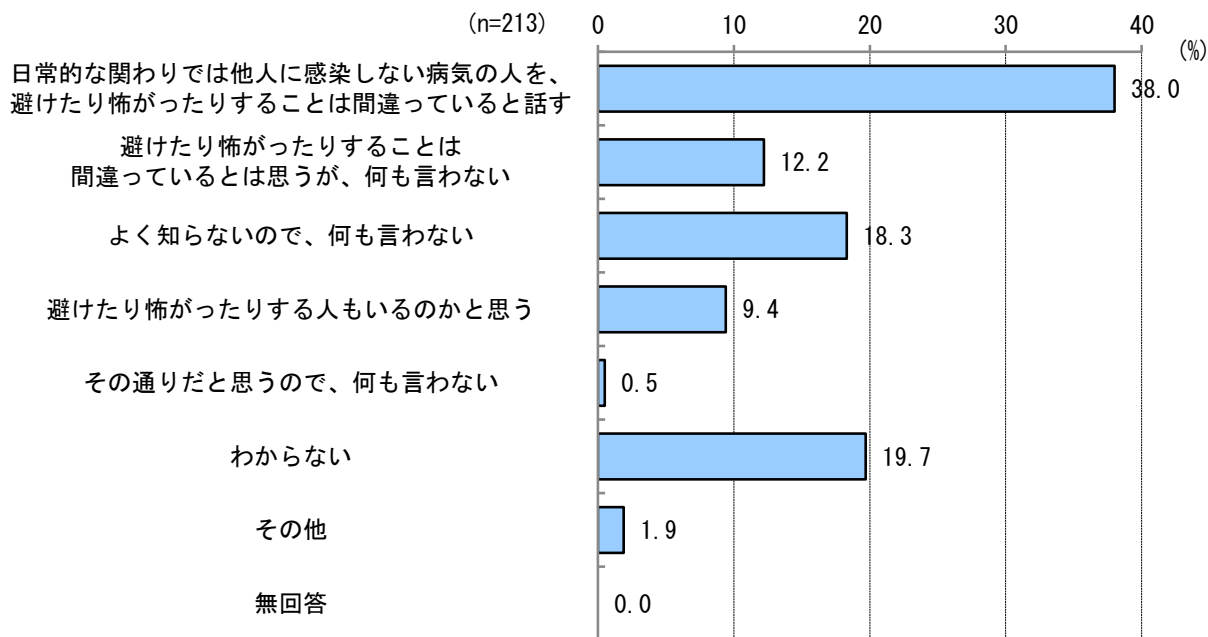
その他 (中学3年生) : 「自分の目で見て判断するから気にしない」、「理由を聞く」、「警戒する」、「そんなことを言う人とは関わらない」等

(5) HIV感染者やハンセン病回復者の人を怖がる人がいたときにとる行動

問28 あなたの周りに、HIV感染者(エイズ患者)やハンセン病回復者の人を避けたり怖がったりする人がいました。その時あなたはどうしますか。(○は1つ)

中学3年生では、「日常的な関わりでは他人に感染しない病気の人を、避けたり怖がったりすることは間違っていると話す」が38.0%と最も高く、次いで「わからない」が19.7%、「よく知らないので、何も言わない」が18.3%となっています。(図Ⅱ-4-5)

【図Ⅱ-4-5 HIV感染者やハンセン病回復者の人を怖がる人がいたときにとる行動】



※HIV感染者やハンセン病回復者の人を怖がる人がいたときにとる行動に関する設問は中学生のみ。

その他 (中学3年生): 「その人が本当に怖がっていたのかもしれないから別に感染しないよ。とだけ話して否定しない。」「よくわからないから調べて教えてあげる」等

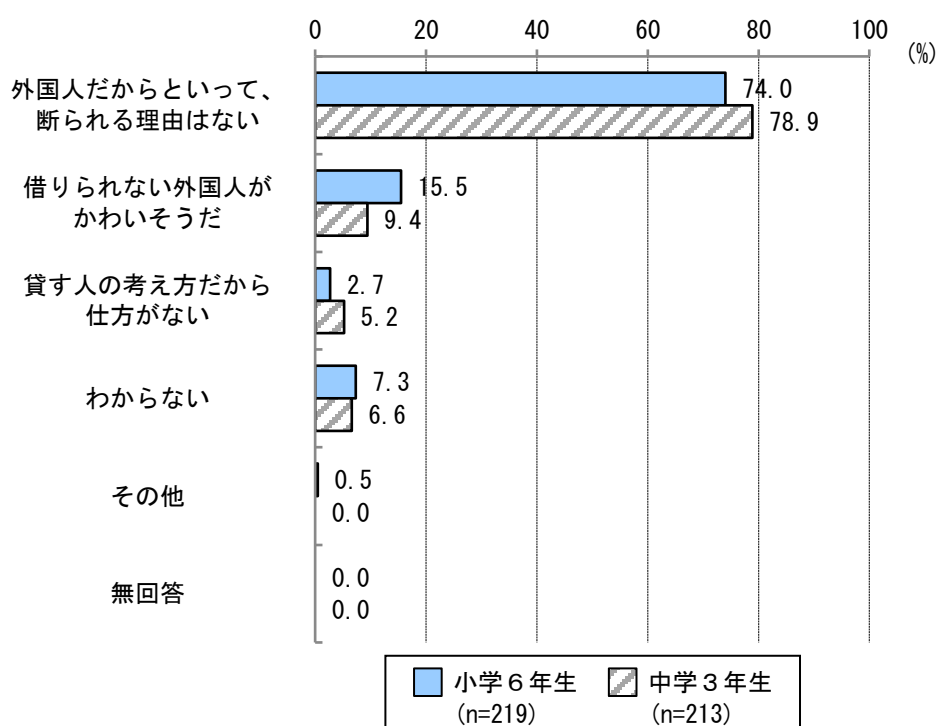
(6) 外国の人が入居を断られることに対する考え

問29 外国の人が、「外国人だから」という理由でアパートを借りることを断られました。このことについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

小学6年生では、「外国人だからといって、断られる理由はない」が74.0%と最も高く、次いで「借りられない外国人がかわいそうだ」が15.5%、「わからない」が7.3%となっています。(図Ⅱ-4-6)

中学3年生では、「外国人だからといって、断られる理由はない」が78.9%と最も高く、次いで「借りられない外国人がかわいそうだ」が9.4%、「わからない」が6.6%となっています。(図Ⅱ-4-6)

【図Ⅱ-4-6 外国の人が入居を断られることについての考え】



その他 (小学6年生): 「差別」等

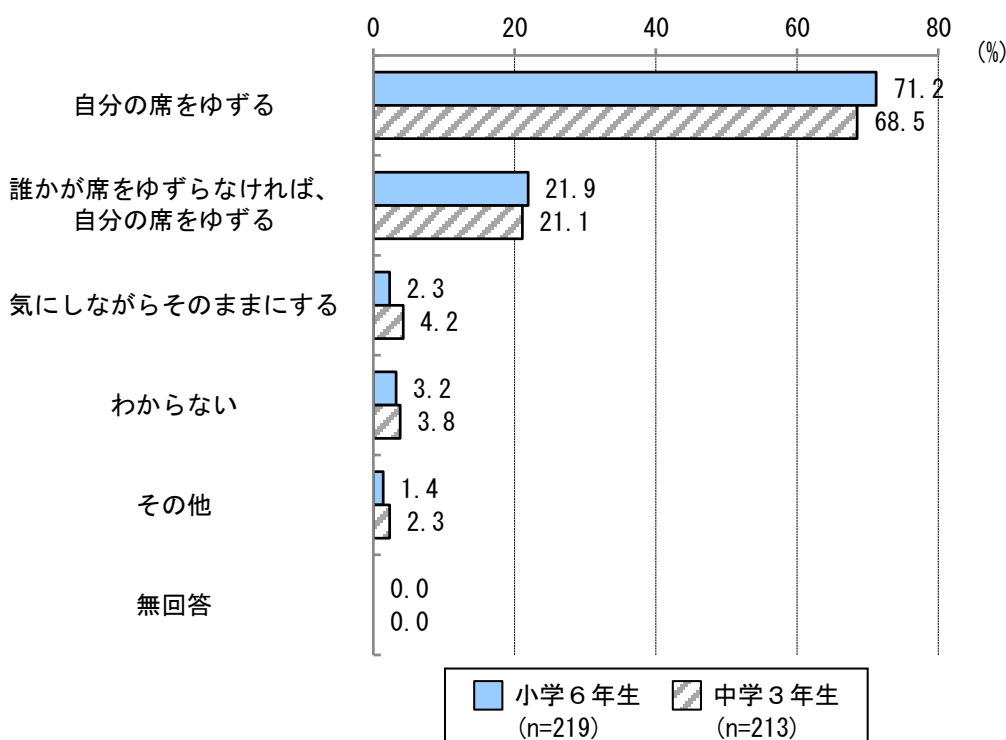
(7) 高齢者が電車で座れないときにとる行動

問30 高齢者の方が、電車で優先席に座れなくて困っています。あなたが近くの席に座っている時、あなたならどうしますか。(○は1つ)

小学6年生では、「自分の席をゆずる」が71.2%と最も高く、次いで「だれかが席をゆずらなければ、自分の席をゆずる」が21.9%、「わからない」が3.2%となっています。(図Ⅱ-4-7)

中学3年生では、「自分の席をゆずる」が68.5%と最も高く、次いで「誰かが席をゆずらなければ、自分の席をゆずる」が21.1%、「気にしながらそのままにする」が4.2%となっています。(図Ⅱ-4-7)

【図Ⅱ-4-7 高齢者が電車ですわれない時にとる行動】



その他 (小学6年生) : 「他の人に声をかけてくださいと言う」、「自分が優先席に座ってる訳でもないからその人が困っているかもその人が座りたいかもその人がどうしたいかわからないから気にせずそのまま」等

その他 (中学3年生) : 「前に譲ろうとしたら暴言を言われたから」、「その時にならないとわからない」等



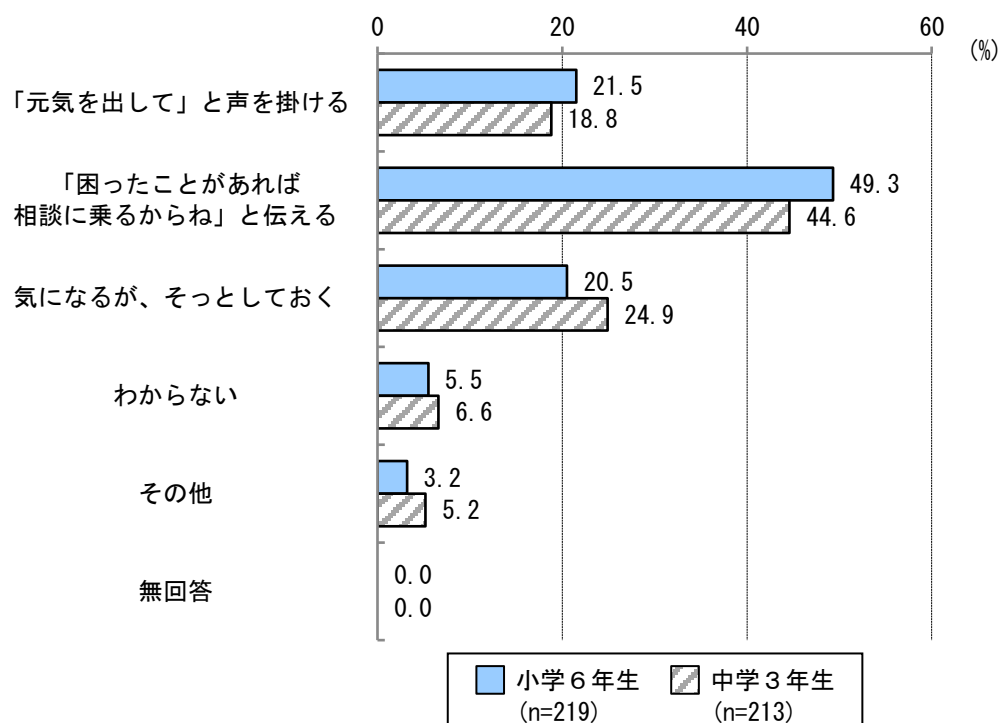
(8) 事件や事故にあった人のうわさ話がされていたときにとる行動

問31 友達の家族が事件または事故に巻き込まれました。数日後、友達は落ちこんだ様子で登校してきました。周りでは事件または事故について、いろいろなうわさ話をしています。その時あなたならどうしますか。(○は1つ)

小学6年生では、「こまったことがあれば相談に乗るからね」と伝える」が49.3%と最も高く、次いで「元気を出して」と声をかける」が21.5%、「気になるが、そっとしておく」が20.5%となっています。(図Ⅱ-4-8)

中学3年生では、「困ったことがあれば相談に乗るからね」と伝える」が44.6%と最も高く、次いで「気になるが、そっとしておく」が24.9%、「元気を出して」と声を掛ける」が18.8%となっています。(図Ⅱ-4-8)

【図Ⅱ-4-8 事件や事故にあった人のうわさ話がされていたときにとる行動】



その他 (小学6年生) : 「いつものように話す」、「うわさするのをやめようと言う」、「普段通りにする」等

その他 (中学3年生) : 「いつも通りに接する!」、「一緒にいる」、「相手が安心できるように何か行動にうつす」等

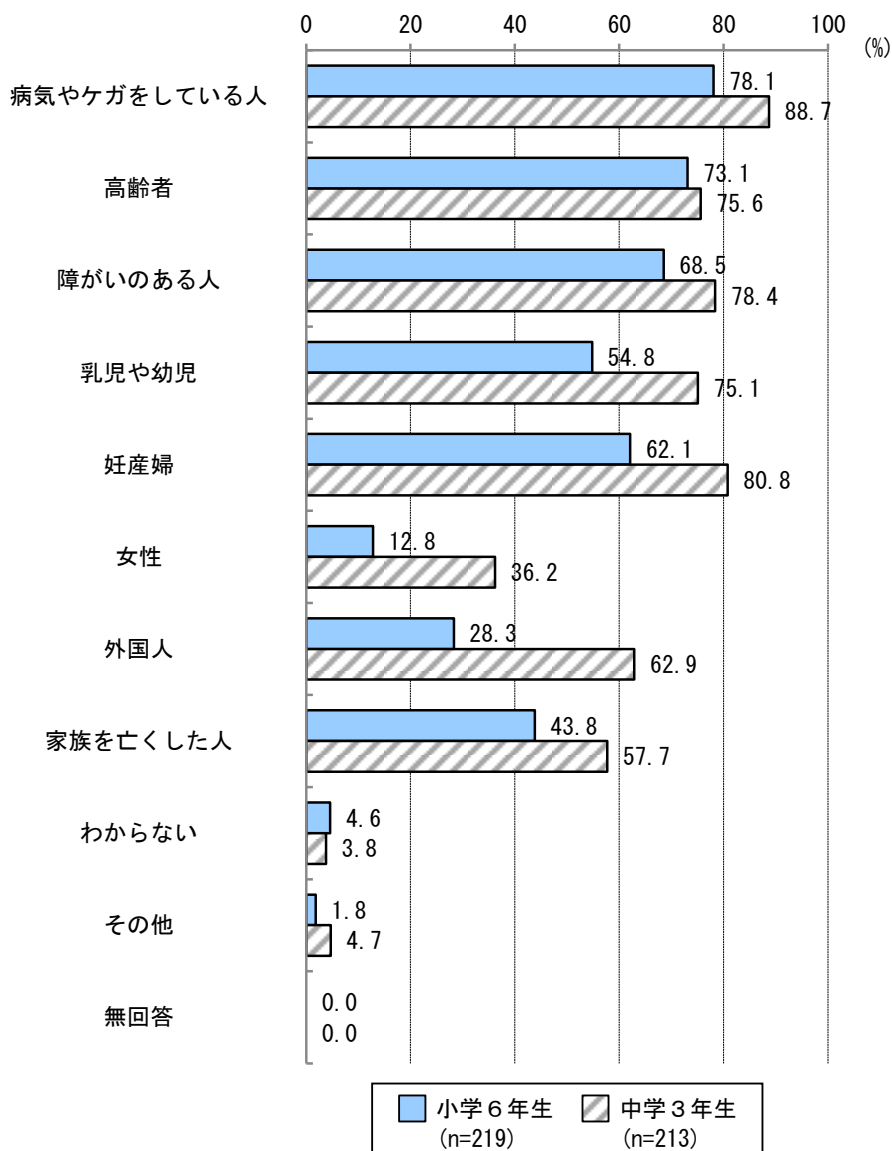
(9) 避難所で支援が必要だと思う人

問32 災害の時の避難所では、たくさんの方が共に生活をします。そのなかで、どのような人に支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

小学6年生では、「病気やケガをしている人」が78.1%と最も高く、次いで「高齢者」が73.1%、「障がいのある人」が68.5%となっています。(図Ⅱ-4-9)

中学3年生では、「病気やケガをしている人」が88.7%と最も高く、次いで「妊産婦」が80.8%、「障がいのある人」が78.4%となっています。(図Ⅱ-4-9)

【図Ⅱ-4-9 避難所で支援が必要だと思う人】



その他 (小学6年生) : 「みんな」、「災害が起きて助けが必要じゃない人なんかいない」等  
 その他 (中学3年生) : 「みんな」、「ペットがいる人にも支援してほしい」等

(10) いじめや差別をする可能性があると思うか

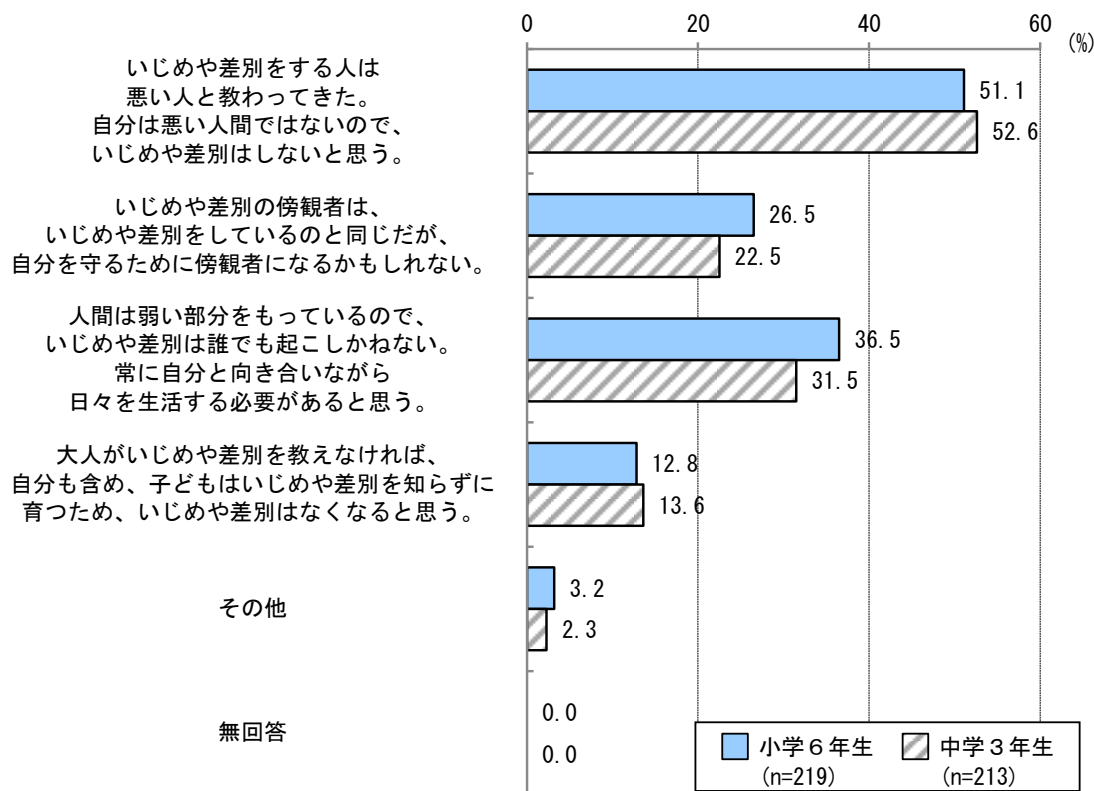
問33 あなた自身は、今後、いじめや差別をする可能性があると思いますか。(〇はいくつでも)

小学6年生では、「いじめや差別をする人は悪い人と教わってきた。自分は悪い人間ではないので、いじめや差別はしないと思う。」が51.1%と最も高く、次いで「人間は弱い部分をもっているので、いじめや差別は誰でも起こしかねない。常に自分と向き合いながら日々を生活する必要があると思う。」が36.5%、「いじめや差別を見ているだけの人はしているのと同じだということは理解できる。しかし、自分がいじめや差別を受けるのは嫌なので、自分を守るために見ている側になるかもしれない。」が26.5%となっています。(図Ⅱ-4-10)

中学3年生では、「いじめや差別をする人は悪い人と教わってきた。自分は悪い人ではないのでいじめや差別はしないと思う。」が52.6%と最も高く、次いで「人間は弱い部分をもっているので、いじめや差別は誰でも起こしかねない。常に自分と向き合いながら日々を生活する必要があると思う。」が31.5%、「いじめや差別の傍観者は、いじめや差別をしているのと同じだが、自分を守るために傍観者になるかもしれない。」が22.5%となっています。

(図Ⅱ-4-10)

【図Ⅱ-4-10 いじめや差別をする可能性があると思うか】



※小学生用調査票では、「いじめや差別の傍観者は、いじめや差別をしているのと同じだが、自分を守るために傍観者になるかもしれない。」は「いじめや差別を見ているだけの人になると、いじめや差別をしているのと同じと言うことは理解できる。しかし、自分がいじめや差別を受けるのは嫌なので、自分を守るために見ている側になるかもしれない。」としている。

その他 (小学6年生) : 「してしまうかも知れない (断言は出来ない)」、「わからない」等  
 その他 (中学3年生) : 「いじめをしないのが普通なのでしない」、「中立になる」等

## 2 質問間クロス集計結果

### 〔1〕自己肯定・有用感別

小学校・中学校の児童・生徒の自尊感情と関連する設問との関係性をみるため、問1～問5及び問8の回答を点数化し、「自己肯定・有用感」の程度を尺度化しました。

尺度化の具体的な方法は次のとおりです。

- ・各質問に設けたア～エの選択肢の回答に応じて、下記点数を付与します。
  - ア 思う（好き、もっている）：4点
  - イ どちらかと言えば思う（好き、もっている）：3点
  - ウ どちらかと言えば思わない（好きではない、もっていない）：2点
  - エ 思わない（好きではない、もっていない）：1点
- ・付与した点数を合計し、その合計値の点数の分布（最小1点／最大24点）から、下記の3つのグループに区分（下位の点数から累計し、概ね1／3ずつ、または25：50：25の比で区分）

#### 【区分】

小学生	中学生
自己肯定・有用感・高（21～24点）	自己肯定・有用感・高（22～24点）
自己肯定・有用感・中（18～20点）	自己肯定・有用感・中（18～21点）
自己肯定・有用感・低（1～17点）	自己肯定・有用感・低（1～17点）

- ・関係性が強いと考えられる一部の設問について、上記の区分を分析軸にクロス集計を実施しました。

クロス集計結果は、次ページ以降に示すとおりです。

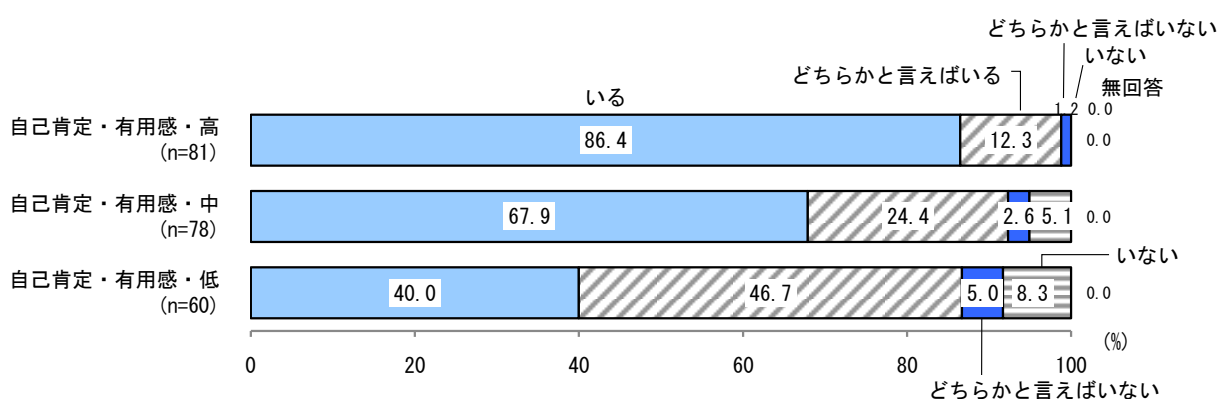
(1) 悩みの相談相手の有無

問6 悩みを相談できる人がいますか。(○は1つ)

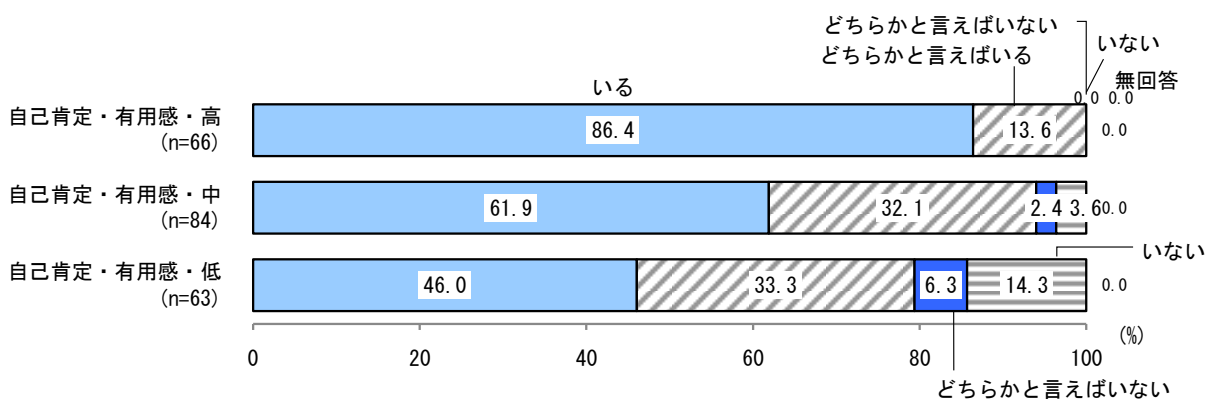
小学6年生では、なやみの相談相手が『いる』の割合（「いる」と「どちらかと言えばいる」の合計）は、自己肯定・有用感が高い児童で98.7%を占めています。これに対し自己肯定・有用感が低い児童では「いる」の割合が40.0%と低くなっています。（図Ⅱ-5-1①）

中学3年生では、なやみの相談相手が『いる』の割合は、自己肯定・有用感が高い生徒で100.0%となっています。これに対し自己肯定・有用感が低い生徒では「いる」の割合が46.0%と低くなっています。（図Ⅱ-5-1②）

【図Ⅱ-5-1① 小学6年生／自己肯定・有用感別 なやみの相談相手の有無】



【図Ⅱ-5-1② 中学3年生／自己肯定・有用感別 なやみの相談相手の有無】



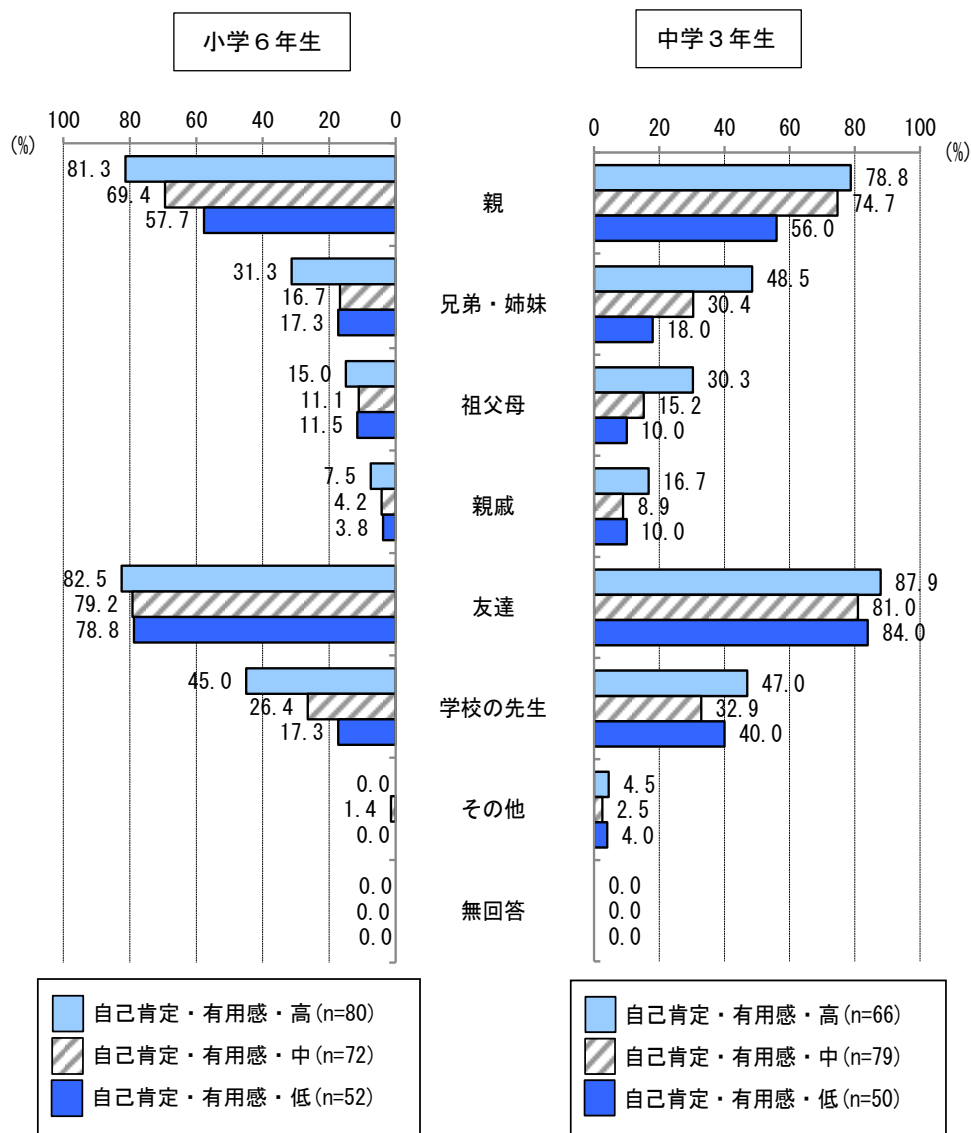
(2) なやみの相談相手

問7 問6で、相談できる人が「いる」「どちらかと言えばいる」を選んだ人にお聞きします。相談できる人はどんな人ですか。(〇はいくつでも)

小学6年生では、自己肯定・有用感が高い児童の相談相手は、「親」(81.3%)とともに「友だち」(82.5%)が多くなっています。また、「学校の先生」の割合も自己肯定・有用感が高い児童で高くなっています。一方、自己肯定・有用感が低い児童は「親」(57.7%)よりも「友だち」(78.8%)のほうが高くなっています。(図Ⅱ-5-2)

中学3年生で、自己肯定・有用感が高い生徒の相談相手は、「友だち」(87.9%)が最も高く、次いで「親」(78.8%)となっています。また、「兄弟・姉妹」「祖父母」「学校の先生」などの割合も自己肯定・有用感が高い生徒で高くなっています。(図Ⅱ-5-2)

【図Ⅱ-5-2 自己肯定・有用感別 なやみの相談相手】



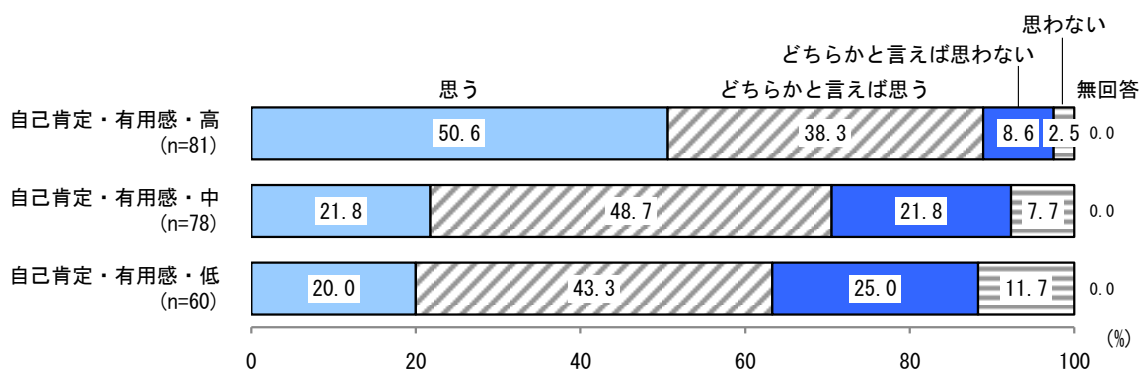
(3) だれとでも話ができるか

問10 だれとでも話ができるほうだと思いますか。(○は1つ)

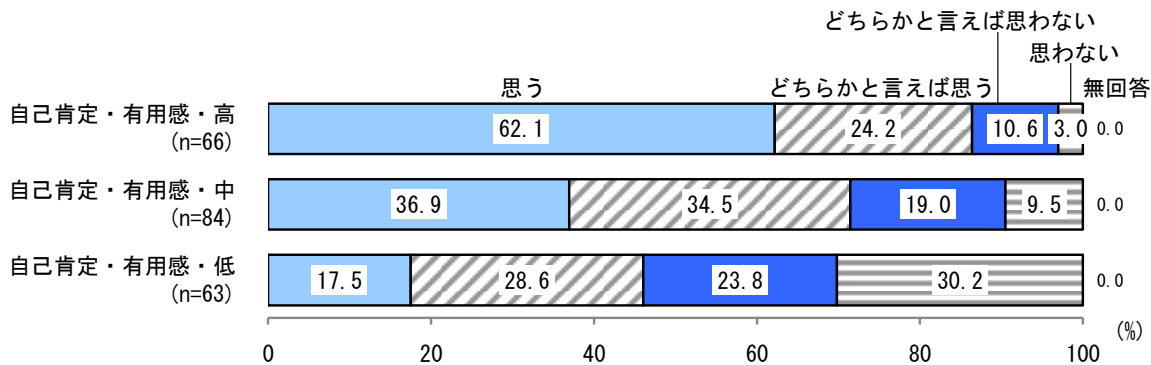
小学6年生では、だれとでも話ができると『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、自己肯定・有用感が高い児童で88.9%と最も高くなっています。（図Ⅱ-5-3①）

中学3年生では、だれとでも話ができると『思う』の割合は、自己肯定・有用感が高い生徒で86.3%と最も高くなっています。（図Ⅱ-5-3②）

【図Ⅱ-5-3① 小学6年生／自己肯定・有用感別 だれとでも話ができるか】



【図Ⅱ-5-3② 中学3年生／自己肯定・有用感別 だれとでも話ができるか】

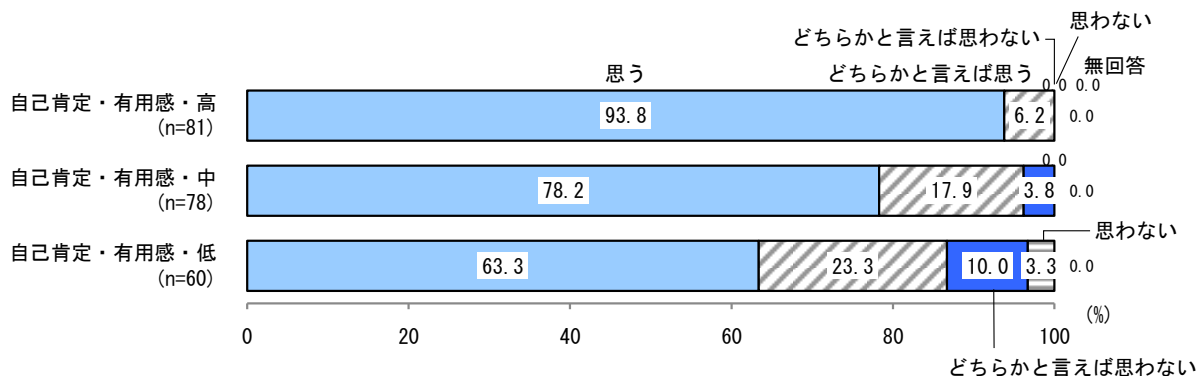


(4) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか

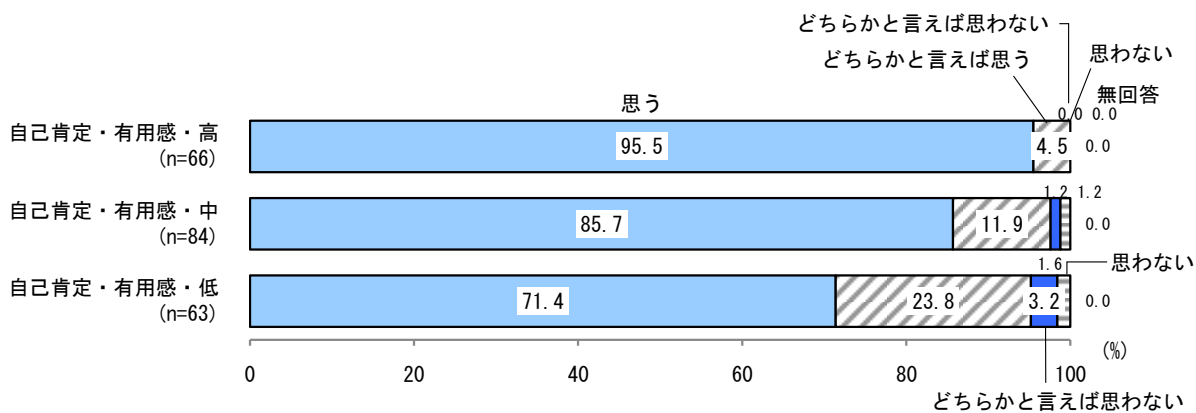
問11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(○は1つ)

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うかについて、小学生・中学生とも『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、自己肯定・有用感が高い児童・生徒で高くなっています。（図Ⅱ-5-4①②）

【図Ⅱ-5-4① 小学6年生／自己肯定・有用感別 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか】



【図Ⅱ-5-4② 中学3年生／自己肯定・有用感別 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか】





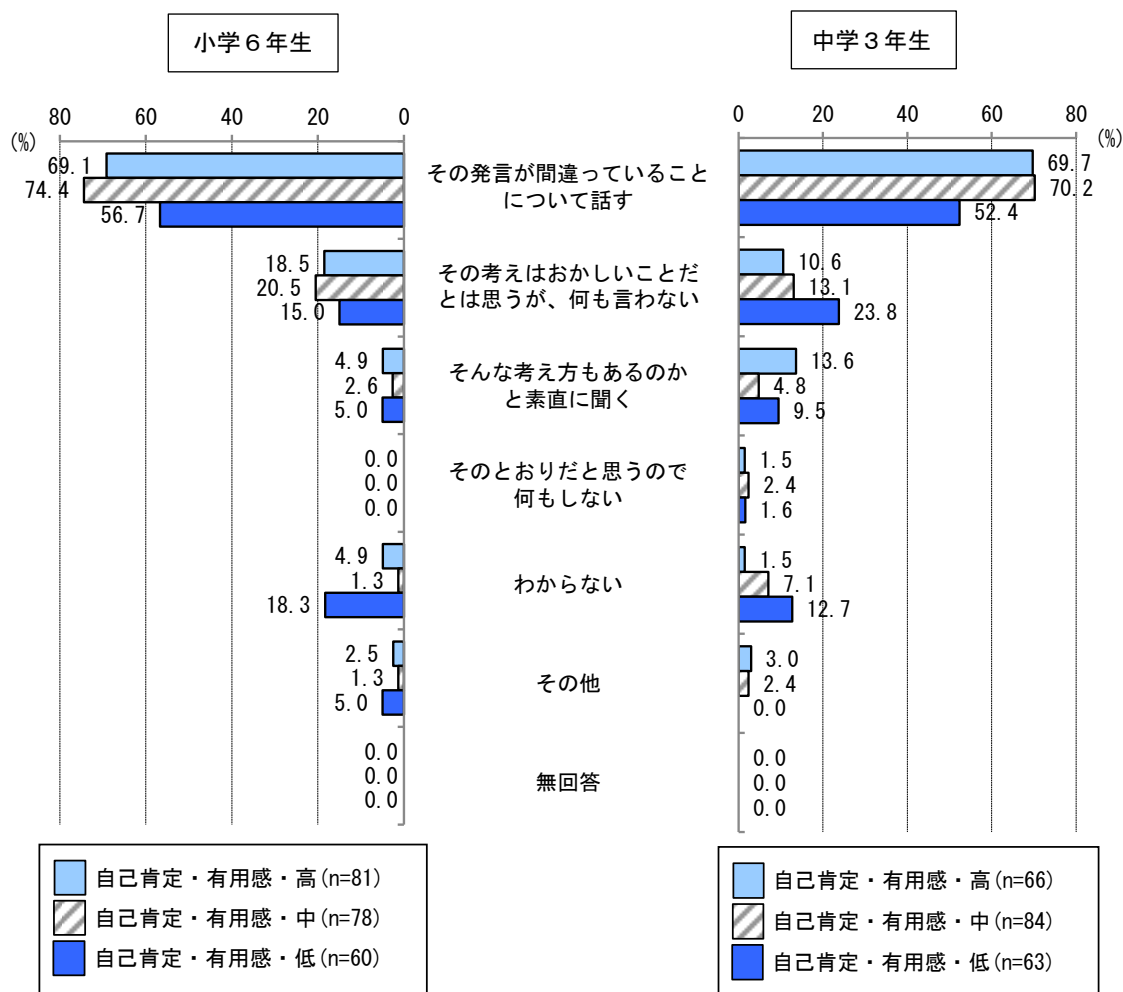
(5) 家事は女の人がするものと言われたときの対応

問25 「家事（炊事・洗濯・掃除）は女性がするもの」と言われました。その時どうしますか。

（小6：「食事の用意やせんたく、そうじは女の人がするもの」と言われました。その時あなたはどうしますか。）（○は1つ）

家事は女の人がするものと言われたときの対応について、「その発言がまちがっていることについて話す」の割合は、小学生・中学生とも自己肯定・有用感が中程度または高い児童・生徒で高くなっています。（図Ⅱ-5-5）

【図Ⅱ-5-5 自己肯定・有用感別 家事は女の人がするものと言われたときの対応】



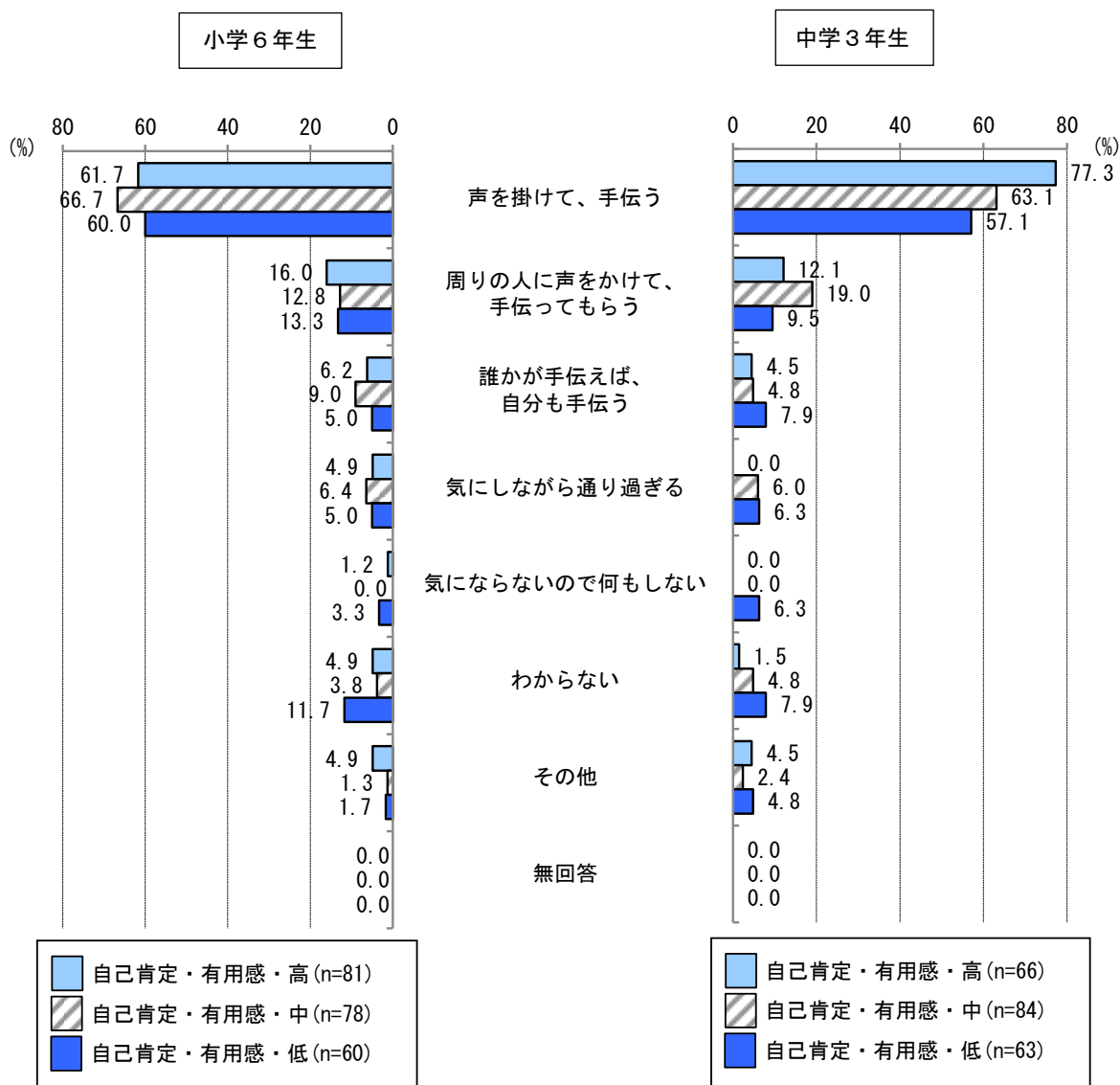
(6) 車イスにのった人が困っているときにとる行動

問26 車イスにのった人が、道に段差があって進めなくてこまっています。その時どうしますか。(○は1つ)

小学6年生では、車イスにのった人が困っているときにとる行動は、「声をかけて、手伝う」が最も多く、自己肯定・有用感の程度での差は小さくなっています。(図Ⅱ-5-6)

中学3年生でも、車イスにのった人が困っているときにとる行動は、いずれも「声をかけて、手伝う」が最も多く、特に自己肯定・有用感の程度が高い生徒の割合が高くなっています。(図Ⅱ-5-6)

【図Ⅱ-5-6 自己肯定・有用感別 車いすにのった人が困っているときにとる行動】

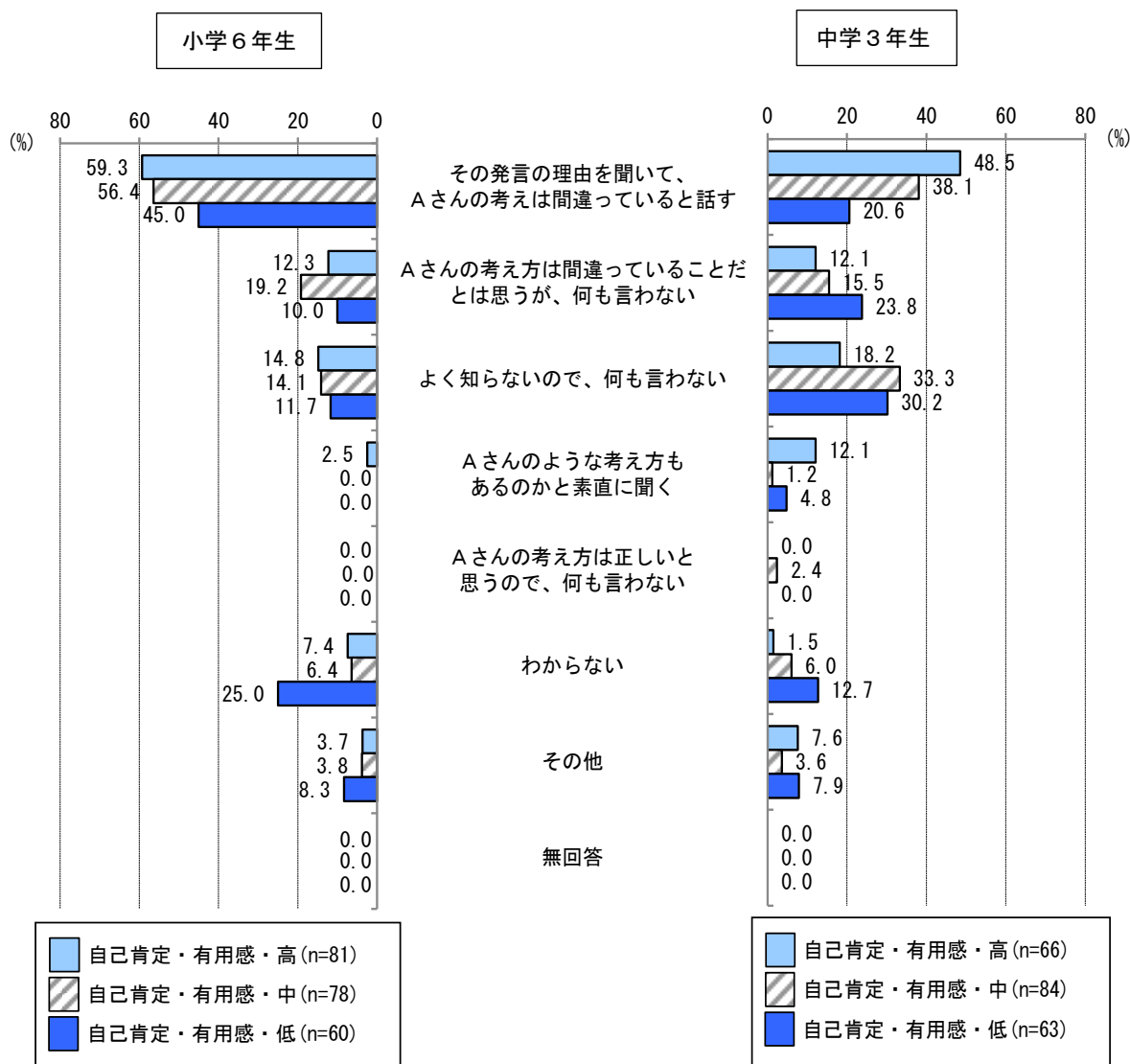


(7) 町の名前で差別する発言を聞いたときにとる行動

問27 Aさんから、「〇〇町に住んでいる人とは関わらない方がいいよ。」と言われました。その時あなたはどうしますか。(〇は1つ)

町の名前で差別する発言を聞いたときにとる行動は、小学生・中学生とも、自己肯定・有用感の高低に関係なく、「その発言の理由を聞いて、Aさんの考えはまちがっていると話す」が最も多く、その割合は、自己肯定・有用感が低い児童・生徒では低くなっています。(図Ⅱ-5-7)

【図Ⅱ-5-7 自己肯定・有用感別 町の名前で差別する発言を聞いたときにとる行動】

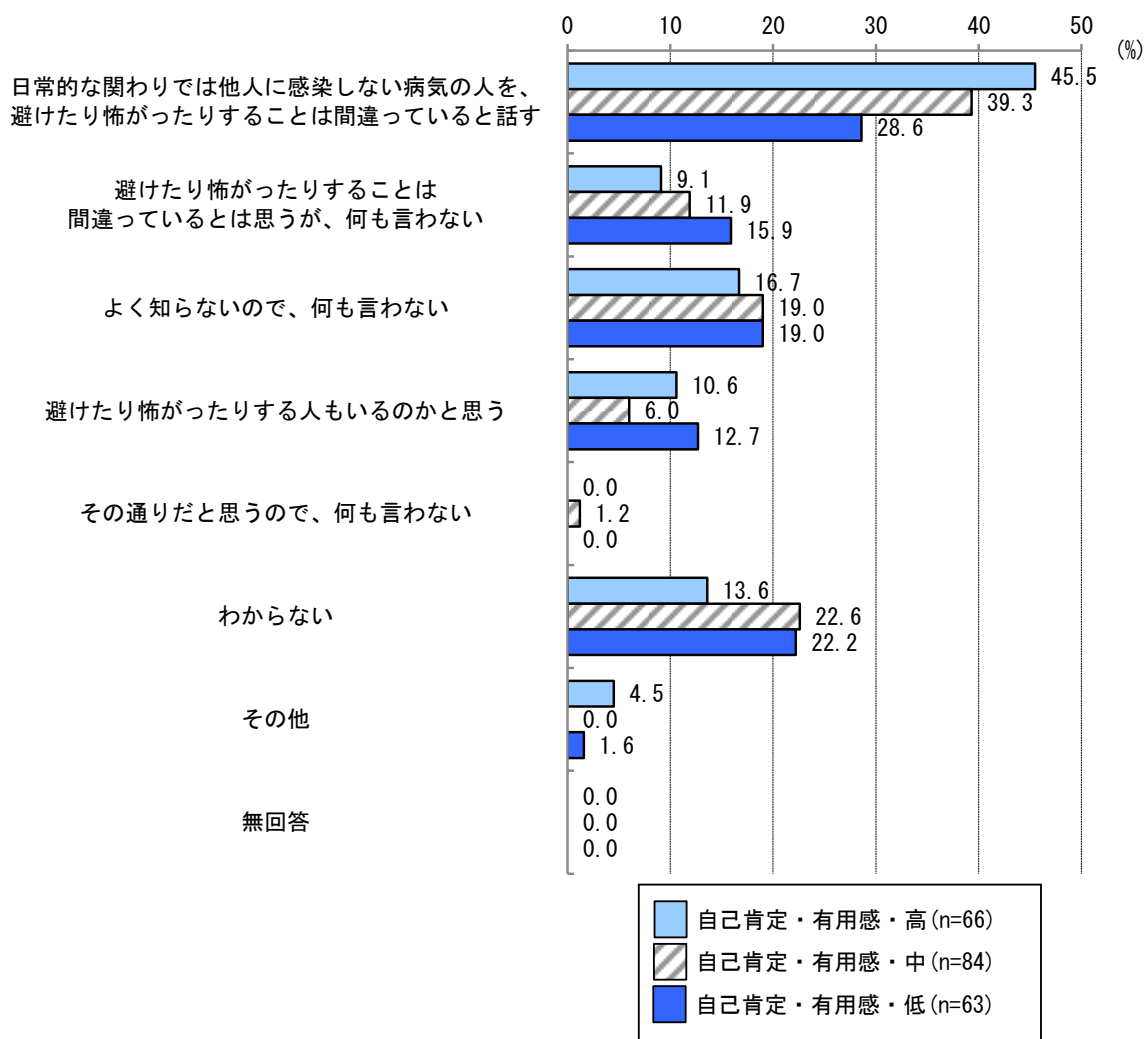


(8) HIV感染者やハンセン病回復者の人を怖がる人がいたときにとる行動 (中学生のみ)

問28 あなたの周りに、HIV感染者(エイズ患者)やハンセン病回復者の人を避けたり怖がったりする人がいました。その時あなたはどうしますか。(○は1つ)

中学3年生のHIV感染者やハンセン病回復者の人を怖がる人がいたときにとる行動は、自己肯定・有用感の高低に関係なく、「日常的な関わりでは他人に感染しない病気の人を、避けたり怖がったりすることは間違っていると話す」が最も高くなっていますが、その割合は自己肯定・有用感が低い生徒では低くなっています。(図Ⅱ-5-8)

【図Ⅱ-5-8 自己肯定・有用感別 HIV感染者やハンセン病回復者の人を怖がる人がいたときにとる行動】

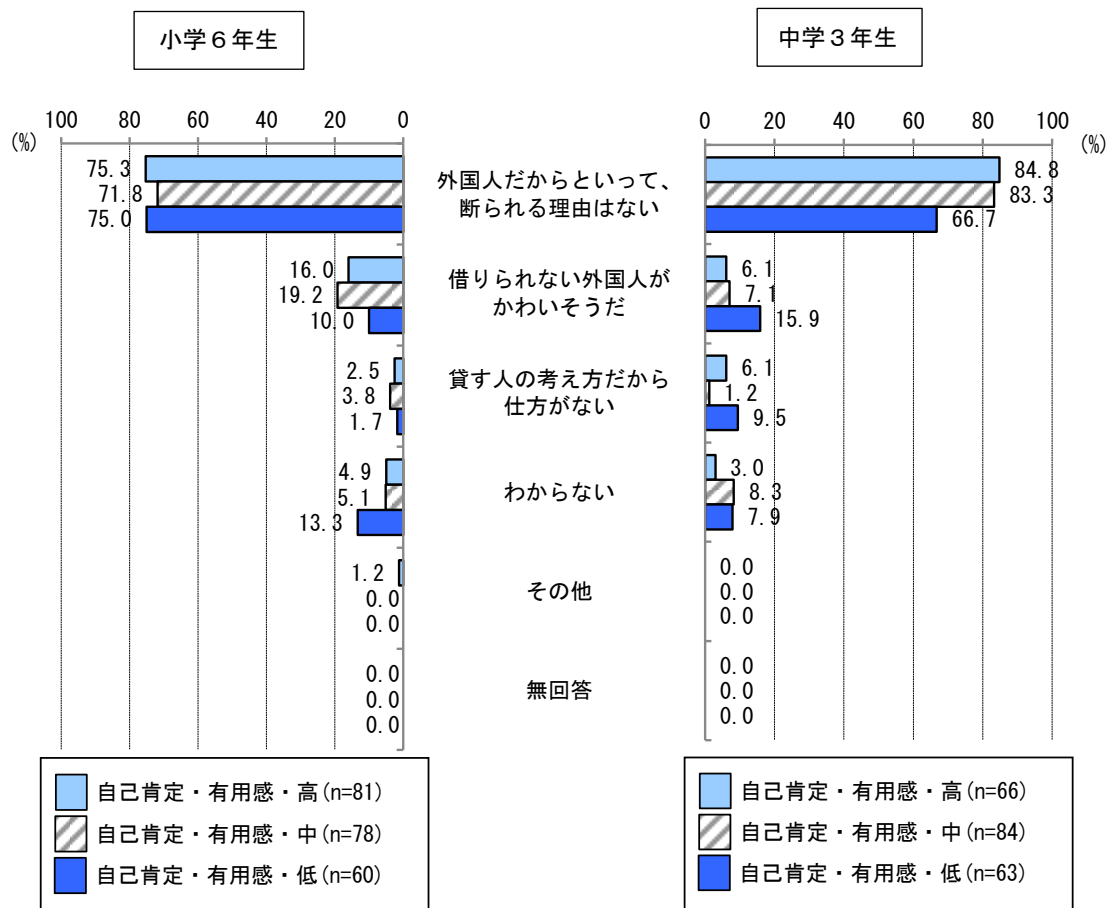


(9) 外国の人が入居を断られることに対する考え

問29 外国の人が、「外国人だから」と言う理由でアパートを借りることを断られました。このことについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

小学生・中学生とも、自己肯定・有用感の高低に関係なく、「外国人だからといって、断られる理由はない」が最も多くなっていますが、その割合は自己肯定・有用感が低い中学生で低くなっています。(図Ⅱ-5-9)

【図Ⅱ-5-9 自己肯定・有用感別 外国の人が入居を断られることについての考え】

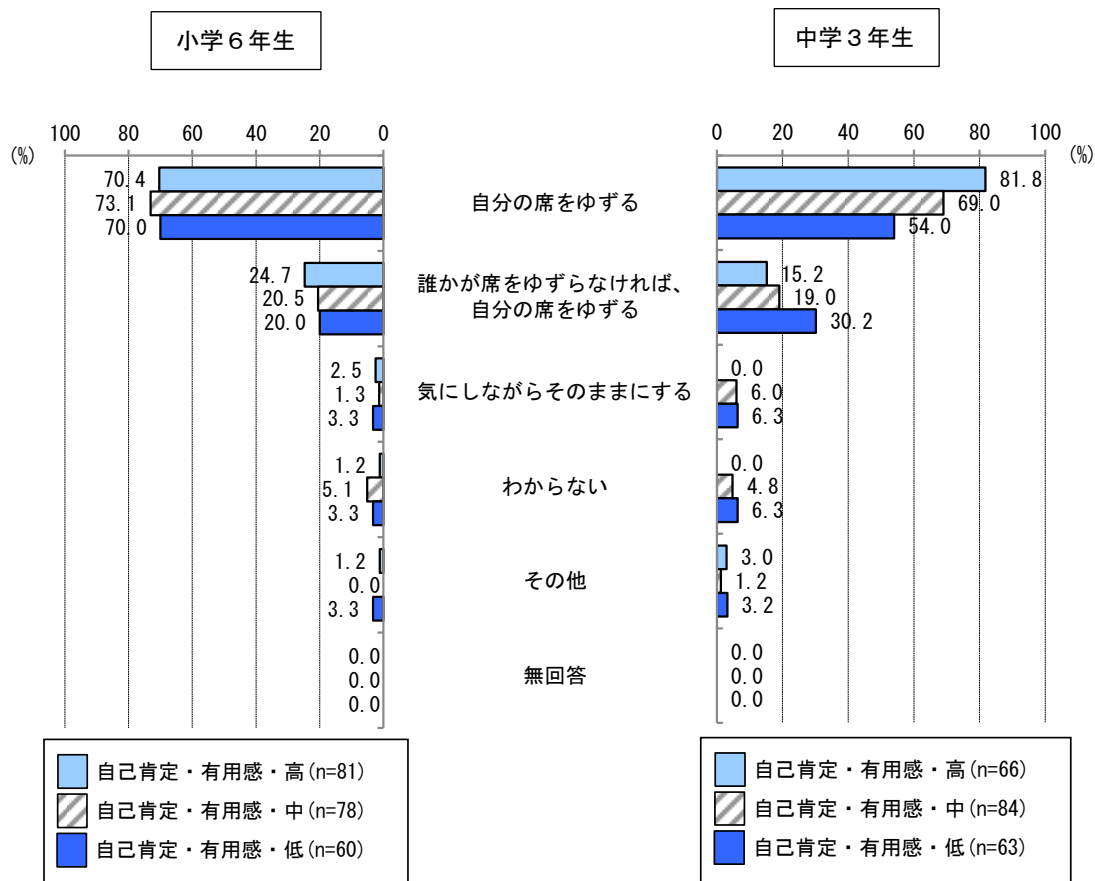


(10) 高齢者が電車ですわれないときにとる行動

問30 高齢者の方が、電車で優先席に座れなくて困っています。あなたが近くの席に座っている時、あなたならどうしますか。(○は1つ)

小学生・中学生とも、自己肯定・有用感の高低に関係なく、「自分の席をゆずる」が最も多くなっています。その割合は、小学生では自己肯定・有用感の高低での差は小さくなっていますが、中学生の場合は、自己肯定・有用感が高い生徒ほど高くなっています。(図Ⅱ-5-10)

【図Ⅱ-5-10 自己肯定・有用感別 高齢者が電車ですわれない時にとる行動】

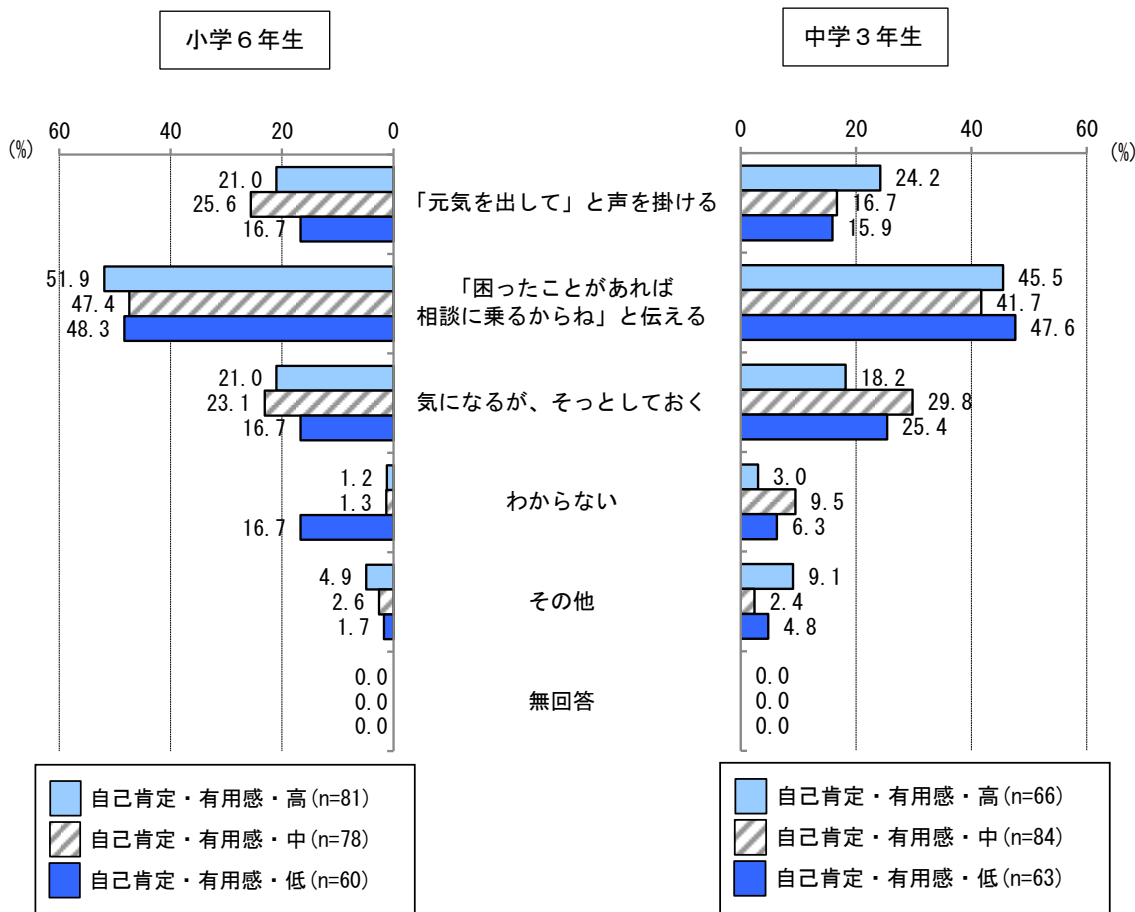


(11) 事件や事故にあった人のうわさ話がされていたときにとる行動

問31 友達の家族が事件または事故に巻き込まれました。数日後、友達は落ちこんだ様子で登校してきました。周りでは事件または事故について、いろいろなうわさ話をしています。その時あなたならどうしますか。(○は1つ)

小学生・中学生とも、自己肯定・有用感の高低に関係なく、「こまったことがあれば相談に乗るからね」と伝える」が最も高くなっています。(図Ⅱ-5-11)

【図Ⅱ-5-11 自己肯定・有用感別 事件や事故にあった人のうわさ話がされていたときにとる行動】



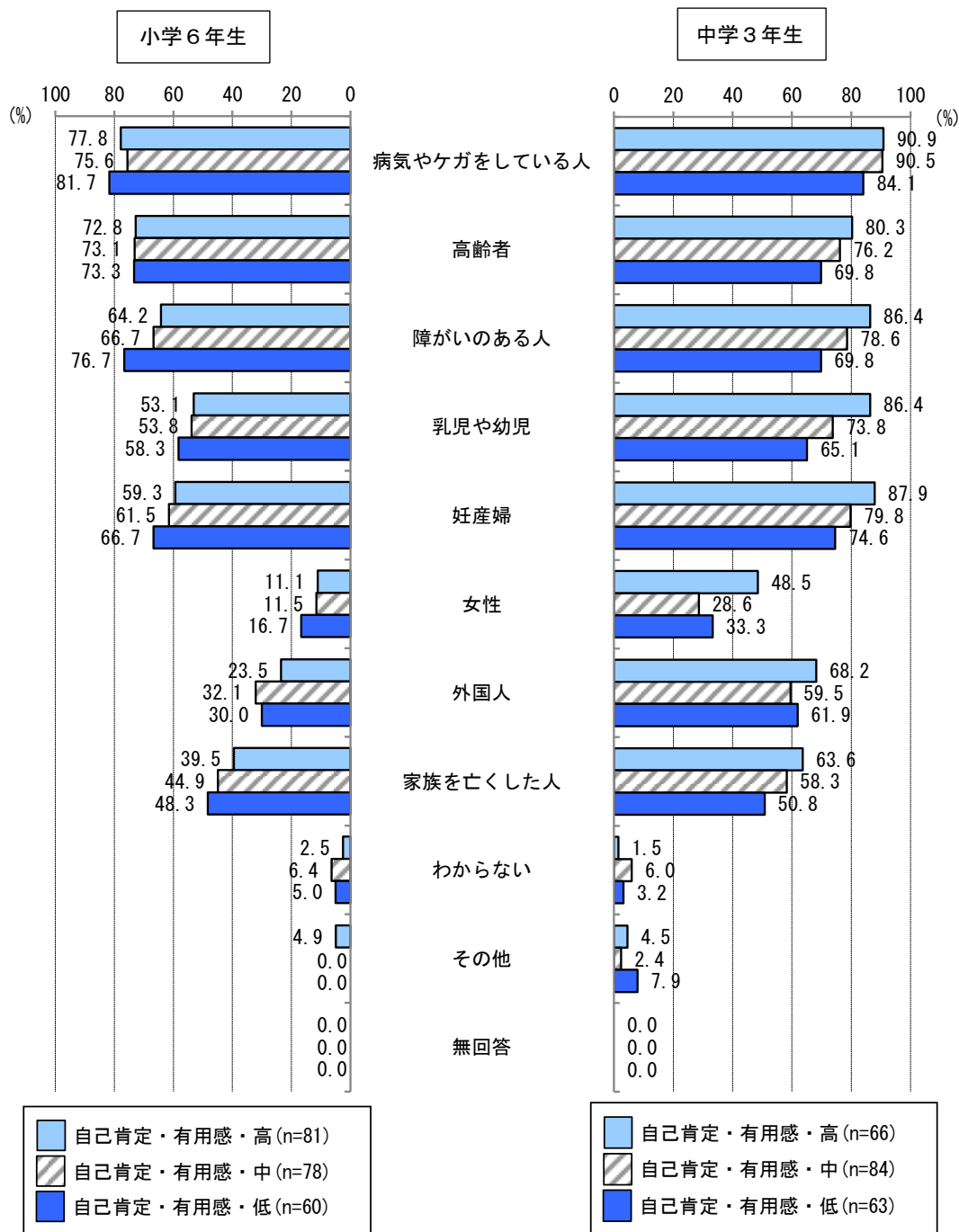
(12) 避難所で助けが必要だと思う人

問32 災害の時の避難所では、たくさんの人が共に生活をします。そのなかで、どのような人に支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

小学6年生では、自己肯定・有用感の高低に関係なく、「病気やケガをしている人」が最も高くなっています。「障がいのある人」や「乳児や幼児」「妊産婦」「家族を亡くした人」の各割合は、自己肯定・有用感が低い児童で高くなっています。(図Ⅱ-5-12)

中学3年生でも、自己肯定・有用感の高低に関係なく、「病気やケガをしている人」が最も高くなっています。「障がいのある人」や「乳児や幼児」「妊産婦」「女性」「外国人」「家族を亡くした人」の各割合は、自己肯定・有用感が高い生徒で高くなっています。(図Ⅱ-5-12)

【図Ⅱ-5-12 自己肯定・有用感別 避難所で助けが必要だと思う人】



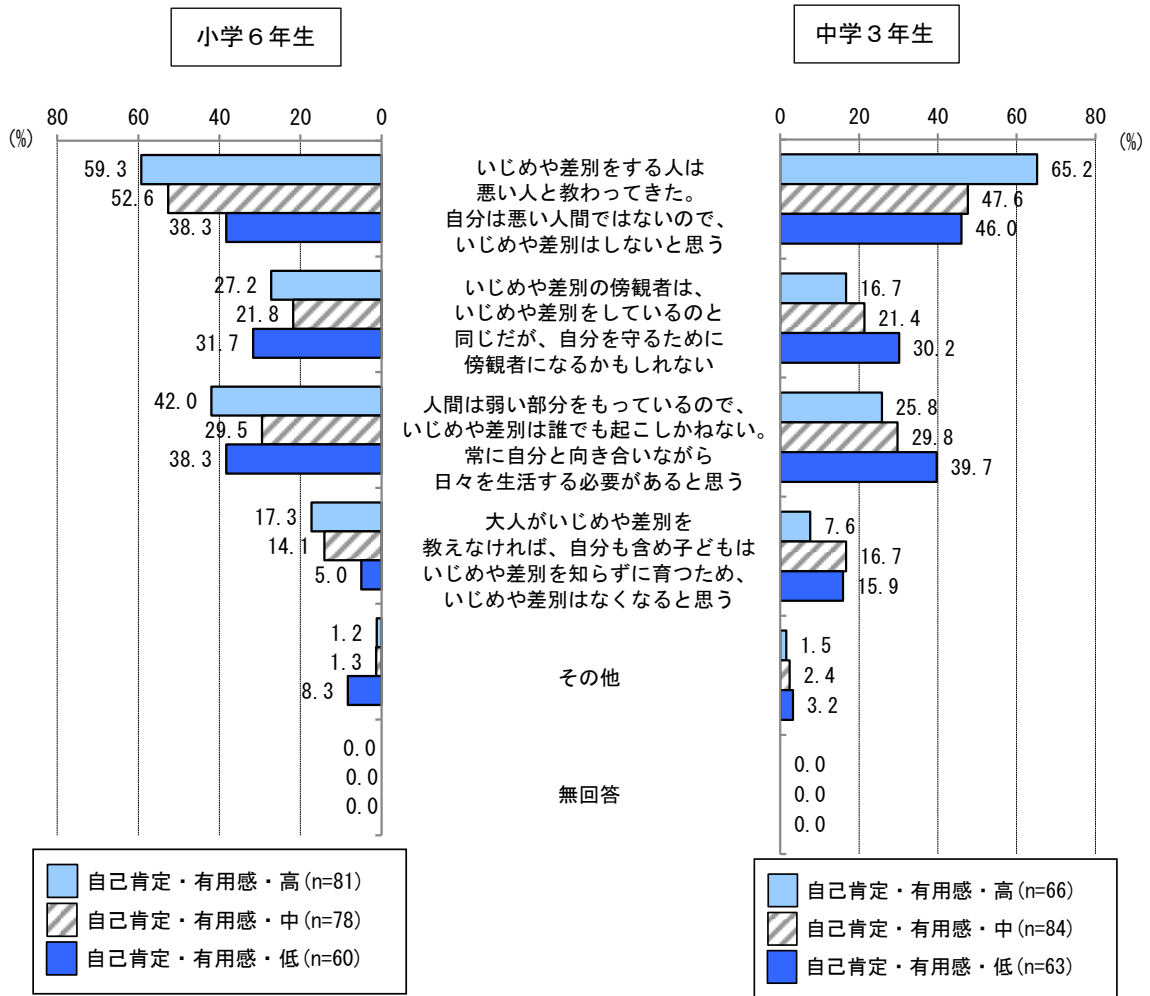


(13) いじめや差別をする可能性があると思うか

問33 あなた自身は、今後、いじめや差別をする可能性があると思いますか。(〇はいくつでも)

「いじめや差別をする人は悪い人と教わってきた。自分は悪い人間ではないので、いじめや差別はしないと思う」の割合は、小学生・中学生とも自己肯定・有用感が高い児童・生徒で高くなっています。(図Ⅱ-5-13)

【図Ⅱ-5-13 自己肯定・有用感別 いじめや差別をする可能性があると思うか】



### 3 自由意見

あなたが日々「人権」のことで気になっていることや、考えていることを自由に書き込んでください。

小学6年生で「人権」に関する意見については、70人から80件の自由記述が寄せられました。

分類		件数
いじめ・差別	いじめ・仲間外れ	20
	差別	15
	悪口・陰口	5
	いじめへの対応	4
	暴力	2
	いじめ・差別 計	46
その他	人（権）を大切にする	12
	人権について	6
	平等	3
	思いやり・気持ち	3
	障がい者の人権	3
	人種差別	2
	その他	5
	その他意見 計	34
総計	80	

中学3年生で「人権」に関する意見については、75人から79件の自由記述が寄せられました。

分類		件数
いじめ・差別	差別	10
	いじめ・仲間はずれ	7
	いじめ・差別 計	17
その他	人権について	18
	人（権）を大切に	16
	平等	6
	人種に関する人権問題	3
	障がいに関する人権問題	3
	性に関する人権問題	2
	その他	14
	その他意見 計	62
総計	79	

## Ⅱ-3 小学生・中学生の児童・生徒の保護者調査

### 1 単純集計結果

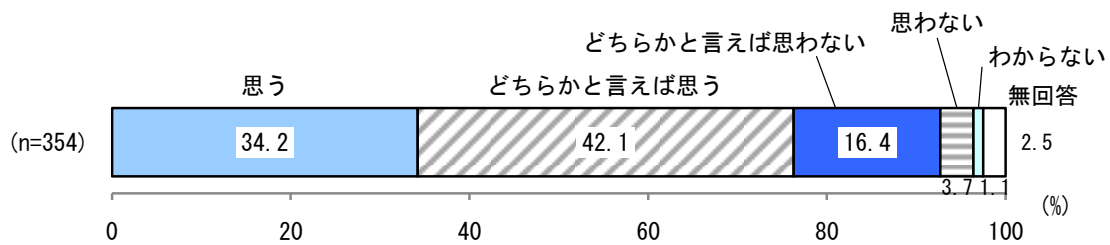
#### 〔1〕人権についての考え方

##### (1) 学校生活の様子を家庭でよく話しているか

問1 お子さんは学校生活の様子を家庭でよく話していると思いますか。(○は1つ)

学校生活の様子を家庭でよく話しているかについては、「どちらかと言えば思う」が42.1%と最も高く、次いで「思う」が34.2%、「どちらかと言えば思わない」が16.4%となっています。(図Ⅲ-1-1)

【図Ⅲ-1-1 学校生活の様子を家庭よく話しているか】

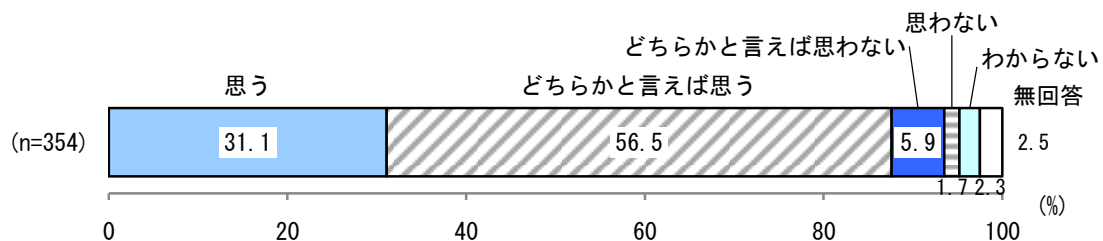


##### (2) 子どもの考えや話をよく聴くよう心がけているか

問2 あなたは、お子さんの考えや話しをよく聴くように心がけていると思いますか。(○は1つ)

子どもの考えや話をよく聴くよう心がけているかについては、「どちらかと言えば思う」が56.5%と最も高く、次いで「思う」が31.1%、「どちらかと言えば思わない」が5.9%となっています。(図Ⅲ-1-2)

【図Ⅲ-1-2 子どもの考えや話をよく聴くよう心がけているか】

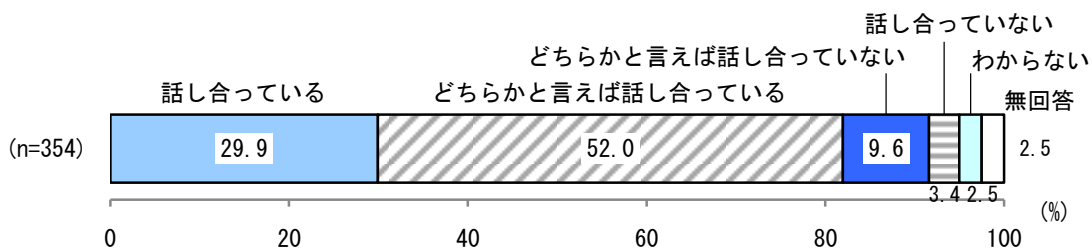


(3) 子どもの生き方や将来を家庭で話し合っているか

問3 お子さんの生き方や将来について、家庭で話し合っているか。(○は1つ)

子どもの生き方や将来を家庭で話し合っているかについては、「どちらかと言えば話し合っている」が52.0%と最も高く、次いで「話し合っている」が29.9%、「どちらかと言えば話し合っていない」が9.6%となっています。(図Ⅲ-1-3)

【図Ⅲ-1-3 子どもの生き方や将来を家庭で話し合っているか】

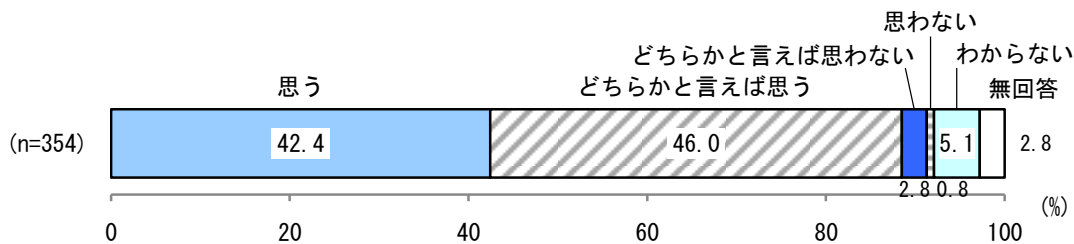


(4) 子どものよさや努力、可能性を大切にしているか

問4 お子さんのよさや努力(がんばり)、可能性を大切にしていると思いますか。(○は1つ)

子どものよさや努力、可能性を大切にしているかについては、「どちらかと言えば思う」が46.0%と最も高く、次いで「思う」が42.4%、「わからない」が5.1%となっています。(図Ⅲ-1-4)

【図Ⅲ-1-4 子どものよさや努力、可能性を大切にしているか】



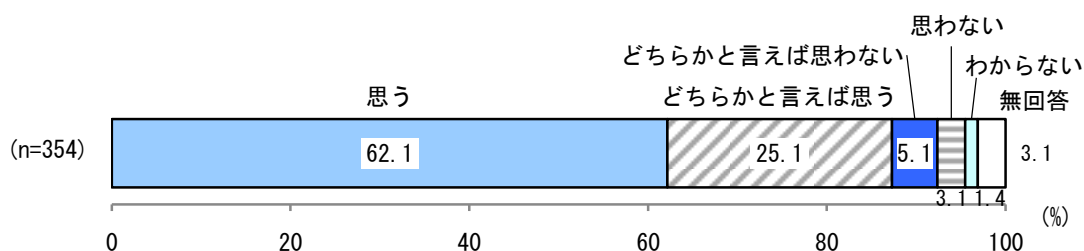
〔2〕家庭における学校への関わり

(1) 学校行事に積極的に参加してきたか

問5 今日まで授業参観や運動会などの学校行事には積極的に参加してきましたか。  
(○は1つ)

学校行事に積極的に参加してきたかについては、「思う」が62.1%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が25.1%、「どちらかと言えば思わない」が5.1%となっています。(図Ⅲ-2-1)

【図Ⅲ-2-1 学校行事に積極的に参加してきたか】

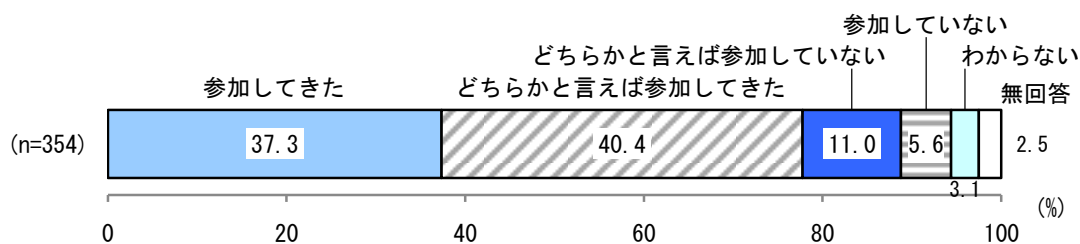


(2) PTA活動に積極的に参加してきたか

問6 PTA活動に積極的に参加してきましたか。(○は1つ)

PTA活動に積極的に参加してきたかについては、「どちらかと言えば参加してきた」が40.4%と最も高く、次いで「参加してきた」が37.3%、「どちらかと言えば参加していない」が11.0%となっています。(図Ⅲ-2-2)

【図Ⅲ-2-2 PTA活動に積極的に参加してきたか】

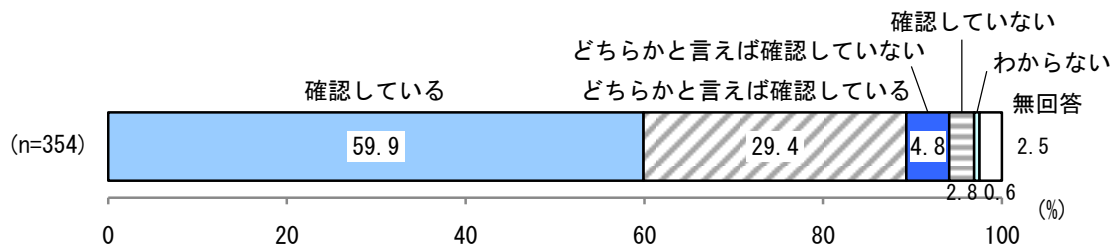


(3) 学校の配布物を確認しているか

問7 学校だよりなど（学校・学級等）の配布物については確認されていますか。  
 (○は1つ)

学校の配布物を確認しているかについては、「確認している」が59.9%と最も高く、次いで「どちらかと言えば確認している」が29.4%、「どちらかと言えば確認していない」が4.8%となっています。（図Ⅲ-2-3）

【図Ⅲ-2-3 学校の配布物を確認しているか】

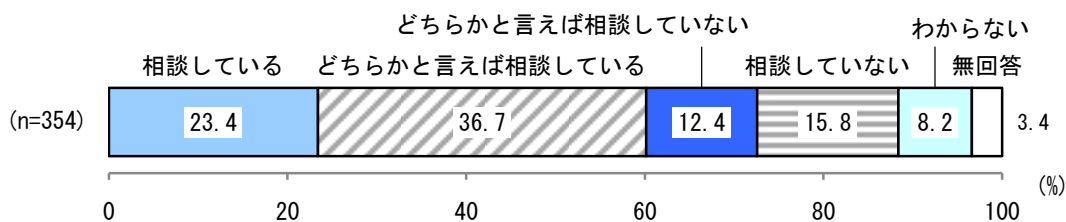


(4) 子どものことで問題が起きたとき、学校に相談しているか

問8 お子さんのことで家庭や地域で問題が起こったとき、まず、学校に相談していますか。  
 (○は1つ)

子どものことで問題が起きたとき、学校に相談しているかについては、「どちらかと言えば相談している」が36.7%と最も高く、次いで「相談している」が23.4%、「相談していない」が15.8%となっています。（図Ⅲ-2-4）

【図Ⅲ-2-4 子どものことで問題が起きたとき、学校に相談しているか】



(5) 学校に相談していない理由

問8で「どちらかと言えば相談していない」、「相談していない」と答えた方で、相談していない理由があれば以下にご記入ください。

子どものことで問題が起きたとき、学校に相談していない理由については、67件の意見が寄せられました。

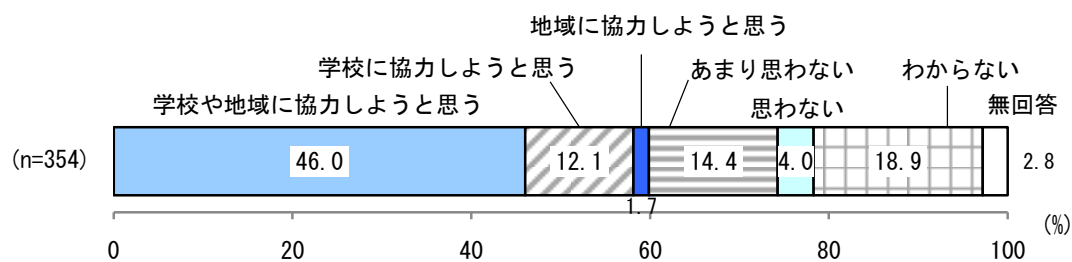
分類	件数
相談することがない	20
相談しても意味がないから	15
学校外のことだから	7
家庭で解決したから	4
先生が忙しそうだから	3
学校に相談すべき内容だと思わない	3
その他	15
総計	67

(6) 子どもの教育に関して学校・地域への協力意向

問9 子どもの教育（学校・地域での学習支援及びボランティア等）に関する要請があれば、学校・地域に協力しようと思っていますか。（○は1つ）

子どもの教育に関して学校・地域への協力意向については、「学校や地域に協力しようと思う」が46.0%と最も高く、次いで「わからない」が18.9%、「あまり思わない」が14.4%となっています。（図Ⅲ-2-5）

【図Ⅲ-2-5 子どもの教育に関して学校・地域への協力意向】



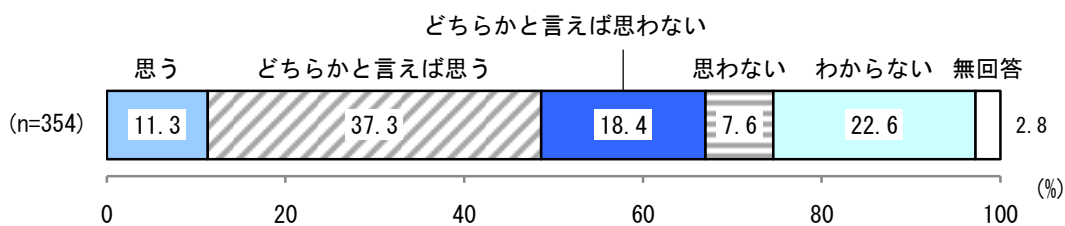
〔3〕学校の人権教育の取組

(1) 学校は人権学習の取組内容等を分かりやすく伝えているか

問10 学校・学級は人権学習の取組内容等について、家庭に分かりやすく伝えていると思いますか。(○は1つ)

学校は人権学習の取組内容等を分かりやすく伝えているかについては、「どちらかと言えば思う」が37.3%と最も高く、次いで「わからない」が22.6%、「どちらかと言えば思わない」が18.4%となっています。(図Ⅲ-3-1)

【図Ⅲ-3-1 学校は人権学習の取組内容等を分かりやすく伝えているか】

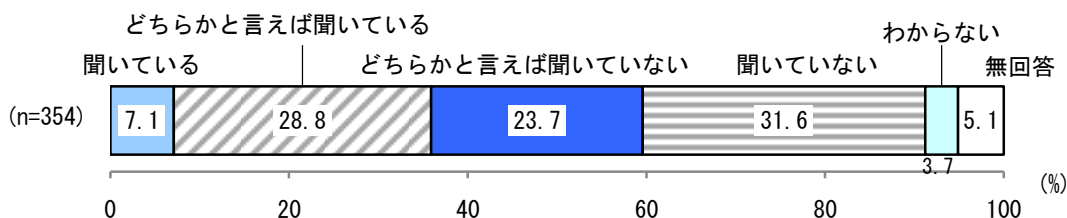


(2) 学校での人権学習について聞いているか

問11 学校・学級で取り組んでいる人権学習の様子については、お子さんから聞いていますか。(○は1つ)

学校での人権学習について聞いているかについては、「聞いていない」が31.6%と最も高く、次いで「どちらかと言えば聞いている」が28.8%、「どちらかと言えば聞いていない」が23.7%となっています。(図Ⅲ-3-2)

【図Ⅲ-3-2 学校での人権学習について聞いているか】



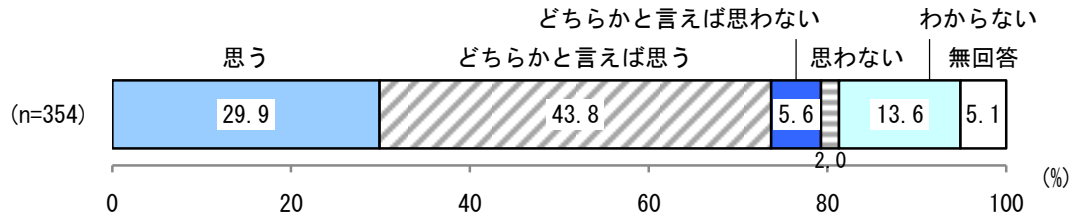


(3) 学校は子どものよさを大切にしているか

問12 学校（教職員）は、お子さんのよさを大切にしていますか。（○は1つ）

学校は子どものよさを大切にしているかについては、「どちらかと言えば思う」が43.8%と最も高く、次いで「思う」が29.9%、「わからない」が13.6%となっています。（図Ⅲ-3-3）

【図Ⅲ-3-3 学校は子どものよさを大切にしているか】

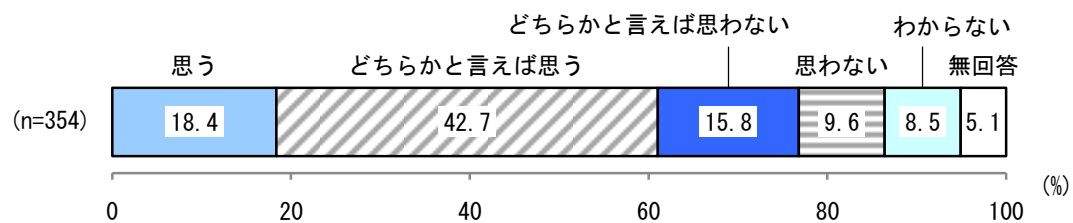


(4) 学校に子育て・教育について気軽に相談できているか

問13 あなたは、学校に子育てや教育等について気軽に相談できていると思いますか。（○は1つ）

学校に子育て・教育について気軽に相談できているかについては、「どちらかと言えば思う」が42.7%と最も高く、次いで「思う」が18.4%、「どちらかと言えば思わない」が15.8%となっています。（図Ⅲ-3-4）

【図Ⅲ-3-4 学校に子育て・教育について気軽に相談できているか】

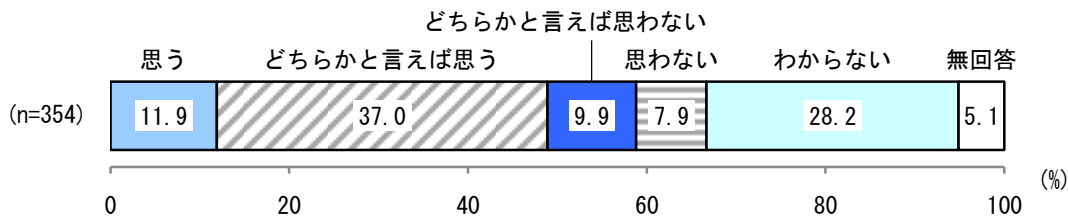


(5) 学校はいじめに対して前向きに取り組んでいるか

問14 学校は、いじめを許さない学校・学級づくりに前向きに取り組んでいると思いますか。  
(○は1つ)

学校はいじめに対して前向きに取り組んでいるかについては、「どちらかと言えば思う」が37.0%と最も高く、次いで「わからない」が28.2%、「思う」が11.9%となっています。  
(図Ⅲ-3-5)

【図Ⅲ-3-5 学校はいじめに対して前向きに取り組んでいるか】

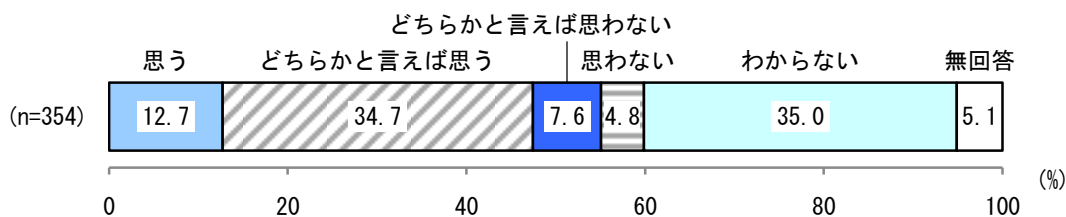


(6) プライバシーを遵守した子どもの教育課題や人権情報の周知を行っているか

問15 学校は、保護者に子どもの教育課題や人権情報（子どもの人間関係やいじめ等の誰かが傷つく生活課題）の周知をプライバシー遵守で前向きに行っていると思いますか。  
(○は1つ)

プライバシーを遵守した子どもの教育課題や人権情報の周知を行っているかについては、「わからない」が35.0%と最も高く、次いで「どちらかと言えば思う」が34.7%、「思う」が12.7%となっています。  
(図Ⅲ-3-6)

【図Ⅲ-3-6 プライバシーを遵守した子どもの教育課題や人権情報の周知を行っているか】

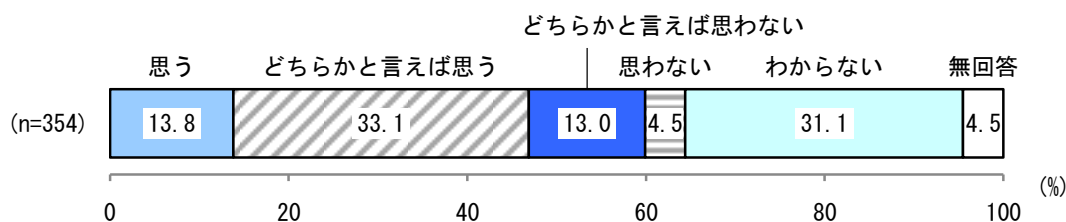


(7) 学校は地域人材や保護者の教育活動への参加を促しているか

問16 学校は、地域人材や保護者の教育活動への参加を積極的に促していると思いますか。  
(○は1つ)

学校は地域人材や保護者の教育活動への参加を促しているかについては、「どちらかと言えば思う」が33.1%と最も高く、次いで「わからない」が31.1%、「思う」が13.8%となっています。(図Ⅲ-3-7)

【図Ⅲ-3-7 学校は地域人材や保護者の教育活動への参加を促しているか】



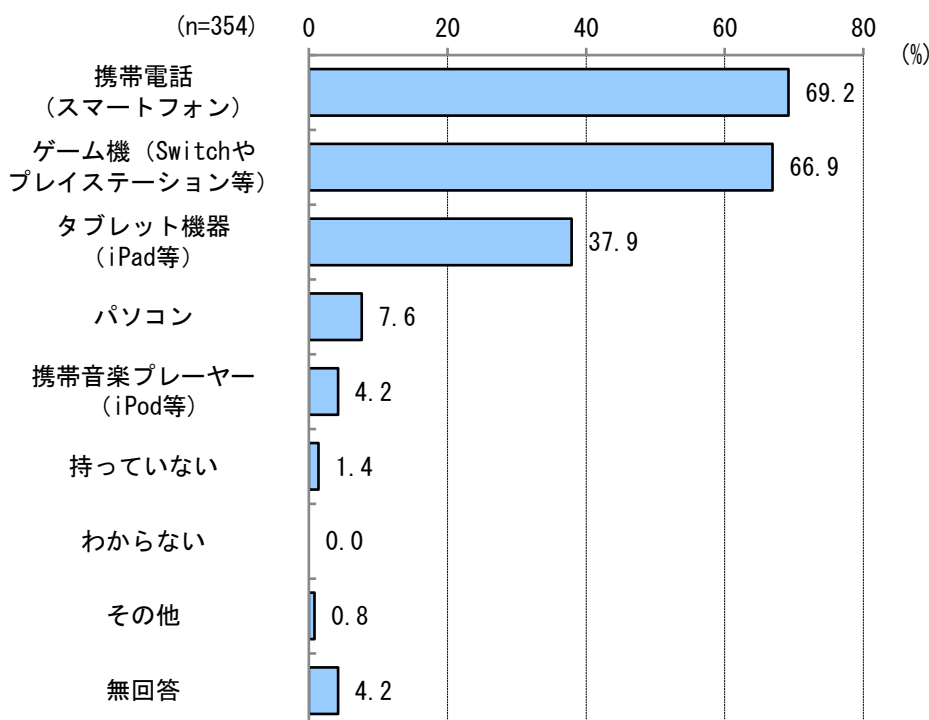
[4] インターネット接続機器の使用状況やルール

(1) 所有しているインターネット接続機器

問17 お子さんは次のインターネット接続機器のうち、どの機器を持っていますか。  
(○はいくつでも)

所有しているインターネット接続機器については、「携帯電話(スマートフォン)」が69.2%と最も高く、次いで「ゲーム機(Switchやプレイステーション等)」が66.9%、「タブレット機器(iPad等)」が37.9%となっています。(図Ⅲ-4-1)

【図Ⅲ-4-1 所有しているインターネット接続機器】



その他：「Wi-Fi下でしか使用できない古いスマホ」、「TV」等

(2) インターネット接続機器の使用者

問18 17の質問で「携帯電話（スマートフォン）」「タブレット機器（iPad等）」を選んだ方にお聞きします。それは、次のうちどれですか。（○は1つ）

インターネット接続機器の使用者については、「子ども専用」が78.4%、「家族と共有」が14.9%となっています。（図Ⅲ-4-2）

【図Ⅲ-4-2 インターネット接続機器の使用者】

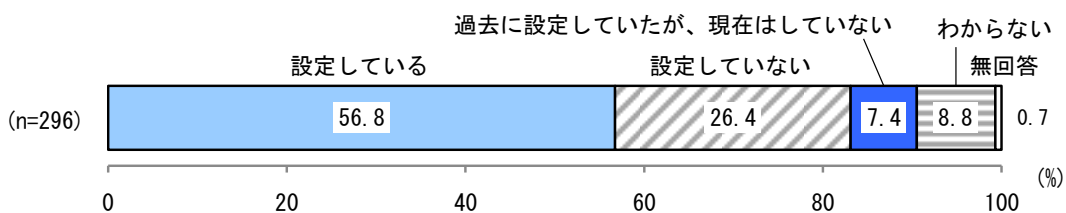


(3) フィルタリングの設定

問19 17の質問で「携帯電話（スマートフォン）」「タブレット機器（iPad等）」を選んだ方にお聞きします。現在、その機器にはフィルタリング〔有害サイトアクセス制限サービス〕を設定していますか。（○は1つ）

フィルタリング設定については、「設定している」が56.8%と最も高く、次いで「設定していない」が26.4%、「わからない」が8.8%となっています。（図Ⅲ-4-3）

【図Ⅲ-4-3 フィルタリングの設定】

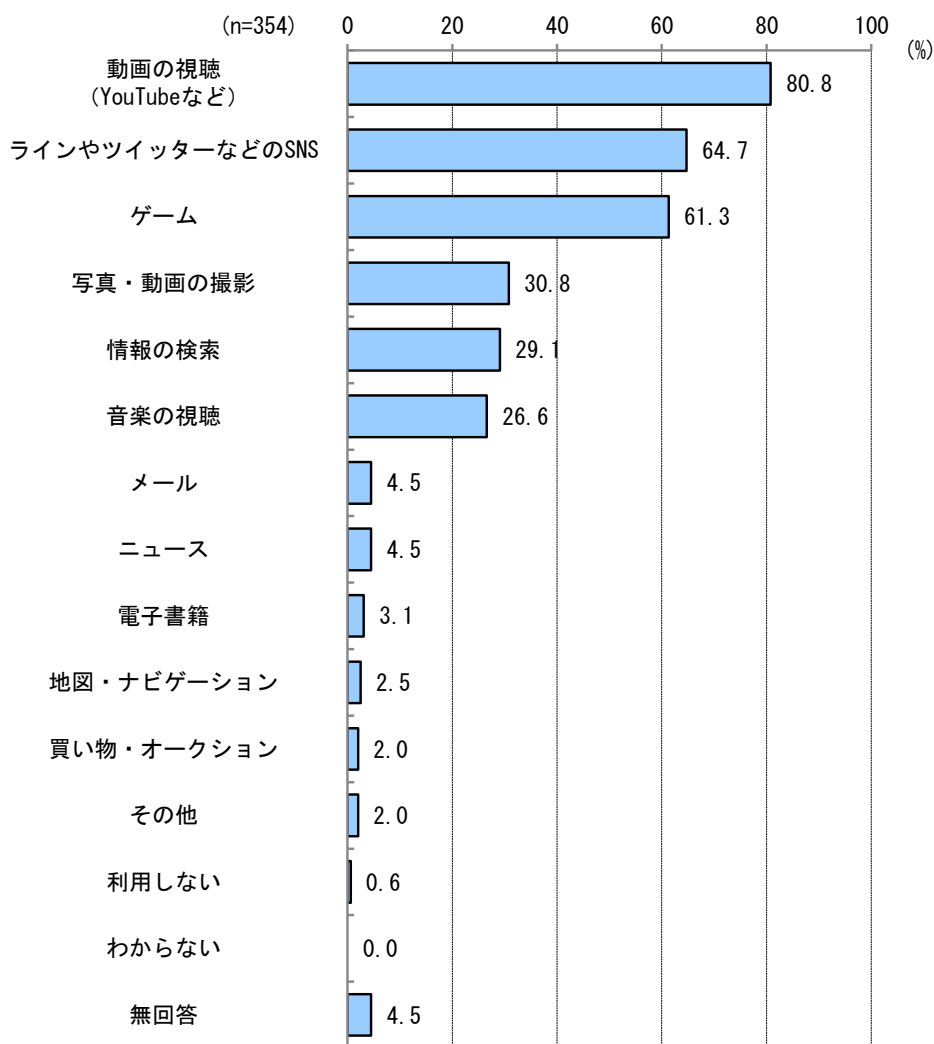


(4) インターネットの使用目的

問20 お子さんはインターネットをどのように使用していますか。よく使用しているものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

インターネットの使用目的については、「動画の視聴 (YouTubeなど)」が80.8%と最も高く、次いで「ラインやツイッターなどのSNS」が64.7%、「ゲーム」が61.3%となっています。  
(図Ⅲ-4-4)

【図Ⅲ-4-4 インターネットの使用目的】



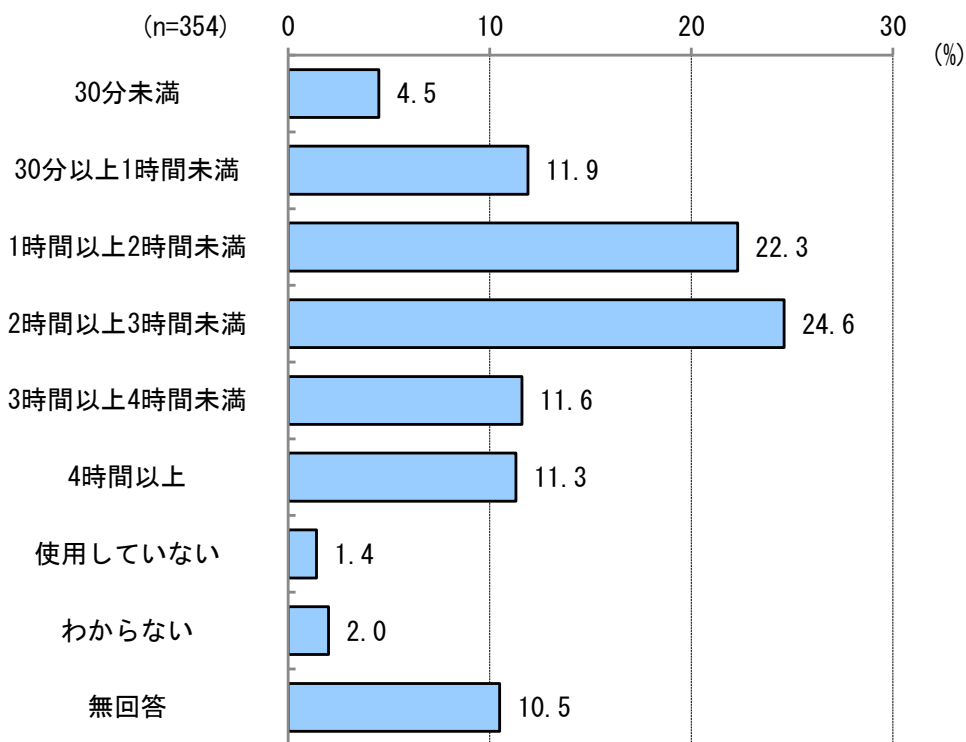
その他：「オンライン学習」、「天気予報」等

(5) 平日のインターネットの使用時間

問21 お子さんは平日（土日を除いて）に平均してどれくらいの時間、インターネットを使用していますか。〔ゲーム、メール、動画など〕（○は1つ）

平日のインターネットの使用時間については、「2時間以上3時間未満」が24.6%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」が22.3%、「30分以上1時間未満」が11.9%となっています。（図Ⅲ-4-5）

【図Ⅲ-4-5 平日のインターネットの使用時間】

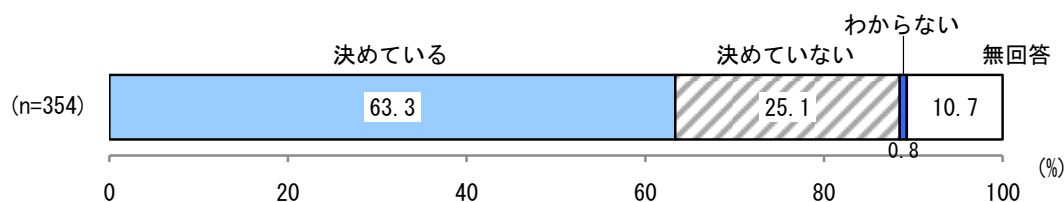


(6) インターネット接続機器を使用するときのルールの有無

問22 携帯電話・スマートフォン、インターネット接続機器を使用する上で、お子さんとの約束事やルールを決めていますか。(○は1つ)

インターネット接続機器を使用するときのルールの有無については、「決めている」が63.3%と最も高く、次いで「決めていない」が25.1%、「わからない」が0.8%となっています。(図Ⅲ-4-6)

【図Ⅲ-4-6 インターネット接続機器を使用するときのルールの有無】



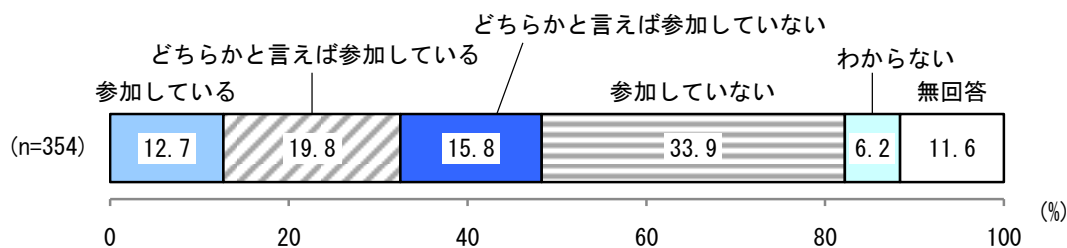
〔5〕社会教育での人権教育・啓発

(1) 人権をテーマとした参観日や研修会等への参加状況

問23 人権をテーマにした参観日など、学校とPTAが連携して行う人権教育に関する研修会等に参加していますか。(○は1つ)

人権をテーマとした参観日や研修会等への参加状況については、「参加していない」33.9%と最も高く、次いで「どちらかと言えば参加している」が19.8%、「どちらかと言えば参加していない」が15.8%となっています。(図Ⅲ-5-1)

【図Ⅲ-5-1 人権をテーマとした参観日や研修会等への参加状況】

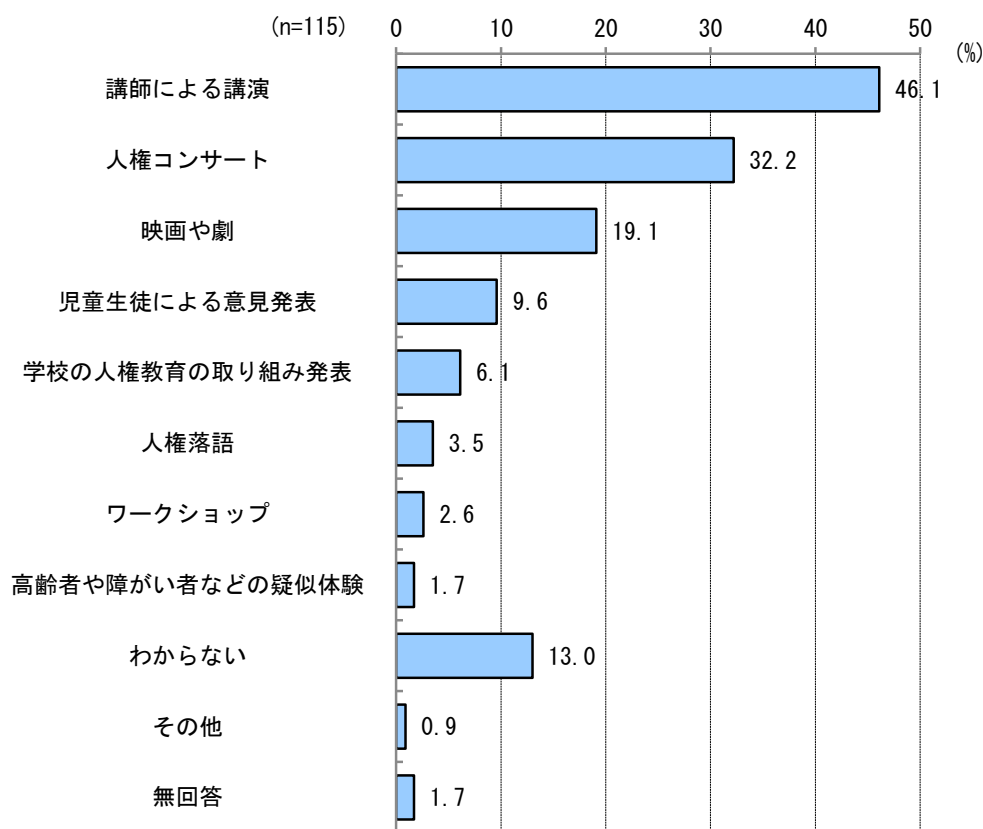


(2) 参加してよかったと感じた研修会の内容

問24 23の質問で、「参加している」「どちらかと言えば参加している」を選んだ方にお聞きます。研修会に参加してよかったと感じた内容を次の中からあてはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

参加してよかったと感じた研修会の内容については、「講師による講演」が46.1%と最も高く、次いで「人権コンサート」が32.2%、「映画や劇」が19.1%となっています。(図Ⅲ-5-2)

【図Ⅲ-5-2 参加してよかったと感じた研修会の内容】



その他：「この3年間はコロナでなかった」

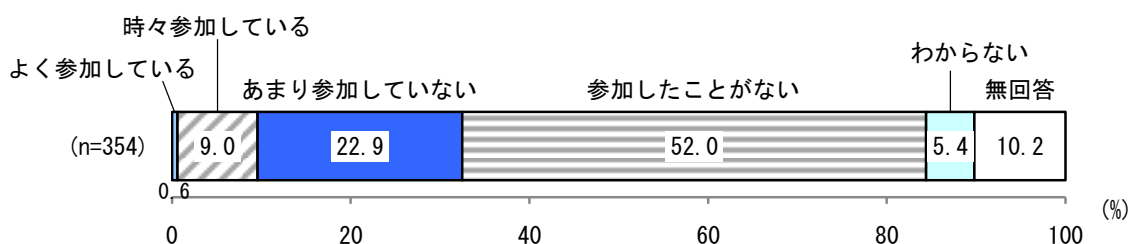


(3) 県や町が主催の人権啓発事業等への参加状況

問25 県や町が主催する人権啓発事業や研修に参加していますか。(○は1つ)

県や町が主催の人権啓発事業等への参加状況については、「参加したことがない」が52.0%と最も高く、次いで「あまり参加していない」が22.9%、「時々参加している」が9.0%となっています。(図Ⅲ-5-3)

【図Ⅲ-5-3 県や町が主催の人権啓発事業等への参加状況】

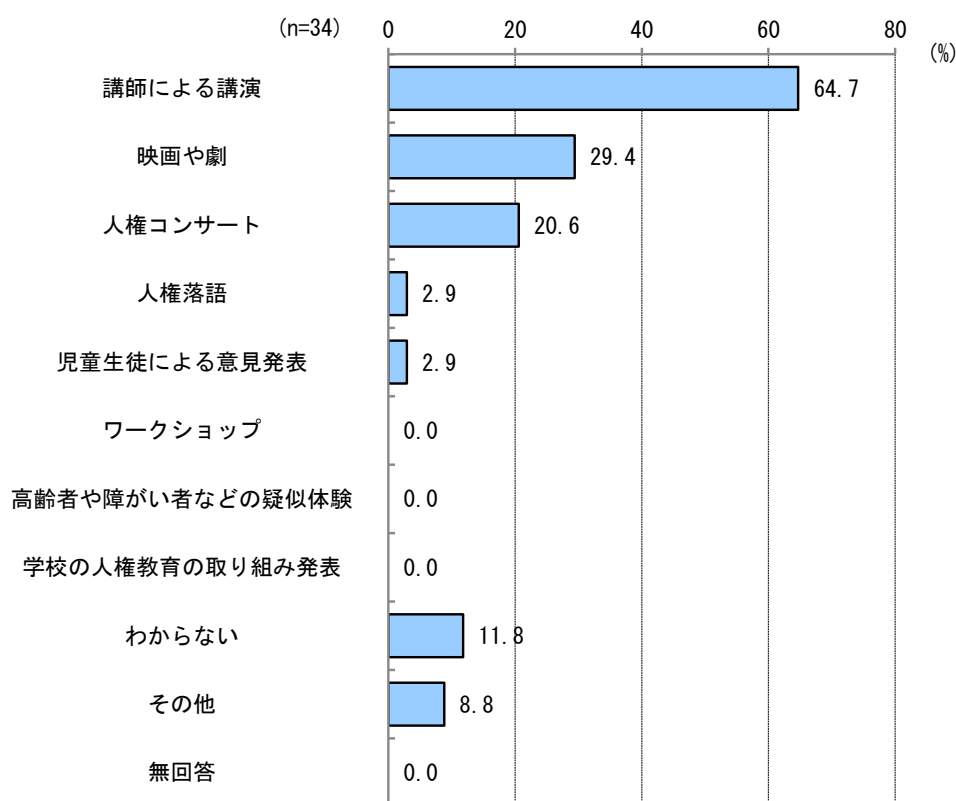


(4) 参加してよかったと感じた人権啓発事業等の内容

問26 25の質問で、「よく参加している」「時々参加している」を選んだ方にお聞きします。事業等に参加してよかったと感じた内容を次の中からあてはまるものを選んでください。(○は3つまで)

参加してよかったと感じた人権啓発事業等の内容については、「講師による講演」が64.7%と最も高く、次いで「映画や劇」が29.4%、「人権コンサート」が20.6%となっています。(図Ⅲ-5-4)

【図Ⅲ-5-4 参加してよかったと感じた人権啓発事業等の内容】

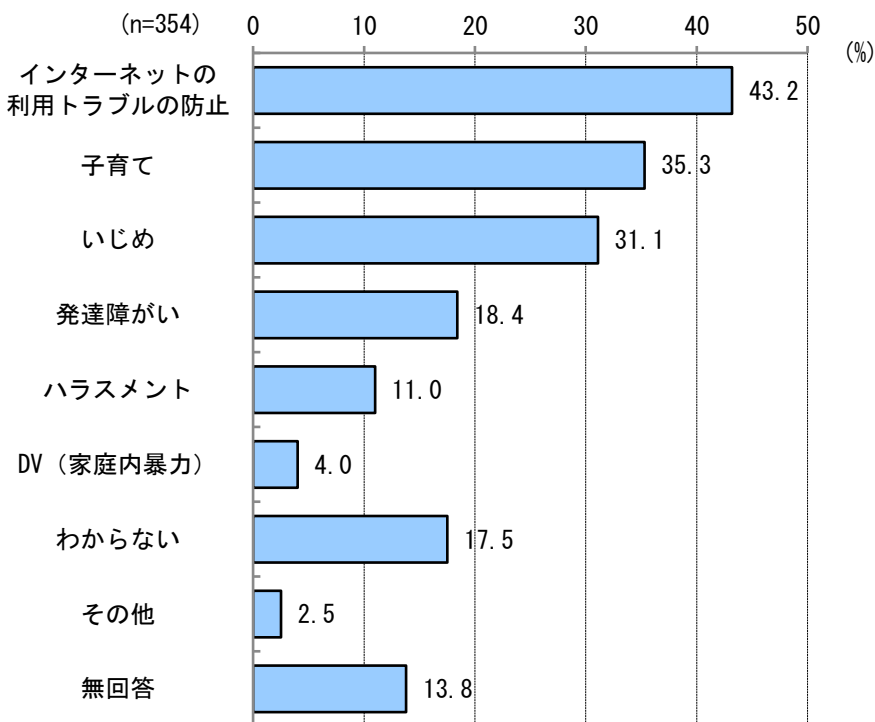


(5) 人権について関心のあるテーマ・内容

問27 人権教育・啓発に関する研修会や学習会のテーマとして関心のある内容や、参加してみたいと思われる内容を次の中から選んでください。(〇は3つまで)

人権について関心のあるテーマ・内容については、「インターネットの利用トラブルの防止」が43.2%と最も高く、次いで「子育て」が35.3%、「いじめ」が31.1%となっています。  
(図Ⅲ-5-5)

【図Ⅲ-5-5 人権について関心のあるテーマ・内容】



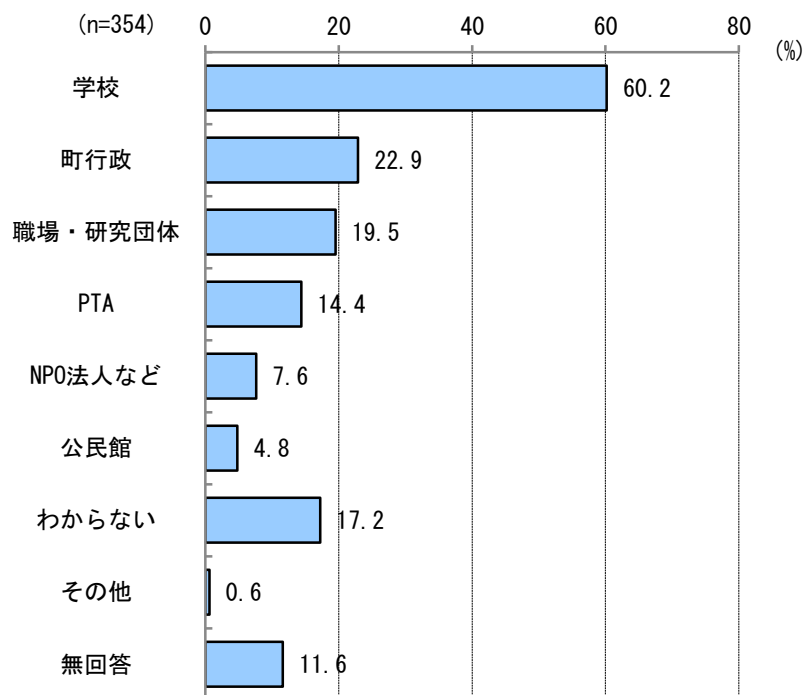
その他：「ヤングケアラー」、「LGBTQ」等

(6) 人権に関する研修会を実施するところとして効果的だと思う団体等

問28 人権教育・啓発に関する研修会を実施するところとして、効果的だと思う団体等について、次の中から選んでください。(〇は3つまで)

人権に関する研修会を実施するところとして効果的だと思う団体等については、「学校」が60.2%と最も高く、次いで「町行政」が22.9%、「職場・研究団体」が19.5%となっています。(図Ⅲ-5-6)

【図Ⅲ-5-6 人権に関する研修会を実施するところとして効果的だと思う団体等】



## 2 質問間クロス集計結果

### 〔1〕子どもへの寄り添い度別

保護者がどの程度子どもに寄り添っているのか、その程度と関連する設問との関係性をみるため、問1～問4の回答を点数化し、「子どもへの寄り添い度」を尺度化しました。

尺度化の具体的な方法は次のとおりです。

- ・各質問に設けたア～オの選択肢の回答に応じて、下記点数を付与します。

ア 思う（話し合っている）：4点

イ どちらかと言えば思う（話し合っている）：3点

ウ どちらかと言えば思わない（話し合っていない）：2点

エ 思わない（話し合っていない）：1点

オ わからない：0点

- ・付与した点数を合計し、その合計値の点数の分布（最小1点／最大16点）から、下記の3つのグループに区分（下位の点数から累計し、概ね1／3ずつ、または25：50：25の比で区分）

#### 【区分】

寄り添い度・高（14～16点）

寄り添い度・中（12～13点）

寄り添い度・低（1～11点）

- ・関係性が強いと考えられる一部の設問について、上記の区分を分析軸にクロス集計を実施しました。

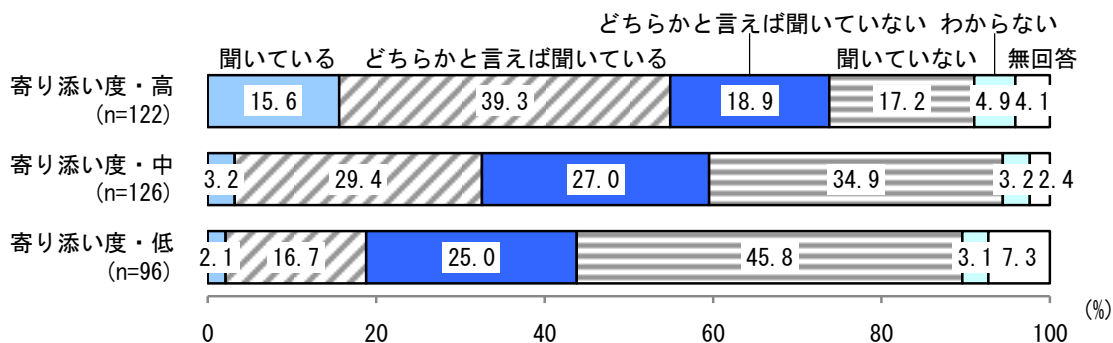
クロス集計結果は、次ページ以降に示すとおりです。

(1) 学校での人権学習について聞いているか

問11 学校・学級で取り組んでいる人権学習の様子については、お子さんから聞いていますか。(○は1つ)

『聞いている』の割合は、子どもへの寄り添い度が高い保護者が54.9%となっているのに対し、寄り添い度が低い保護者は18.8%で、『聞いていない』の割合が70.8%を占めています。(図Ⅲ-6-1)

【図Ⅲ-6-1 子どもへの寄り添い度別 学校での人権学習について聞いているか】

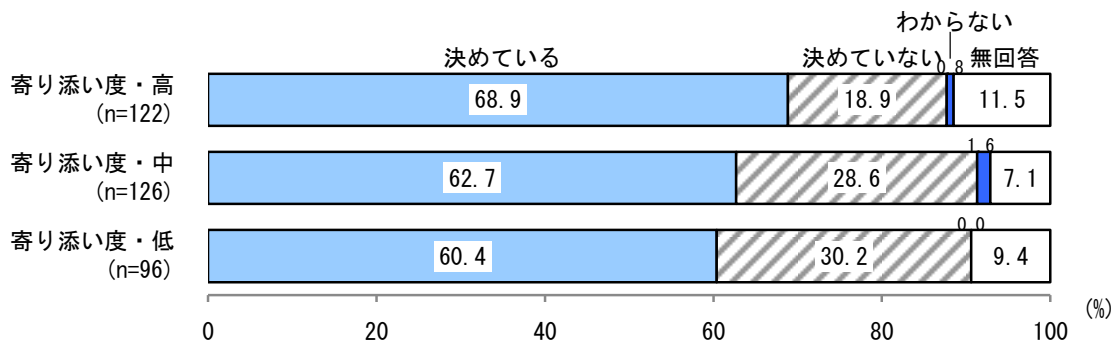


(2) インターネット接続機器を使用するときのルールの有無

問22 携帯電話・スマートフォン、インターネット接続機器を使用する上で、お子さんとの約束事やルールを決めていますか。(○は1つ)

子どもへの寄り添い度別では、寄り添い度が高い保護者で「決めている」割合が高くなっています。(図Ⅲ-6-2)

【図Ⅲ-6-2 子どもへの寄り添い度別 インターネット接続機器を使用するときのルールの有無】



## 〔2〕学校との関わり度別

保護者がどの程度学校と関わりをもっているのか、その程度と関連する設問との関係性をみるため、問5～問8の回答を点数化し、「学校との関わり度」を尺度化しました。

尺度化の具体的な方法は次のとおりです。

- ・各質問に設けたア～オの選択肢の回答に応じて、下記点数を付与します。
  - ア 思う（参加してきた、確認している、相談している）：4点
  - イ どちらかと言えば思う（参加してきた、確認している、相談している）：3点
  - ウ どちらかと言えば思わない（参加していない、確認していない、相談していない）：2点
  - エ 思わない（参加していない、確認していない、相談していない）：1点
  - オ わからない：0点
- ・付与した点数を合計し、その合計値の点数の分布（最小1点／最大16点）から、下記の3つのグループに区分（下位の点数から累計し、概ね1／3ずつ、または25：50：25の比で区分）
  - 【区分】
  - 関わり度・高（14～16点）
  - 関わり度・中（12～13点）
  - 関わり度・低（1～11点）
- ・関係性が強いと考えられる一部の設問について、上記の区分を分析軸にクロス集計を実施しました。

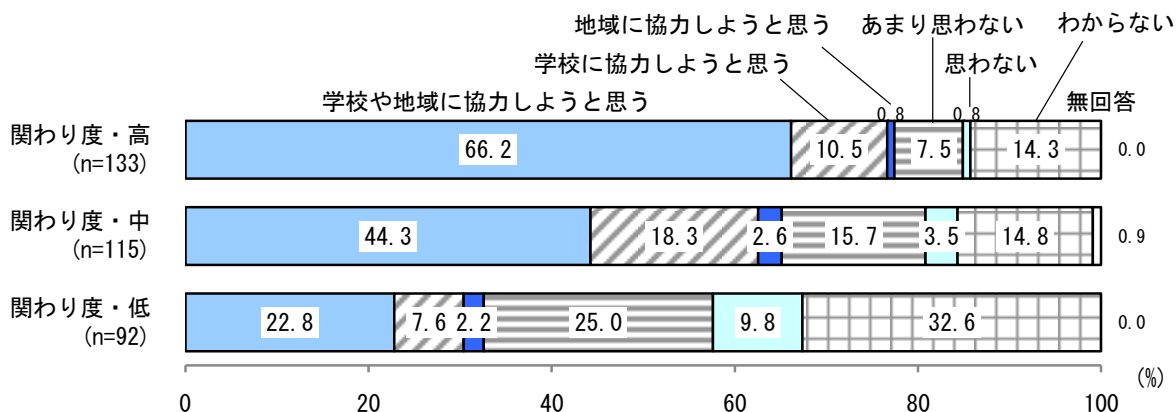
クロス集計結果は、次ページ以降に示すとおりです。

(1) 子どもの教育に関して学校・地域への協力意向

問9 子どもの教育（学校・地域での学習支援及びボランティア等）に関する要請があれば、学校・地域に協力しようと思っていますか。（○は1つ）

学校との関わり度が高い保護者ほど、「学校や地域に協力しようと思う」の割合が高くなっています。関わり度が低い保護者では、「あまり思わない」（25.0%）や「思わない」（9.8%）、「わからない」（32.6%）が高くなっています。（図Ⅲ-7-1）

【図Ⅲ-7-1 学校との関わり度別 子どもの教育に関して学校・地域への協力意向】

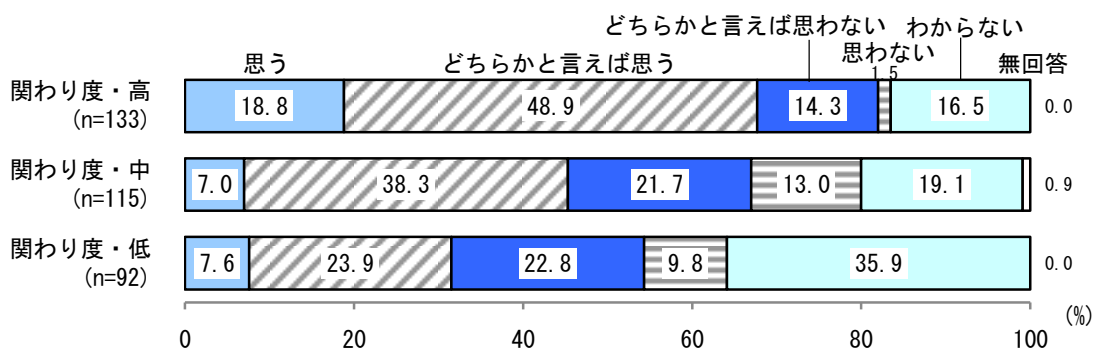


(2) 学校は人権学習の取組内容等を分かりやすく伝えているか

問10 学校・学級は人権学習の取組内容等について、家庭に分かりやすく伝えていると思いますか。（○は1つ）

『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、学校との関わり度が高い保護者が67.7%となっているのに対し、関わり度が低い保護者は31.5%で、「わからない」の割合（35.9%）が高くなっています。（図Ⅲ-7-2）

【図Ⅲ-7-2 学校への関わり度別 学校は人権学習の取組内容等を分かりやすく伝えているか】

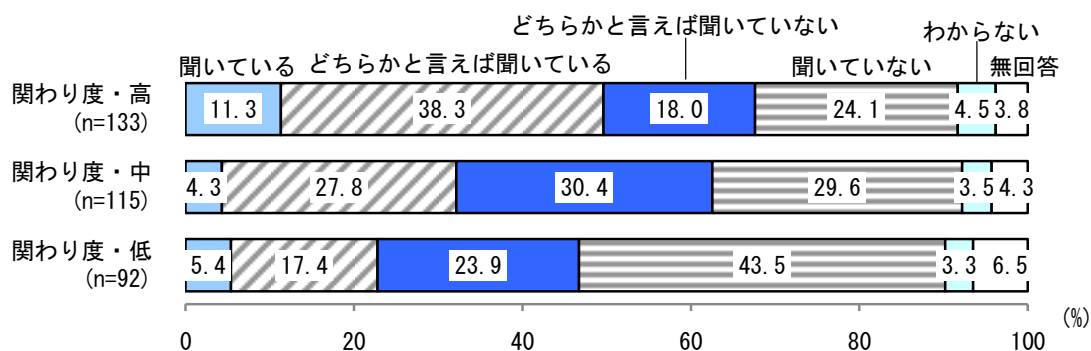


(3) 学校での人権学習について聞いているか

問11 学校・学級で取り組んでいる人権学習の様子については、お子さんから聞いていますか。(○は1つ)

『聞いている』の割合（「聞いている」と「どちらかと言えば聞いている」の合計）は、学校との関わり度が高い保護者が49.6%となっているのに対し、関わり度が低い保護者は22.8%で、『聞いている』（「聞いている」と「どちらかと言えば聞いている」の合計）の割合が67.4%を占めています。（図Ⅲ-7-3）

【図Ⅲ-7-3 学校との関わり度別 学校での人権学習について聞いているか】

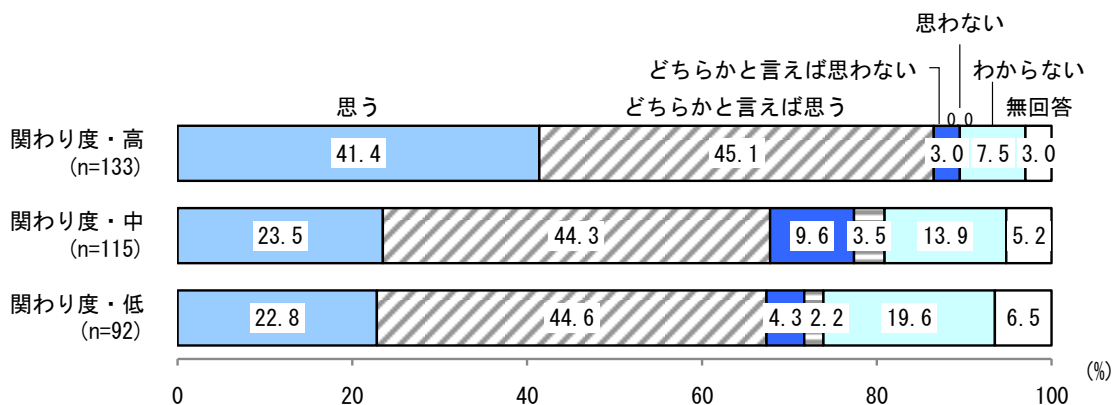


(4) 学校は子どものよさを大切にしているか

問12 学校（教職員）は、お子さんのよさを大切にしていると思いますか。(○は1つ)

『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、学校との関わり度が高い保護者では86.5%を占めるのに対し、関わり度が中程度又は低い保護者は7割弱と低くなっています。（図Ⅲ-7-4）

【図Ⅲ-7-4 学校との関わり度別 学校は子どものよさを大切にしているか】



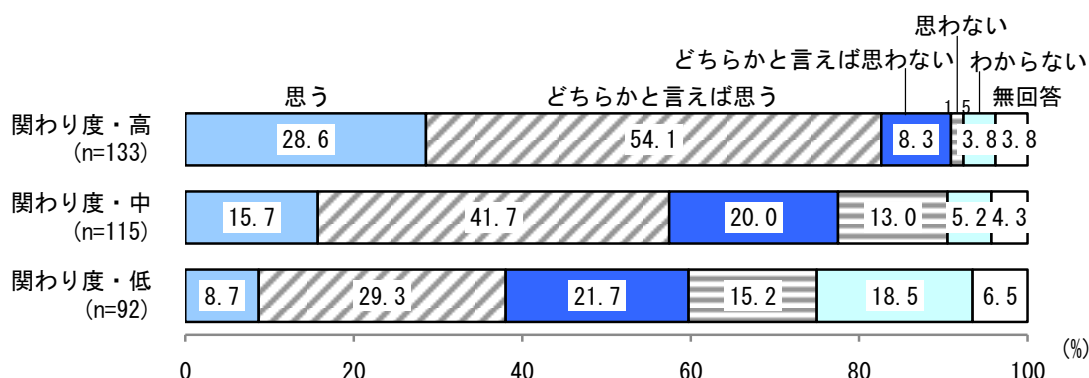


(5) 学校に子育て・教育について気軽に相談できているか

問13 あなたは、学校に子育てや教育等について気軽に相談できていると思いますか。(〇は1つ)

『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、学校との関わり度が高い保護者では82.7%を占めるのに対し、関わり度が低い保護者は38.0%と低く、『思わない』の割合（「思わない」と「どちらかと言えば思わない」の合計）が36.9%と高くなっています。（図Ⅲ-7-5）

【図Ⅲ-7-5 学校との関わり度別 学校に子育て・教育について気軽に相談できているか】

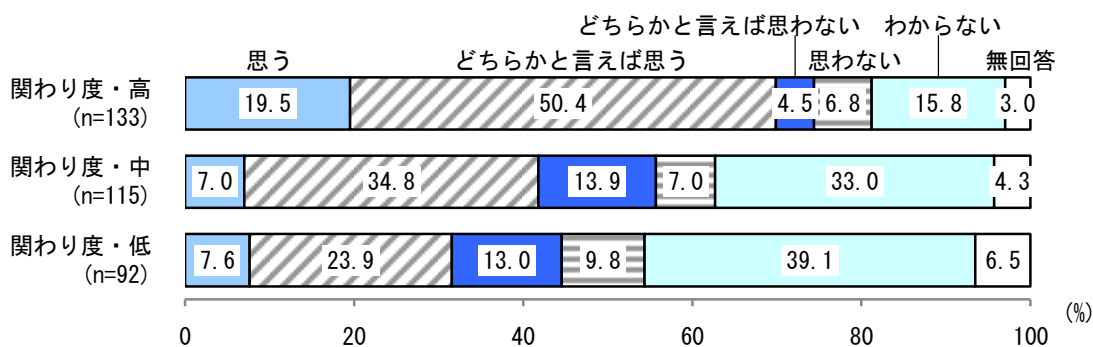


(6) 学校はいじめに対して前向きに取り組んでいるか

問14 学校は、いじめを許さない学校・学級づくりに前向きに取り組んでいると思いますか。(〇は1つ)

『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、学校との関わり度が高い保護者では69.9%を占めるのに対し、関わり度が中程度の保護者は41.8%、関わり度が低い保護者は31.5%となっており、『思わない』（「思わない」と「どちらかと言えば思わない」の合計）と「わからない」の各割合が高くなっています。（図Ⅲ-7-6）

【図Ⅲ-7-6 学校との関わり度別 学校はいじめに対して前向きに取り組んでいるか】

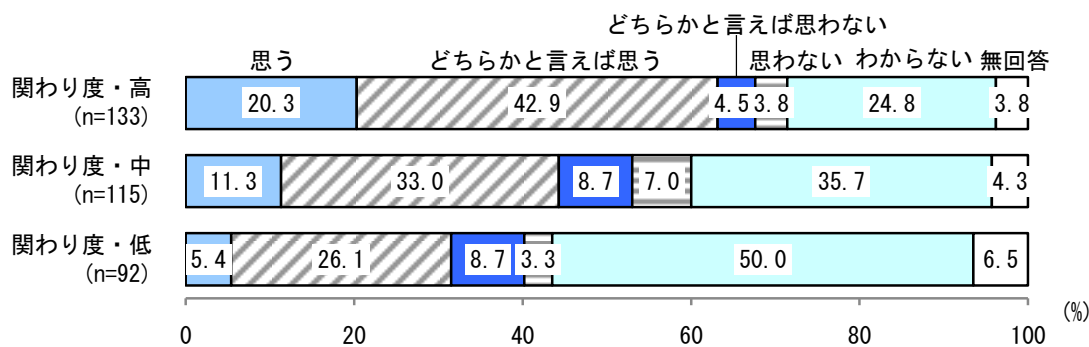


(7) プライバシーを遵守した子どもの教育課題や人権情報の周知を行っているか

問15 学校は、保護者に子どもの教育課題や人権情報（子どもの人間関係やいじめ等の誰かが傷つく生活課題）の周知をプライバシー遵守で前向きに行っていると思いますか。  
 (○は1つ)

『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、学校との関わり度が高い保護者では63.2%を占めるのに対し、関わり度が中程度の保護者は44.3%、関わり度が低い保護者は31.5%となっており、「わからない」の割合が高くなっています。（図Ⅲ-7-7）

【図Ⅲ-7-7 学校との関わり度別 プライバシーを遵守した子どもの教育課題や人権情報の周知を行っているか】

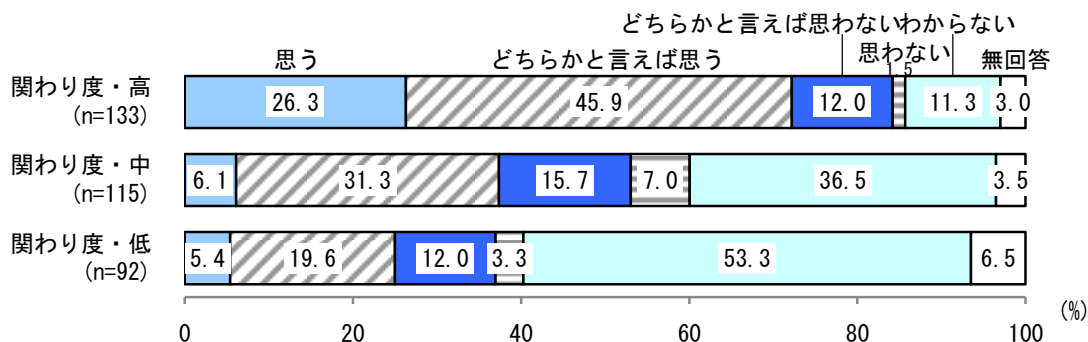


(8) 学校は地域人材や保護者の教育活動への参加を促しているか

問16 学校は、地域人材や保護者の教育活動への参加を積極的に促していると思いますか。  
 (○は1つ)

学校との関わり度別では、『思う』の割合（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）は、学校との関わり度が高い保護者では72.2%を占めるのに対し、関わり度が中程度の保護者は37.4%、関わり度が低い保護者は25.0%となっており、「わからない」の割合が高くなっています。（図Ⅲ-7-8）

【図Ⅲ-7-8 学校との関わり度別 学校は地域人材や保護者の教育活動への参加を促しているか】



## 3 自由意見

問29 次世代の社会を担う子どもたちの人権が守られ、豊かな学びや生活が保障できるようにするために、私たち大人（学校・地域・家庭・行政）が考えるべきこと、行動すべきことがあれば、気軽に記述ください。（自由記述）

大人が考えるべきこと、行動すべきことに関する意見については、74人から97件の自由記述が寄せられました。

分類		件数
学校	教育現場の改善	8
	学校（学習）の環境について	6
	いじめ等に対する学校の対応	4
	学校での携帯使用の取り締まり	4
	学校からの情報発信	3
	親と学校がつながる機会について	2
	人権教育について	2
	子どもの非行について	2
	学校 計	31
家庭	子どもとコミュニケーションをとる	3
	家庭で人権について話し合う	2
	もっと子どもの話を聴く	2
	家庭での教育	2
	家庭 計	9
その他	大人が子どもの手本となるべき	6
	大人が人権についてもっと学ぶ（親の意識改革）	4
	子どもたちが地域と関わる場を増やす	4
	スマホ・ネットを利用するときのルールやモラル・マナーについて	3
	人権に関するイベント・研修・講演会等を増やしてほしい	2
	子育てについての情報・相談場所をつくってほしい	2
	発達障がい等がある子どもたちについて	2
	子どもが多様な考え方をもてる教育	2
	クラブ活動について	2
	アンケートについて	2
	その他	28
	その他意見 計	57
総計	97	

## Ⅱ-4 外国籍住民調査

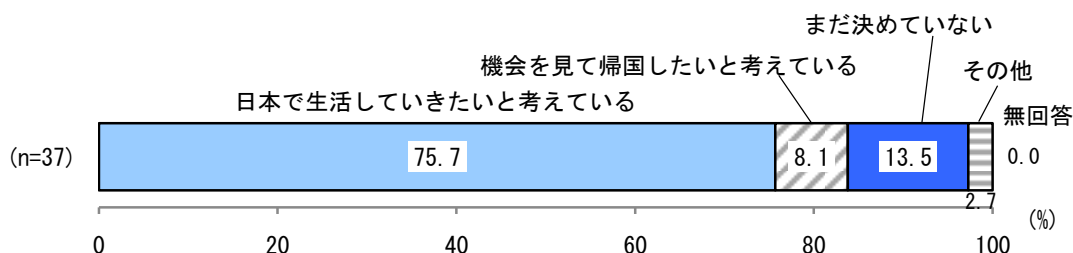
### 1 回答者について

#### (1) 今後の日本での在住予定

問1 あなたの家族は、今後日本社会で生活していこうと考えていますか。(○は1つ)

今後の日本での在住予定については、「日本で生活していきたいと考えている」が75.7%と最も高く、次いで「まだ決めていない」が13.5%、「機会を見て帰国したいと考えている」が8.1%となっています。(図IV-1-1)

【図IV-1-1 今後の日本での在住予定】



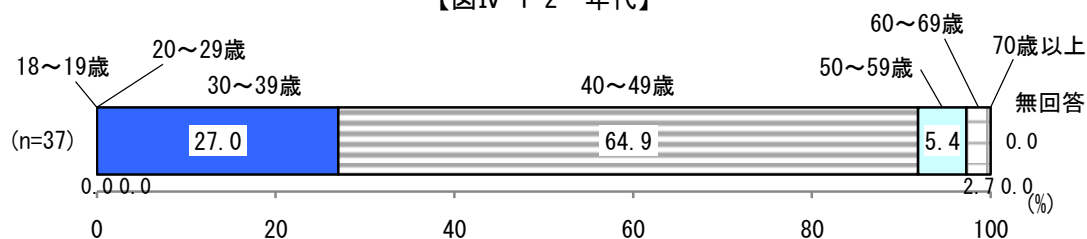
その他：「退職後にブラジルに戻る」

#### (2) 年代

問2 あなたの年齢は、現在何歳ですか。(○は1つ)

回答者の年代は、「40～49歳」が64.9%と最も高く、次いで「30～39歳」が27.0%、「50～59歳」が5.4%となっています。(図IV-1-2)

【図IV-1-2 年代】

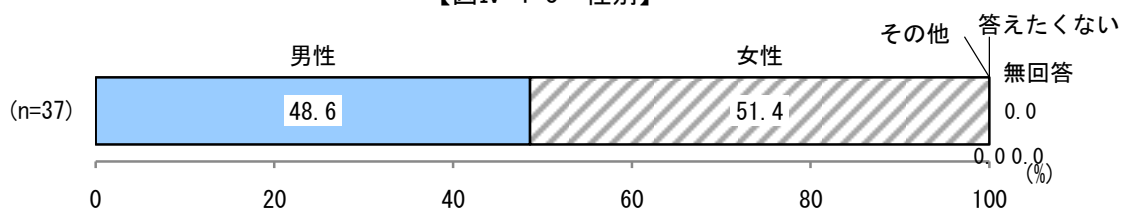


#### (3) 性別

問3 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

回答者の性別は、「男性」が48.6%、「女性」が51.4%となっています。(図IV-1-3)

【図IV-1-3 性別】

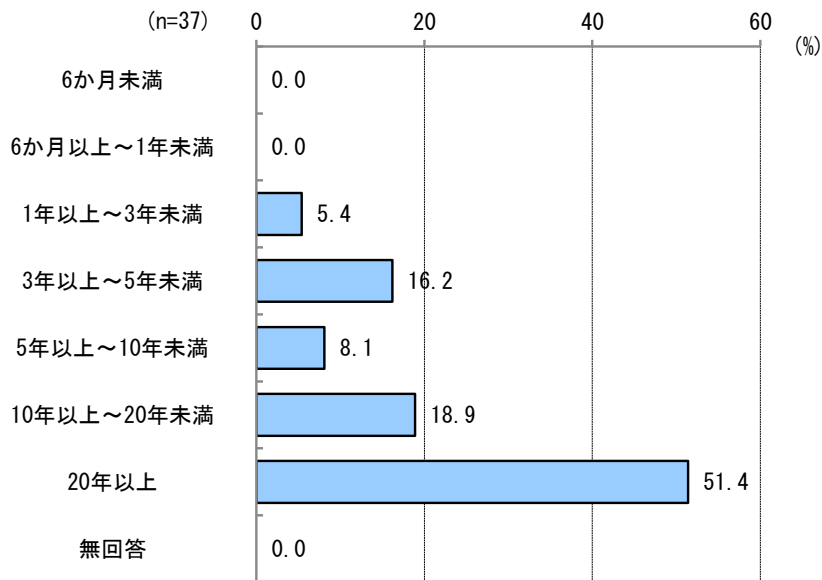


(4) 日本での居住年数

問4 あなたの日本での居住年数を教えてください。(○は1つ)

日本での居住年数は、「20年以上」が51.4%と最も高く、次いで「10年以上～20年未満」が18.9%、「3年以上～5年未満」が16.2%となっています。(図IV-1-4)

【図IV-1-4 日本での居住年数】



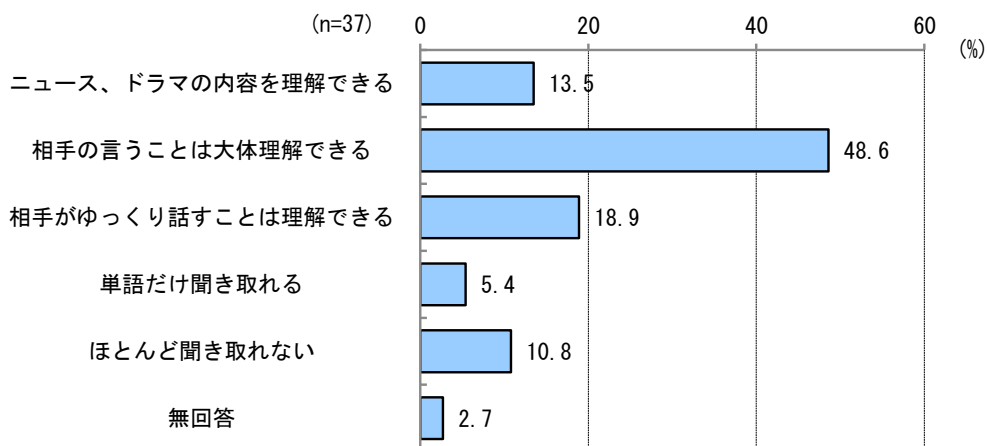
(5) 日本語の習得状況

問5 日本語の習得状況を教えてください。(それぞれについて、○は1つ)

①聞く

日本語の習得状況①「聞く」については、「相手の言うことは大体理解できる」が48.6%と最も高く、次いで「相手がゆっくり話すことは理解できる」が18.9%、「ニュース、ドラマの内容を理解できる」が13.5%となっています。(図IV-1-5)

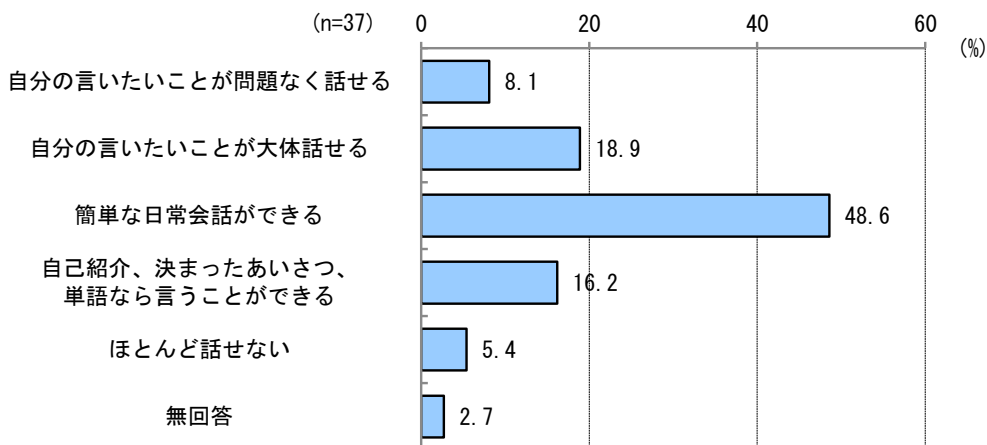
【図IV-1-5 日本語の習得状況 ①聞く】



②話す

日本語の習得状況②「話す」については、「簡単な日常会話ができる」が48.6%と最も高く、次いで「自分の言いたいことが大体話せる」が18.9%、「自己紹介、決まったあいさつ、単語なら言うことができる」が16.2%となっています。(図IV-1-6)

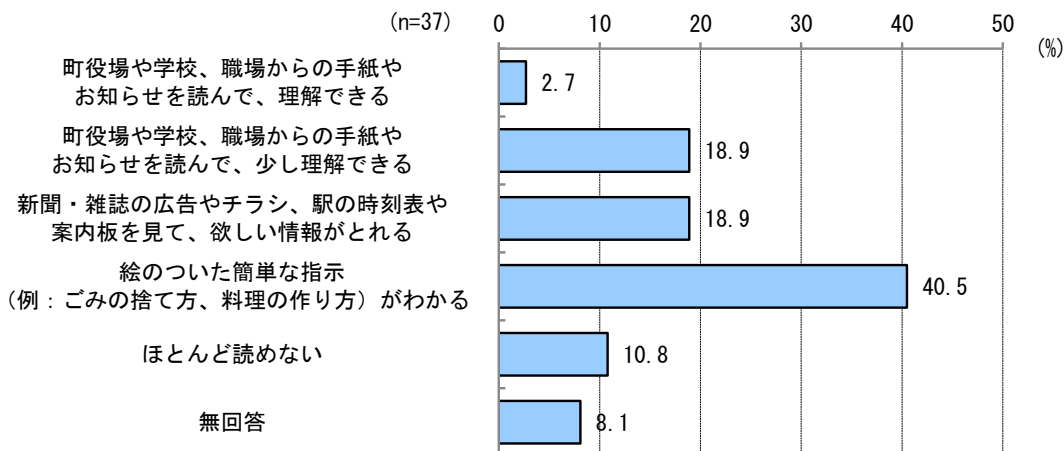
【図IV-1-6 日本語の習得状況 ②話す】



③読む

日本語の習得状況③「読む」については、「絵のついた簡単な指示（例：ごみの捨て方、料理の作り方）がわかる」が40.5%と最も高く、次いで「町役場や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる」、「新聞・雑誌の広告やチラシ、駅の時刻表や案内板を見て、欲しい情報がとれる」が18.9%、「ほとんど読めない」が10.8%となっています。(図IV-1-7)

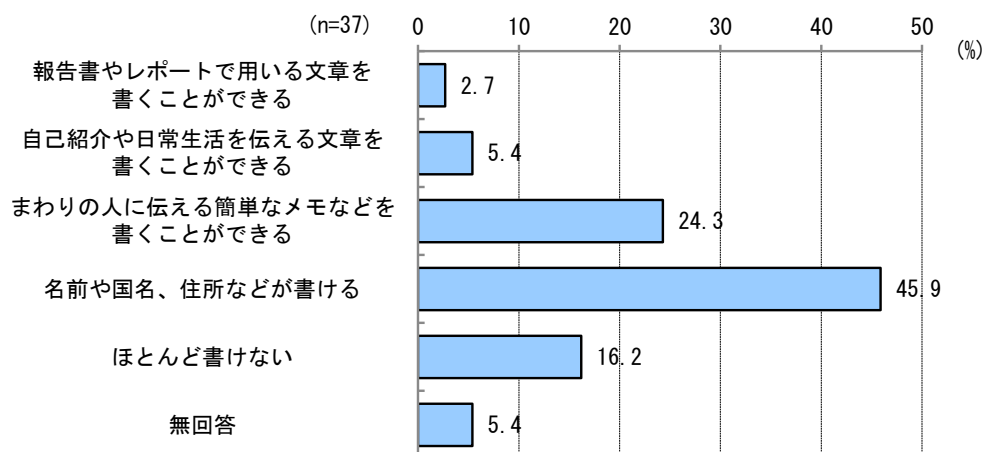
【図IV-1-7 日本語の習得状況 ③読む】



④書く

日本語の習得状況④「書く」については、「名前や国名、住所などが書ける」が45.9%と最も高く、次いで「まわりの人に伝える簡単なメモなどを書くことができる」が24.3%、「ほとんど書けない」が16.2%となっています。(図Ⅳ-1-8)

【図Ⅳ-1-8 日本語の習得状況 ④書く】



## 2 日本（愛荘町）に来て良かったと思うこと

問6 あなたが日本（愛荘町）に来て良かったと思うことを、できれば3つ書いてください。

日本（愛荘町）に来て良かったことと思うことについては、68件の意見が寄せられました。

分類		件数
まち	平穏さ・静かな場所	14
	居住環境	5
	びわ湖	3
	公衆衛生	2
	まち 計	24
その他	保険	17
	組織（自治体）	9
	町の支援	8
	学校の受け入れ体制	3
	職場が近い	3
	生活の質	2
	その他	2
	その他意見 計	44
総計	68	



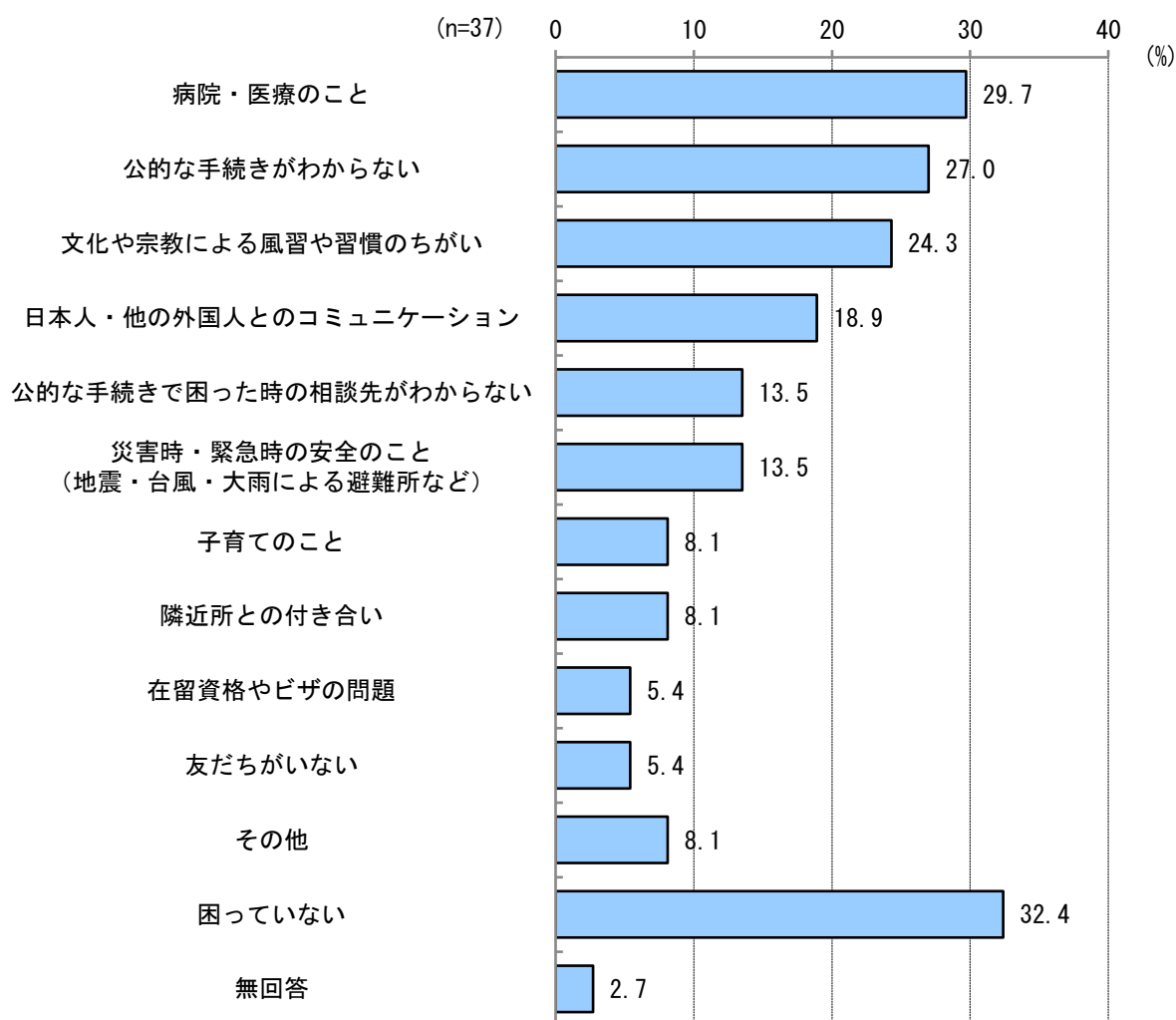
### 3 あなたが困っていることについて

#### (1) 不便なことや困っていること

問7 生活の中で不便を感じていることや困っていることは何ですか。  
(○はいくつでも)

不便なことや困っていることについては、「困っていない」が32.4%と最も高く、次いで「病院・医療のこと」が29.7%、「公的な手続きがわからない」が27.0%となっています。(図IV-3-1)

【図IV-3-1 不便なことや困っていること】



その他：「子どもが母国語を忘れてしまう」等

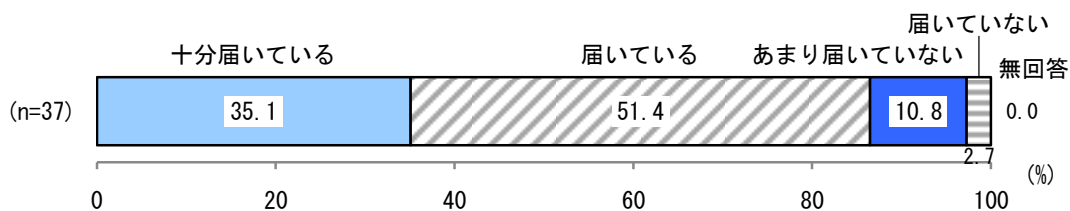
#### 4 生活や教育にかかる情報や相談のことについて

##### (1) 必要な情報は届いているか

問8 あなたに必要な情報は届いていますか。(○は1つ)

必要な情報は届いているかについては、「届いている」が51.4%と最も高く、次いで「十分届いている」が35.1%、「あまり届いていない」が10.8%となっています。(図IV-4-1)

【図IV-4-1 必要な情報は届いているか】

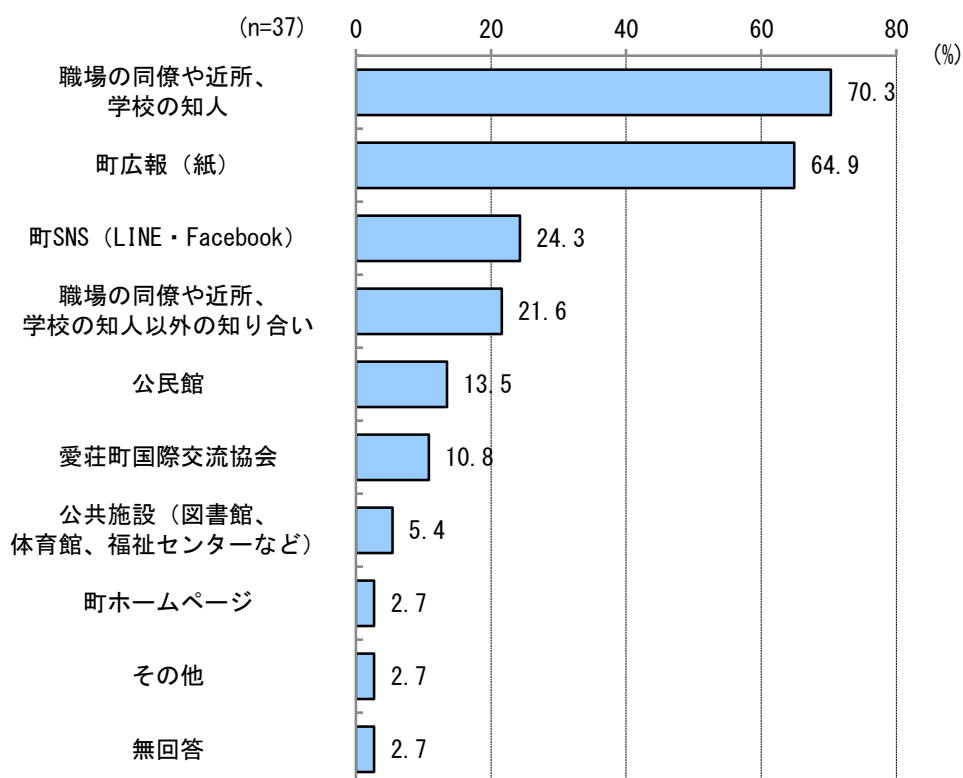


##### (2) 情報の入手先

問9 あなたの、ふだんの情報入手先はどこからですか。(○はいくつでも)

情報の入手先については、「職場の同僚や近所、学校の知人」が70.3%と最も高く、次いで「町広報(紙)」が64.9%、「町SNS(LINE・Facebook)」が24.3%となっています。(図IV-4-2)

【図IV-4-2 情報の入手先】



その他:「学校の通訳士」

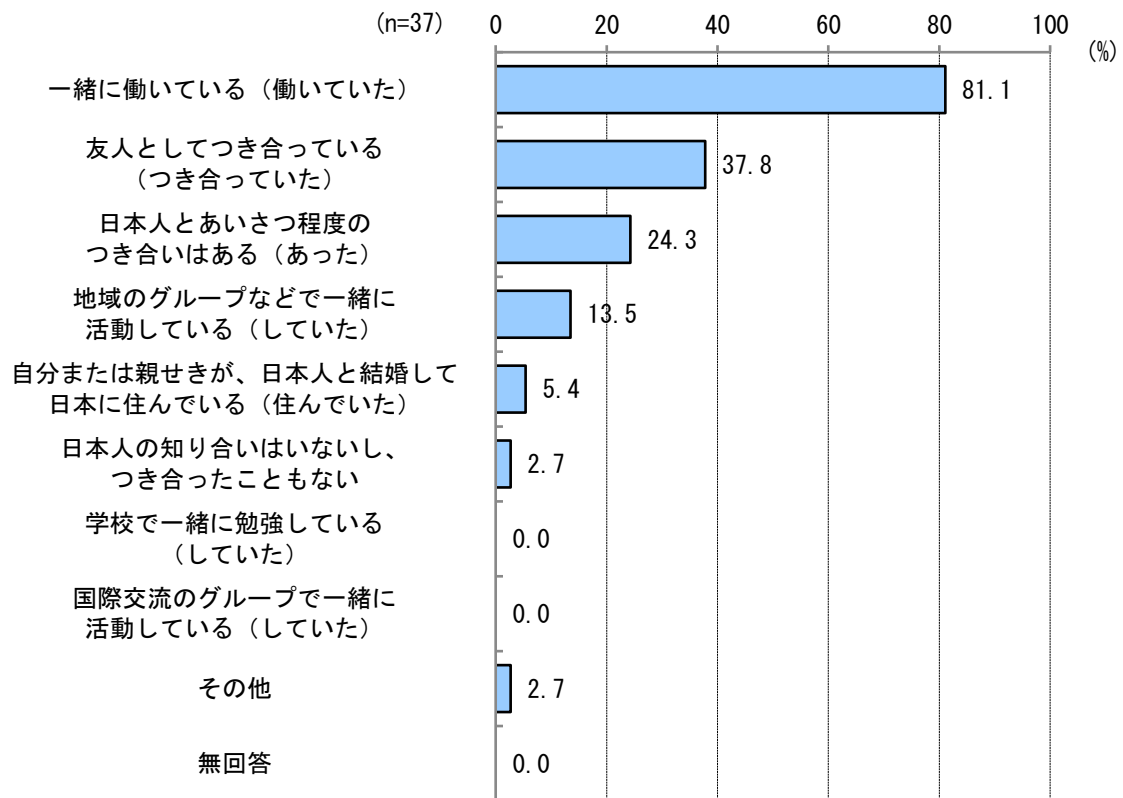
## 5 住んでいる地域について

### (1) 日本人との付き合いの有無

問10 あなたは、普段の仕事や生活で日本人との付き合いがあります（ありました）か。  
 (○はいくつでも)

日本人との付き合いの有無については、「一緒に働いている（働いていた）」が81.1%と最も高く、次いで「友人としてつき合っている（つき合っていた）」が37.8%、「日本人とあいさつ程度の付き合いはある（あった）」が24.3%となっています。（図IV-5-1）

【図IV-5-1 日本人との付き合いの有無】



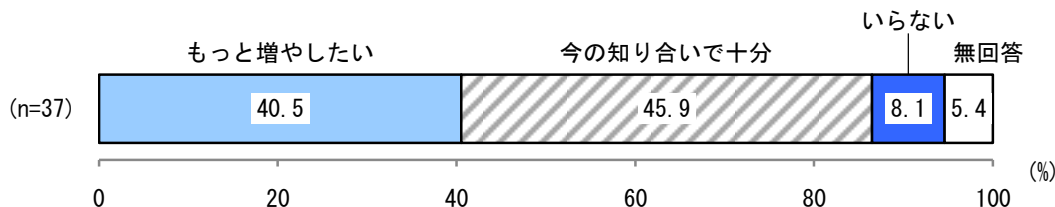
その他：「子どもの学校、仕事、教会」

(2) 日本人の知り合いがほしいか

問11 地域に日本人の知り合いがほしいですか。(○は1つ)

日本人の知り合いがほしいかについては、「今の知り合いで十分」が45.9%と最も高く、次いで「もっと増やしたい」が40.5%、「いない」が8.1%となっています。(図IV-5-2)

【図IV-5-2 日本人の知り合いがほしいか】



(3) 日本人の知り合いがいない理由

問12 11で「いない」と答えた人は、その理由を教えてください。

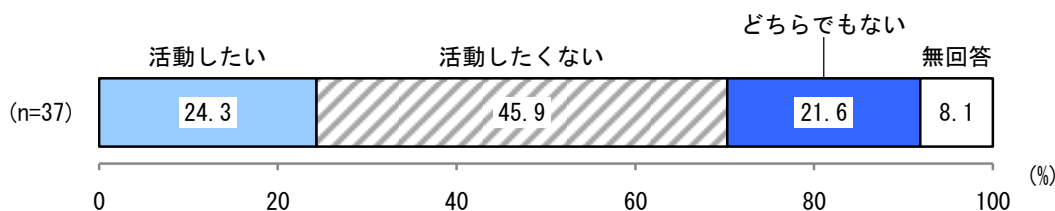
日本人の知り合いがいない理由については、3件の意見が寄せられました。意見の内容は、「言葉の壁」によるコミュニケーションの難しさとなっています。

(4) 地域の役に立つ活動がしたいか

問13 地域の人と一緒に地域の役に立つ活動がしたいですか。(○は1つ)

地域の役に立つ活動がしたいかについては、「活動したくない」が45.9%と最も高く、次いで「活動したい」が24.3%、「どちらでもない」が21.6%となっています。(図IV-5-4)

【図IV-5-4 地域の役に立つ活動がしたいか】



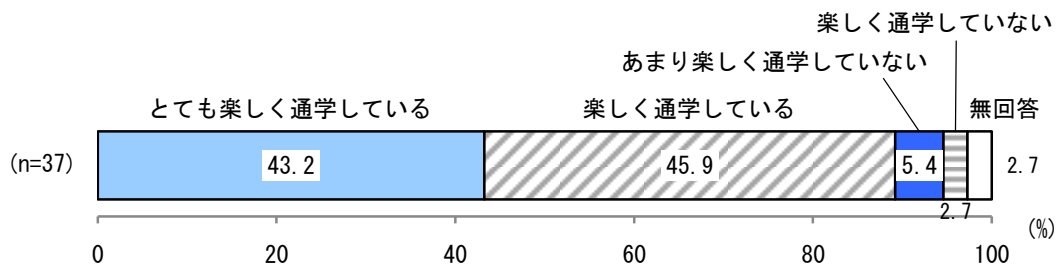
## 6 子どもの学校での生活・勉強・進路について

### (1) 子どもの通学の様子

問14 お子さんは、学校に楽しく通学されていますか。(○は1つ)

子どもの通学の様子については、「楽しく通学している」が45.9%と最も高く、次いで「とても楽しく通学している」が43.2%、「あまり楽しく通学していない」が5.4%となっています。(図IV-6-1)

【図IV-6-1 子どもの通学の様子】



問14で「あまり楽しく通学していない」、「楽しく通学していない」と答えた人は、楽しくない理由を書いてください。

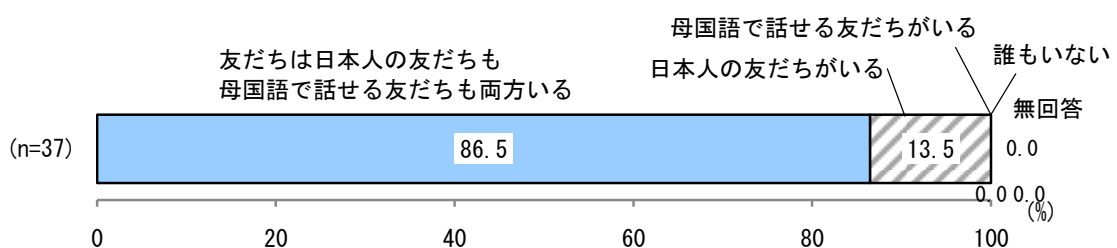
子どもが楽しく通学していない理由については、4件の意見が寄せられました。意見の内容は、「いじめられている」、「コミュニケーションの欠如」、「友だちがいない」、「パニック障がいがある」となっています。

### (2) 子どもに友だちはいるか

問15 お子さんには友だちがいますか。(○は1つ)

子どもに友だちはいるかについては、「友だちは日本人の友だちも母国語で話せる友だちも両方いる」が86.5%と最も高く、次いで「日本人の友だちがいる」が13.5%となっています。(図IV-6-2)

【図IV-6-2 子どもに友だちはいるか】

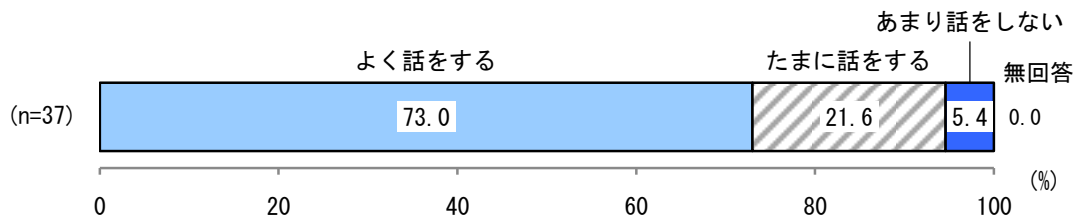


(3) 子どもと学校や友だちのことで会話をしているか

問16 お子さんと毎日学校のことや友だちのことで会話はできていますか。(○は1つ)

子どもと学校や友だちのことで会話をしているかについては、「よく話をする」が73.0%、次いで「たまに話をする」が21.6%、「あまり話をしない」が5.4%となっています。(図IV-6-3)

【図IV-6-3 子どもと学校や友だちのことで会話をしているか】

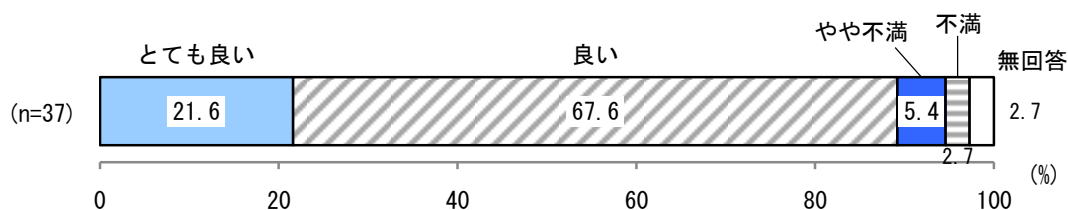


(4) 学校の先生との関係

問17 保護者と学校・担任の先生との関係は良好ですか。(○は1つ)

学校の先生との関係については、「良い」が67.6%と最も高く、次いで「とても良い」が21.6%、「やや不満」が5.4%となっています。(図IV-6-4)

【図IV-6-4 学校の先生との関係】

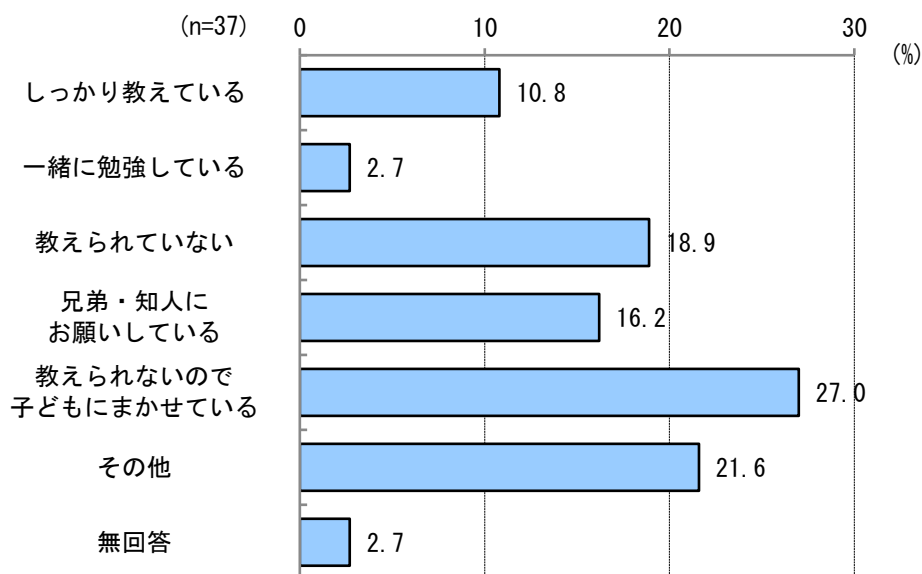


(5) 学校の宿題や課題を教えているか

問18 お子さんの学校での宿題や課題をあなたは教えてあげられていますか。(○は1つ)

学校の宿題や課題を教えているかについては、「教えられないので子どもにまかせている」が27.0%と最も高く、次いで「教えられていない」が18.9%、「兄弟・知人にお願いしている」が16.2%となっています。(図Ⅳ-6-5)

【図Ⅳ-6-5 学校の宿題や課題を教えているか】



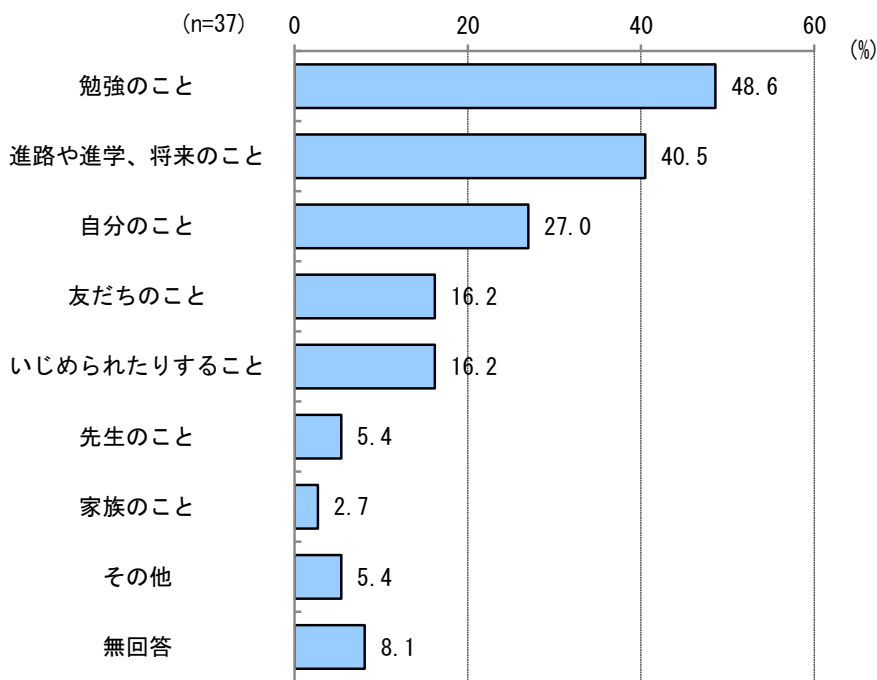
その他：「困った時は助ける」、「できる限り助ける」等

(6) 子どもが学校生活において困っていること

問19 お子さんが学校生活で困っていることはどのようなことですか。  
(○はいくつでも)

子どもが学校生活において困っていることについては、「勉強のこと」が48.6%と最も高く、次いで「進路や進学、将来のこと」が40.5%、「自分のこと」が27.0%となっています。(図IV-6-6)

【図IV-6-6 子どもが学校生活において困っていること】



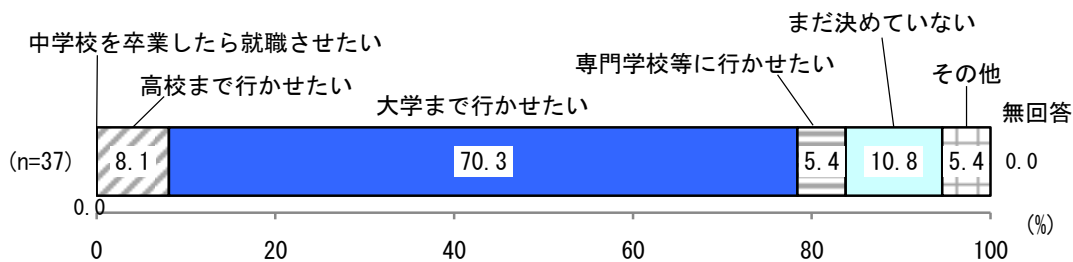
その他：「あそぶ時間が足りない」

(7) 子どもの今後の進路

問20 お子さんの今後の進路についてお聞きします。(○は1つ)

子どもの今後の進路については、「大学まで行かせたい」が70.3%と最も高く、次いで「まだ決めていない」が10.8%、「高校まで行かせたい」が8.1%となっています。(図IV-6-7)

【図IV-6-7 子どもの今後の進路】



その他：「留学に行かせたい」

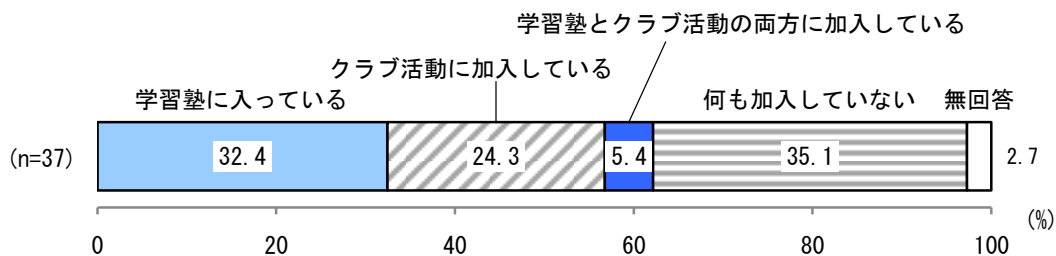


(8) 子どもの学習塾やクラブ活動等の加入状況

問21 あなたのお子さんは、学校以外の学習塾やスポーツ・文化クラブ活動などに加入されていますか。(〇は1つ)

子どもの学習塾やクラブ活動等の加入状況については、「何も加入していない」が35.1%と最も高く、次いで「学習塾に入っている」が32.4%、「クラブ活動に加入している」が24.3%となっています。(図IV-6-8)

【図IV-6-8 子どもの学習塾やクラブ活動等の加入状況】



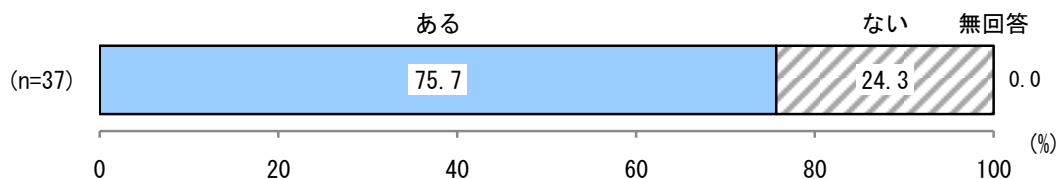
## 7 日本社会（愛荘町）での差別・偏見の有無について

### （1）日本で住居を探した経験

問22 あなたは日本（愛荘町）で、住む家を探したことがありますか。（○は1つ）

日本で住居を探した経験については、「ある」が75.7%、「ない」が24.3%となっています。（図IV-7-1）

【図IV-7-1 日本で住居を探した経験】



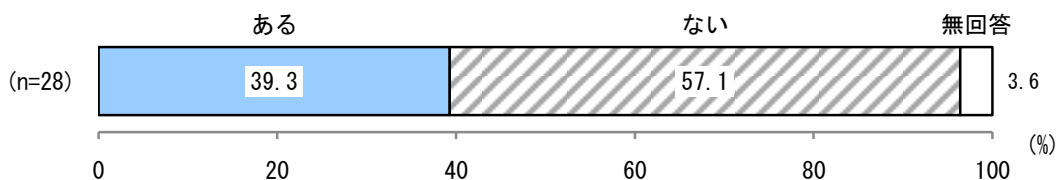
### （2）日本で住居を探していた時に経験したこと

問22-1 22で「ある」と答えた方にお聞きします。そのときに、次のような経験をしたことがありますか。（それぞれについて、○は1つ）

#### ①外国人であることを理由に入居または住宅の購入を断られた

外国人であることを理由に入居または住宅の購入を断られた経験については、「ある」が39.3%、「ない」が57.1%となっています。（図IV-7-2-①）

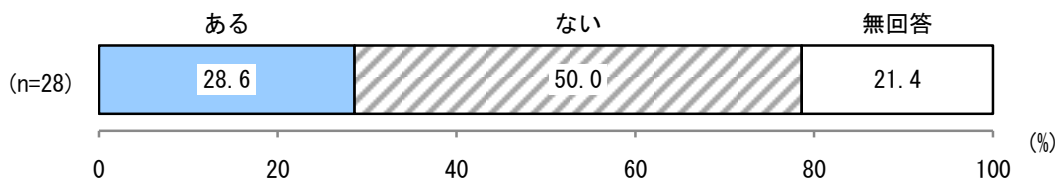
【図IV-7-2-① 外国人であることを理由に入居または住宅の購入を断られた経験】



#### ②日本人の保証人がいないことを理由に入居または住宅の購入を断られた

日本人の保証人がいないことを理由に入居または住宅の購入を断られた経験については、「ある」が28.6%、「ない」が50.0%となっています。（図IV-7-2-②）

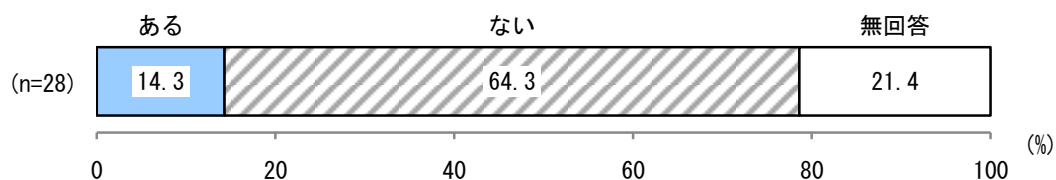
【図IV-7-2-② 日本人の保証人がいないことを理由に入居または住宅の購入を断られた経験】



③『外国人お断わり』と書かれた物件を見たので、あきらめた

『外国人お断わり』と書かれた物件を見たので、あきらめた経験については、「ある」が14.3%、「ない」が64.3%となっています。(図IV-7-2-③)

【図IV-7-2-③ 『外国人お断わり』と書かれた物件を見たので、あきらめた経験】



(3) 日本で住居を探していたときに感じた差別・偏見

問22-2 22で「ある」と答えた方にお聞きします。これらの他に、住む家を探したときに差別や偏見を感じたことがあれば、書いてください。

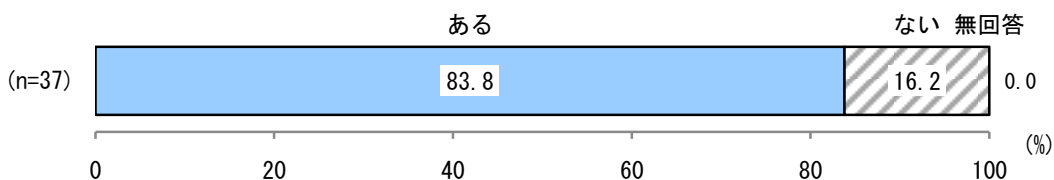
日本で住居を探していたときに感じた差別・偏見については、3件の意見が寄せられました。意見の内容は、「官僚主義」が2件、「内見もできず、「外国人不可」とあった」が1件となっています。

(4) 日本で働いた経験

問23 あなたは日本で、仕事を探したり、働いたりしたことがありますか（パート、アルバイトも含む）。（〇は1つ）

日本で働いた経験については、「ある」が83.8%、「ない」が16.2%となっています。（図IV-7-4）

【図IV-7-4 日本で働いた経験】



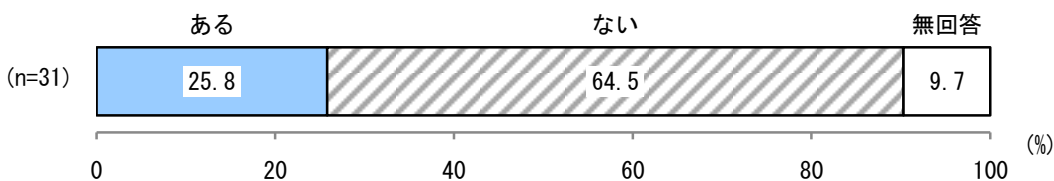
(5) 日本で経験したこと（就労）

問23-1 問23で「ある」と答えた方にお聞きします。そのときに、次のような経験をしたことがありますか。（それぞれについて、〇は1つ）

①外国人であることを理由に就職を断られた

外国人であることを理由に就職を断られた経験については、「ある」が25.8%、「ない」が64.5%となっています。（図IV-7-5-①）

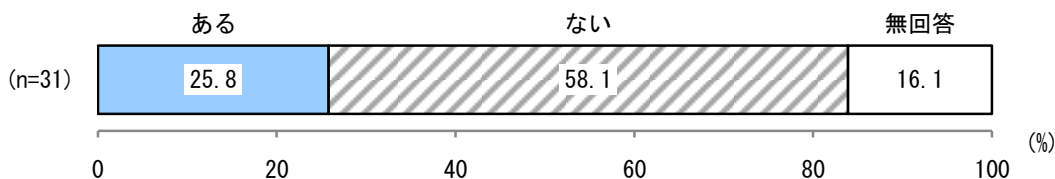
【図IV-7-5-① 外国人であることを理由に就職を断られた経験】



②同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった

同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった経験については、「ある」が25.8%、「ない」が58.1%となっています。（図IV-7-5-②）

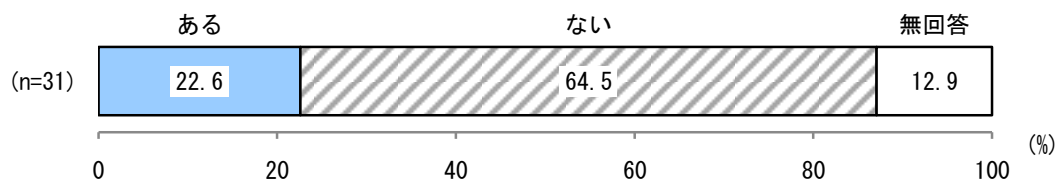
【図IV-7-5-② 同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった経験】



③勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった

勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった経験については、「ある」が22.6%、「ない」が64.5%となっています。(図IV-7-5-③)

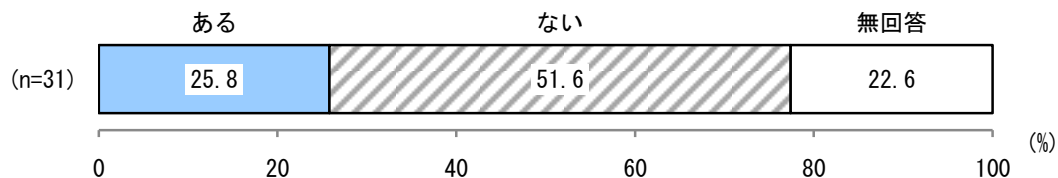
【図IV-7-5-③ 勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった経験】



④外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた

外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた経験については、「ある」が25.8%、「ない」が51.6%となっています。(図IV-7-5-④)

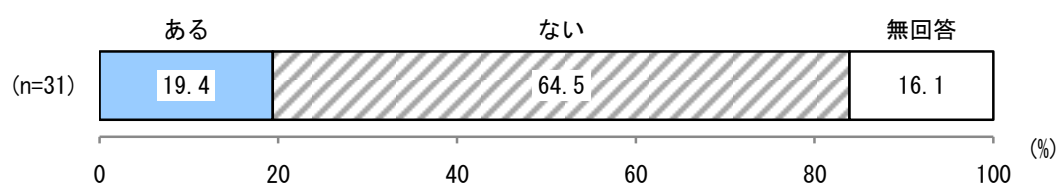
【図IV-7-5-④ 外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた経験】



⑤外国人であることを理由に、解雇された

外国人であることを理由に、解雇された経験については、「ある」が19.4%、「ない」が64.5%となっています。(図IV-7-5-⑤)

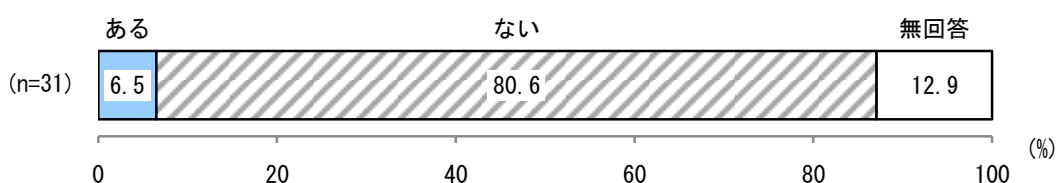
【図IV-7-5-⑤ 外国人であることを理由に、解雇された経験】



⑥上司から外国人であることを隠すよう指示された

上司から外国人であることを隠すよう指示された経験については、「ある」が6.5%、「ない」が80.6%となっています。(図IV-7-5-⑥)

【図IV-7-5-⑥ 上司から外国人であることを隠すよう指示された経験】



(6) 日本での仕事探し・就労中に感じた差別・偏見

問23-2 23で「ある」と答えた方にお聞きします。これらの他に、日本社会で仕事を探したり、働いたりしたときに差別や偏見を感じたことがあれば、書いてください。

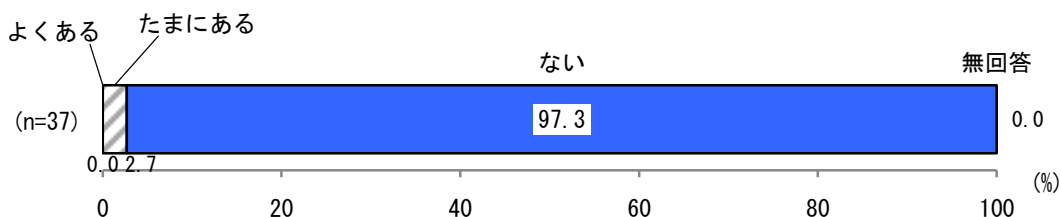
日本での仕事探し・就労中に感じた差別・偏見については、9件の意見が寄せられました。意見の内容は、「日本語がわからない」が3件、「ボーナスを与えられない」が2件、「外国人だから採用されない」が2件、「昇進させてもらえない」が1件、「社員として雇われない」が1件となっています。

(7) 日本で入店やサービスの提供を断られた経験

問24 あなたは日本で、外国人であることを理由に、お店やレストランなどへの入店やサービスの提供を断られたことがありますか。(○は1つ)

日本で入店やサービスの提供を断られた経験については、「たまにある」が2.7%、「ない」が97.3%となっています。(図IV-7-7)

【図IV-7-7 日本で入店やサービスの提供を断られた経験】



(8) 日本で入店やサービスの提供を断られた状況

問24-1 24で「よくある」「たまにある」に○をつけた方にお聞きします。どのようなときに断られたのか具体的に教えてください。

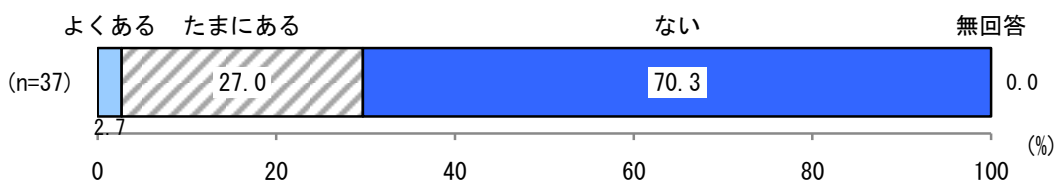
日本で入店やサービスの提供を断られた状況については、1件の意見が寄せられました。(解読不能)

(9) 日本で侮辱や差別をされた経験

問25 あなたは日本で、外国人であることを理由に侮辱されるなど差別的なことを直接被言われたことがありますか。(○は1つ)

日本で侮辱や差別をされた経験については、「ない」が70.3%と最も高く、次いで「たまにある」が27.0%、「よくある」が2.7%となっています。(図IV-7-9)

【図IV-7-9 日本で侮辱や差別をされた経験】

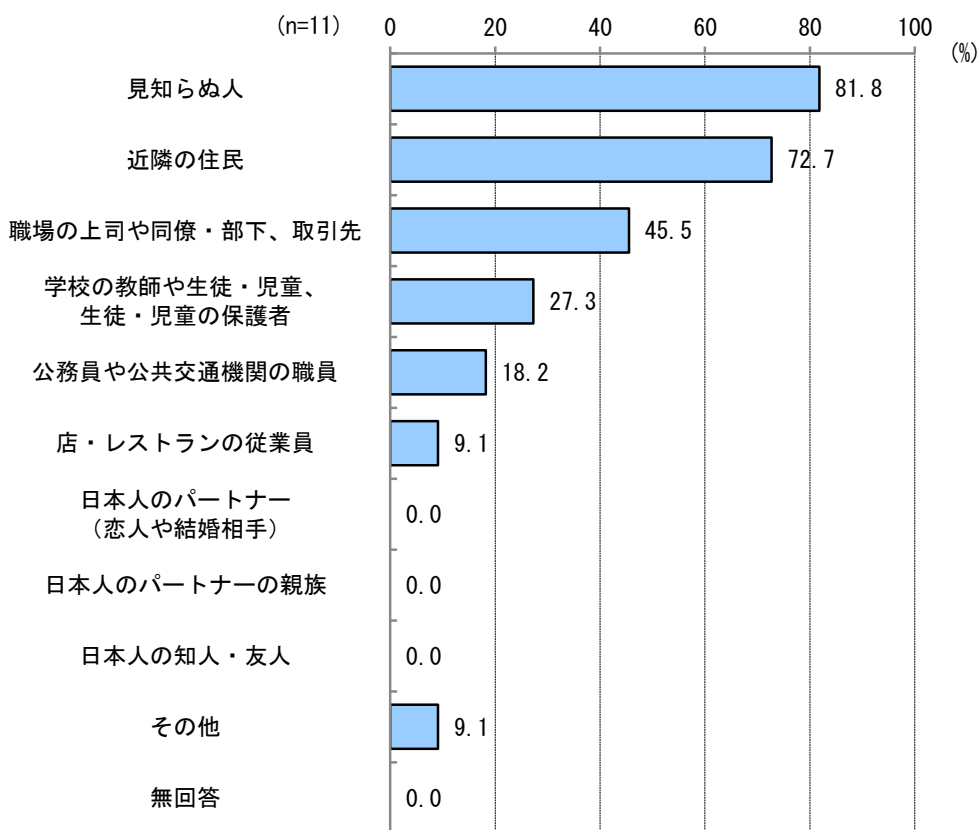


(10) 侮辱や差別をした人

問25-1 25で「よくある」「たまにある」に○をつけた方にお聞きします。誰から言われましたか。(○はいくつでも)

侮辱や差別をした人については、「見知らぬ人」が81.8%と最も高く、次いで「近隣の住民」が72.7%、「職場の上司や同僚・部下、取引先」が45.5%となっています。(図Ⅳ-7-10)

【図Ⅳ-7-10 侮辱や差別をした人】



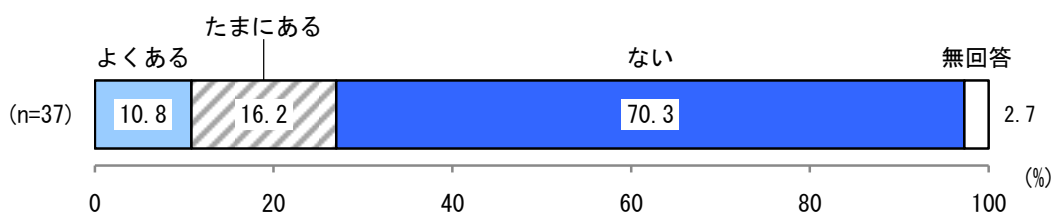
その他：「高齢者ほど偏見が強い」

(11) 日本で経験したこと（生活）

問26 あなたは日本に住んで、次のような経験をしたことがありますか。  
（それぞれについて、○は1つ）

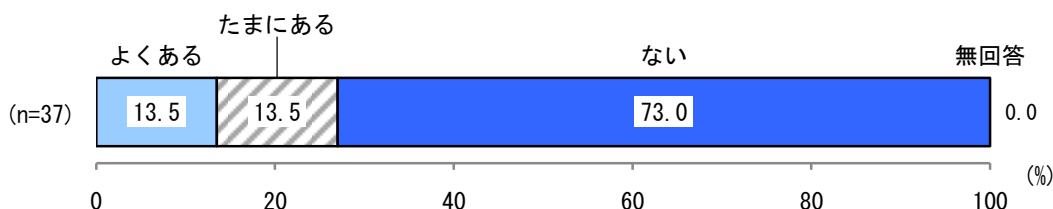
①職場や学校の人々が外国人に対する偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった  
外国人に対する偏見で人間関係がうまくいかなかった経験については、「ない」が70.3%と最も高く、次いで「たまにある」が16.2%、「よくある」が10.8%となっています。（図IV-7-11-①）

【問IV-7-11-① 外国人に対する偏見で人間関係がうまくいかなかった経験】



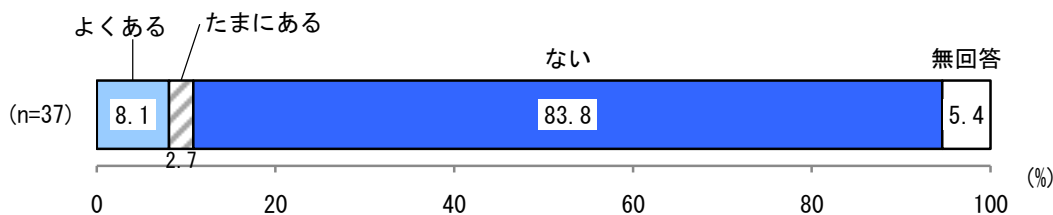
②職場・学校で、外国人であることを理由にいじめを受けた  
外国人であることを理由にいじめを受けた経験については、「ない」が73.0%と最も高く、次いで「たまにある」、「よくある」が13.5%となっています。（図IV-7-11-②）

【図IV-7-11-② 外国人であることを理由にいじめを受けた経験】



③名前が日本人風でないことによって嫌がらせを受けた  
名前が日本人風でないことによって嫌がらせを受けた経験については、「ない」が83.8%と最も高く、次いで「よくある」が8.1%、「たまにある」が2.7%となっています。（図IV-7-11-③）

【図IV-7-11-③ 名前が日本人風でないことによって嫌がらせを受けた経験】

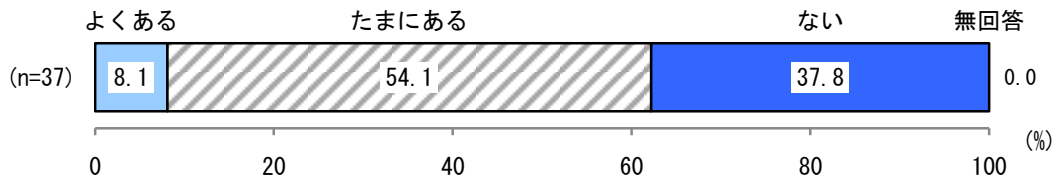




④日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた

日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた経験については、「たまにある」が54.1%と最も高く、次いで「ない」が37.8%、「よくある」が8.1%となっています。(図IV-7-11-④)

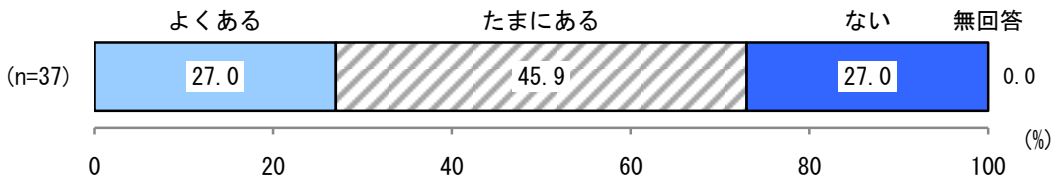
【図IV-7-11-④ 日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた経験】



⑤知らない人からジロジロ見られた

知らない人からジロジロ見られた経験については、「たまにある」が45.9%と最も高く、次いで「よくある」、「ない」が27.0%となっています。(図IV-7-11-⑤)

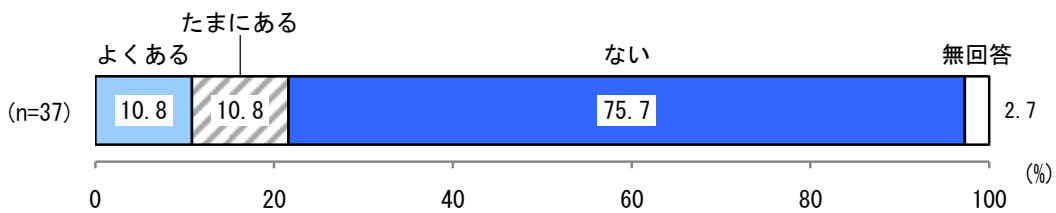
【図IV-7-11-⑤ 知らない人からジロジロ見られた経験】



⑥バスや電車、ショッピングセンターなどの公の場で自分を避けるようにされた

公の場で自分を避けるようにされた経験については、「ない」が75.7%と最も高く、次いで「よくある」、「たまにある」が10.8%となっています。(図IV-7-11-⑥)

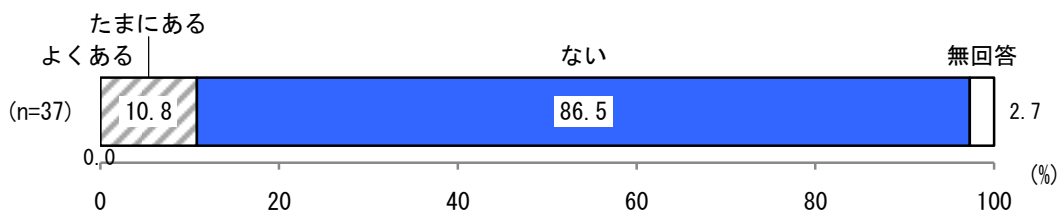
【図IV-7-11-⑥ 公の場で自分を避けるようにされた経験】



⑦近所の住民になかなか受け入れてもらえない

近所の住民になかなか受け入れてもらえない経験については、「ない」が86.5%と最も高く、次いで「たまにある」が10.8%となっています。(図IV-7-11-⑦)

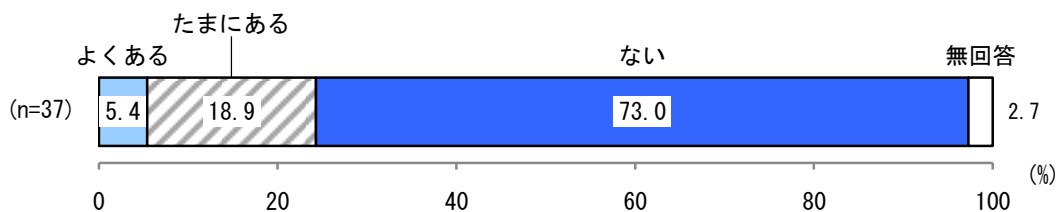
【図IV-7-11-⑦ 近所の住民になかなか受け入れてもらえない経験】



⑧日本人に話しかけたが無視された

日本人に話しかけたが無視された経験については、「ない」が73.0%と最も高く、次いで「たまにある」が18.9%、「よくある」が5.4%となっています。(図IV-7-11-⑧)

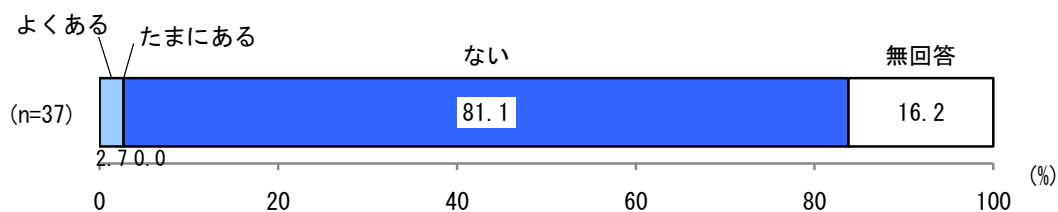
【図IV-7-11-⑧ 日本人に話しかけたが無視された経験】



⑨日本で外国人であることを理由に相手の親族から交際・結婚を反対された経験

日本で外国人であることを理由に相手の親族から反対された経験については、「ない」が81.1%と最も高く、次いで「よくある」が2.7%となっています。(図IV-7-11-⑨)

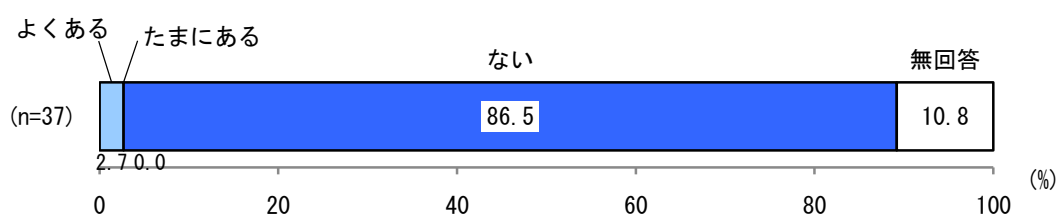
【図IV-7-11-⑨ 日本で外国人であることを理由に相手の親族から交際・結婚を反対された経験】



⑩日本人の家族や親族などから、自分の子どもに出身国（地域）の文化を教えてはいけないと言われた

自分の子どもに出身国の文化を教えてはいけないと言われた経験については、「ない」が86.5%と最も高く、次いで「よくある」が2.7%となっています。(図IV-7-11-⑩)

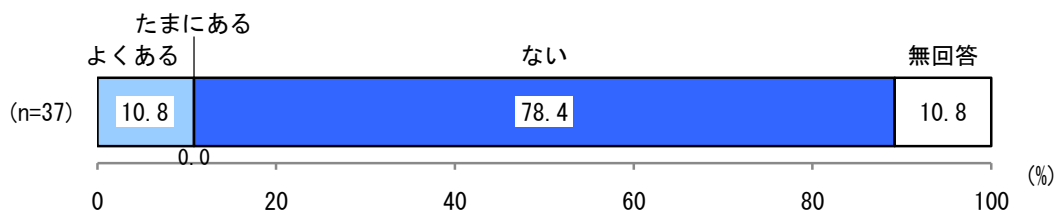
【図IV-7-11-⑩ 自分の子どもに出身国の文化を教えてはいけないと言われた経験】



⑪日本人の家族や親族などから、出身国（地域）やその文化について、侮辱されたり、からかわれたりした

出身国やその文化について、侮辱されたり、からかわれたりした経験については、「ない」が78.4%と最も高く、次いで「よくある」が10.8%となっています。（図Ⅳ-7-11-⑪）

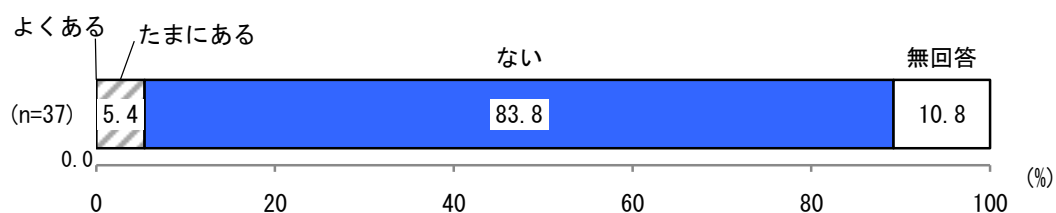
【図Ⅳ-7-11-⑪ 出身国やその文化について、侮辱されたり、からかわれたりした経験】



⑫日本人の家族や親族などから、日本人風の名前を名乗るように促された

日本人風の名前を名乗るように促された経験については、「ない」が83.8%と最も高く、次いで「たまにある」が5.4%となっています。（図Ⅳ-7-11-⑫）

【図Ⅳ-7-11-⑫ 日本人風の名前を名乗るように促された経験】



## 8 自由意見

### (12) 自由意見

問27 これらの他に、愛荘町で日本人が外国人に対して偏見や差別意識を持っていると感じた経験があれば書いてください。

「私たちが宇宙人のように思い、何かを盗んでいると考える人がいる。マスコミの記事のせいで私たちの国がいかに危険であるか、問われる」との意見が1件ありました。



## **第Ⅲ章 調査結果を踏まえた町の 今後の方向性について**



## 第三章 調査結果を踏まえた町の今後の方向性について

### Ⅲ－１ 町民意識調査

#### 【今回の調査で見えてきたことや課題】

#### 〔2〕人権についての考え方

問2-②「人権という言葉は自分に関係があるかないか」の問で、自分に「関係ある」「どちらかといえば関係ある」と回答した人は81.1%と前回調査より9.9ポイント増加しています。また、人権に関する学校教育を受けた経験別にみると、「関係ある・どちらかといえば関係ある」の割合は経験がある人ほど高く、学校以外での人権に関する講演会・研修会等への参加状況別にみると「何回も参加した」と回答した人は88.6%でした。成人になってからの生涯学習の視点でも継続した人権教育の提供の必要性を感じる結果となっています。

一方で、問2-1「人権という言葉は重要でない・関係ない」と答えた理由として、「人権は守られて当然である」40.6%、「これまで人権侵害や差別を受けたことがないから」21.4%、「自分は、他人に対して人権侵害や差別をしないから」17.1%という結果であり、改めて町民一人ひとりの人権感覚の高揚や人権教育・人権啓発の在り方について、人権を我が事として捉え、自分の行動や心を客観視することを促す学習など年齢やニーズに沿った学びとして、あらゆる場や機会を捉えて生涯を通じて進めていく必要があります。

#### 〔3〕人権尊重のまちづくりについて

問5「愛荘町における差別や人権侵害は、おおむね5年前に比べてどのようになっていると思うか」の問で、5年前と比較して、差別や人権侵害の増減比較については、「わからない」が42.5%と前回より6.8ポイント増加しています。改めて人権尊重が自分の幸福や自己実現と深くかかわるテーマであり、人権課題の解決に向けた実践につながるよう引き続き啓発内容や多様な情報発信方法を検討しながら取り組む必要があります。

#### 〔4〕人権侵害を受けた経験について

問6「ここ5年以内で差別や人権侵害を受けたことがあるか」の問で、人権侵害等を受けた経験がある人のうち、男性が10.1%、女性が15.2%あり、受けた場面では「職場」「地域社会や公共の場」の順で多い結果でした。職場や地域でのハラスメント対策や多様性等の尊重など継続した取り組みが必要です。

#### 〔5〕さまざまな人権問題についての考え方

問8「住宅を選ぶ際に忌避する条件」をみると、「近隣に外国籍住民が多く住んでいる」と答えた人の割合が最も高くなっています。グローバル化が進展する中で、多文化共生社会を推進していくことは必要不可欠であり、地域と外国籍住民とがつながる機会を増やし、相互理解を高めていくことが重要です。

問18「性に関する人権が尊重されるために必要なこと」の結果をみると、その願いの裏には、家庭や地域での男女共同参画社会の実現、職場でのハラスメント等への取組、LGBTQなど多様な性に対する理解促進等を読み取ることができます。

## **〔6〕人権に関する学びについて**

問20「学校を除いた人権に関する研修会等への参加状況」では、「参加したことがない」が27.4%もあり、今後の講演会や研修会のあり方や情報発信の工夫が必要です。若年層の学びの機会の拡充等を考えると、地域や団体、職場等の自立型の学びも同時に促していく必要があります。

問21「差別や人権に関する学びを受けた感想」では、「人権を他人事ではなく自分のこととして考えないといけないと思った」人が88.9%あるなど、人権教育の必要性を感じている人が多いほか、年齢やニーズに沿った人権教育のあり方について、今後の展開を考えるヒントが示されています。

問22「差別や人権に関する学びを受けたことがない理由」として、「仕事や家事・子育て・介護などで忙しいから」29.1%が最も高く、「その他」22.1%、「自分自身が差別やいじめの加害者になるとは思っていないから」16.3%と続いています。「その他」の内訳をみると、「機会がないから」「情報が入ってこないから」といった理由も多く、周知方法など啓発面での課題が見て取れます。また、今日の多忙化した社会の中で、生活の豊かさだけでなく、心の豊かさも促していく必要があります。「自分は加害者になるはずがない」「差別やいじめが悪いことは分かりきっており、学んでも仕方がない」という考えも一定数おられることから、人は弱い部分を持っており、いじめや差別は誰でも起こしかねないことであり、常に自分の考えや言動を振り返ることが必要であることを啓発していかなければなりません。

## **〔7〕「人推協だより ほっと・あい」を読む頻度**

問23「人推協だより ほっと・あいを読む頻度」については、「よく読んでいる」「時々読んでいる」の割合が5年前と比較すると、7.5ポイント低下しています。特に若年層ほど「読んだことがない」「知らない」割合が高くなっており、「人推協だより」だけでなく町広報紙自体が読まれておらず町への関心が低くなってきていることも読み取ることができます。今後、読みやすく分かりやすいよう内容を精査し、様々な情報発信の手法を検討するとともに、町全体として幅広い世代の住民の皆様にもメッセージ性のある情報発信に心がけていく必要があります。



### 【今後の方向性】

今後、人権政策や人権教育・啓発を進めていくために、あらゆる教育、研修、啓発の場を通じて、同和問題をはじめとする様々な人権問題について、一人ひとりがアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）的な考えになっていないかを検証するなど、自分自身の言動や考えを振り返り、お互いの人権が尊重しあえるよう意識改革を促していくことが重要です。

また、人権課題について、住民のニーズはどこにあるのかをしっかりとくみとり施策に反映するとともに、生涯学習の視点に立ち多様な世代に応じた様々な学習機会を通じて、正しい理解を深め、直感的に捉える感性や豊かな人権感覚を育成していくことが必要です。

複雑多様化した社会の中では、あらゆる場面での人権啓発が必要であることから、行政や人権団体のみならず、地域や各種団体、職場等での自立型・自主的な学びを同時に促していく必要があります。

## Ⅲ-2 小学6年生・中学3年生調査

### 【今回の調査で見えてきたことや課題】

#### 〔1〕自分自身のことや周りの人との関係

問1「自分にはよいところがあると思うか」と問2「自分のことが好きか」の子どもたちの自尊感情を問う質問で、問1では小・中学生とも2割程度、問2では3割程度の子どもたちが自己肯定感が低い結果となっています。子どもたちが自信や意欲を持ちにくい現状であることを認識し、子どもたちの「安心→自己有用感→自信」へとつなげる具体的実践を学校だけでなく、地域や家庭を含め協働で取り組む必要があります。

問4「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の問で、「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせた割合が小学生は96.3%、中学生は95.8%となっており、自己有用感を求めている子どもたちが多いことが分かります。一方、問1・問2の自尊感情を問う調査結果と比較すると、人のために尽くす気持ちがあっても、そうした場面がないのが現実と捉えられます。子どもたちは学校や家庭といった一部の大人としか出会いがない場合が多く、地域社会の担い手として活動する場面がコロナ禍も相まって減っているのではないのでしょうか。地域や家庭などで子どもたちの自主性を重んじる活躍できる機会、地域参画や地域貢献等をする場面を多くつくることで、自己有用感を高め、ひいては自己肯定感を高めることにつなげていく必要があります。

問5「将来の夢や目標をもっているか」の問で、「どちらかと言えばもっていない」「もっていない」の割合が小学生は17.8%、中学生は28.6%となっており、中学生は1/4の生徒が夢や目標を持たずにいる様子が伺えます。今日の社会背景の中で、子どもたちが夢のある大人モデルとの出会いが少なく、またインターネットの広がりにより読書習慣が減少していることで、社会を認知する機会が低下していることも一つの原因と考えられます。子どもたちにはあらゆる場面で社会とつながる経験を多くさせることが重要ではないのでしょうか。

問6「なやみを相談できる相手の有無」の問で、小学生は6.8%、中学生は8.4%が「どちらかと言えばいない」「いない」と回答しています。子どもたちが関わる地域・学校・家庭の各場所において、子どもたちに正面から向き合う意識や体制づくりが必要であるとともに、連携も深めていかなければなりません。

問10「誰とでも話ができるか」の問で、小学生は24.6%、中学生は31.4%が「どちらかと言えば思わない」「思わない」と回答しています。小学生は学級の1/4、中学生は1/3がコミュニケーションが苦手な状況であり、子どもたちの「主体性」や「協働する力」を育てるため、地域や学校等でグループワークや自己主張できる機会をつくっていくよう取り組んでいく必要があります。

## **〔2〕いじめや差別について**

問11「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」の問で、「どちらかと言えば思わない」「思わない」と回答した子どもたちは、小学生が5.0%、中学生は2.3%います。

「いじめはしてはいけない」というよりも、「なぜいじめが起こってしまうのか」といったいじめをする人の動機や背景など加害者の心理的背景を学び、誰もがしてしまう可能性があることから学ぶことも必要です。

## **〔3〕インターネットの使用**

問16「インターネット接続機器の使用者」の問で、小学生は約2/3、中学生に至っては9割以上が自分専用のもを持っており、その使用については家族の目が届いていない場面もあるかもしれません。人権問題は社会情勢の変化の中で、様々な要因の下で発生する可能性があり、インターネットによる人権侵害など新たな人権問題に発展することも考えられます。インターネットは自分次第で良くも悪くも活用できること、情報リテラシーの重要性を子どもも保護者も相互に理解しておく必要があります。

問19「平日のインターネットの使用時間」の問で、3時間以上の使用が小学生は18.6%、中学生は46.9%、保護者への調査では小中合わせて22.9%という結果であり、家庭学習の時間や睡眠時間、家庭内のコミュニケーションの時間のバランスを狂わせているのではないかと危惧されます。

問20「インターネット使用時のルール」の問で、「決めていない」の割合が小学生19.6%、中学生が32.2%、保護者への調査では小中合わせて25.1%という結果であり、適切なインターネットの使用について、保護者や子どもたちに啓発するとともに、保護者と子どもが家庭内で話し合うよう促していくことが必要です。

## **〔4〕さまざまな人権に関する考え方**

問24「今まで学校の授業で学習した内容」の問では、小学生・中学生とも幅広く人権課題について学んでいる現状が見て取れます。小中の9年間で、人権課題のすべてを学ぶことは難しいため、いじめや差別に共通した「差別する人の動機や背景」等の加害者側の心理的背景や「自分自身の無意識の思い込みや偏見」に気付くことに重きを置いた学び・人権教育について検討していかなければなりません。

問25「家事は女の人とするものと言われたときの対応」、問26「車イスにのった人が困っているときにとる行動」、問30「高齢者が電車で座れないときにとる行動」について、小・中学生とも6割以上が「間違っている」と話したり、自主的に行動すると回答しており、子どもたちにはしっかりと人権意識が根付いていることが分かります。

### 第Ⅲ章 調査結果を踏まえた町の今後の方向性について

問33「いじめや差別をする可能性について」の問で、「いじめや差別は誰でも起こしかねない。常に自分と向き合いながら日々を生活する必要がある」ことを知る子どもたちが小中それぞれ3割近くいることは大変心強く、いじめや差別を自己の問題と考えられています。今後は、いじめや差別に気付いたとき、自分に何ができるのかを問う学習も必要ではないかと思われます。一方、「自分はいじめや差別はしない」「自分を守るため見ている側になるかもしれない」「大人がいじめや差別を教えなければなくなる」といった考えも一定数見られることから、学校のみならず、家庭や地域など生活のことあるごとに子どもたちに問いかける大人が何人いるかによって、人権の大切な学びとして子どもたちに蓄積されていくのではないのでしょうか。

#### 【今後の方向性】

子どもたちの自己肯定感はあまり高いとはいえませんが、「人の役に立ちたい」という願いとは反比例しています。子どもたちの人間関係は、家庭と学校の関係性に留まっているケースが多く、今後は子どもたちの「人の役に立ちたい」というニーズをさまざまな場面で受け入れ、子どもたちの主体的な地域貢献、地域参画の実現により社会認識、人間認識を高めていく必要があります。こういった取り組みで自己有用感を獲得することで、自分への自信が獲得できるのではないのでしょうか。このことは学校だけでは困難であり、家庭や地域との連携により具体的な実践へとつなげていくことが大切です。

また、子どもたちの人権教育の推進については、人権問題は自分自身の問題でもあり、誰もがいじめや差別をする可能性があることを認識し、自分自身の無意識の思い込みや偏見に気付くよう促す教育が必要になってきます。

**Ⅲ－３ 小学生・中学生の児童・生徒の保護者調査****【今回の調査で見えてきたことや課題】****〔１〕 人権についての考え方**

「どちらかと言えば思わない」「思わない」の割合について、問1「お子さんは学校生活の様子を家庭でよく話しているか」の間では20.1%、問2「あなたは、お子さんの考えや話しをよく聴くように心がけていると思うか」の間では7.6%、問3「お子さんの生き方や将来について、家庭で話し合っているか」の間では13.0%という結果でした。また、小学生・中学生に対する「悩みを相談できる人がいるか」の間で、「どちらかと言えばいない」「いない」と回答した割合が小学生は6.8%、中学生は8.4%であり、子どもとの向き合い方に難しさを感じている保護者が一定数おられることが予想されます。保護者の孤立解消や子どもとの関わり方に関する学びの継続が大切です。

**〔２〕 家庭における学校への関わり**

問6「PTA活動に積極的に参加してきたか」の間で、「どちらかと言えば参加していない」「参加していない」の割合は16.6%であり、問8「子どものことで問題が起きたとき、学校に相談しているか」の間では、「どちらかと言えば相談していない」「相談していない」の割合が28.2%となっています。保護者も仕事と家庭との両立の中で多忙を極める中、学校とのつながりが少なくなっていると捉えられる結果となっています。家庭と学校の両者が課題解決に向けて話し合う場の設定が今後必要ではないでしょうか。

**〔３〕 学校の人権教育の取組**

問10「学校は人権学習の取組内容等を分かりやすく伝えているか」の間で、「どちらかと言えば思わない」「思わない」の割合は26.0%であり、問11「子どもから学校での人権学習について聞いているか」の間で、「どちらかと言えば聞いていない」「聞いていない」の割合は55.3%でした。学校現場からすべての学習の様子を伝えることは困難ですが、いじめやスマホ問題など、家庭と共有する必要があると思われる課題は、学校通信等で概要を伝えることや家庭で子どもと保護者が一緒に話し合うような学習（宿題）を取り入れることも重要になってくるのではないのでしょうか。

問16「学校は地域人材や保護者の教育活動への参加を促しているか」の間で、「どちらかと言えば思わない」「思わない」「わからない」の割合は48.6%と約半数を占めており、家庭に情報が伝わっていないことが分かります。このことは、コミュニティ・スクール（学校と地域住民などが力を合わせ、子どもたちのより良い環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すための仕組み）を推進する上での課題でもあり、学校だけでは解決できない子どもたちの人権課題等も含め、これからの重要な視点になると考えられます。

## **〔5〕 社会教育での人権教育・啓発**

問25「県や町が主催する人権啓発事業等への参加状況」の問で、「参加したことがない」の割合が52.0%と半数以上であり、町として若年層・保護者層への研修のあり方や広報方法、研修内容を再考する必要があります。

また、問27「人権について関心のあるテーマ・内容」の問では、「インターネットの利用トラブル防止」「子育て」「いじめ」が3割以上となっており、学校と調整しながら保護者のニーズに対応した学びの提供を行い、子どもを育てる保護者の人権意識を高める施策を推進していく必要があります。

### **【今後の方向性】**

家庭の子育ての中で育まれる人権意識についての風土は、子どもたちに大きな影響を与えます。多忙な日々の中で、保護者は仕事と家庭、地域などとの優先度について日々葛藤されながら時間に追われる毎日を過ごしておられることと思います。町としては、「次世代育成」の大切な土台である家庭教育に人権文化をしっかりと根付かせる必要があります、町と学校との連携した取り組みが今後ますます重要と考えています。

子どもたちが知る大人は、家庭と学校の大人が大半であり、ややもすると家庭や学校の大人の価値観しか得られないことから、子どもに関わる大人たちの人権意識の向上は重要であり、また子どもたちには家庭や学校以外で見識を深められる場面を多く与えていくことも重要な視点と考えています。

## Ⅲ-4 外国籍住民調査

### 【今回の調査で見えてきたことや課題】

#### 1 回答者について

今回の調査は、子どもが日本の学校に通学し、今後日本社会で生活していきたいと考えておられるであろう家庭を対象に調査を実施しました。問5「日本語の習得状況」の間を見ると、1～2割の方が何かしら日本語の壁を感じておられることが分かります。

#### 3 あなたが困っていることについて

問7「不便なことや困っていること」の間では、「病院・医療のこと」「公的な手続き」「文化や宗教による風習や習慣のちがひ」「日本人・他の外国人とのコミュニケーション」の順となっています。行政も含めた多文化共生社会の浸透が問われる内容であり、お住まいの地域とつながりを深める取組も必要と考えられます。

#### 6 子どもの学校での生活・勉強・進路について

問19「子どもが学校生活において困っていること」の間では、「勉強のこと」「進路や進学、将来のこと」が上位であり、勉強や進路のことで困っておられる様子が見取れます。問20「子どもの今後の進路」の間では、「子どもを大学まで行かせたい」が70.3%であるなど、学習支援の体制づくりが重要です。

#### 7 日本社会（愛荘町）での差別・偏見の有無について

問22・問23の「住まいさがし」や「就労」の面で、外国人に対する厳しい現実が存在していることを注視しなければなりません。

また、問25「日本で侮辱や差別をされた経験」については、「よくある」「たまにある」の割合が29.7%であり、侮辱や差別をした人としては、「見知らぬ人」が最も多く、次いで「近隣の住民」「職場の上司や同僚・部下、取引先」となっています。外国人への理解や多文化共生がまだまだ進んでいない現実があります。

### 【今後の方向性】

外国人と関わる機会の多い地域や職場等の人権教育の推進や外国人専用の相談窓口の広報啓発、関係団体と連携した多文化共生社会の実現のための積極的な取り組みが今後必要です。

併せて、外国人と地域等とのつながりを生む取り組みを全町域に広げ、相互理解を促していく必要があります。









令和4年度  
人権に関する町民意識調査報告書

発行日 令和5年3月発行

編集・発行 愛 庄 町  
愛 庄 町 教 育 委 員 会  
愛 庄 町 人 権 教 育 推 進 協 議 会

事務局 滋賀県愛知郡愛庄町安孫子 825  
愛庄町教育委員会 生涯学習課  
TEL 0749-37-8055